

東大阪市下水道事業関係 発掘調査概要報告

－ 平成16年度 －

2005. 3

東大阪市教育委員会

東大阪市下水道事業関係 発掘調査概要報告

－ 平成16年度 －

2005. 3

東大阪市教育委員会

例 言

1. 本書は、東大阪市教育委員会文化財課が、東大阪市建設局下水道部の委託を受け、平成15年12月～平成16年11月末日まで実施した公共下水道管きょ築造工事などに伴う埋蔵文化財調査の概要報告である。
2. 本書には孤塚遺跡・皿池遺跡・芝ヶ丘遺跡・神並古墳群・千手寺山遺跡・市尻遺跡・山畑古墳群・鬼塚遺跡・西ノ辻遺跡・東高野街道・北鳥池遺跡・額田寺跡・暗峠越奈良街道・下六万寺遺跡・神並遺跡・岩滝山遺跡・池端遺跡・船山遺跡・上六万寺遺跡・楽音寺遺跡・新上小阪遺跡・植附遺跡・鬼虎川遺跡・正法寺山遺跡・貝花遺跡・北屋敷遺跡・馬場川遺跡・半堂遺跡・善根寺遺跡・辻子谷遺跡の概要を収録した。
3. 現場は才原金弘・福瀬哲生・川本紀子、遺物整理は現場担当者がおこない、報告の分担は各章の表に記した。
4. 本書に収録した現場写真は、各担当者が撮影し、遺物は株式会社コミュニカに委託して実施した。
5. 土色名に数字が入っているものは、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準じている。
6. 土層断面柱状図の深さは現場地表面が0 mである。
7. 調査の実施にあたっては、東大阪市建設局下水道部のご協力のもと、施工業者ならびに近隣市民の方々のご協力を賜った他、現場作業および整理作業には北野行信、堀川敬央、幸田哲郎、名古屋路大輔、三嶋政行、内藤隆、頭師典孝、奥山太佳子、加藤正子、西川奈央子、秋山昌大、義則憲三、正木敬之、小畑恵子、杉本篤志、佐野耕平、沼野井直樹、古田義一、大高康正、水島暁、田深孝幸、秋次学、岩崎宏、大崎朋也、廉林達也、坂井久也、角田貴司、水地出耀、水田敏、田中規一、田中堂雄、寺戸淳二、中西由香、野口達也、広瀬八郎、松本始、米岡立輝が従事した。これらの方々に記して感謝いたします。

目 次

第1章	平成16年度の下水道関係調査について	1
第2章	孤塚・皿池遺跡（第5次）の調査	4
第3章	芝ヶ丘遺跡の調査	11
第4章	芝ヶ丘・馬場遺跡の調査	15
第5章	神並古墳群・千手寺山遺跡の調査	19
第6章	市尻遺跡・山畑古墳群の調査	21
第7章	鬼塚・西ノ辻遺跡・東高野街道の調査	23
第8章	北鳥池遺跡の調査	27
第9章	額田寺跡の調査	29
第10章	鬼塚遺跡・暗峠越奈良街道の調査	31
第11章	千手寺山遺跡の調査	33
第12章	市尻遺跡の調査	35
第13章	下六万寺遺跡の調査	37
第14章	神並遺跡の調査	39
第15章	岩滝山遺跡の調査	41
第16章	池端遺跡の調査	43
第17章	船山（第7次）・上六万寺遺跡（第9次）遺跡の調査	45
第18章	楽音寺遺跡の調査	70
第19章	新上小阪遺跡の調査	72
第20章	山畑古墳群の第27次調査	74
第21章	植附遺跡の調査	89
第22章	千手寺山遺跡の調査	91
第23章	鬼虎川遺跡の調査	93
第24章	皿池遺跡の第6次調査	95
第25章	岩滝山遺跡の調査	102
第26章	正法寺山遺跡の調査	106
第27章	鬼虎川遺跡の調査	108
第28章	貝花遺跡の第5次調査	110
第29章	北屋敷（第1次）・馬場川（第16次）・半堂遺跡の調査	117
第30章	善根寺遺跡の調査	124
第31章	芝ヶ丘遺跡・東高野街道の調査	126
第32章	植附遺跡の第16次調査	128
第33章	芝ヶ丘遺跡の調査	147
第34章	辻子谷遺跡の第2次調査	149
第35章	植附遺跡の第17次調査	154

第1章 平成16年度の下水道関係調査について

下水道管理設工事に伴う発掘調査を平成11年度より東大阪市教育委員会が実施しており、7年が経過した。下水道工事はほとんどが東地区を中心におこなわれた。

今年度の調査件数及び調査内容の概略は下記の調査一覧表に記した。調査にあたり下水道部と文化財課で協議したが、今年も工事は道幅の狭い旧集落内や道路の迂回路が確保できない場所が多く立会調査が中心になった。また、交通量の問題から夜間工事になり、調査を断念した遺跡もある。

今年度の調査では船山遺跡や植附遺跡から埴輪などが出土した。出土量も多く、形象埴輪や円筒埴輪などがある。出土地点に古墳が存在する可能性があることが確認できたことは大きな成果である。生駒西麓の古墳を考える上では貴重な資料である。

今回の収録した調査は平成16年1月1日より11月30日までに実施したものを対象とし、それ以後のものは次年度に報告することにした。

平成16年度下水道工事に伴う埋蔵文化財の調査一覧表

平成16年11月30日

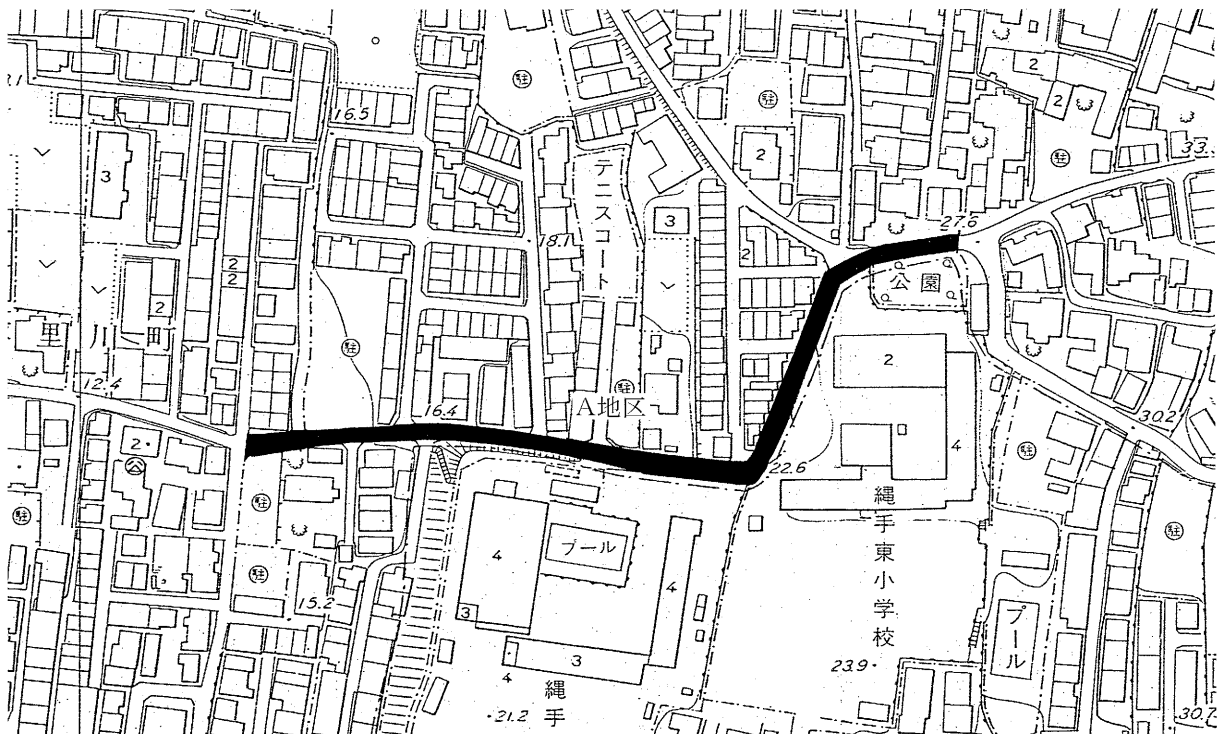
届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見	
1	14-675	下事203	孤塚・皿池遺跡	平成14年度公共下水道第21工区管きよ築造工事	喜里川町85-1~101-9	立会	15.12.9~16.1.23	第2章で報告。
2	15-195	下事74	芝ヶ丘遺跡	平成14年度公共下水道第46工区管きよ築造工事	北石切町1935、2214他	立会	15.4.21~16.1.30	第3章で報告。
3	15-337	下事115	出雲井遺跡群	平成14年度公共下水道第14-4工区管きよ築造工事	東豊浦町844-3他	立会	15.6.4~	調査中。
4	15-455	下事152	芝ヶ丘・馬場遺跡	平成14年度公共下水道第39工区管きよ築造工事	日下町2丁目1508	立会	15.10.9~16.1.29	第4章で報告。
5	15-456	下事156	植附遺跡	平成14年度公共下水道第45工区管きよ築造工事	中石切町1丁目449他	慎重		立会調査の予定であったが夜間工事となったので、慎重に変更。工事実施。
6	15-458	下事157	神並古墳群他	枚岡河内中央幹線(9工区)管渠築造工事	東石切町、上石切町	立会	15.7.3~16.3.11	第5章で報告。
7	15-575	下事182	市尻遺跡・山畑古墳群	平成14年度公共下水道第47工区管きよ築造工事	瓢箪山町、四条町	立会	15.10.30~16.1.15	第6章で報告。
8	15-617	下事212	鬼塚遺跡他	平成15年度公共下水道第26工区管きよ築造工事	南荘町310~344他	立会	15.10.9~15.12.24	第7章で報告。
9	15-618	下事211	北鳥池遺跡	平成15年度公共下水道第13工区管きよ築造工事	池島町3丁目1034他	立会	16.3.5~16.3.29	第8章で報告。
10	15-652	下事217	額田寺跡	平成15年度公共下水道第21工区管きよ築造工事	東山町784~786	立会	16.1.21~16.2.5	第9章で報告。
11	15-709	下事239	鬼塚遺跡	平成15年度公共下水道第206工区管きよ築造工事	南荘町70~94	立会	15.11.14~16.1.26	第10章で報告。
12	15-710	下事240	千手寺山遺跡	平成14年度公共下水道管きよ築造工事(3-4)	東石切町4丁目363	立会	16.8.31~16.9.14	第11章で報告。
13	15-711	下事241	花草山古墳群	平成14年度公共下水道第35工区管きよ築造工事	上四条町1077他	立会	15.10.9~	調査中。
14	15-712	下事242	市尻遺跡	平成15年度公共下水道第18工区管きよ築造工事	四条町569~570	立会	16.7.8~16.8.9	第12章で報告。
15	15-713	下事243	下六万寺遺跡	平成15年度公共下水道第201工区管きよ築造工事	下六万寺町3丁目	立会	15.12.15~15.12.24	第13章で報告。

	届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
16	15-762	下事254	神並遺跡	東大阪市公共下水道(近鉄線近接部)管きよ築造工事のうち平成15年度(その1)工事	東石切町1丁目920-5他	立会	15.11.14~16.2.23	第14章で報告。
17	15-763	下事255	千手寺山遺跡	平成15年度公共下水道第14工区管きよ築造工事	上石切町1丁目1407他	立会		平成15年10月15日受付
18	15-777	下事257	岩滝山遺跡	平成15年度公共下水道第15工区管きよ築造工事	六万寺町1丁目303他	立会	15.11.6~16.4.30	第15章で報告。
19	15-836	下事273	池端遺跡	平成15年度公共下水道第23工区管きよ築造工事	池之端町98~106	立会	16.1.21~16.2.3	第16章で報告。
20	15-875	下事287	衣摺遺跡	平成15年度長瀬西小学校貯留浸透工事	衣摺5丁目110-1,2他	慎重		工事実施。
21	15-902	下事298	船山・上六万寺遺跡	平成15年度公共下水道第17工区管きよ築造工事	六万寺町1丁目1029~1030他	立会	16.1.14~16.8.31	第17章で報告。
22	15-903	下事299	東高野街道	平成15年度公共下水道第208工区管きよ築造工事	日下町6丁目724~726	慎重		工事実施。
23	15-904	下事302	楽音寺遺跡	平成15年度公共下水道第207工区管きよ築造工事	横小路町5丁目1432~1433他	立会	16.2.26~16.3.11	第18章で報告。
24	15-912	下事308	新上小阪遺跡	平成15年度新上小阪幹線管きよ築造工事	新上小阪228	立会	16.3.16	第19章で報告。
25	15-916	下事311	山畑古墳群	平成15年度公共下水道第34工区管きよ築造工事	四条町305~306、312~481	立会	16.2.13~16.5.14	第20章で報告。
26	16-71	下事341	植附遺跡	平成15年度公共下水道第41工区管きよ築造工事	西石切町2丁目476~487	立会	16.5.21~16.6.17	第21章で報告。
27	16-72	下事342	和泉遺跡	平成15年度公共下水道第39工区管きよ築造工事	中石切町5丁目2919他	慎重		立会調査の予定であったが夜間工事となったので、慎重に変更。工事実施。
28	16-73	下事343	千手寺山遺跡	平成15年度公共下水道第33工区管きよ築造工事	上石切町2丁目2972-13	立会	16.6.3~16.6.18	第22章で報告。
29	16-74	下事344	鬼虎川遺跡	平成15年度公共下水道第209工区管きよ築造工事	西石切町5丁目290、522	立会	16.3.19~16.5.18	第23章で報告。
30	16-106	下事27	皿池遺跡	平成15年度公共下水道第50工区管きよ築造工事	喜里川町327、86~120他	立会	16.2.19~16.3.29	第24章で報告。
31	16-139	下事35	岩滝山遺跡	平成15年度公共下水道第47工区管きよ築造工事	六万寺町1丁目841~854他	立会	16.3.19~16.8.3	第25章で報告。
32	16-140	下事36	正法寺山遺跡	平成15年度公共下水道第32工区管きよ築造工事	日下町1丁目1581~1590他	立会	16.6.23~16.8.27	第26章で報告。
33	16-141	下事37	山畑古墳群他	平成15年度公共下水道第40工区管きよ築造工事	客坊町120~1132他	立会	16.10.22~	調査中。
34	16-152	下事39	山畑古墳群	平成15年度公共下水道第44工区管きよ築造工事	四条町448他	立会	16.6.7 ~	調査中。
35	16-190	下事49	鬼虎川遺跡	平成15年度公共下水道第69工区管きよ築造工事	弥生町1361~1362他	立会	16.6.16~16.7.2	第27章で報告。
36	16-191	下事50	貝花遺跡	平成15年度公共下水道第25工区管きよ築造工事	横小路町2丁目514他	立会	16.4.8~16.8.2	第28章で報告。
37	16-314	下事75	北屋敷・馬場川遺跡他	平成15年度公共下水道第304工区管きよ築造工事	横小路町4丁目417~427他	立会	16.5.6~16.7.26	第29章で報告。
38	16-332	下事73	芝ヶ丘遺跡他	平成15年度公共下水道第52工区管きよ築造工事	中石切町4丁目2088他	立会	16.6.23~16.10.1	第31章で報告。
39	16-333	下事76	市尻遺跡・山畑古墳群	平成15年度公共下水道第54工区管きよ築造工事	瓢箪山町99、106	慎重		立会調査の予定であったが夜間工事となったので、慎重に変更。工事実施。
40	16-334	下事82	植附遺跡	平成15年度公共下水道第305工区管きよ築造工事	西石切町3丁目164他	立会	16.8.3~16.10.18	第32章で報告。
41	16-418	下事126	花草山古墳群	平成15年度公共下水道第51工区管きよ築造工事	上四条町2071他	立会	16.8.2~	調査中。

	届出番号	下水番号	遺跡名	届出の工事名称	調査場所	調査	調査期間	調査結果・所見
42	16-419	下事127	善根寺遺跡	平成15年度公共下水道第307工区管きよ築造工事	善根寺町1丁目667他	立会	16.7.16～16.7.22	第30章で報告。
43	16-420	下事136	植附・辻子谷遺跡	平成14年度公共下水道第108工区管きよ築造工事	中石切町1丁目446～609	立会	16.6.3～16.9.6	立会調査を実施したが、遺構・遺物は検出できなかった。
44	16-421	下事137	芝ヶ丘遺跡	平成15年度公共下水道第56工区管きよ築造工事	東石切町6丁目1748他	立会	16.6.4～16.10.1	第33章で報告。
45	16-422	下事138	辻子谷遺跡	平成15年度公共下水道第302工区管きよ築造工事	中石切町2丁目243他	立会	16.8.30～16.10.1	第34章で報告。
46	16-500	下事152	日下遺跡	平成15年度公共下水道第58工区管きよ築造工事	日下町2丁目1147他	立会	16.11.8～	調査中。
47	16-501	下事153	植附遺跡	平成15年度公共下水道第28工区管きよ築造工事	中石切町1丁目1～10	立会	16.7.12～16.10.1	第35章で報告。
48	16-631	下事182	出雲井遺跡群	平成15年度公共下水道第70工区(その1)管きよ築造工事	五条町1～5	立会		平成16年9月8日受付
49	16-632	下事183	河内寺跡	平成15年度公共下水道第70工区(その2)管きよ築造工事	客坊町700～721他	立会	16.9.24～	調査中。
50	16-633	下事184	法通寺跡	平成15年度公共下水道第64工区管きよ築造工事	東石切町1丁目595他	立会	16.11.4～	調査中。
51	16-634	下事185	鬼塚遺跡他	平成15年度公共下水道第301工区管きよ築造工事	南荘町1786他	立会	16.11.5～	調査中。
52	16-635	下事186	岩滝山遺跡・六万寺古墳群	平成16年度公共下水道第12工区管きよ築造工事	六万寺町1丁目1602～1604	立会	16.11.25～	調査中。
53	16-636	下事187	植附・神並遺跡	平成15年度公共下水道第45工区管きよ築造工事	中石切町447～456他	立会	16.10.14～	調査中。
54	15-685	下事200	芝ヶ丘遺跡	平成15年度公共下水道第57工区管きよ築造工事	日下町2丁目1441～1508	立会	16.11.2～	調査中。
55	15-692	下事199	辻子谷古墳群	平成15年度公共下水道第37工区管きよ築造工事	上石切町2丁目1322他	立会		平成16年10月13日受付
56	16-693	下事203	半堂遺跡	平成16年度公共下水道第103工区管きよ築造工事	六万寺町1丁目164	立会		平成16年10月13日受付
57	16-694	下事204	山畑古墳群	平成16年度公共下水道第16工区管きよ築造工事	四条町353、上四条町2021他	立会		平成16年10月13日受付
58	16-695	下事205	芝ヶ丘遺跡	平成15年度公共下水道第65第工区管きよ築造工事	西石切町1丁目49他	立会		平成16年10月13日受付
59	16-696	下事206	辻子谷遺跡	平成15年度公共下水道第63工区管きよ築造工事	中石切町1丁目198他	立会		平成16年10月13日受付
60	16-697	下事207	千手寺山遺跡	平成16年度公共下水道第18工区管きよ築造工事	東石切町2丁目402他	立会		平成16年10月13日受付
61	16-698	下事208	芝ヶ丘遺跡	平成16年度公共下水道第101工区管きよ築造工事	北石切町2214～2262	立会		平成16年10月13日受付
62	16-699	下事212	額田寺跡	平成16年度公共下水道第102工区管きよ築造工事	南荘町300-4～396-3、東山町724～755-6	立会		平成16年10月13日受付
63	16-747	下事219	花草山古墳群	平成16年度公共下水道第15工区管きよ築造工事	上四条町1190-8他	立会		平成16年10月22日受付
64	16-811	下事242	正法寺山・芝坊主山遺跡他	平成15年度公共下水道第55工区管きよ築造工事	日下町1丁目157～1582、1672	立会		平成16年11月18日受付
65	16-813	下事243	西岩田遺跡	平成15年度公共下水道第306工区管きよ築造工事	西岩田4丁目268	慎重		工事実施地。
66	16-813	下事244	西ノ辻遺跡	平成15年度公共下水道第38工区管きよ築造工事	東山町1071～1072	立会		平成16年11月12日受付
67	16-814	下事245	孤塚遺跡他	平成15年度公共下水道第46工区管きよ築造工事	喜里川町34～78	立会	16.11.11～	調査中。
68	16-815	下事247	みかん山古墳群	平成15年度公共下水道第24及び203工区管きよ築造工事	山手町234～594、229～238	立会		平成16年11月18日受付

第2章 きつねづか さらいけ 孤塚・皿池遺跡(第5次)の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成14年度公共下水道第21工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市喜里川町85-1～101-9
3	調 査 面 積	261㎡
4	調 査 期 間	平成15年12月9日～16年1月23日 (延べ19日)
5	報 告 担 当	福瀬
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手北中学校の北である。当地点は孤塚・皿池遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ308mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)

1. 調査の概要

調査地区は縄手北中学校の北側と縄手東小学校の西側が血池遺跡、縄手東小学校の北側が狐塚遺跡にあたる。調査は縄手北中学校の北側より開始した。縄手東小学校の西側は推進工法のため立坑以外は調査することはできなかった。また、縄手東小学校の北側は工事が中止になった。

2. 層序

A-3地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(10YR2/2)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。

A-6地区の層序

第1層 盛土。

第2層 オリーブ黒色(7.5Y3/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層 暗灰色(N3/0)中粒砂混じりシルト。

第4層 オリーブ黒色(5GY2/1)細粒砂混じり粘質シルト。古墳時代～中世期の遺物が出土。

A-9地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層 黒褐色(2.5Y3/1)粘質土。古墳時代～中世期の遺物が出土。

A-12地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒色(7.5Y2/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小～中礫を含む。

第3層 暗緑灰色(5G3/1)粘質土。小礫を含む。中世期の遺物が出土。

第4層 緑黒色(10G2/1)中粒砂混じり粘質シルト。

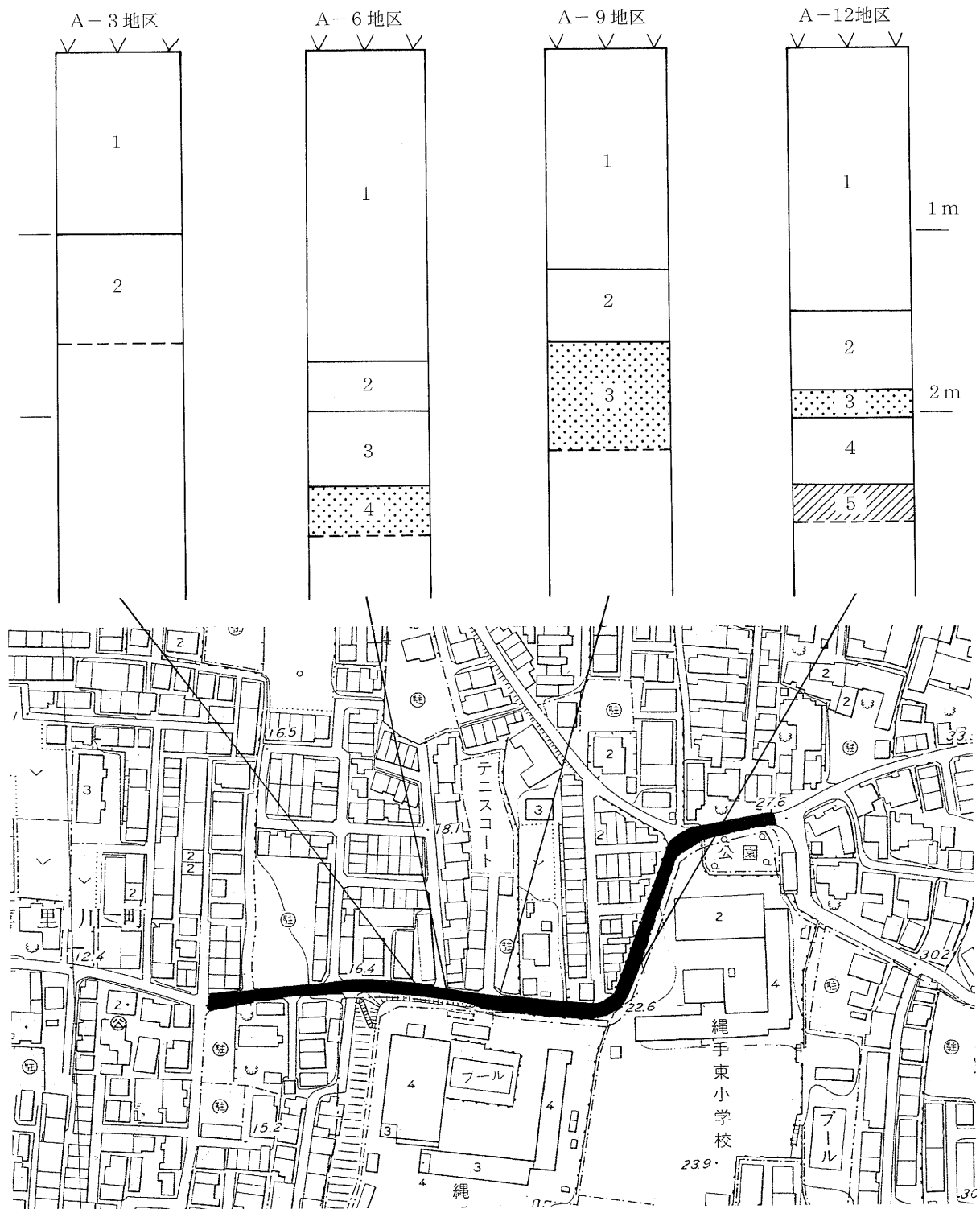
第5層 緑黒色(5G2/1)細粒砂混じり粘質シルト。弥生～古墳時代の遺物が出土。

3. 出土遺物

今回の調査では、調査地区の全体において弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、瓦が出土した。特にA-12～15地区より多く出土した。

1～3・6は土師器である。1・2は杯である。1は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径は14.5cm、残存高は1.7cmである。奈良時代のものである。2は体部が内弯気味に立ちあがり、外面に2段の稜をもつ。口縁部は外上方に伸び、口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径は12.0cm、残存高は2.2cmである。平安時代後期のものである。3・6は皿である。3は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く内側へ肥厚する。内外面はナデ調整する。口径は9.0cm、残存高は1.0cmである。平安時代のものである。6は体部が外上方に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径は8.5cm、残存高は1.5cmである。12世紀中頃のものである。1はA-8地区、2・3・6はA-15地区より出土した。

4・5は瓦器である。4は椀である。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。口縁端部内面に1条の沈線を廻らす。いわゆる大和型である。内外面は粗いヘラミガキ調整する。口径は14.0cm、残存高は2.1cmである。川越編年Ⅲ-A期に相当する。12世紀後半のものである。5は皿である。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は丸く終わる。内面は密なヘラミガキ調整する。外面はナデ調整する。口径は9.0cm、残存高は1.5cmである。大和型のⅢ

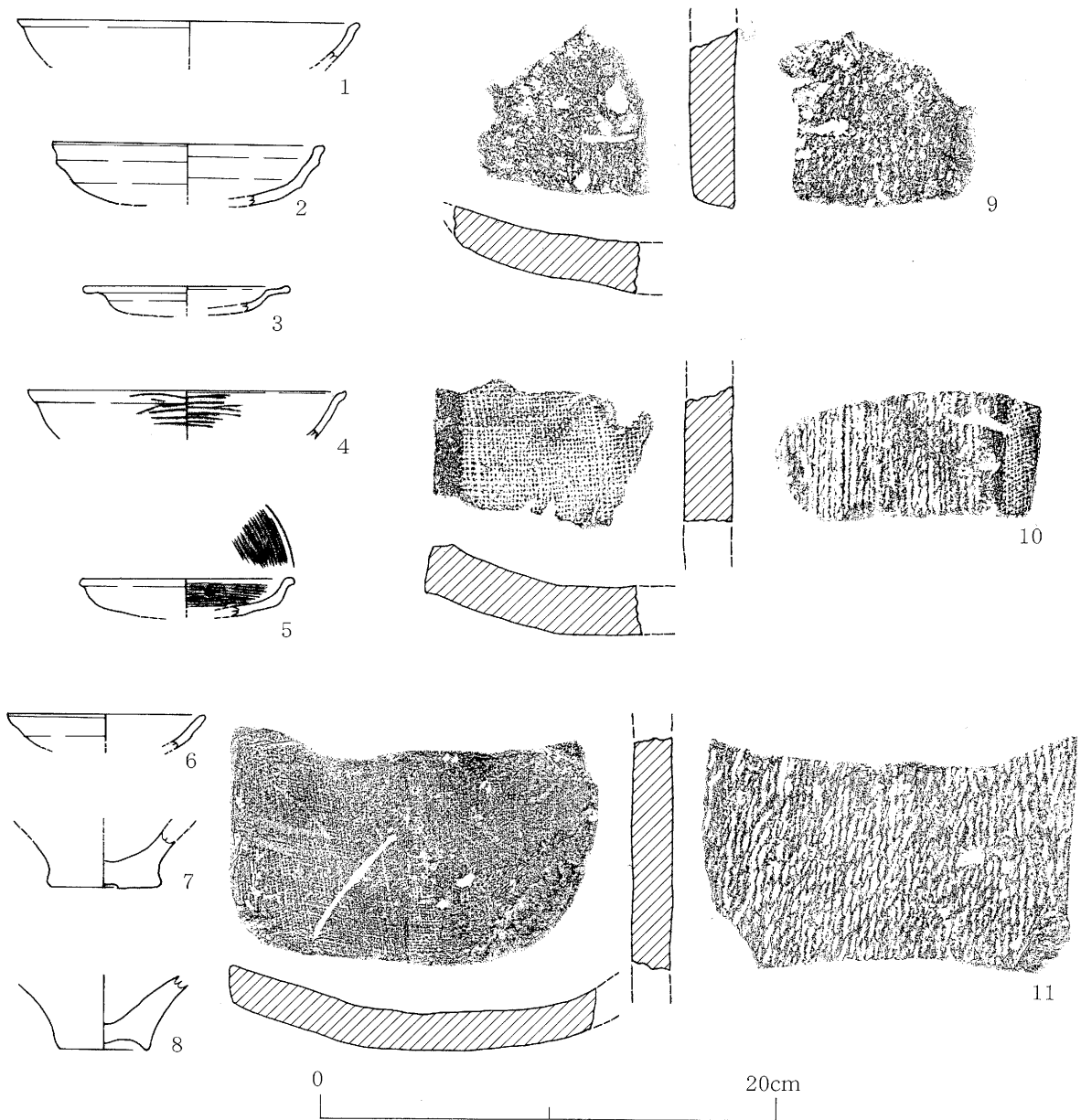


土層断面柱状図

期に相当する。12世紀後半のものである。A-15地区より出土した。

7・8は弥生土器の底部である。平底の底部である。内外面はナデ調整する。8は底面が窪む。外面に黒斑が残る。7は底径が5.0cm、残存高が2.5cmである。8は底径が4.0cm、残存高が3.3cmである。胎土中に角閃石を含むことから生駒西麓産である。詳細な時期は不明である。A-12地区より出土した。

9～11は平瓦である。9の凹面は風化のため調整法が不明である。凸面は縄目のタタキ調整する。



出土遺物実測図

残存長は8.0cm、残存幅は7.5cm、厚みは2.0cmである。10は凹面に布圧痕を残す。凸面は縄目のタタキ調整する。残存長は6.0cm、残存幅は10.0cm、厚みは2.0cmである。11は凹面に布圧痕を残す。凸面は縄目のタタキ調整する。残存長は11.0cm、残存幅は17.0cm、厚みは1.7cmである。胎土中に角閃石を含むことから生駒西麓産である。奈良時代のものである。A-15地区より出土した。

4. まとめ

今回の調査ではA-4~15地区で遺物包含層を確認した。特にA-12~15地区において遺物が多く出土した。調査地に接する縄手東小学校の建設に伴う発掘調査では弥生~平安時代の遺構や遺物が確認されている。今回の調査でも同様な遺物がA-6~15地区において出土した。遺構は確認することができなかったがこの周辺まで遺跡が広がっていると思われる。また、A-15地区において奈良時代頃の瓦が数点出土しており、南に位置する河内寺跡に関係した遺物と考えられる。



A 地区調査地遠景



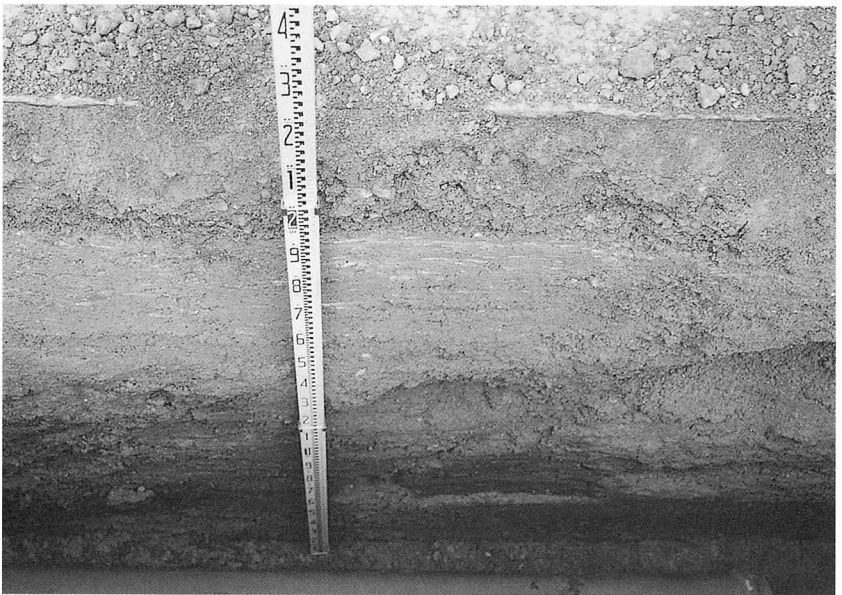
A-16地区調査状況



A-3地区土層断面



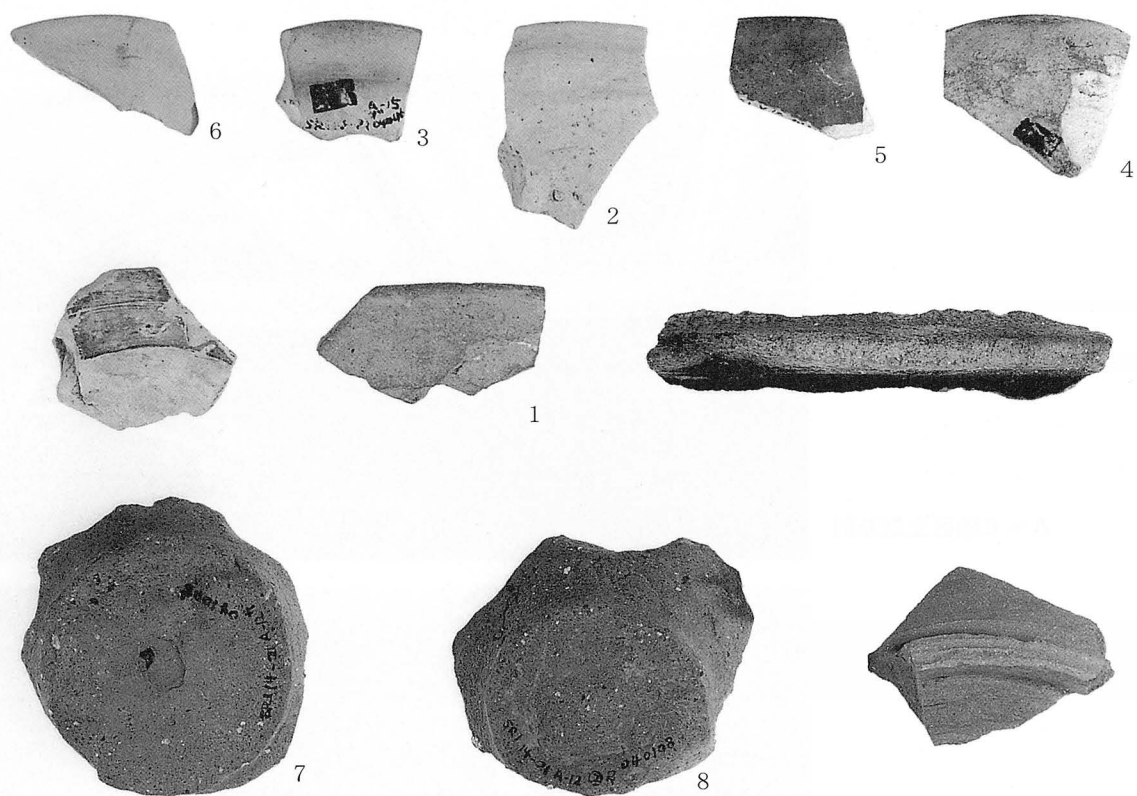
A-6地区土層断面



A-9地区土層断面



A-16地区土層断面



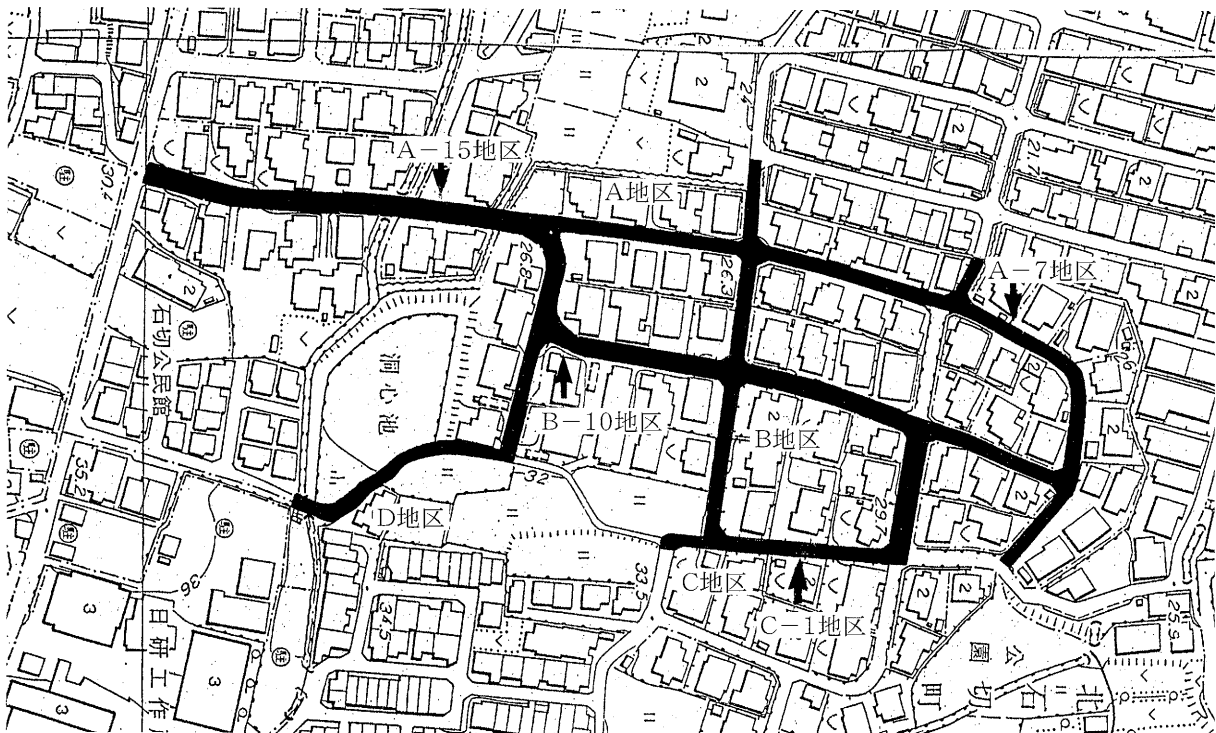
出土遺物（弥生土器・土師器・須恵器・緑釉陶器・瓦器）



出土遺物（瓦）

第3章 しばがおか 芝ヶ丘遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成14年度公共下水道第46工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市北石切町1935、2214他
3	調 査 面 積	723㎡
4	調 査 期 間	平成15年4月21日～16年1月30日（延べ60日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切中学校の東である。当地点は芝ヶ丘遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ851mの間であり、開削工法である。</p>



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

A-7地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 黄褐色(2.5Y5/3)粗粒砂。
- 第4層 褐灰色(10Y4/1)細粒砂混じりシルト。
- 第5層 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂混じり粘質シルト。
- 第6層 黒色(2.5Y2/1)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第7層 灰オリーブ色(5Y5/2)中粒砂～小礫混じりシルト。

A-15地区の層序

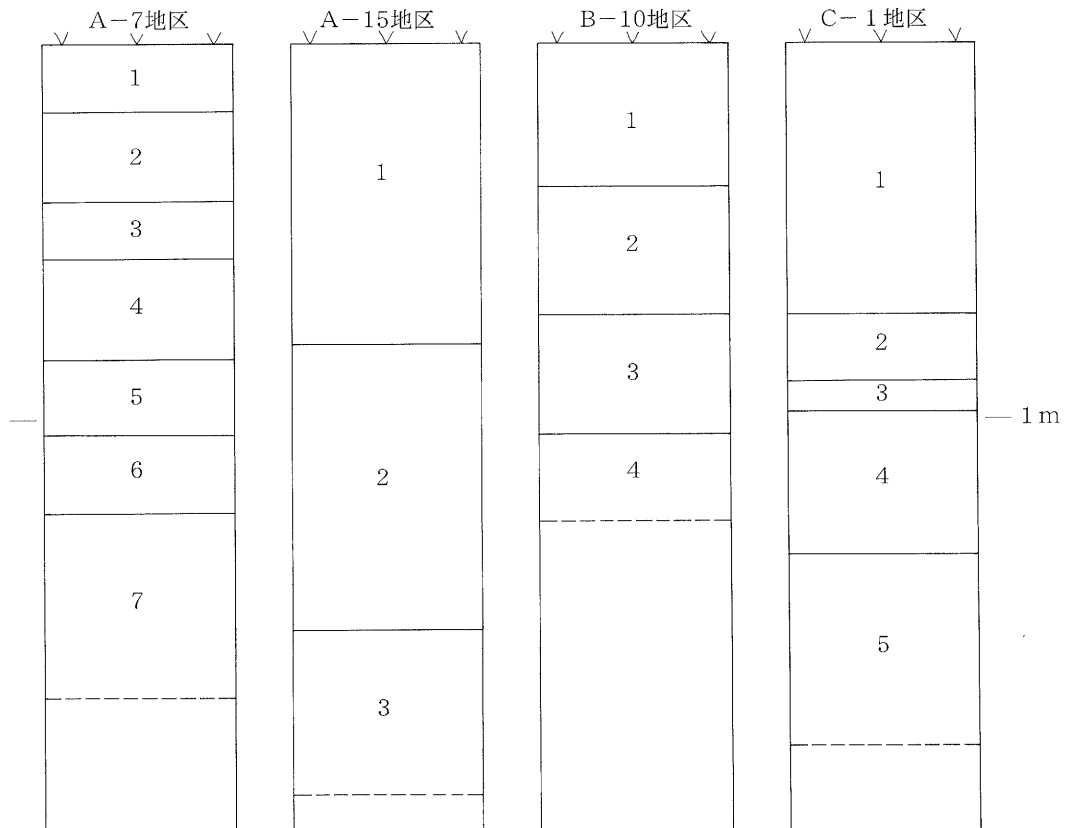
- 第1層 盛土。
- 第2層 暗オリーブ色(5GY3/1)中粒砂～小礫混じり粘質シルト。
- 第3層 暗緑灰色(10GY3/1)中粒砂混じり粘質シルト。

B-10地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 灰オリーブ色(5Y5/2)中粒砂混じりシルト。
- 第3層 オリーブ黒色(5Y3/1)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 オリーブ灰色(2.5GY5/1)中粒砂混じり粘質シルト。

C-1地区の層序

- 第1層 盛土。



土層断面柱状図

- 第2層 暗緑灰色(5G3/1)粘質シルト。
- 第3層 緑黒色(10G2/1)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 暗緑灰色(5G3/1)中粒砂～小礫混じり粘質シルト。
- 第5層 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂混じりシルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



A地区調査地遠景



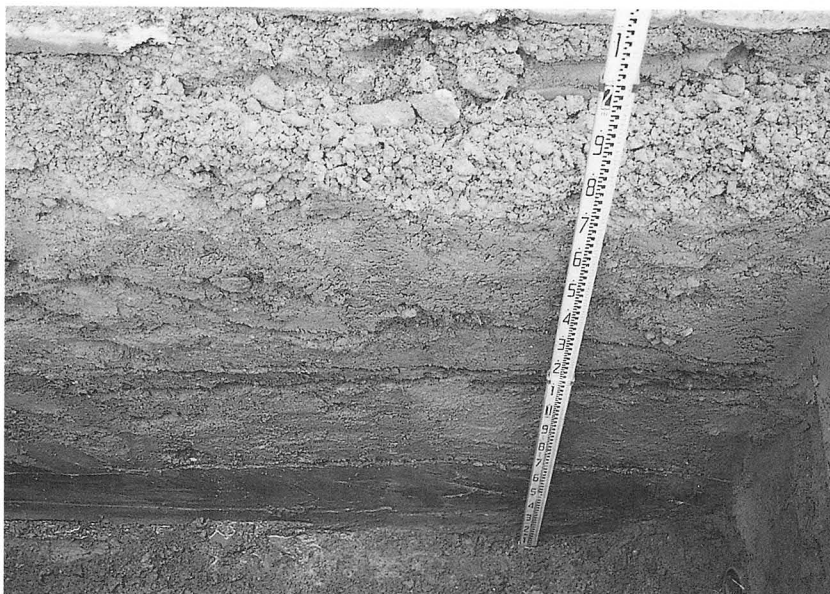
A-7地区土層断面



A-15地区土层断面



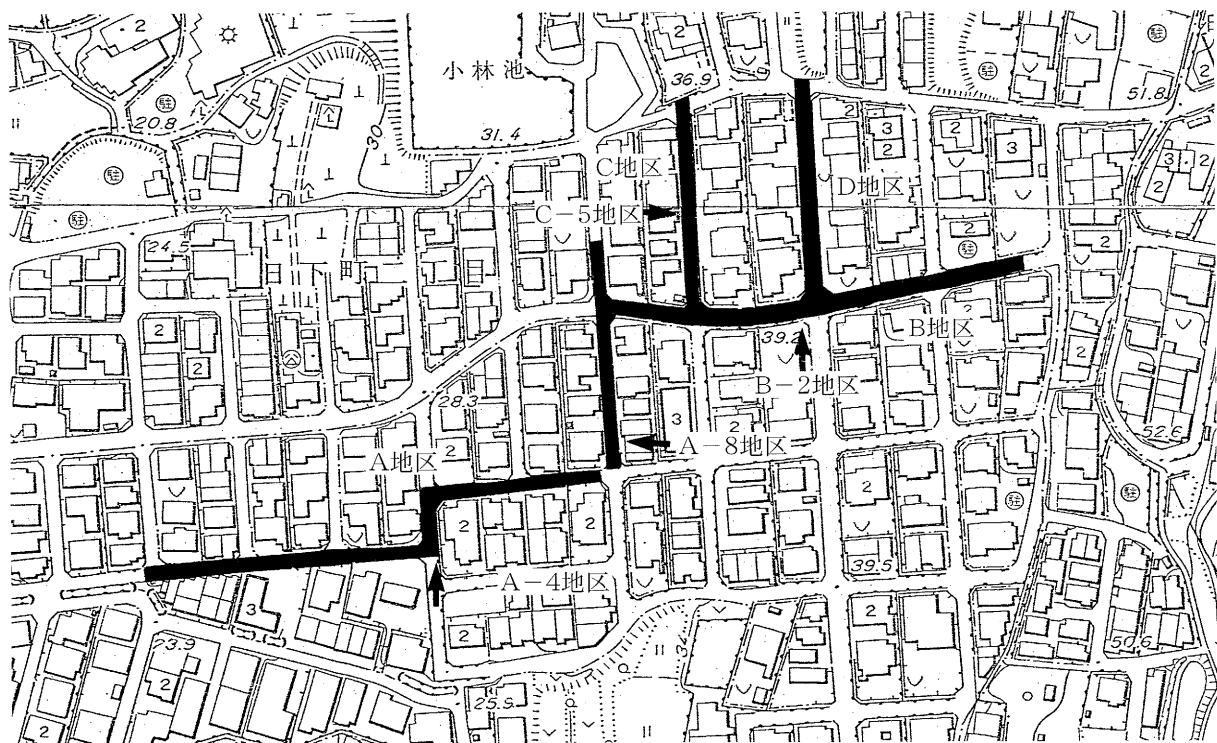
B-10地区土层断面



C-1地区土层断面

しばがおか ばば
第4章 芝ヶ丘・馬場遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成14年度公共下水道第39工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市日下町2丁目1508
3	調 査 面 積	399㎡
4	調 査 期 間	平成15年10月9日～16年1月29日（延べ17日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切中学校の北東である。当地点は芝ヶ丘・馬場遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ457mの間であり、開削工法と一部が推進工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

A-4地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 灰色(5Y4/1)中粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粗粒砂。
- 第4層 暗オリーブ灰色(5GY4/1)中粒砂混じり粘質シルト。

A-8地区の層序

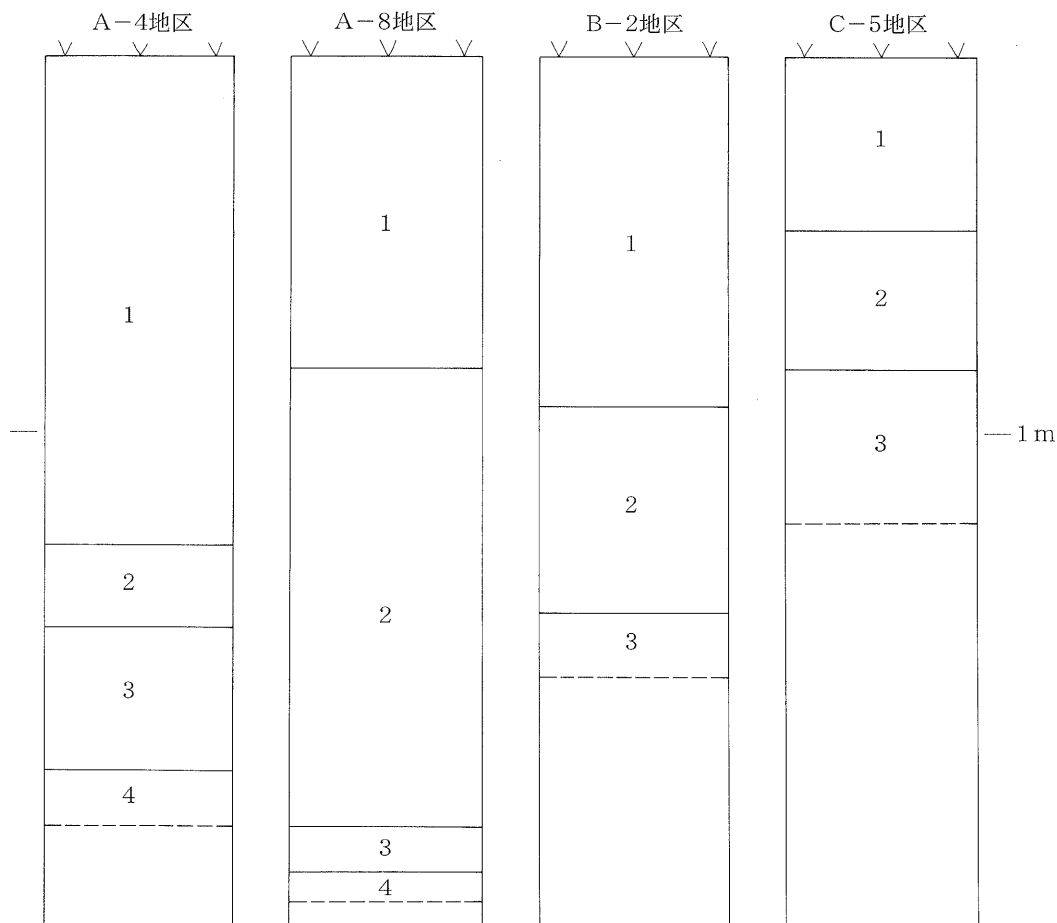
- 第1層 盛土。
- 第2層 灰オリーブ色(5Y5/2)中粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 オリーブ黒色(5Y3/1)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 灰オリーブ色(7.5Y6/2)細粒砂。

B-2地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗オリーブ色(2.5Y3/3)粗粒砂～小礫混じり粘質シルト。
- 第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂～中礫混じり粘質シルト。

C-5地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 にぶい黄橙色(10YR6/4)中粒砂～小礫混じりシルト。



土層断面柱状図

第3層 にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂～小礫混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



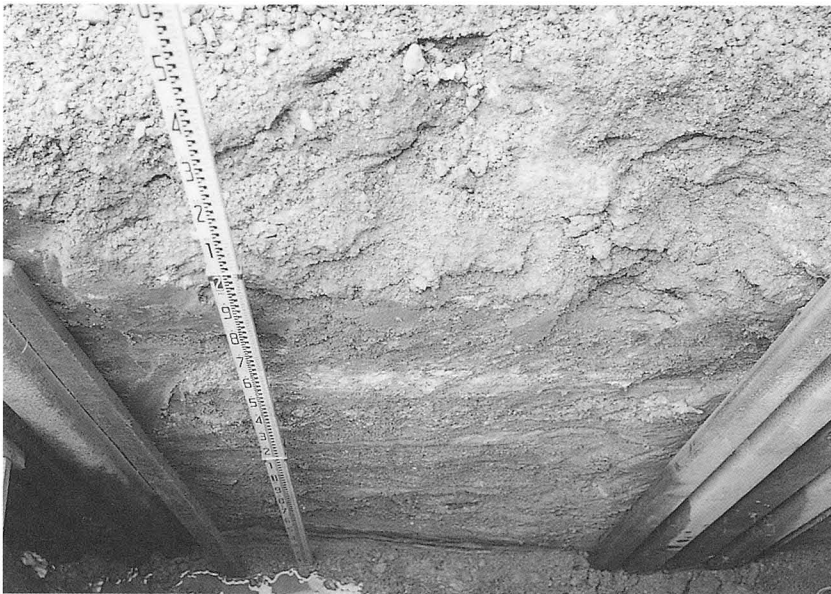
A地区調査地遠景



C地区調査地遠景



A-4 地区土层断面



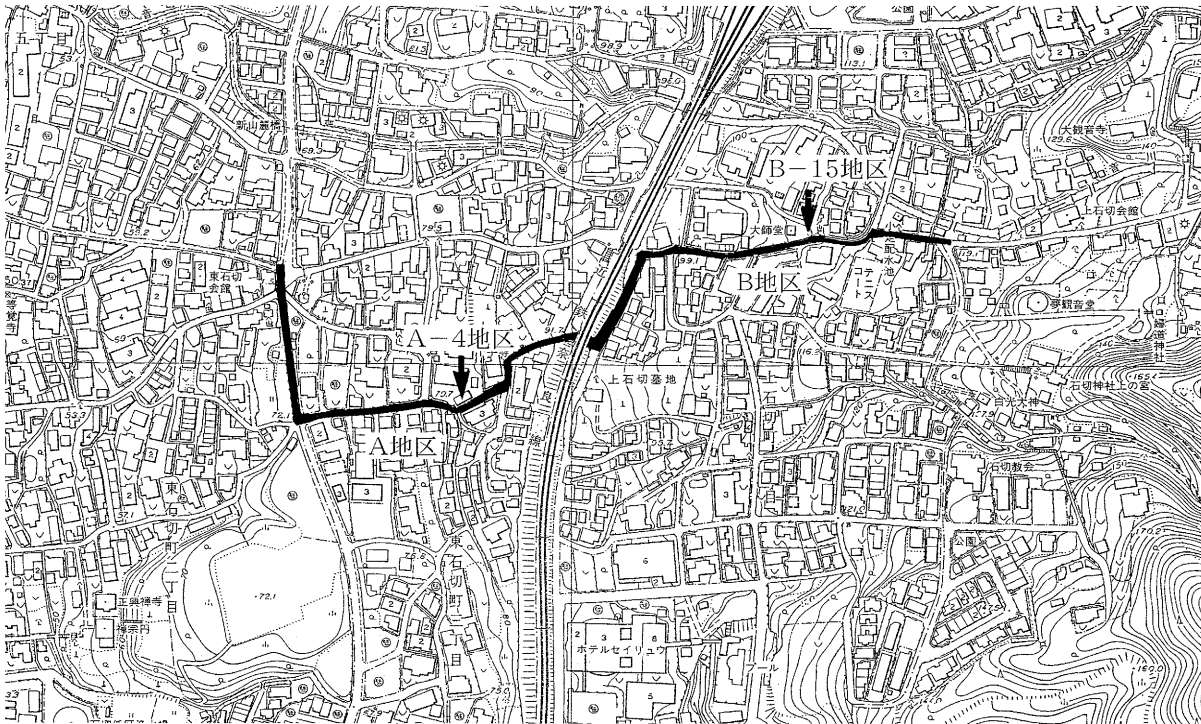
A-8 地区土层断面



C-5 地区土层断面

第5章 こうなみ 神並古墳群・せんじゅじやま 千手寺山遺跡の調査

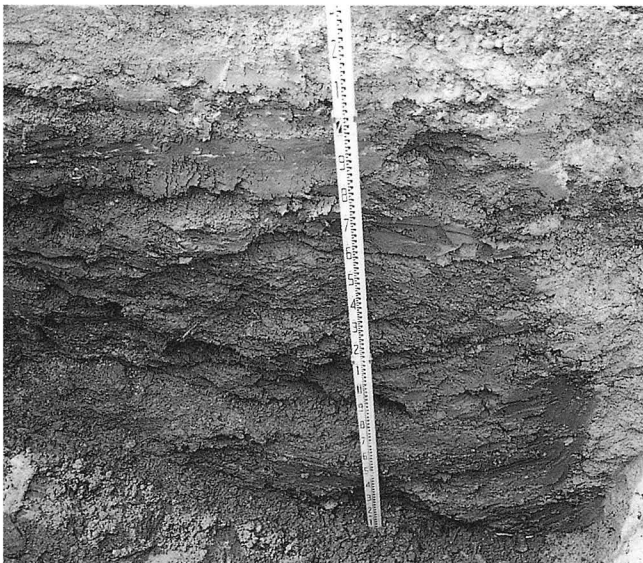
	名 称	内 容
1	事業名	枚岡河内中央幹線（9工区）管渠築造工事
2	調査地点	東大阪市東石切町2丁目595～上石切町1丁目1411
3	調査面積	431㎡
4	調査期間	平成15年7月3日～16年3月11日（延べ39日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線石切駅の南である。当地点は神並古墳群・千手寺山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ507mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/5000）



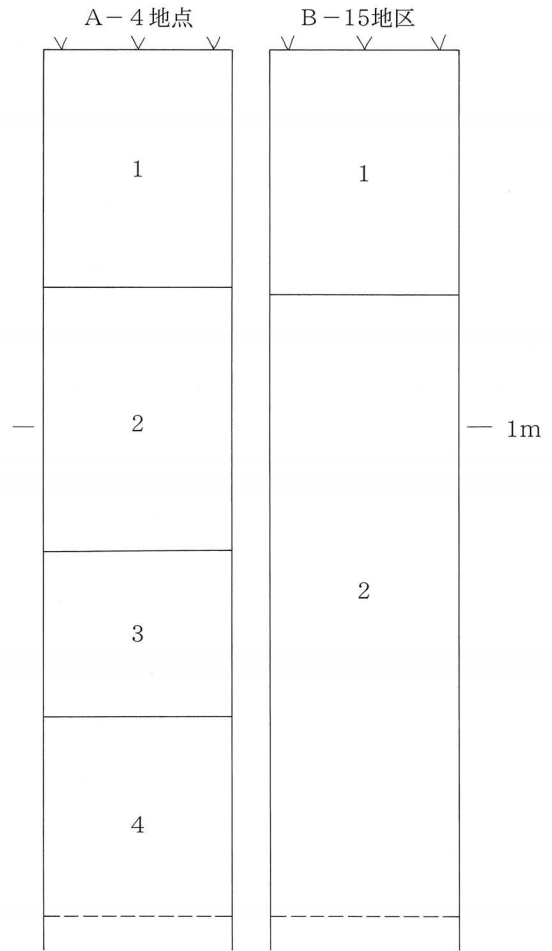
A地区調査地遠景



A-4地区土層断面



B-15地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-4地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 緑黒色(5G2/1)中粒砂～小礫混じり粘質シルト。
- 第3層 暗緑灰色(5GY3/1)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 暗緑灰色(5GY3/1)中粒砂～小礫混じり粘質シルト。

B-15地区の層序

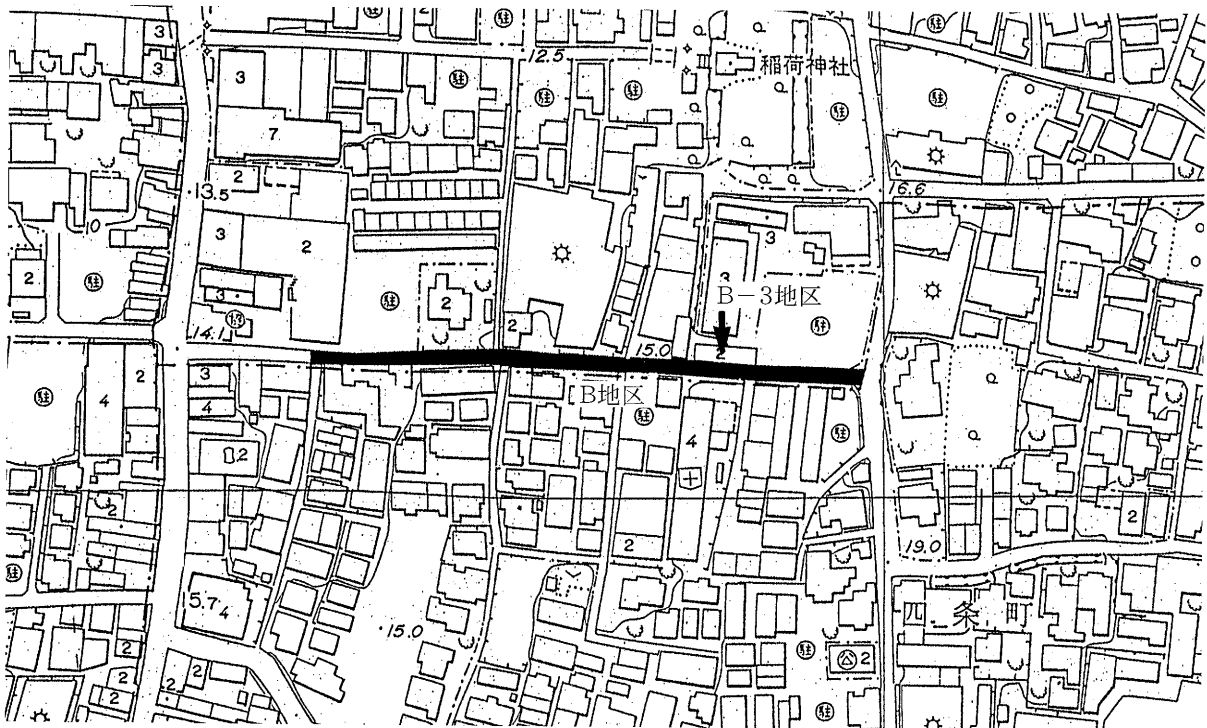
- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ灰色(10Y5/2)巨礫混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第6章 しじり 市尻遺跡・やまはた 山畑古墳群の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成14年度公共下水道第47工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市瓢箪山町286・287、四条町549～602
3	調 査 面 積	196㎡
4	調 査 期 間	平成15年10月30日～16年1月15日（延べ7日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線瓢箪山駅の南東である。当地点は市尻遺跡・山畑古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ229mの間であり、開削工法と一部推進工法である。



調査地点位置図（1/2500）



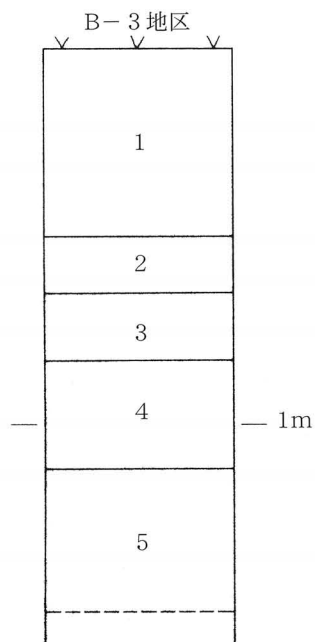
B 地区調査地遠景



B - 3 地区調査状況



B - 3 地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

B - 3 地区の層序

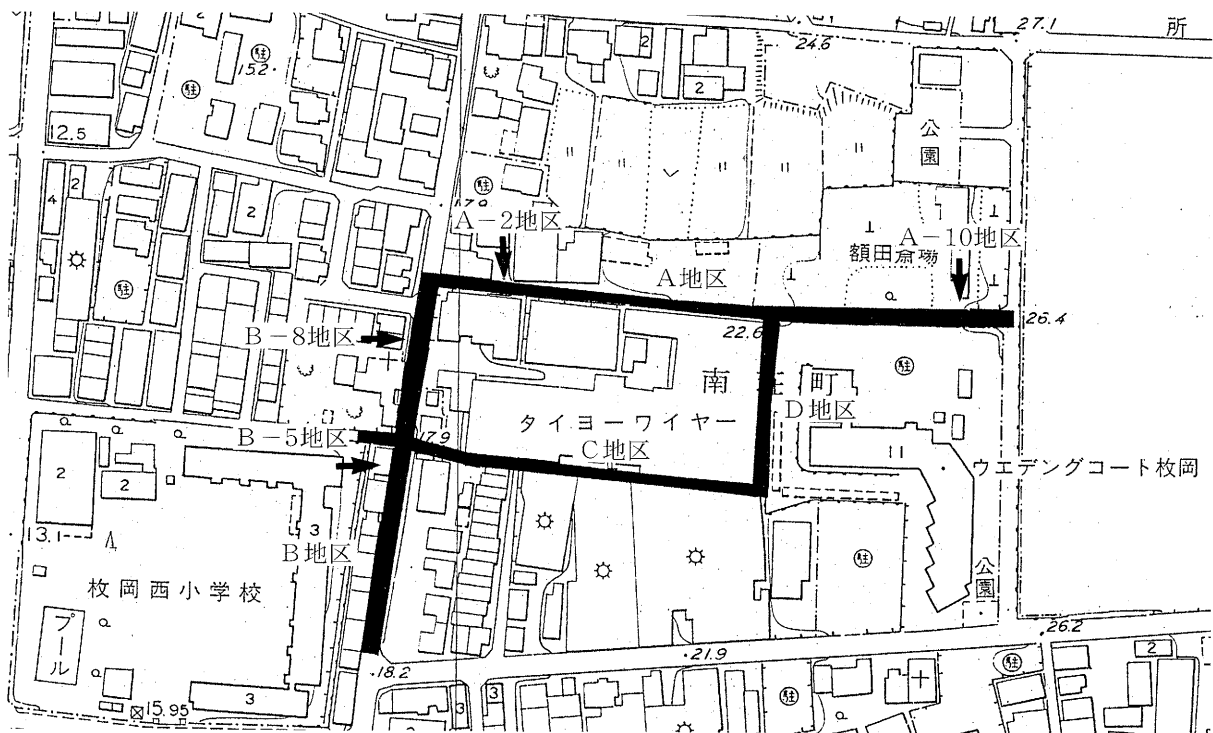
- 第1層 盛土。
- 第2層 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 灰色(10Y4/1)粘質シルト。
- 第4層 オリーブ黒色(7.5Y3/1)細粒砂混じりシルト。
- 第5層 黒色(5Y2/1)細粒砂混じり粘土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第7章 おにづか にしのつじ ひがしこうや 鬼塚・西ノ辻遺跡・東高野街道の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第26工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市南荘町310～344、335～338他
3	調 査 面 積	490㎡
4	調 査 期 間	平成15年10月9日～12月24日（延べ13日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡西小学校の東である。当地点は鬼塚・西ノ辻遺跡・東高野街道内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9～1.0mで長さ539mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

A-2地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(10YR3/2)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 黒褐色(10YR2/3)細粒砂混じり粘質シルト。

A-10地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂～小礫混じりシルト。
- 第3層 黒褐色(10YR2/2)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 黒褐色(10YR3/2)シルト。
- 第5層 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じり粘土。

B-5地区の層序

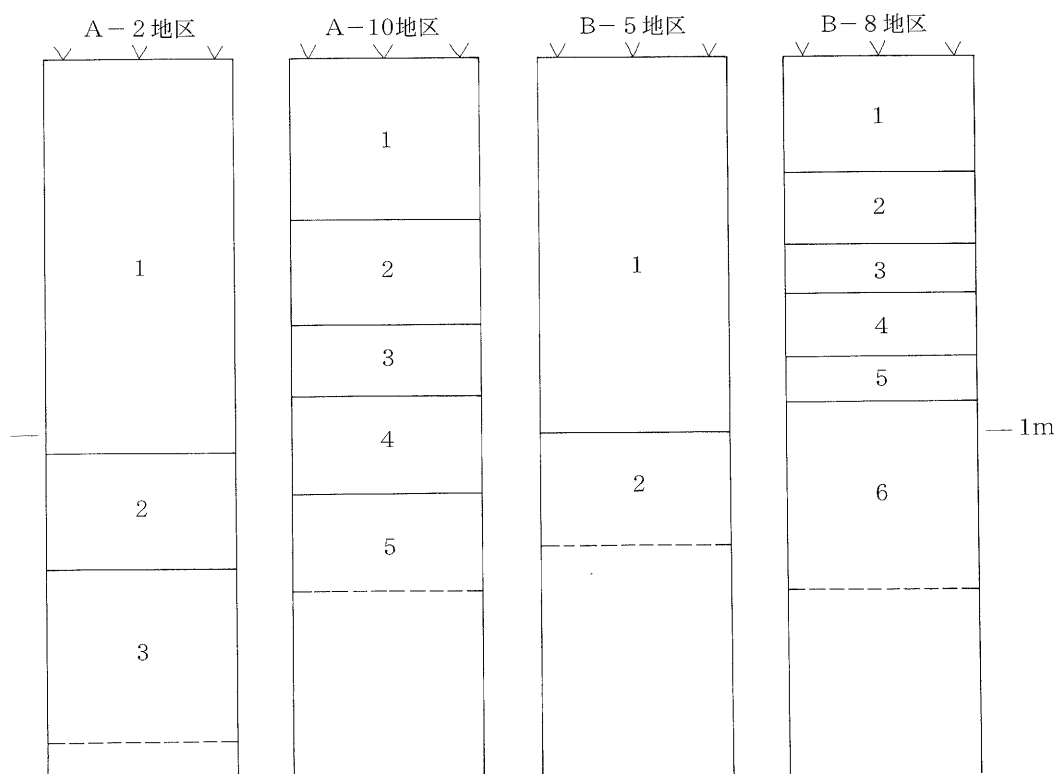
- 第1層 盛土。
- 第2層 緑黒色(5G)中粒砂混じり粘質シルト。

B-8地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(10YR3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂～中礫混じり粘質シルト。
- 第4層 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第5層 黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂～小礫混じり粘質シルト。
- 第6層 黒褐色(10YR3/1)粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



土層断面柱状図

A地区調査地遠景



A-2地区土層断面

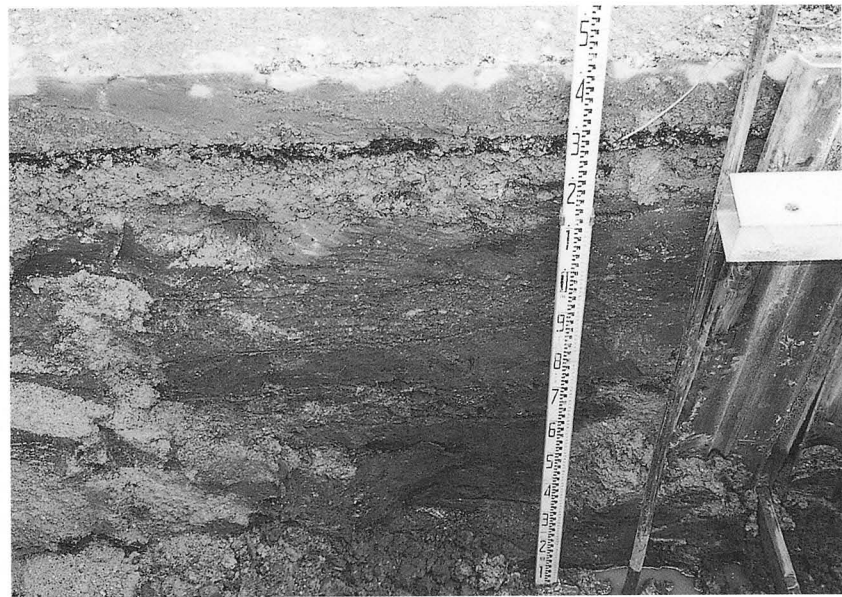


A-10地区土層断面

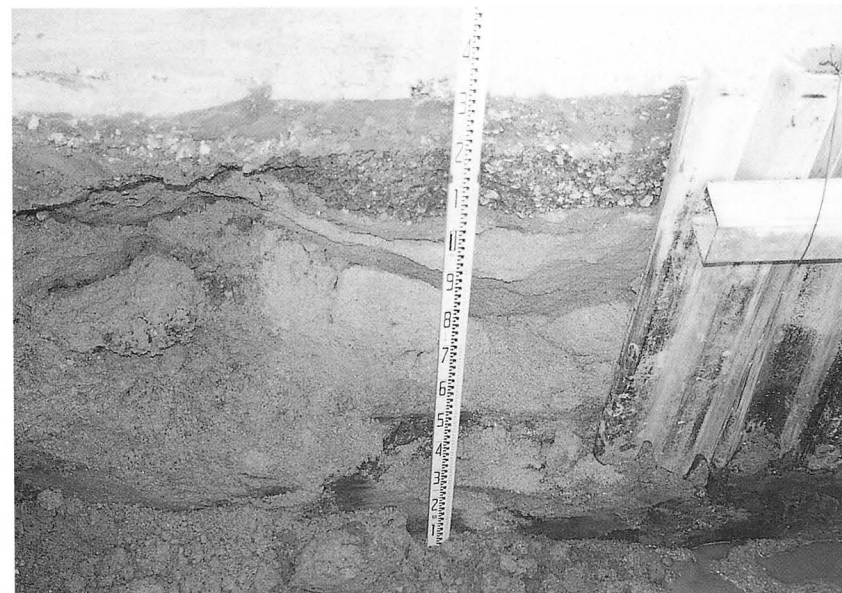




B地区調査地遠景



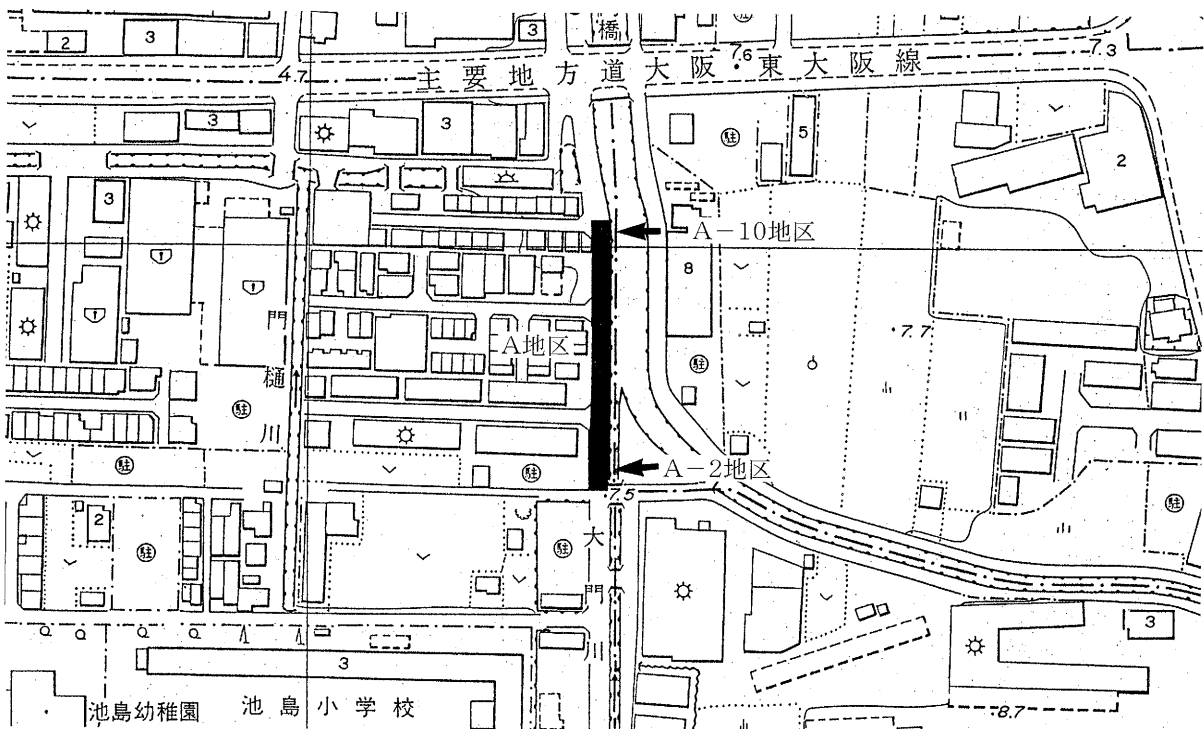
B-5地区土層断面



B-8地区土層断面

第8章 きたとんのいけ 北鳥池遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第13工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市池島町3丁目1034～1043
3	調 査 面 積	99m ²
4	調 査 期 間	平成16年3月5日～3月29日（延べ8日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は池島小学校の北である。当地点は北鳥池遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約1.0mで長さ99mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



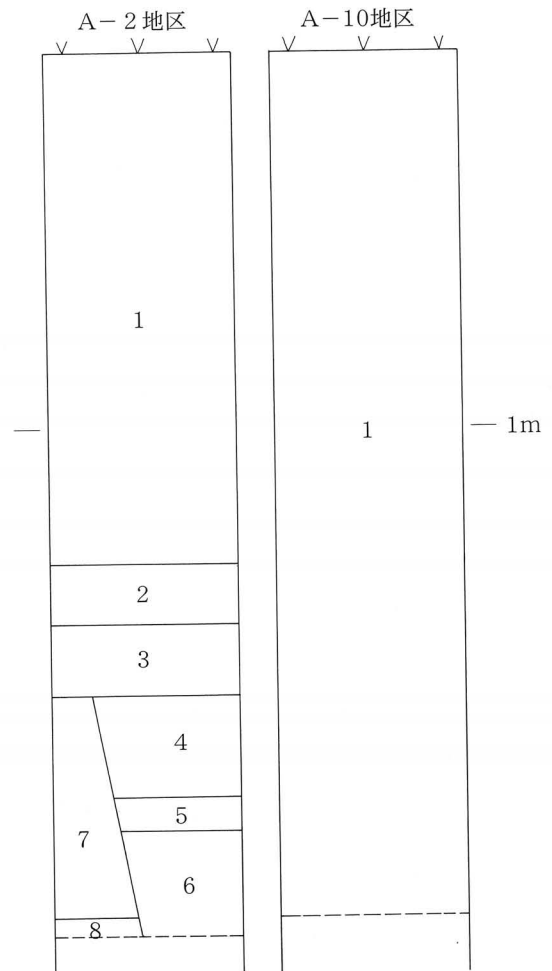
A地区調査地遠景



A-2地区土層断面



A-10地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-2地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 にぶい黄橙色(10YR6/4)中粒砂。
- 第3層 にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂混じりシルト。
- 第4層 オリーブ黄色(5Y6/3)粗粒砂。
- 第5層 灰オリーブ色(5Y5/3)中粒砂。
- 第6層 浅黄色(5Y7/3)細粒砂。
- 第7層 にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂混じりシルト。
- 第8層 灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂混じりシルト。

A-10地区の層序

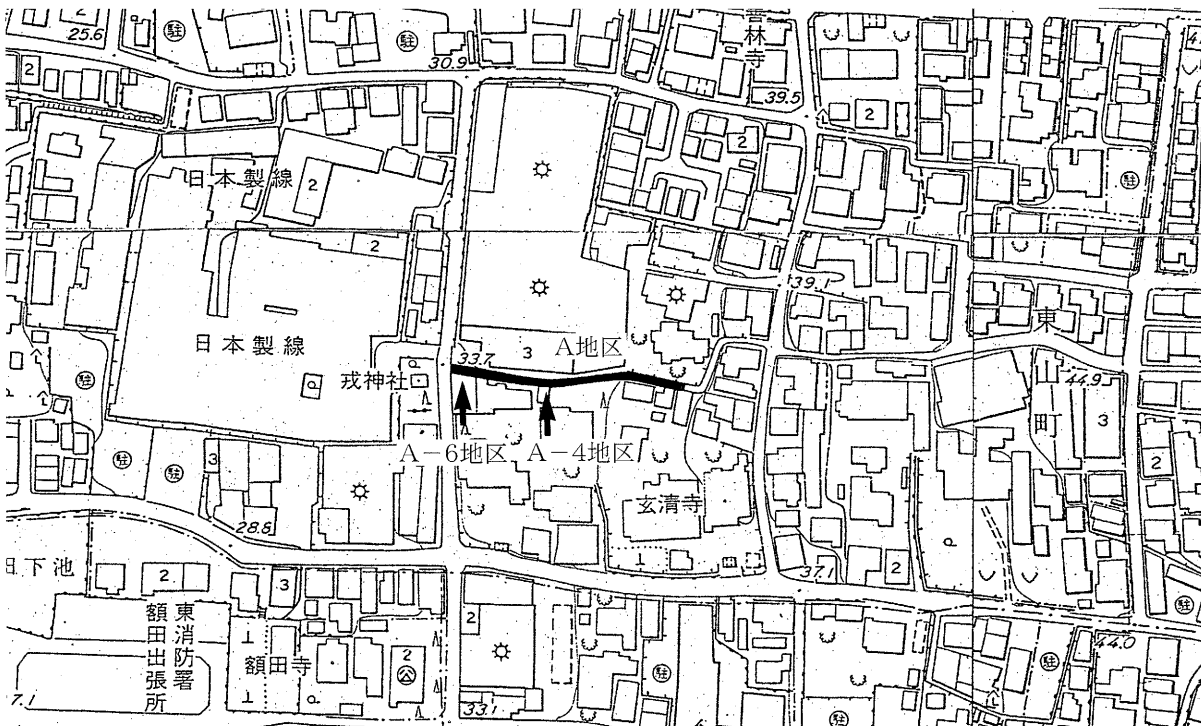
- 第1層 盛土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

がくでんじ 第9章 額田寺跡の調査

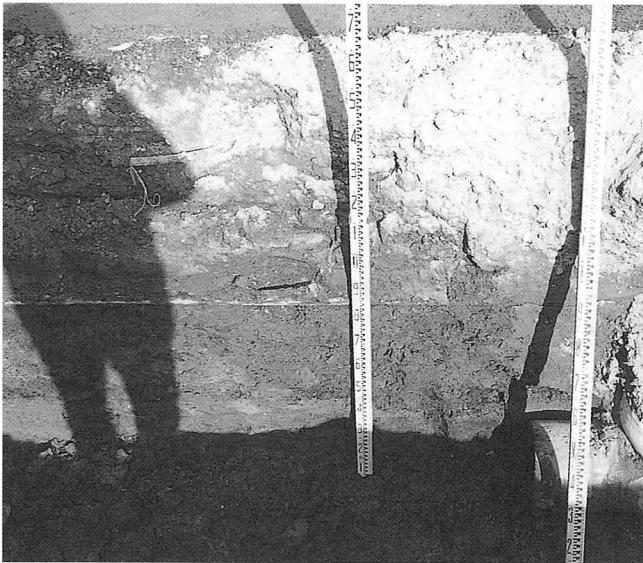
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第21工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市東山町784～786
3	調 査 面 積	108㎡
4	調 査 期 間	平成16年1月21日～2月5日（延べ6日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄東大阪線新石切駅の南東である。当地点は額田寺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ127mの間であり、開削工法である。



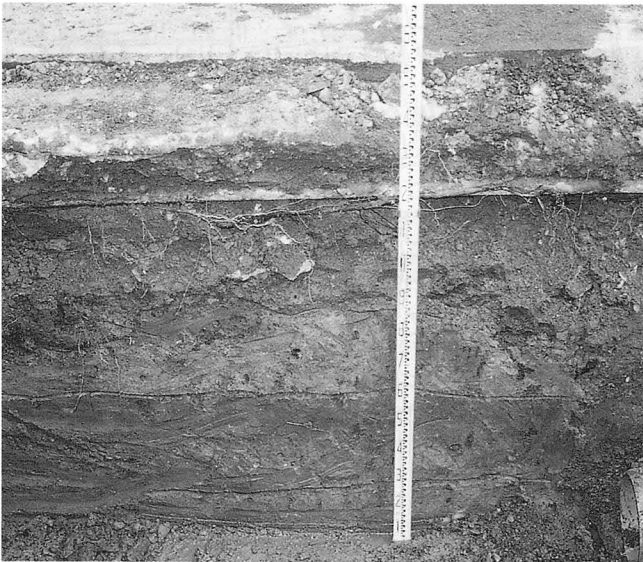
調査地点位置図（1/2500）



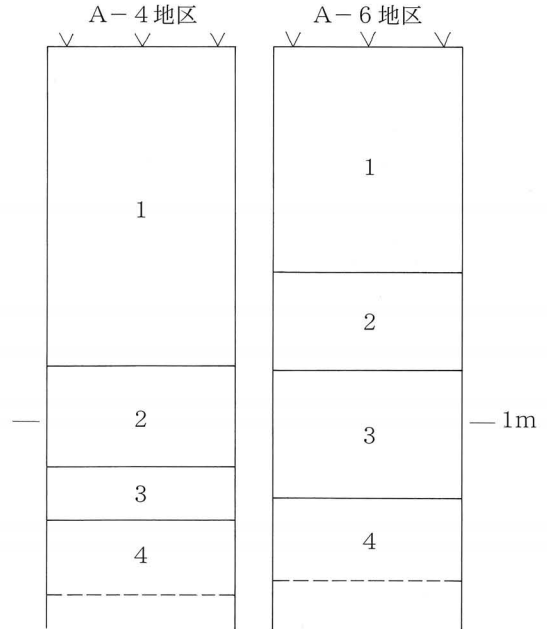
A地区調査地遠景



A-4地区土層断面



A-6地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-4地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(2.5Y3/2)粘質シルト。
- 第3層 オリーブ黒色(5Y3/1)粘土。
- 第4層 オリーブ黒色(7.5Y3/1)中粒砂
混じり粘質シルト。

A-6地区の層序

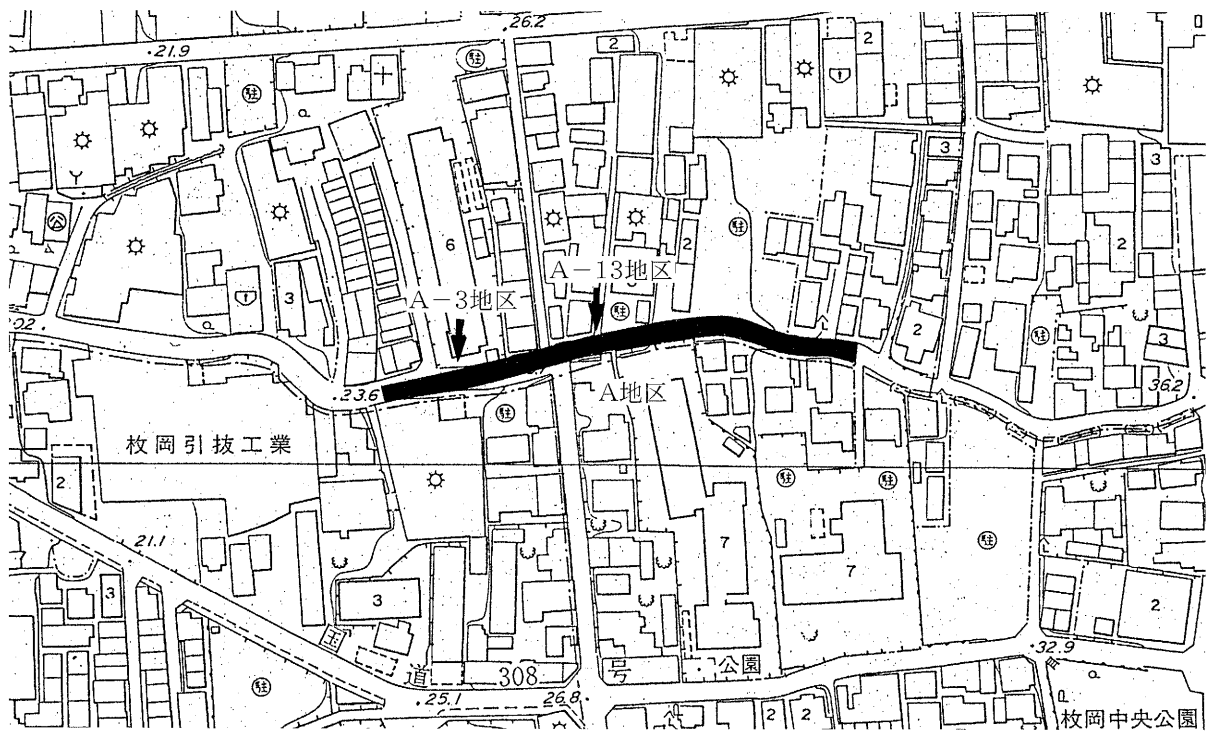
- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(2.5Y3/2)粘質シルト。
- 第3層 黒色(2.5Y2/1)粘土。
- 第4層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒
砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

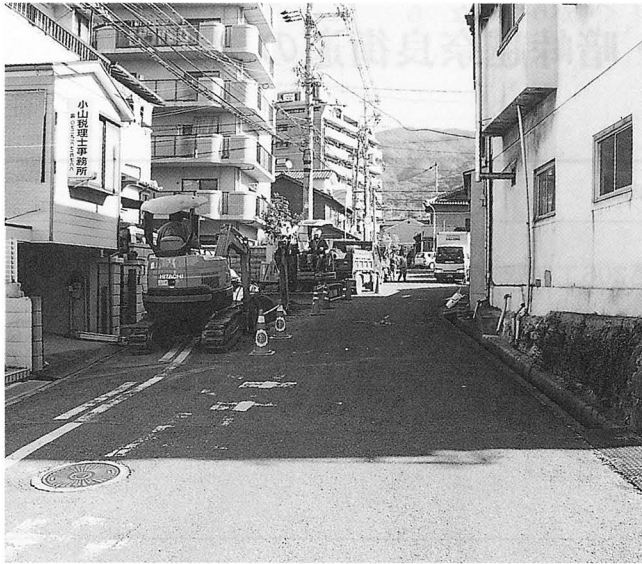
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

おにつか くらがりごえなら
第10章 鬼塚遺跡・暗峠越奈良街道の調査

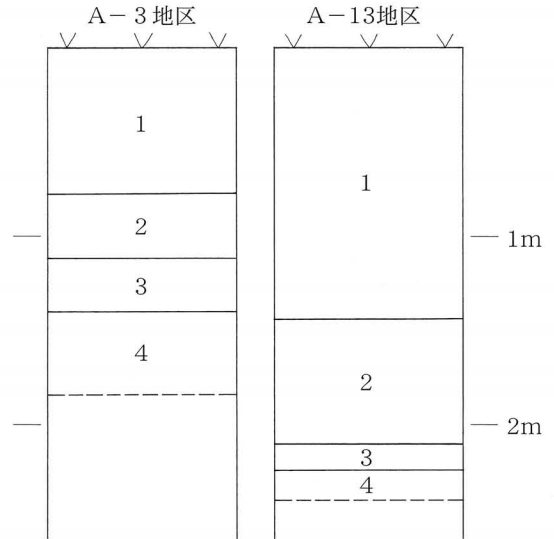
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第206工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市南荘町70～94
3	調 査 面 積	132㎡
4	調 査 期 間	平成15年11月14日～16年1月26日（延べ20日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡中学校の北東である。当地点は鬼塚遺跡・暗峠越奈良街道内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ155mの間であり、開削工法である。</p>



調査地点位置図（1/2500）



A地区調査地遠景



土層断面柱状図



A-3地区土層断面



A-13地区土層断面

1. 調査の概要

A-3地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗緑灰色(10G3/1)中粒砂～中礫混じり粘質シルト。
- 第3層 オリーブ黒色(7.5Y2/2)細粒砂～小礫混じり粘質シルト。
- 第4層 暗緑灰色(5G3/1)細粒砂混じり粘質シルト。

A-13地区の層序

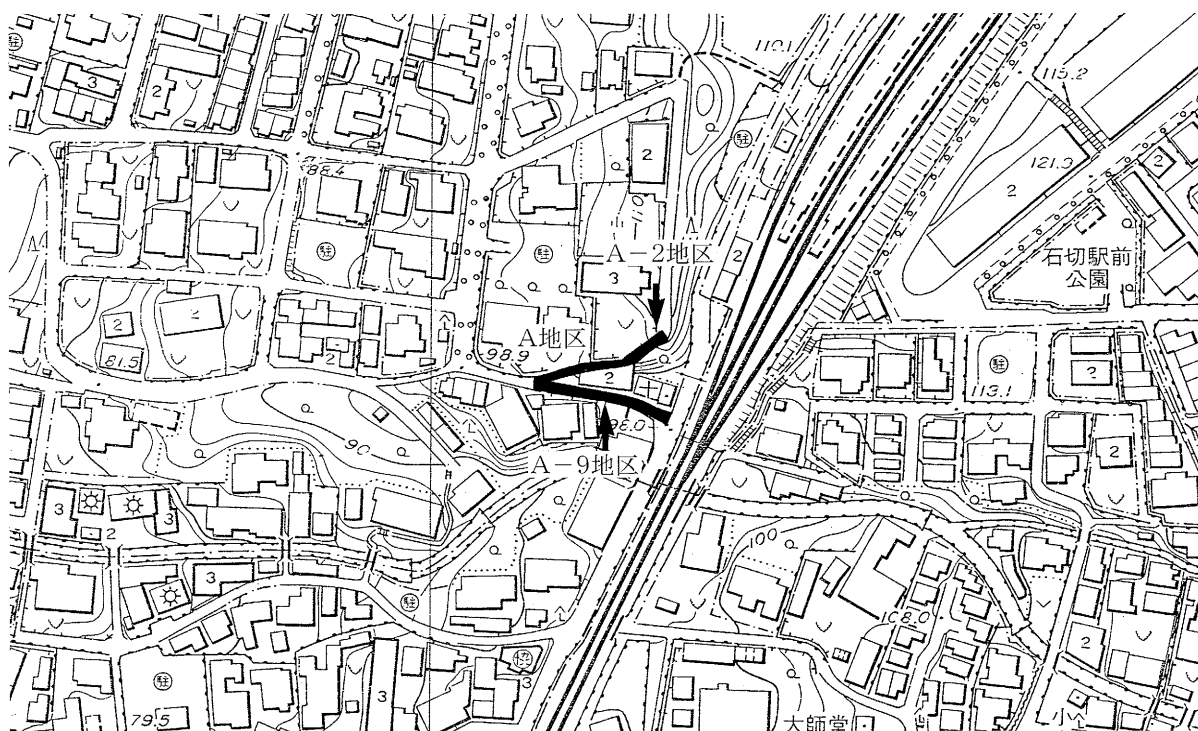
- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ灰色(2.5GY5/1)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 暗緑灰色(7.5GY4/1)中礫混じり粗粒砂。
- 第4層 暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)細粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第11章 せんじゅじやま 千手寺山遺跡の調査

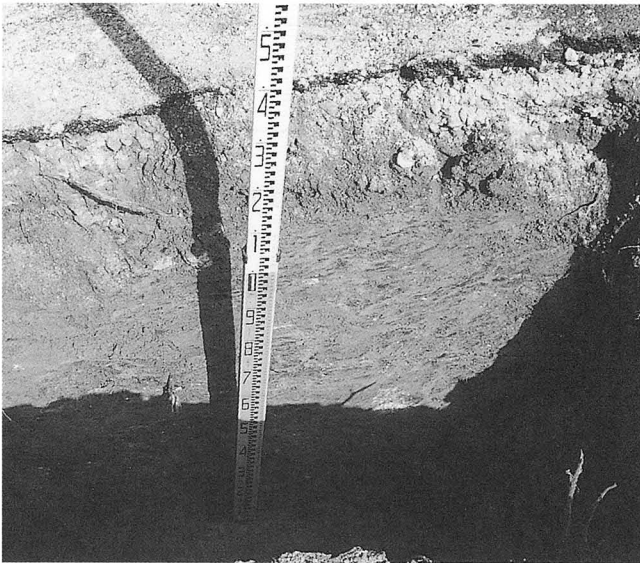
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成14年度公共下水道管きよ築造工事（3－4）
2	調 査 地 点	東大阪市東石切町4丁目363
3	調 査 面 積	37㎡
4	調 査 期 間	平成16年8月31日～9月14日（延べ6日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線石切駅の南西である。当地点は千手寺山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.3～0.6mで長さ76mの間であり、開削工法である。



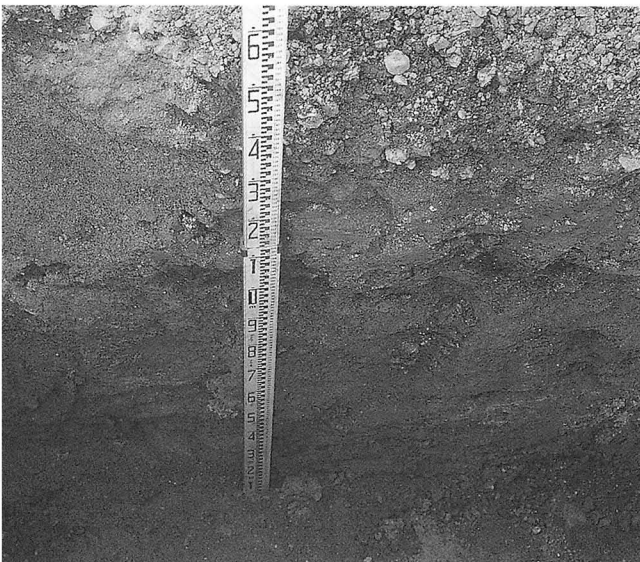
調査地点位置図（1/2500）



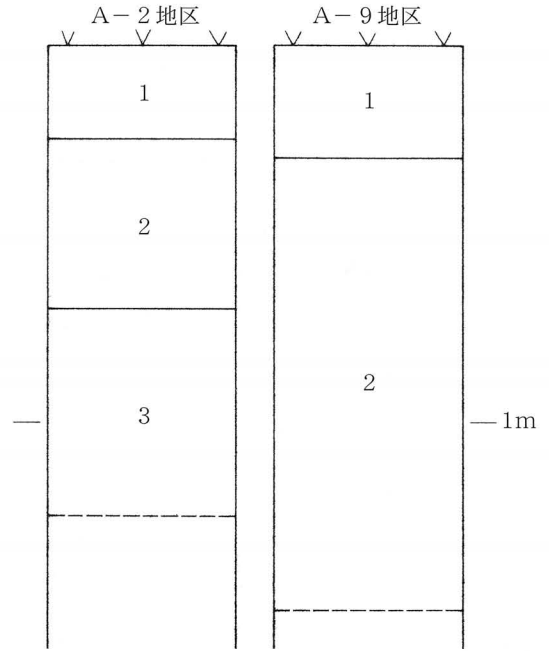
A地区調査地遠景



A-2地区土層断面



A-9地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-2地区の層序

第1層 盛土。

第2層 橙色(7.5YR6/8)細粒砂混じり粘質シルト。

第3層 明褐色(7.5YR5/6)中粒砂～小礫混じりシルト。

A-9地区の層序

第1層 盛土。

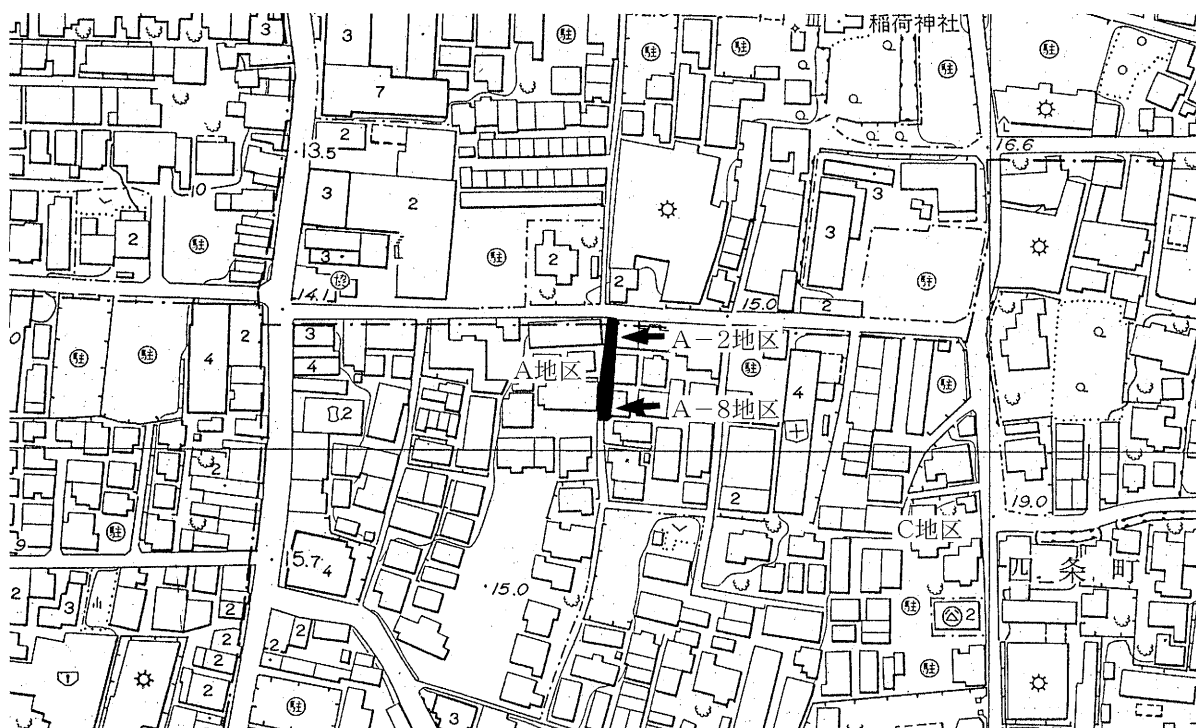
第2層 黄褐色(10YR5/6)粗粒砂～中礫混じりシルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

しじり 第12章 市尻遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第18工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市四条町569～570
3	調 査 面 積	49㎡
4	調 査 期 間	平成16年7月8日～8月9日（延べ13日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は瓢箪山稲荷神社の南西である。当地点は市尻遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.3～0.9mで長さ91mの間であり、開削工法である。</p>



調査地点位置図（1/2500）



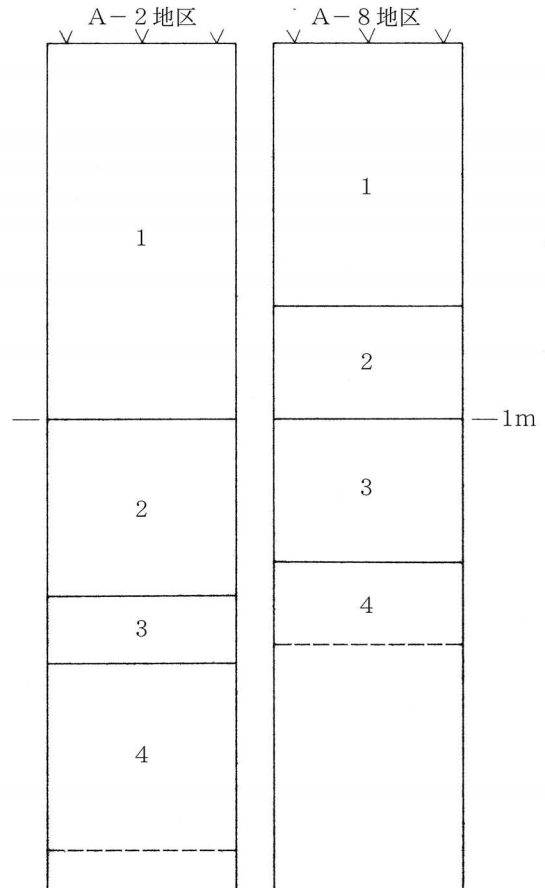
A 地区調査地遠景



A-2 地区土層断面



A-8 地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-2 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂～中礫混じり粘質シルト。

第3層 灰色(10YR4/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第4層 灰色(7.5Y4/1)小礫混じり粘質土。

A-8 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂～小礫混じり粘質シルト。

第3層 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂混じりシルト。

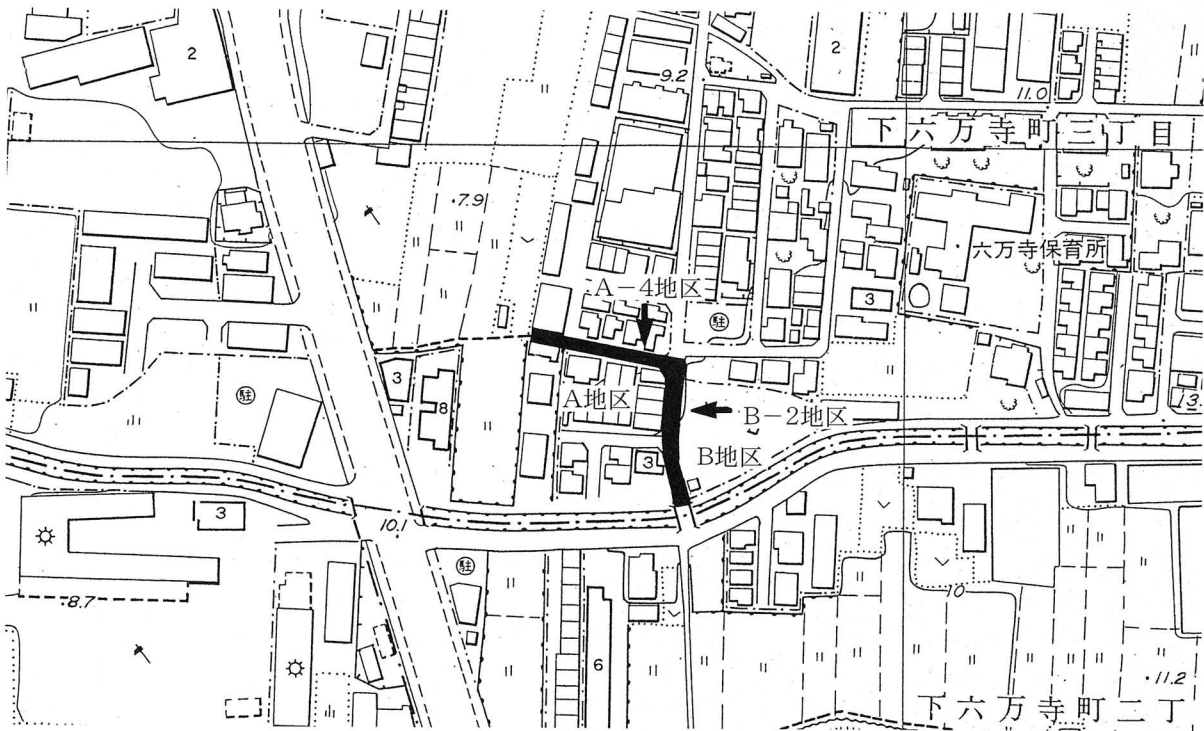
第4層 黒褐色(2.5Y3/1)粘質土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第13章 しもろくまんじ 下六万寺遺跡の調査

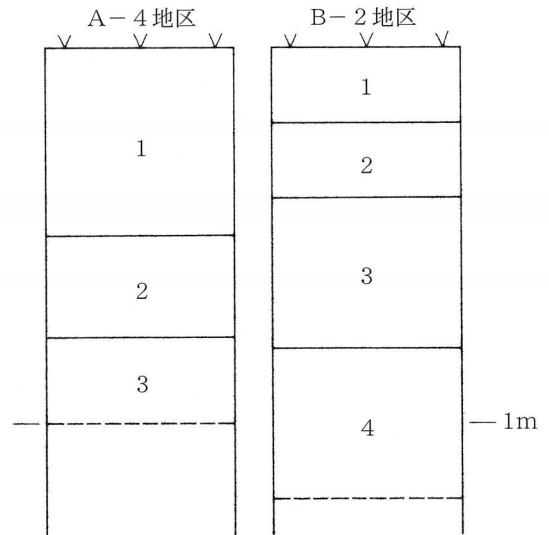
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第201工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市下六万寺町3丁目1169・1170
3	調 査 面 積	69㎡
4	調 査 期 間	平成15年12月15日～12月24日（延べ6日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は枚岡ポンプ場の南東である。当地点は下六万寺遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ82mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



A 地区調査地遠景



土層断面柱状図



A-4 地区土層断面



B-2 地区土層断面

1. 調査の概要

A-4 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗緑灰色(5G4/1)細粒砂～小礫
混じり粘土。

第3層 暗緑灰色(5G3/1)中粒砂混じり
粘質シルト。

B-2 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒色(2.5Y2/1)小礫混じりシル
ト。

第3層 暗褐色(10YR3/3)中粒砂混じり
シルト。

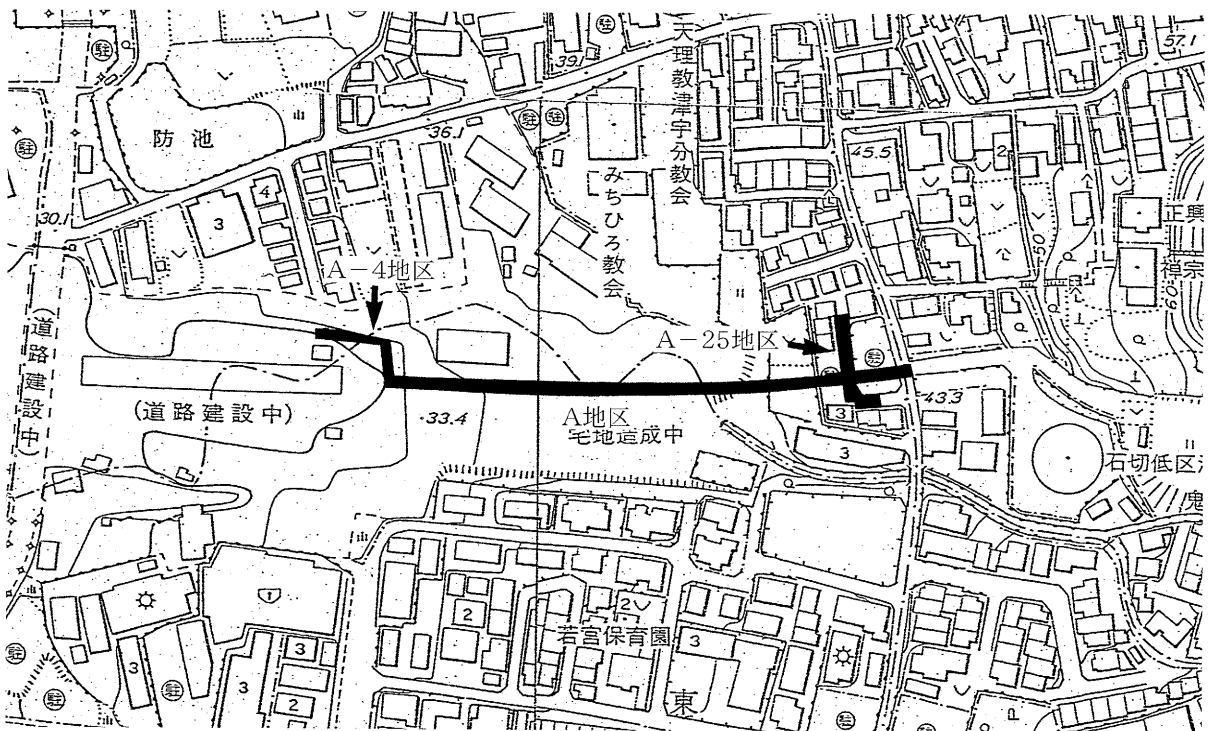
第4層 黒褐色(2.5Y3/2)小礫混じり粘
質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出
できなかった。

第14章 こうなみ 神並遺跡の調査

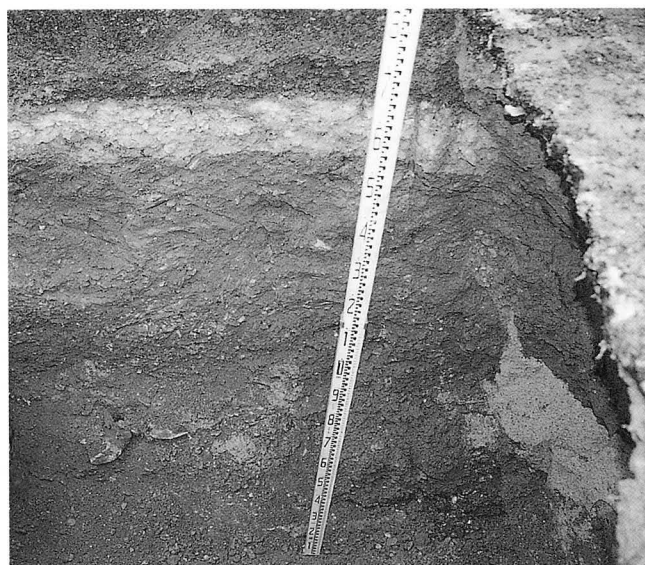
	名 称	内 容
1	事 業 名	東大阪市公共下水道（近鉄線近接部）管きよ築造工事のうち平成15年度（その1）工事
2	調 査 地 点	東大阪市東石切町1丁目920-5～915-2他
3	調 査 面 積	201㎡
4	調 査 期 間	平成15年11月14日～16年2月23日（延べ26日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切神社の南東である。当地点は神並遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ222mの間であり、開削工法と一部推進工法である。



調査地点位置図（1/2500）



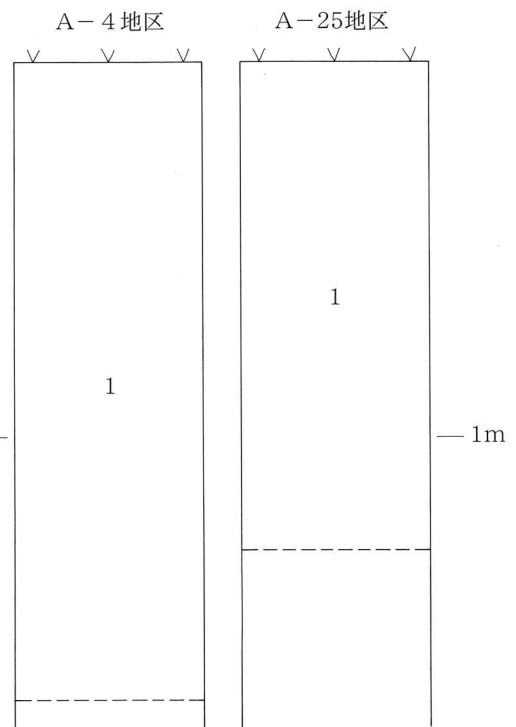
A地区調査地遠景



A-4地区土層断面



A-25地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-4地区の層序

第1層 盛土。

A-25地区の層序

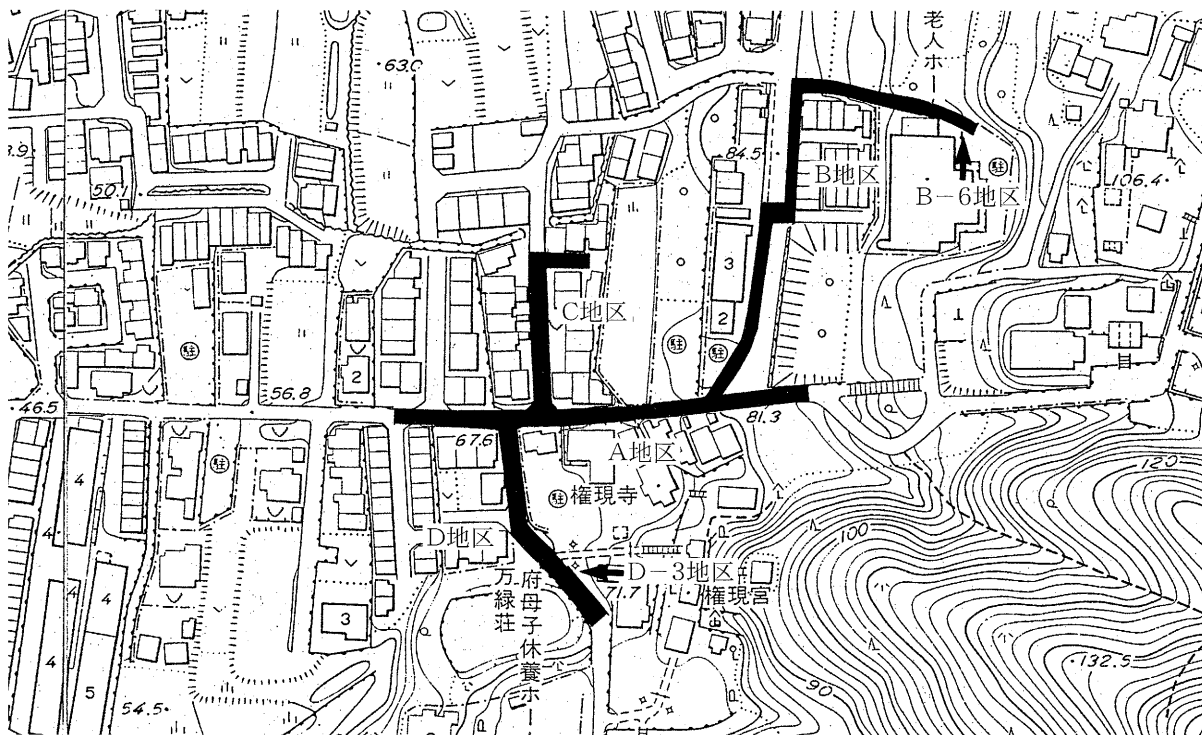
第1層 盛土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

いわたきやま
第15章 岩滝山遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第15工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市六万寺町1丁目303～801他
3	調 査 面 積	470m ²
4	調 査 期 間	平成15年11月6日～16年4月30日（延べ47日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は往生院の西である。当地点は岩滝山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ549mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



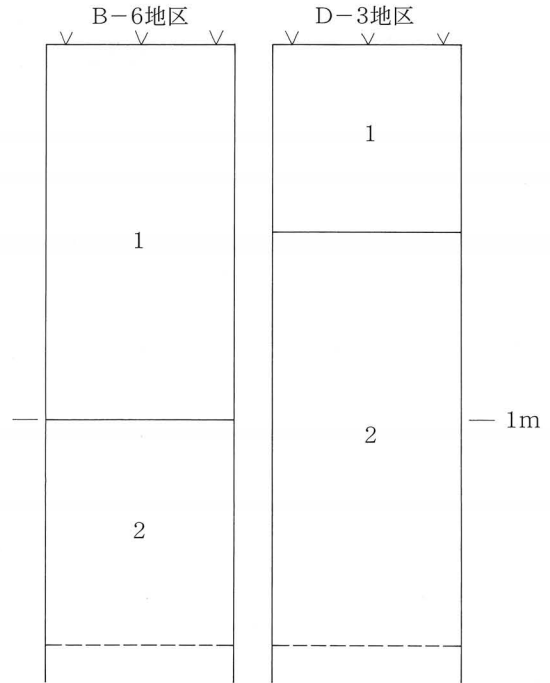
B 地区調査地遠景



B-6 地区土層断面



D-3 地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

B-6 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 緑灰色(7.5GY6/1)粗粒砂～小礫混じり粘質シルト。

D-3 地区の層序

第1層 盛土。

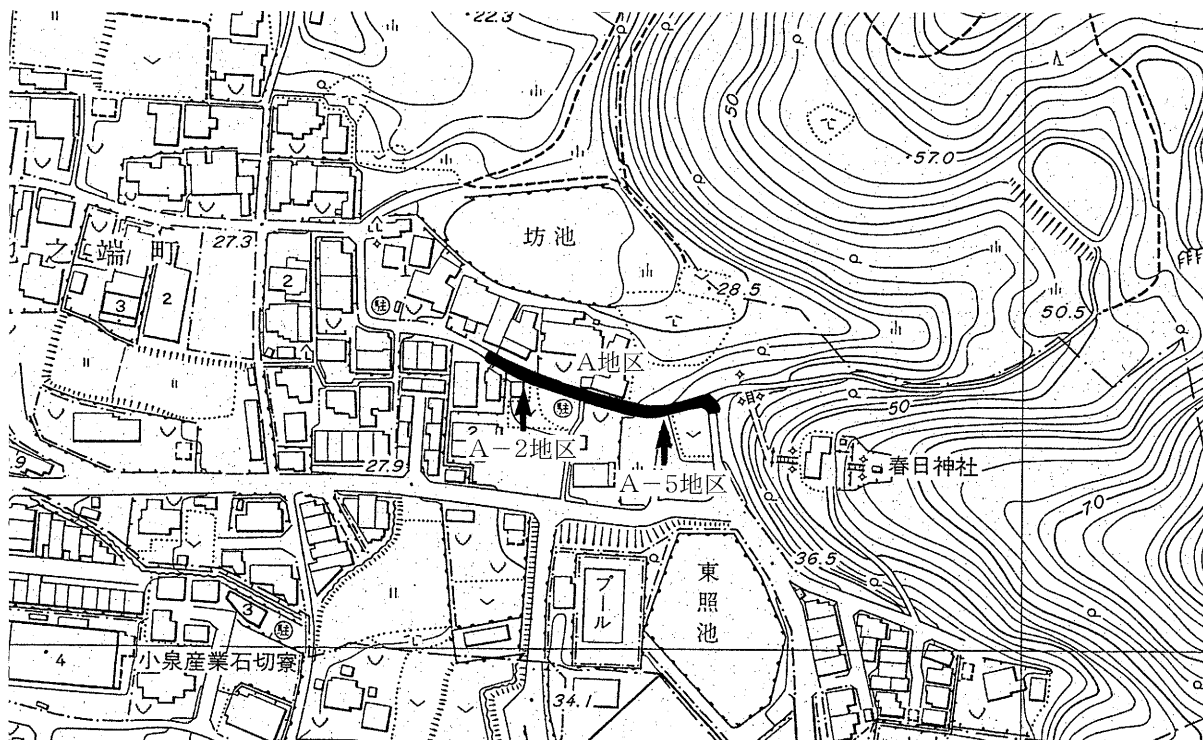
第2層 黒褐色(2.5Y3/1)シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

いけのはた
第16章 池端遺跡の調査

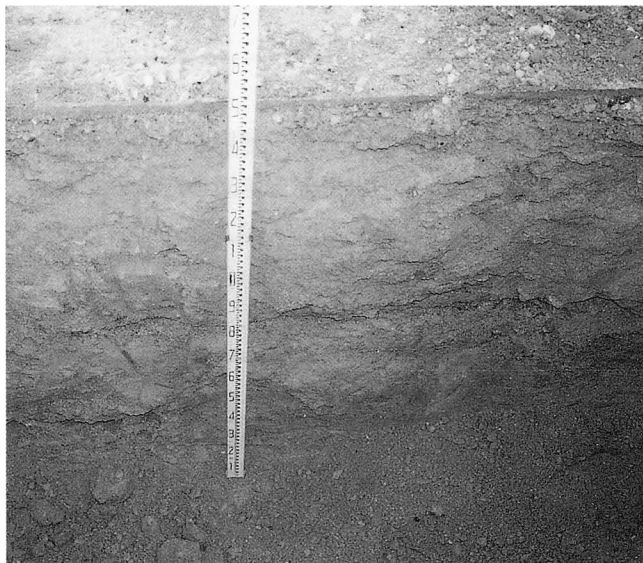
	名 称	内 容
1	事業名	平成15年度公共下水道第23工区管きよ築造工事
2	調査地点	東大阪市池之端町98～106
3	調査面積	64㎡
4	調査期間	平成16年1月21日～2月3日（延べ3日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は孔舎衛中学校の南である。当地点は池端遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ75mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



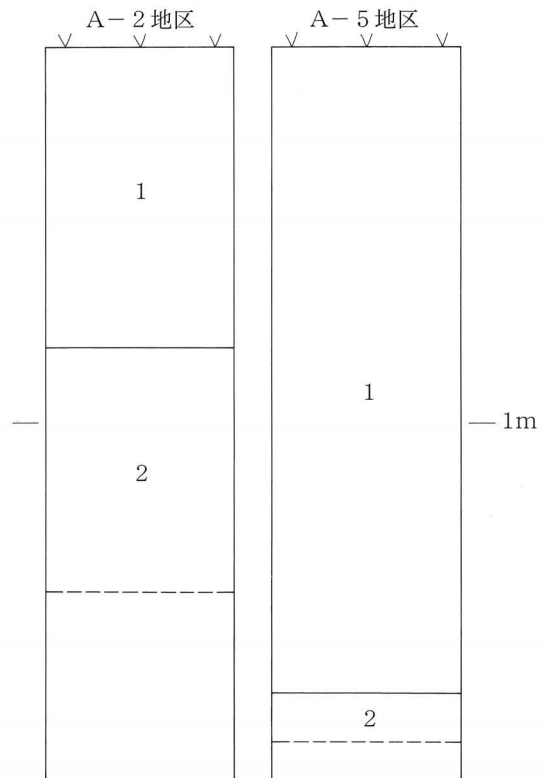
A-2 地区調査地状況



A-2 地区土層断面



A-5 地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-2 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 オリーブ黒色(5Y3/2)中粒砂～
中礫混じり粘質シルト。

A-5 地区の層序

第1層 盛土。

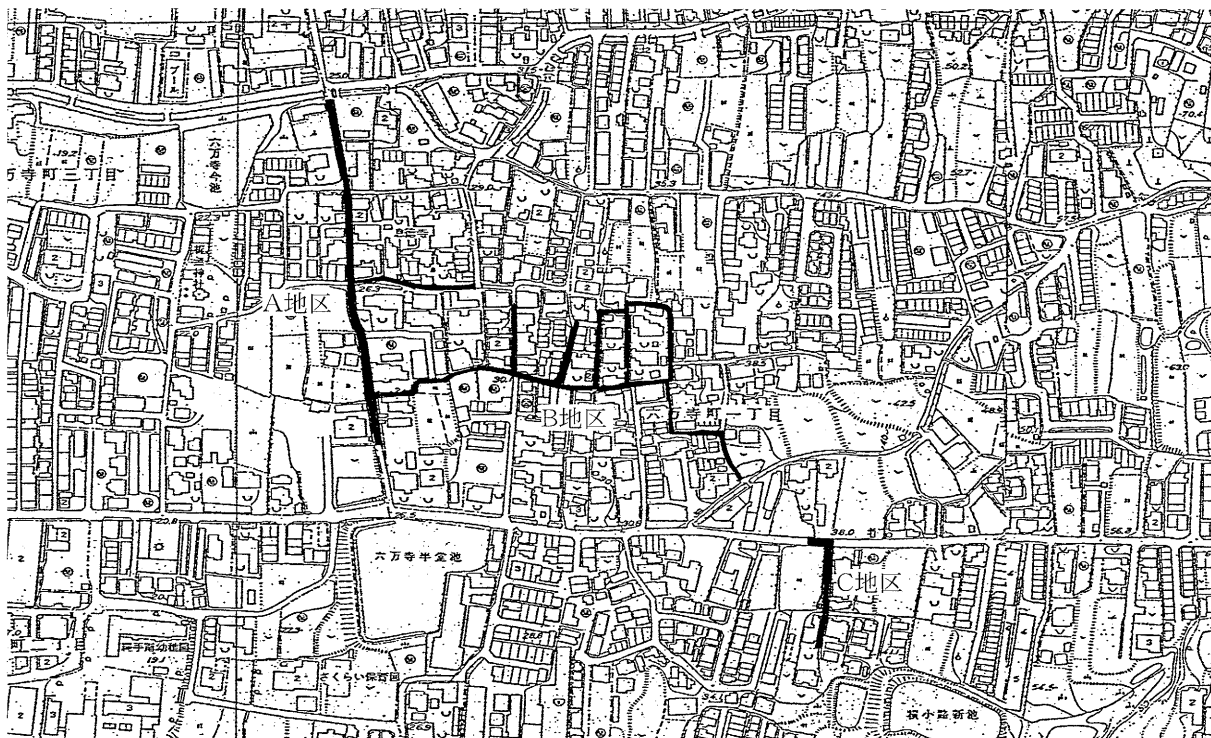
第2層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粘土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出
できなかった。

第17章 ^{ふなやま} 船山(第7次)・^{かみろくまんじ} 上六万寺(第9次)遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第17工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市六万寺町1丁目1029~1030、1394他
3	調 査 面 積	232㎡
4	調 査 期 間	平成16年1月14日~8月31日(延べ111日)
5	報 告 担 当	福瀬
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は半堂池の北と東である。当地点は船山・上六万寺遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ272mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図(1/5000)

1. 調査の概要

調査地区は便宜上A・B・Cの3地区に分け、B地区より調査を開始した。A地区の北端は上六万寺遺跡、A地区の南とB・C地区は船山遺跡にあたる。

2. 層序

A-16地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黄灰色(2.5Y4/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。古墳時代～中世期の遺物が出土。

第3層 灰色(10Y5/1)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第4層 暗オリーブ灰色(5GY4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を多く含む。

A-26地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗オリーブ灰色(5GY4/1)中粒砂混じりシルト。

第3層 灰色(7.5Y5/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第4層 暗緑灰色(7.5GY3/1)中粒砂混じりシルト。

第5層 灰色(7.5Y4/1)粗粒砂。小礫を多く含む。中世期の遺物が出土。

B-1地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(2.5Y3/2)シルト。

第3層 黒色(7.5Y2/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第4層 緑黒色(10G2/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第5層 緑黒色(10G2/1)シルト。中礫を含む。

B-8地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黄灰色(2.5Y4/1)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第3層 灰色(5Y4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。埴輪が出土。

B-15地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(10YR3/2)粗粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。古墳時代～中世期の遺物が出土。

第4層 灰黄褐色(10YR4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。埴輪が出土。

第5層 灰黄褐色(2.5Y4/2)粗粒砂。

B-29地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(2.5Y3/1)シルト。

B-41地区の層序

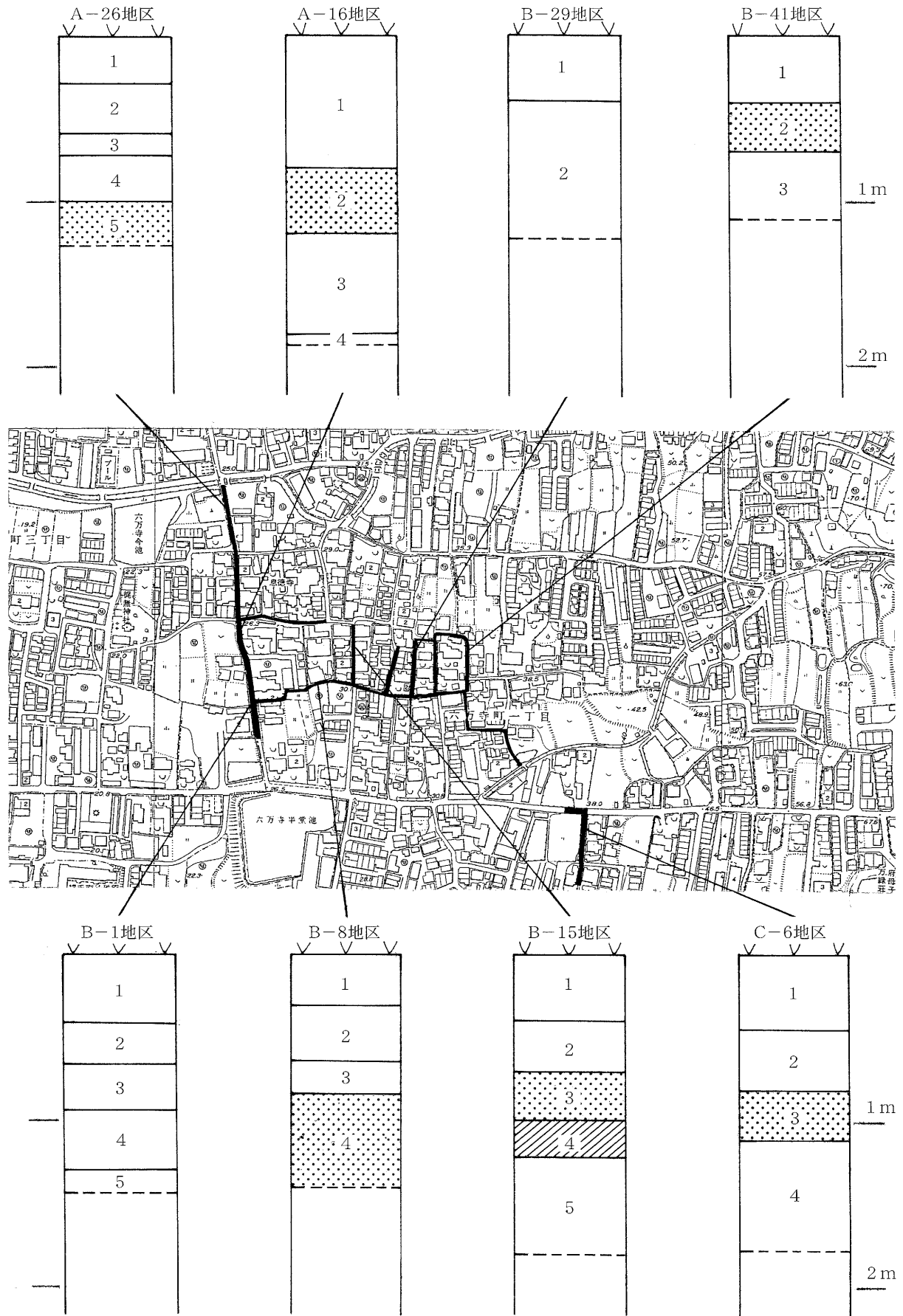
第1層 盛土。

第2層 にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂混じりシルト。古墳時代の遺物が出土。

第3層 黒褐色(10YR3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

C-6地区の層序

第1層 盛土。



土層断面柱状図

第2層 にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層 黒褐色(10YR3/2)中粒砂混じり粘質シルト。中礫を含む。奈良～平安時代の遺物が出土。

第4層 黄褐色(2.5Y5/3)粗粒砂混じりシルト。中～大礫を含む。

3. 出土遺物

今回の調査では全地区において遺物が出土した。A・C地区は古墳時代～中世期の土器、B地区は古墳時代の埴輪、土器が多く出土した。

埴輪

円筒埴輪と形象埴輪がある。遺物の中で最も出土量が多い。埴輪はB地区より出土しており、詳細な地区に分けると、B-8地区、B-13～16地区、B-20地区の3グループになる。B-20地区はB-13～16地区の東3mに位置し、距離的にも近いことから同一の遺物包含層と考えられる。

円筒埴輪(1～45)

円筒埴輪は川西宏幸氏の「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号 1978年 を参考にする。今回、出土した円筒埴輪はタガに若干古い要素を含んでいるものもあるが形状、調整、焼成などからみて、おおむねV期に比定できる。形象埴輪もほぼ同時期と考えられる。B-13～16地区とB-20地区の埴輪は6世紀初めのものと考えられる。B-8地区の埴輪はタガの形状に新しい時期の要素を含んでいることから6世紀前半～中葉頃のものと考えられる。

詳細な地区は文末に記すが、すべてを記すと煩雑になるため、B-8地区とB-20地区のみとする。記していないものはB-13～16地区より出土したものである。形象埴輪も同様である。

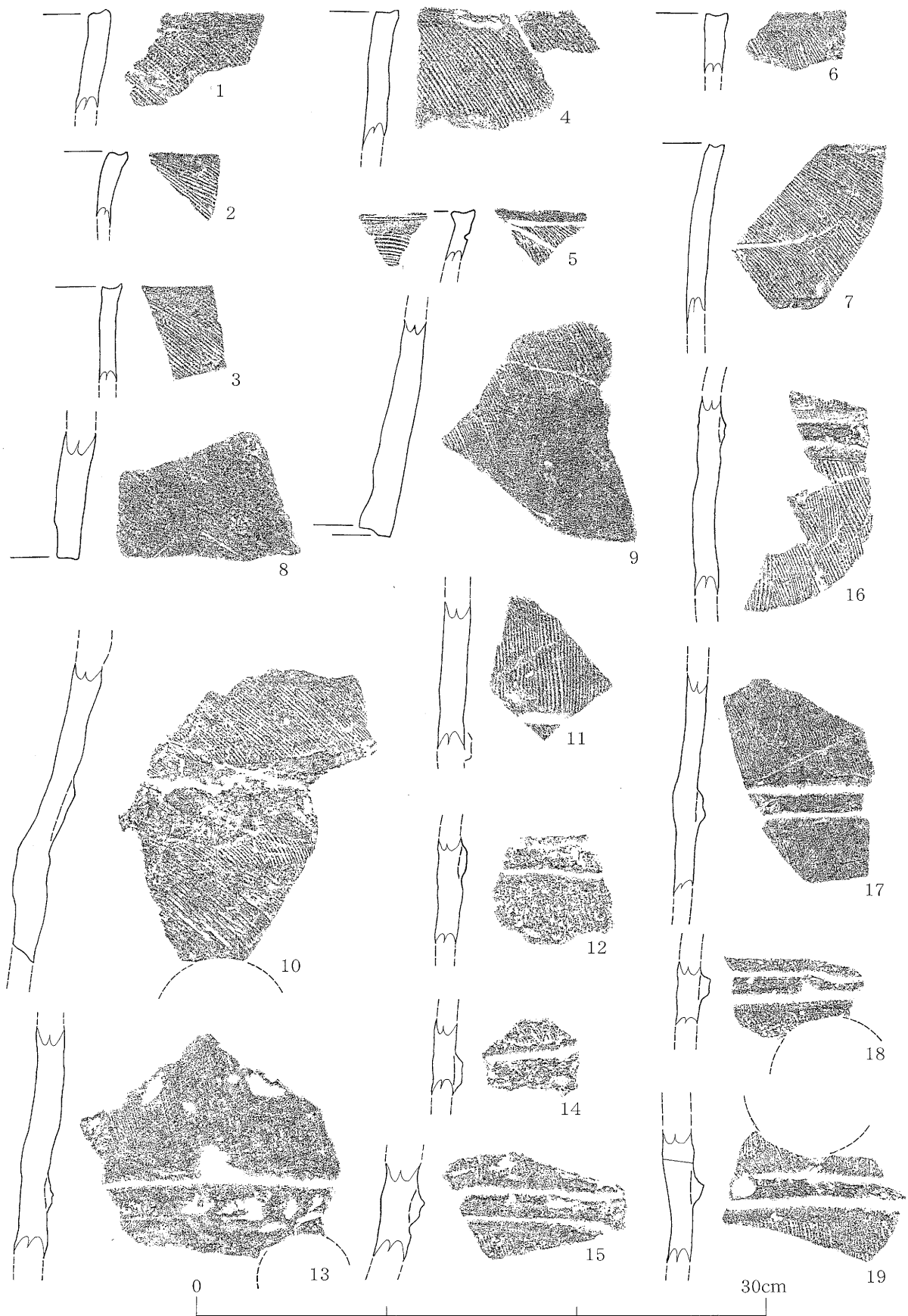
完全な形がわかるものがないので、口縁部、基底部などに分けて記す。

口縁部(1～7・29・30) 3タイプに分けられる。1・5は口縁部がわずかに内傾する。2・4・7・29は口縁部が外反する。3・6・30は口縁部がまっすぐ伸びる。内面はナデ調整するが5は横方向のハケメ調整する。外面は斜め方向のハケメ調整する。29は内面の口縁部上半を横方向のハケメ調整、下半をヨコナデ調整する。口径は20.0cm、残存高は9.0cmである。30は内面をユビナデ調整する。口径は26.0cm、残存高は8.2cmである。5・7は外面に1条の線刻を施す。焼成は1・4～6・29・30が土師質で硬質、2・3は軟質である。7は須恵質で硬質である。6はB-20地区より出土した。

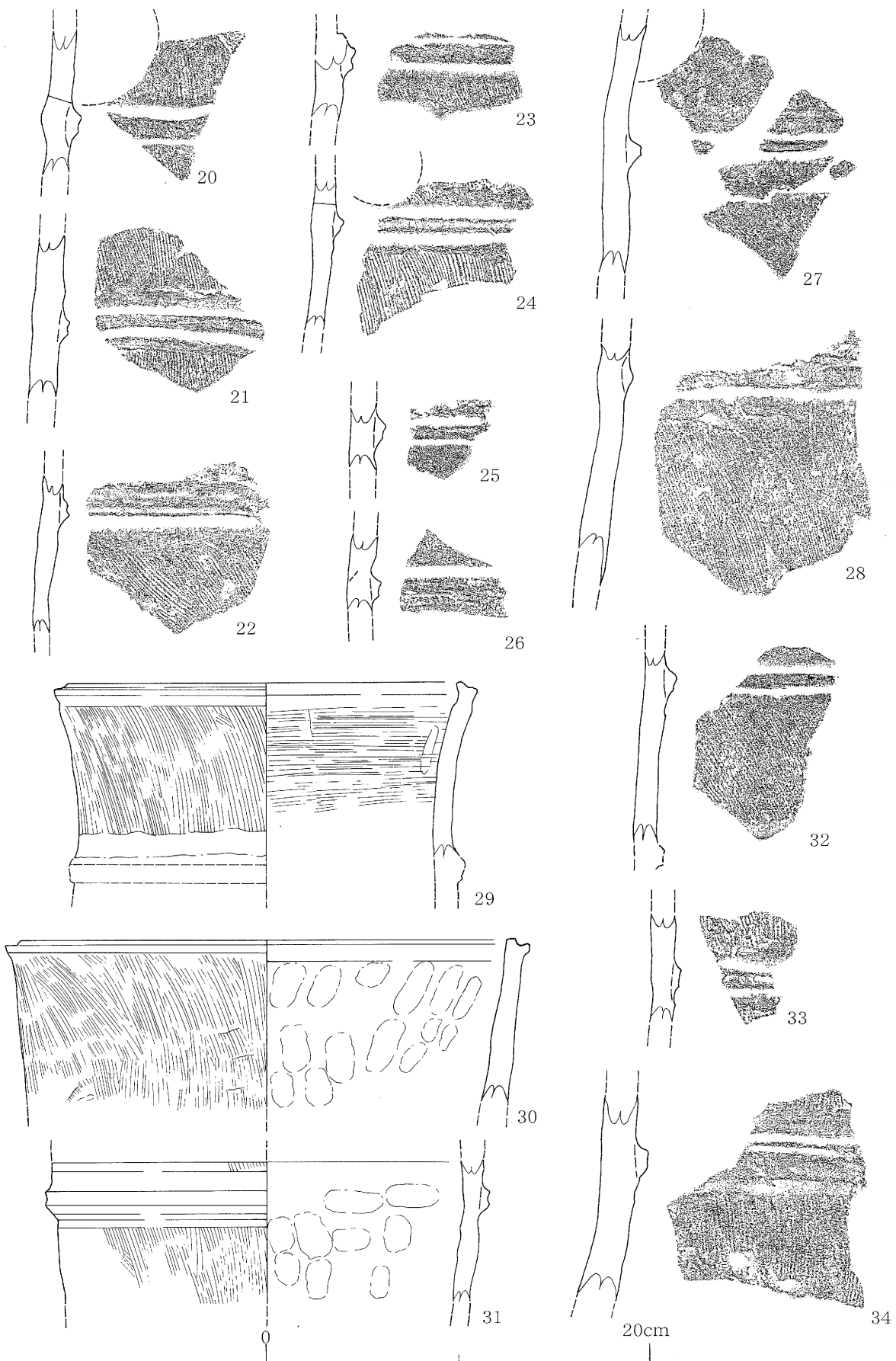
基底部(8・9) 8は平らな底部が直立する。内外面はナデ調整する。端部には指頭圧痕を残す。9は斜めにくぼむ基底部がやや外上方へ立ち上がる。器壁は上に行くほど薄くなる。内面はナデ調整する。外面は上半を斜め方向のハケメ調整、下半をハケメ調整の後にナデ調整する。端部に指頭圧痕を残す。焼成は土師質で硬質である。8は特に良好である。9はB-8地区より出土した。

体部(10～28・32～37・39～41) タガの形態によって、4タイプに分けられる。12・14・16～18・20・27・32・33・35・41は断面形が台形を呈するもの、15・21～23・25・26・31は断面形が台形で中央のくぼむM字状を呈するもの、19・24・28・37・40は断面形が三角形を呈するもの、10・13は断面形が低い三角形を呈するものがある。10・13はV期でも時代の下るものである。11・36・39はタガの部分を欠損するためタイプは不明である。調整は内面をナデ、ユビナデ調整する。外面は斜め方向のハケメ調整する。10・13・18～20・24・27・36・39～41は円形の透かし孔を持つ。焼成は土師質で硬質であるが、10・13・27は軟質である。16は須恵質で硬質である。10～15はB-8地区、40はB-20地区より出土した。

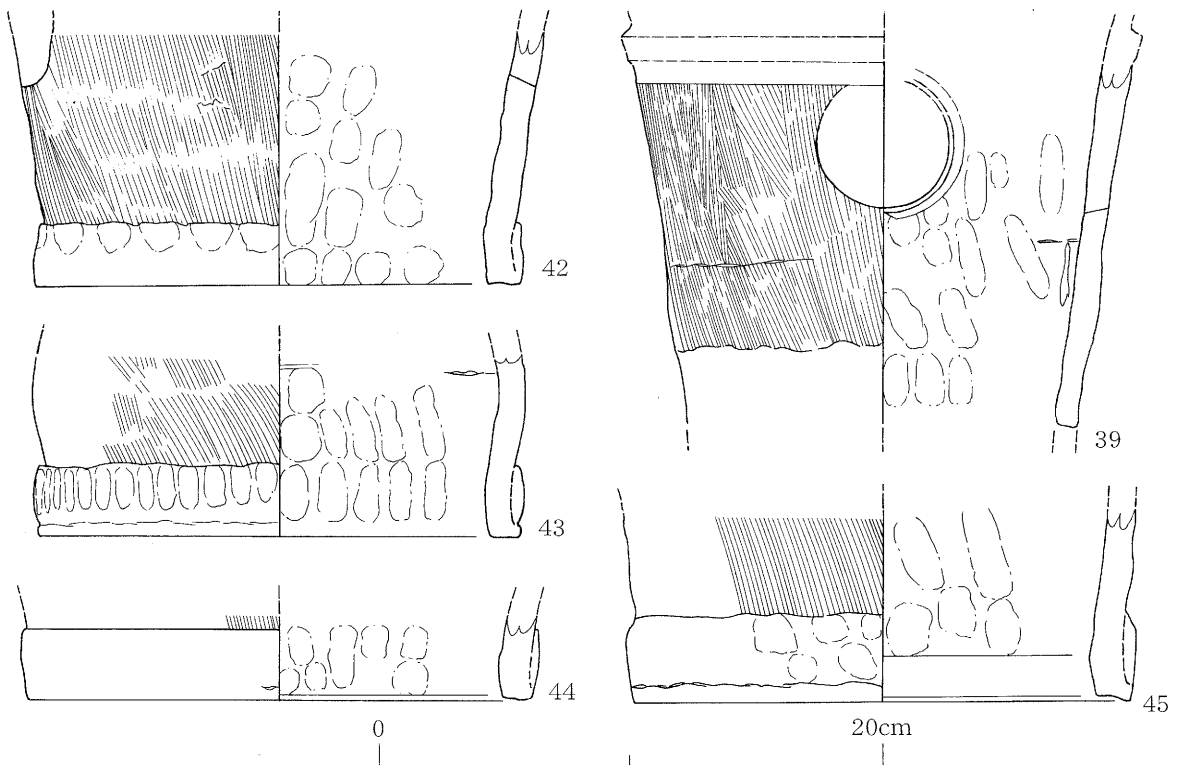
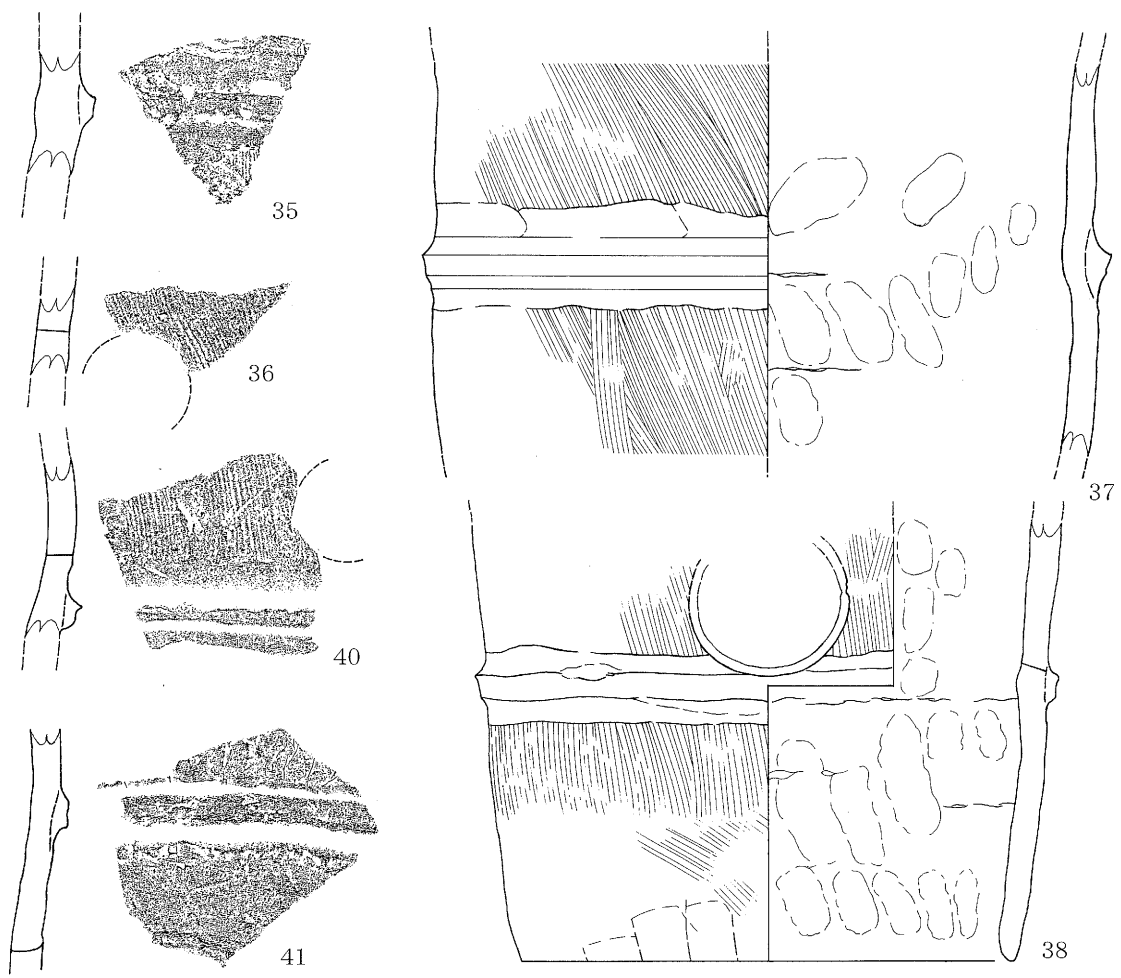
基底部から体部を残すもの(38) 尖った基底部が外上方にまっすぐ伸びる。タガは断面形が台形で中央のくぼむM字状を呈するものである。円形の透かし孔を持つ。内面はユビナデ調整、外面は体部を斜め方向のハケメ調整する。基底部はハケメ調整の後にナデ調整する。底径は19.0cm、残存高は



出土遺物実測図



出土遺物実測図



出土遺物実測図

18.0cmである。焼成は土師質で硬質である。

基底部にタガを持つもの(42～45) 42は基底部から体部が外上方へ立ち上がる。体部に円形の透かし孔を持つ。43は底部から体部が膨らみ気味に立ち上がる。44は基底部のみである。45は基底部から体部が直立する。内面はコビナデ調整する。外面は斜め方向のハケメ調整する。タガは扁平であり、低い。表面には指頭圧痕を残す。44はタガをヨコナデ調整する。42は底径が19.0cm、残存高が10.0cm、43は底径が19.0cm、残存高が7.0cm、44は底径が20.0cm、残存高が3.4cm、45は底径が19.5cm、残存高が8.0cmである。焼成は土師質で硬質である。円筒埴輪として分類しているが、特殊な形態をしていることから形象埴輪の基台部分の可能性もある。^{註1}

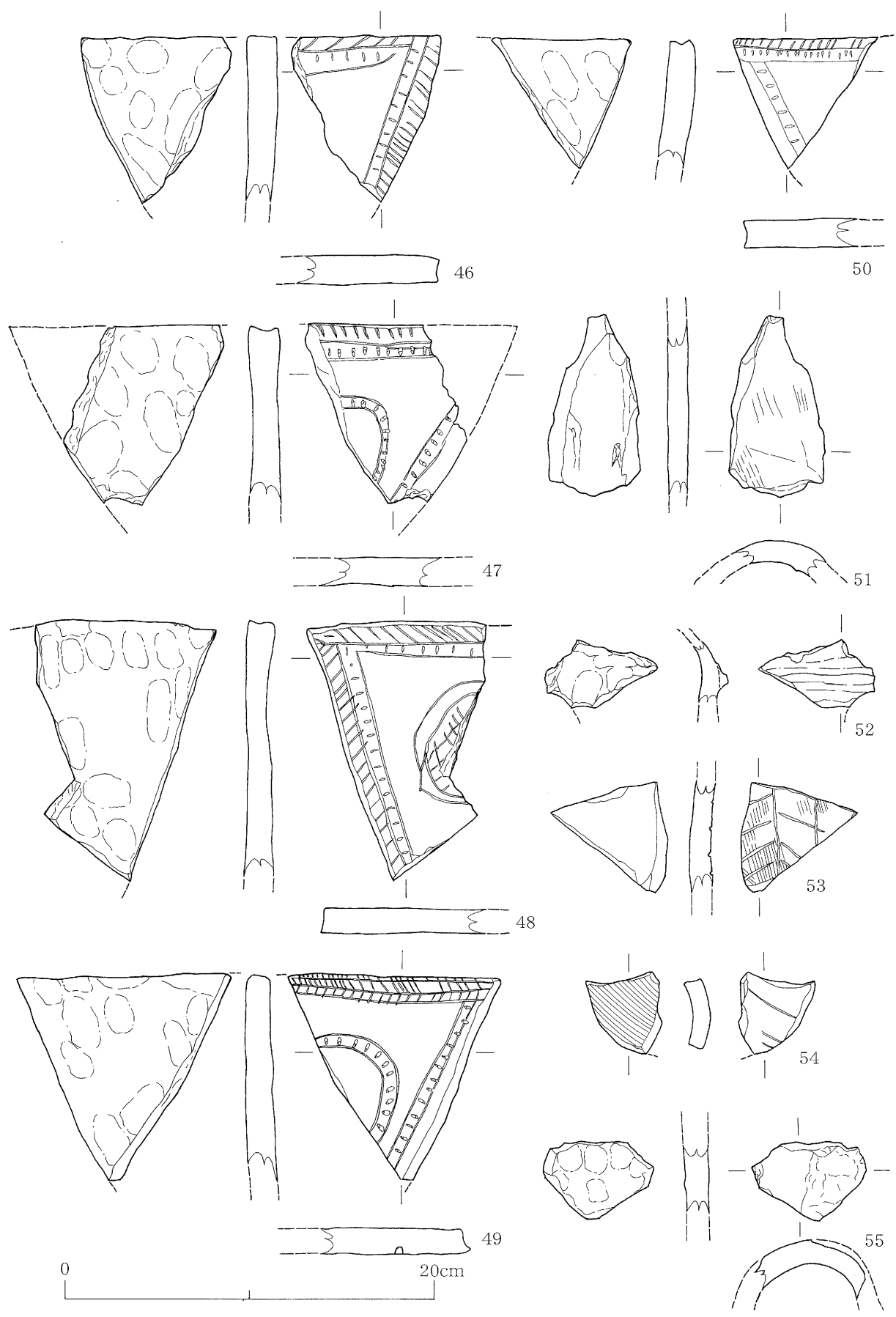
形象埴輪(46～64)

鞍形埴輪、家形埴輪などがあるが不明なものも多い。

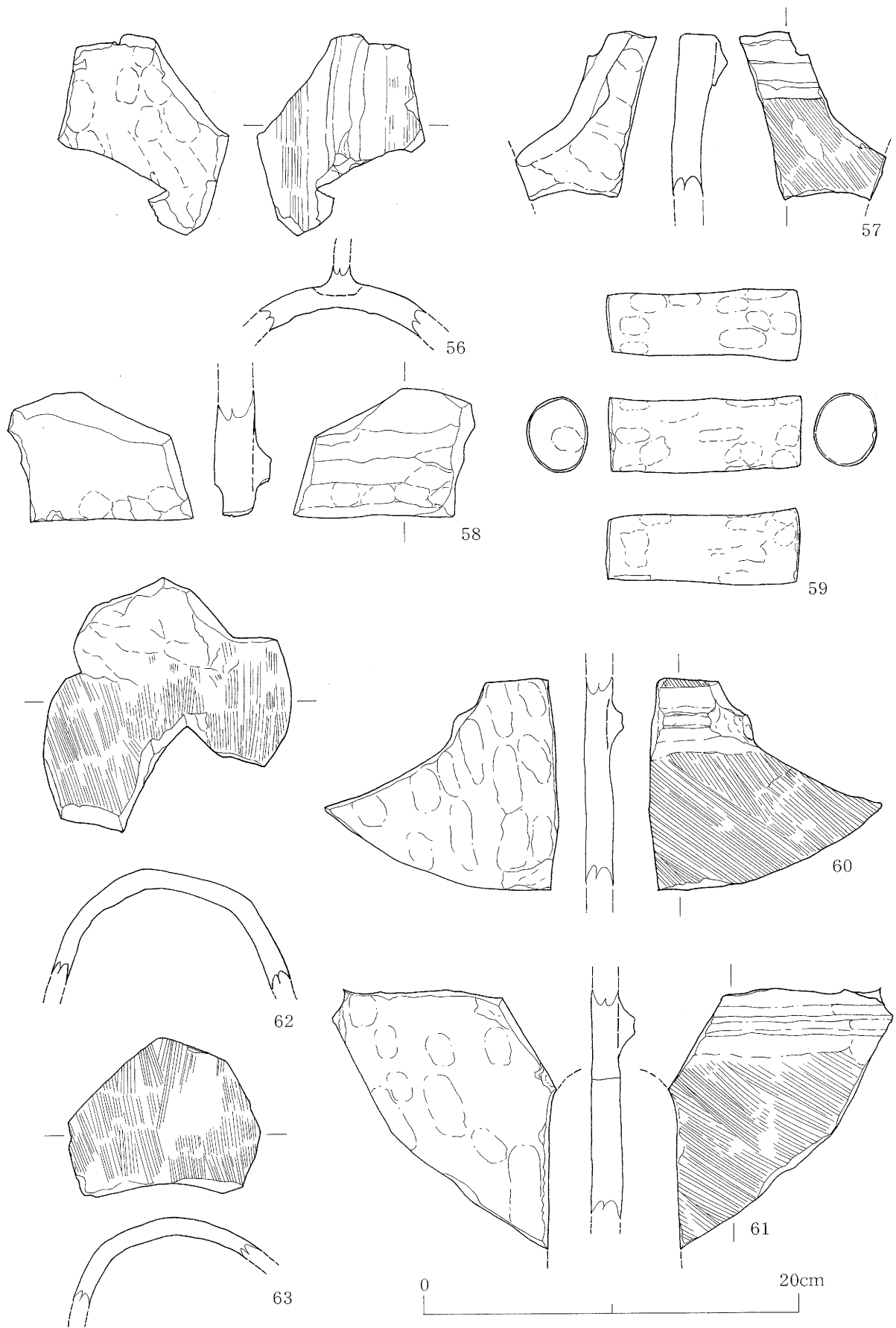
鞍形埴輪(46～50) 輪状の表現が背負い紐を表していると考えられることから、背板部分の上部鰭飾りである可能性が高い。特徴としては背負い紐等の表現が平面的な線刻により施されている。大阪府萱振1号墳で出土している鞍形埴輪の立体的な表現を簡略にしたものと考えられる。^{註2}表面のみに線刻などの装飾を施す。裏面はナデ調整し、指頭圧痕を残す。46は体部が直立する。端部は平らに終わる。上縁部に3条の平行する線刻を施し、その間に綾杉文状の線刻と刺突文を施す。上縁部の内に横方向の跳ね上がって終わる線刻を1条施す。残存幅は7.0cm、残存長は8.6cm、厚さは1.5cmである。47は体部が直立する。端部はくぼんで終わる。右上縁部は欠損する。上縁部に刻み目を施し、その内に2条の平行する線刻を施し、その間に刺突文を施す。側縁部は刺突文を施し、その内に1条の線刻を施す。中央部分には2条の円形の線刻を施し、その間に刺突文を施す。残存幅は7.0cm、残存長は9.0cm、厚さは1.3cmである。48は体部が直立し、わずかに外に傾く。端部はくぼんで終わる。両縁部に2条の平行する線刻を施し、その間に綾杉文状の線刻と刺突文を施す。中央部分に2条の円形の線刻とそれと交わるL字状の線刻を施し、その中に格子状の線刻を施す。残存幅は9.5cm、残存高は13.5cm、厚さは1.0cmである。49は体部が直立する。端部は丸く終わる。上縁部に3条の平行する線刻を施し、その間に綾杉文状の線刻を施す。側縁部に2条の平行する線刻を施し、その間に刺突文を施す。中央部分には円形の2条の線刻を施し、その間に刺突文を施す。49は47と中央部分の線刻が類似することから、同一個体の可能性がある。残存幅は11.0cm、残存高は10.3cm、厚さは1.4cmである。50は体部が直立して上部で内弯する。端部はくぼんで終わる。上縁部に2条の平行する線刻を施し、その間に綾杉文状の線刻と刺突文を施す。側縁部に2条の平行する線刻を施し、その間に刺突文を施す。残存幅は8.0cm、残存高は7.0cm、厚さは1.5cmである。焼成は土師質で硬質であるが、50は少し甘く軟質である。

鰭飾り(53・54) 器種は不明であるが、形状からみて鰭飾りと考えられる。53は扁平な形状である。裏面はナデ調整する。表面はハケメ調整の後、綾杉文状の線刻を施す。残存長は6.0cm、厚さは1.2cmである。焼成は土師質で軟質である。54は丸味をもつ三角形の形状である。裏面が反る。表面はナデ調整の後、3条の線刻を施す。裏面は粗いハケメ調整する。残存長は5.0cm、厚さは1.0cmである。焼成は土師質で硬質である。

器種不明(51・52・55～57) 51は円筒状である。内外面はナデ調整する。残存長は8.6cm、厚さは1.2cmである。焼成は土師質で軟質である。52は体部が細くなりながら内弯する。断面形が台形のタガが付く。体部に円形の透かし孔を持つ。内外面はナデ調整する。内面には指頭圧痕を残す。残存高は3.4cm、厚さは1.0cmである。焼成は土師質で軟質である。55は短い円筒状である。内面はナデ調整する。指頭圧痕を残す。外面は剥離のため調整法が不明である。残存幅は6.0cm、残存長は4.0cm

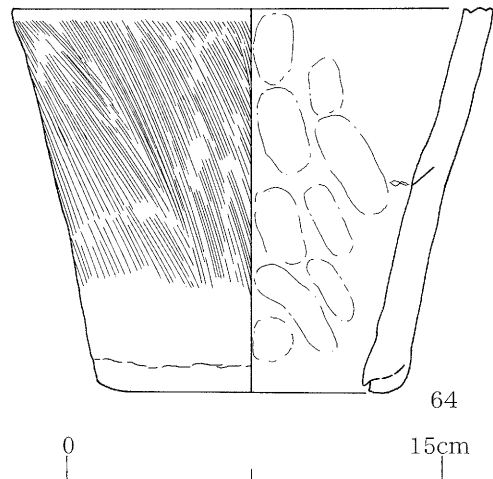


出土遺物実測図



出土遺物実測図

である。焼成は土師質で硬質である。56は円筒状のものに鱗が付く。鱗は一部しか残っていない。内面はナデ調整する。指頭圧痕を残す。外面は粗いハケメ調整した後にナデ調整する。残存高は10.0cm、厚さは1.3cmである。焼成は土師質で軟質である。57は扁平な形状である。上部に断面形が三角形のタガが付く。端部は丸く終わる。内面はナデ調整する。指頭圧痕を残す。外面は縦方向のハケメ調整する。焼成は土師質で硬質である。58は扁平な形の基底部である。低位置に断面形が台形のタガが付く。器壁は厚い。内外面はナデ調整する。端部外面に指頭圧痕を残す。残存高は6.5cm、厚さは2.0cmである。焼成は土師質で硬質であるがタガの部分は軟質である。



出土遺物実測図

家形埴輪(59～61) 59は円柱の形状である。堅魚木と考えられる。全面をナデ調整する。指頭圧痕を残す。焼成は土師質で硬質である。全長は10.4cm、径は3.5cmである。60・61は扁平な形状である。断面形が台形を呈するタガが付く。基部側面の一部と考えられる。器壁は厚い。61は幅8.5cm以上の長方形を呈すると考えられる透かし孔を持つ。出入り口か窓を表現していると考えられる。家形に分類しているが埴輪の可能性も考えられる。内面はナデ調整する。指頭圧痕を残す。外面は縦方向のハケメ調整する。60は残存幅が12.0cm、残存高が11.0cm、厚さが1.5cmである。61は残存幅が10.0cm、残存高が13.0cm、厚さが1.5cmである。焼成は土師質で硬質である。

動物埴輪(62・63) どの部分にあたるか不明である。胴体か脚の可能性が考えられる。形は半円形で丸くなっている。内面はナデ調整する。指頭圧痕を残す。外面は斜め方向のハケメ調整する。62は残存幅が13.0cm、残存長が8.5cm、厚さが1.0cmである。63は残存幅が10.0cm、残存長が7.8cm、厚さが1.0cmである。焼成は土師質で硬質である。

形象埴輪の基台(64) 体部が外上方へまっすぐ伸び、口縁部に至る。口縁端部は面をもつ。円筒埴輪の基底部の可能性もあるが、基底部より1段目のタガの剥落痕は認められない。口縁端部には2本の線刻状を呈する溝が見られるが、これは粗いハケ状の調整工具痕とも考えられる。その後に口縁端部の両端にはみ出した粘土を平坦にするためのナデ調整する。内面はユビナデ調整する。外面は斜め方向のハケメ調整し、基底部は後にナデ調整する。口径は19.0cm、底径は12.0cm、器高は15.3cmである。焼成は土師質で硬質である。

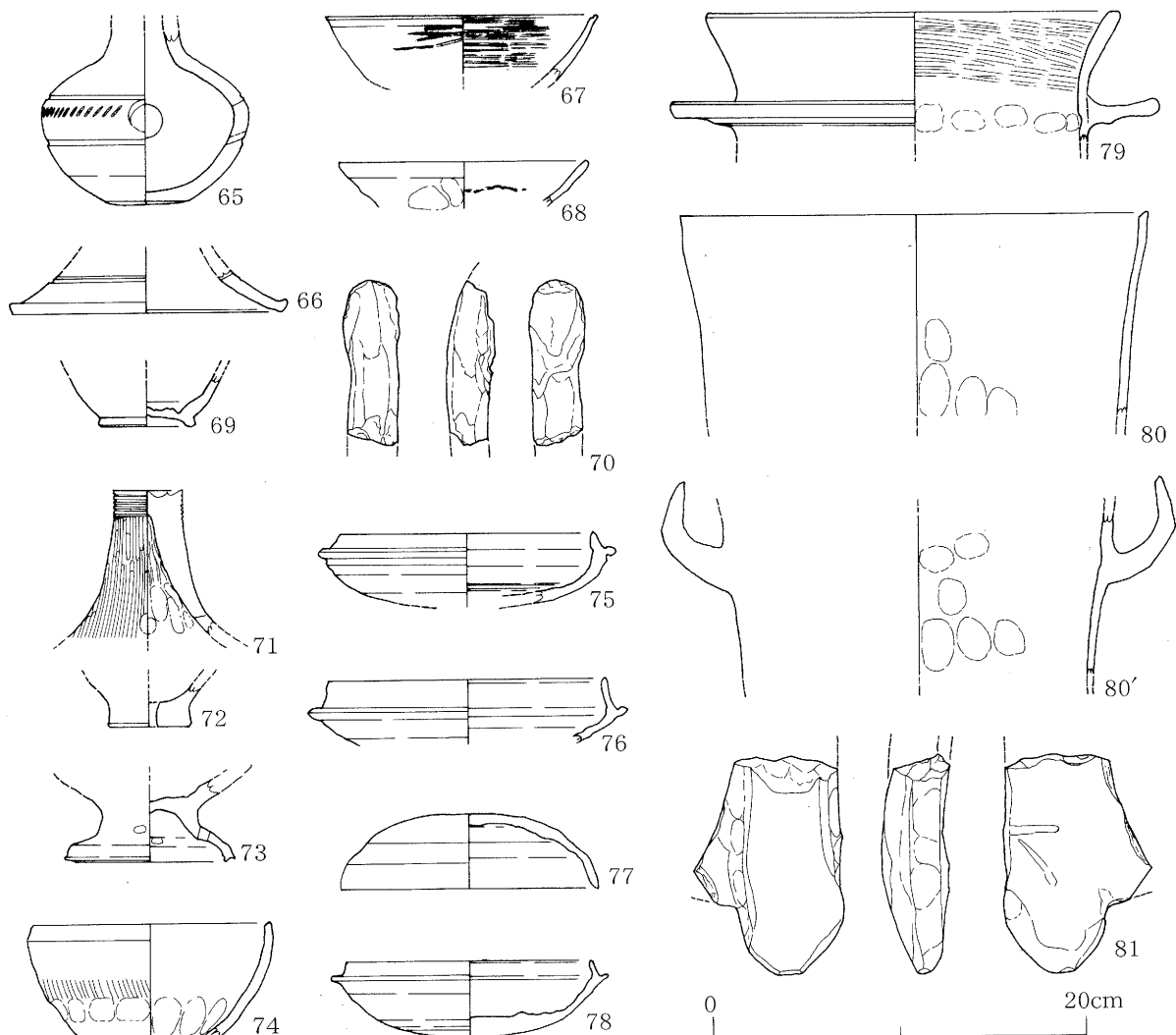
土器

須恵器、弥生土器、瓦器、土師器がある。

須恵器(65・66・69・73・75～78)

甗・高杯・台付壺・杯身・蓋杯がある。

65は甗である。底部が丸底で体部は球形である。口頸部は細い。口縁部は欠損する。内面は回転ナデ調整する。外面は上半を回転ナデ調整、下半を回転ヘラケズリ調整する。体部に2条の沈線とその間に列点文を施す。中位に斜めの円孔を穿つ。最大径は11.0cm、残存高は9.5cmである。5世紀末～6世紀初め頃のものである。66は脚部である。裾部が八の字状に広がる。裾端部は摘み上げ気味に拡張する。内外面は回転ナデ調整する。外面に1条の沈線を施し、長方形を呈すると思われる透かしを穿つ。裾部径は14.2cm、残存高は2.2cmである。5世紀末～6世紀初め頃のものである。69・73は



出土遺物実測図

底部である。断面形が半円の高台が付く。器形は小さく体部が球形である。内外面は回転ナデ調整する。底径は2.5cm、残存高は4.5cmである。7世紀のものである。73は体部が外上方へ立ち上がる。脚部は八の字状に開き裾部で段を持ち丸く膨らむ。裾端部は面を持ち、中央が凹状にくぼむ。脚部の中位に斜め方向の円孔を3孔穿つ。内外面は回転ナデ調整する。底径は8.0cm、残存高は4.4cmである。5世紀末～6世紀初め頃のものである。75・76・78は杯である。75は受部が内弯気味に立ち上がる。立ち上がり部は肥厚し短く内傾する。口縁端部は尖って終わる。内面は回転ナデ調整する。外面は上半を回転ナデ調整、下半を回転ヘラケズリ調整する。口径は13.5cm、残存高は4.0cmである。76は受部が内弯気味に立ち上がる。立ち上がり部は内傾して長く伸びる。口縁端部は丸く終わる。内面は回転ナデ調整する。外面は上半を回転ナデ調整、下半を回転ヘラケズリ調整する。口径は14.5cm、残存高は3.4cmである。78は丸底の底部が内弯気味に立ち上がる。受部は短く外上方へ伸び、端部は丸く終わる。立ち上がり部は内傾して短く伸びる。口縁端部は丸く終わる。器壁は底部が厚く、体部へ向けて薄くなる。内面は回転ナデ調整する。外面は上半を回転ナデ調整、下半を回転ヘラケズリ調整する。口径は13.2cm、器高は4.1cmである。5世紀末～6世紀初め頃のものである。77は蓋杯である。天井部がやや平らな面を持つ。口縁部は内弯気味に下がる。口縁端部は丸く終わる。口径は13.2cm、器高は4.0cmである。5世紀末～6世紀初め頃のものである。77・78はかぶさった状態で出土したことから一対のものと考えられる。65はA-14地区、66はA-12地区、69はA-24地区、73はB-15

地区、75はB-16地区、76はB-21地区、77・78はB-41地区より出土した。

弥生土器(71・72)

高杯、底部がある。

71は高杯の脚部である。下位に円孔の一部を残す。内面はシボリ目と指頭圧痕を残す。外面はハケメ調整し、上部に6条の凹線文を施す。残存高は7.7cmである。胎土中に角閃石を含むことから生駒西麓産である。弥生時代後期のものである。72は平底の底部である。底部の中央に小円孔を1孔穿つ。内外面はナデ調整する。底径は4.3cm、残存高は2.3cmである。胎土中に角閃石を含むことから生駒西麓産である。器種や詳細な時期は不明である。71はA-24地区、72はB-15地区より出土した。

瓦器(67・68・70)

椀・羽釜がある。

67・68は椀である。67は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁端部内面に沈線を廻らす。いわゆる大和型である。内面は密なヘラミガキ調整する。外面は体部上面に粗いヘラミガキ調整する。口径は13.5cm、残存高は3.0cmである。川越編年のⅢ-A期に相当する。12世紀後半～13世紀前半頃のものである。68は体部が外上方へ伸びる。口縁端部は丸く終わる。いわゆる和泉型である。内面は粗いヘラミガキ調整する。外面はナデ調整し、指頭圧痕を残す。口径は13.0cm、残存高は2.5cmである。尾上編年Ⅳ-3期に相当する。13世紀後半～14世紀前半頃のものである。70は羽釜の脚上部である。全面をナデ調整する。残存高は9.0cm、厚さは2.5cmである。13世紀のものである。67はA-15地区、68はA-24地区、70はA-14地区より出土した。

土師器(74・79～81)

鉢・羽釜・甑・竈がある。

74は鉢である。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がわずかに内傾する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。体部外面の下半に指頭圧痕を残す。口径は12.5cm、残存高は6.2cmである。5世紀末のものである。79は長胴形の羽釜である。体部が直立し、口縁部が外上方へ伸びる。口縁端部は丸く終わる。罎は水平に伸び、端部が丸く終わる。口縁部内面は横方向のハケメ調整する。体部内面はナデ調整し、指頭圧痕を残す。外面はナデ調整する。口径は22.0cm、残存高は7.0cmである。胎土中に角閃石を含むことから生駒西麓産である。奈良時代のものである。80は甑である。体部と口縁部に分かれるが同一個体と考えられる。体部が直立し、口縁部が外上方へ伸びる。口縁端部は尖り気味に終わる。把手は扁平で内弯気味に外上方へ伸びる。端部は丸く終わる。器壁は薄い。内面はナデ調整し、指頭圧痕を残す。外面は風化のため調整法が不明である。口径は25.0cm、残存高は11.0cmである。体部は残存高が10.7cmである。奈良時代のものである。81は移動式竈の裾部であり、突起部分が残る。全面をナデ調整し、指頭圧痕が残る。残存幅は7.5cm、残存高は12.0cmである。胎土中に角閃石を含むことから生駒西麓産である。古墳時代のものである。74・79はB-16地区、80・81はC-6地区より出土した。

4. まとめ

今回の調査ではA・B・C地区で遺物包含層を確認することができたが、様相が異なるので各地区に分ける。調査で得られた知見を列記し、まとめとしたい。

A地区 当地区の北端は上六万寺遺跡第8次調査のC地区に接する。第8次調査においては中世期の遺物が多く出土している。今回の調査でもA-16～26地区より中世期の遺物が多く出土した。これにより当地区まで中世期の集落が広がる可能性が考えられ、第8次調査の成果を追認することができた。

B地区 当地区では古墳時代の遺物包含層を確認することができた。古墳時代の遺物の中でも、埴輪が多量に出土していることが特徴である。出土地区は遺物の項で記したが、大きく分けると2グループになる。B-8地区とB-13~16地区、B-20地区である。両地区の埴輪の時期は川西氏の編年を参考にするとB-8地区が6世紀前半~中葉頃、B-13~16地区、B-20地区が6世紀初めになる。B-13~16地区、B-20地区の埴輪は約50cmの遺物包含層に密に詰まっている状況であった。断面観察で見える限り、調査範囲内では周濠などの遺構は確認できなかった。遺物包含層は墳丘の削平された土の可能性が高い。また、出土遺物の大部分を埴輪でしめるが、須恵器(73・75)も出土しており、おおむね同時期である。埴輪は円筒埴輪が多いが形象埴輪も目立つ。調査結果としては近辺に削平された古墳が存在すると推定される。周辺の既調査でも削平された古墳が発見されている。南約500mに位置する大賀世古墳があげられる。大賀世古墳では周濠内より多量の円筒埴輪や形象埴輪が出土しており、保存状態も良好である。当遺跡より出土したものとほぼ同時期である。当遺跡と大賀世古墳の埴輪は特徴や時期も似ているが、距離的に離れているので同一古墳群とは考えにくい。周辺には当時期の古墳がまだ数多く埋まっているものと思われる。また、B-8地区の埴輪は出土状況からみてかなり動いているものと考えられ、離れた位置に古墳が存在したと思われる。時期的にもやや新しいものである。

C地区 当地区ではC-5~7地区より奈良~平安時代の遺物を出土している。C-6地区は特に出土量が多い。遺構は確認できなかったがこの周辺に奈良~平安時代の集落などが存在する可能性が考えられる。

注1・2

埴輪については堺市教育委員会文化財保護課の十合良和氏に御教示を受けた。記して感謝の意を表します。



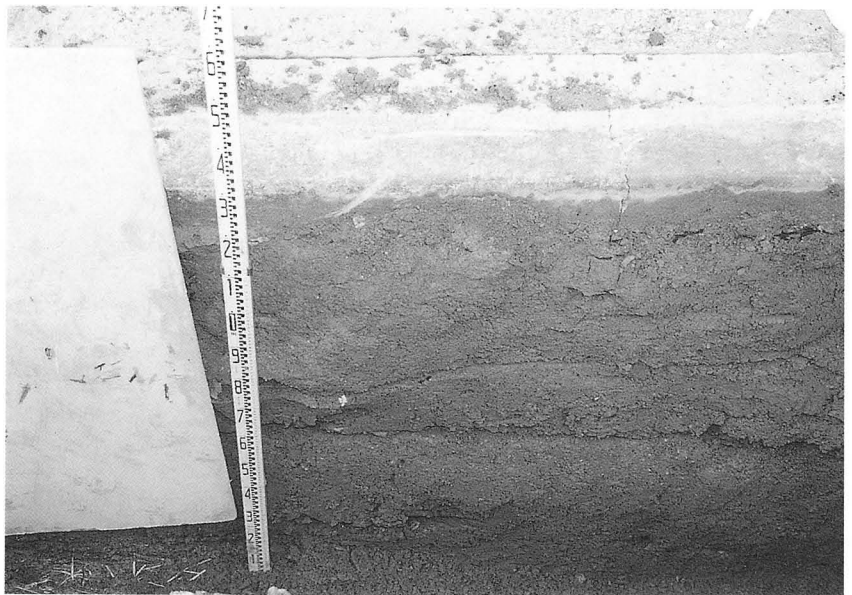
B地区調査地遠景



A-16地区土層断面



A-26地区土層断面



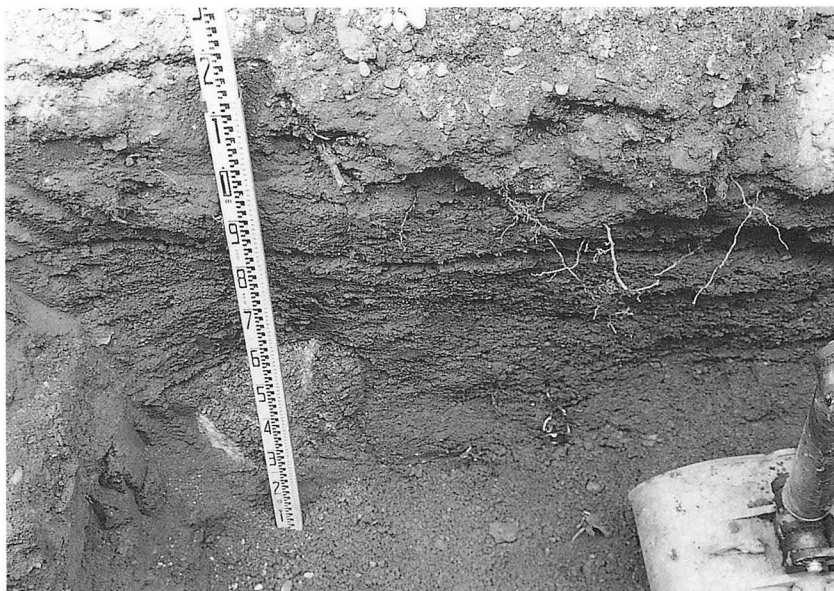
B-8地区土層断面



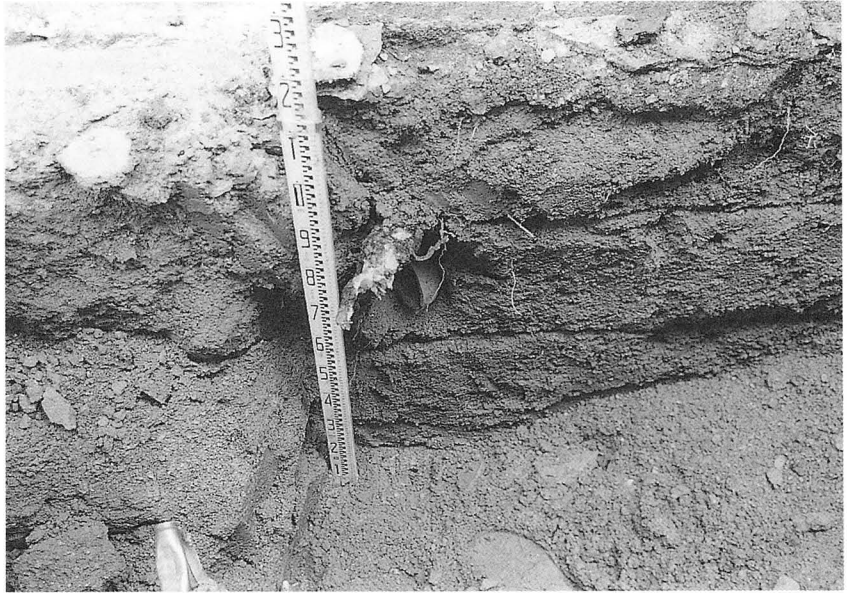
B-15地区土层断面



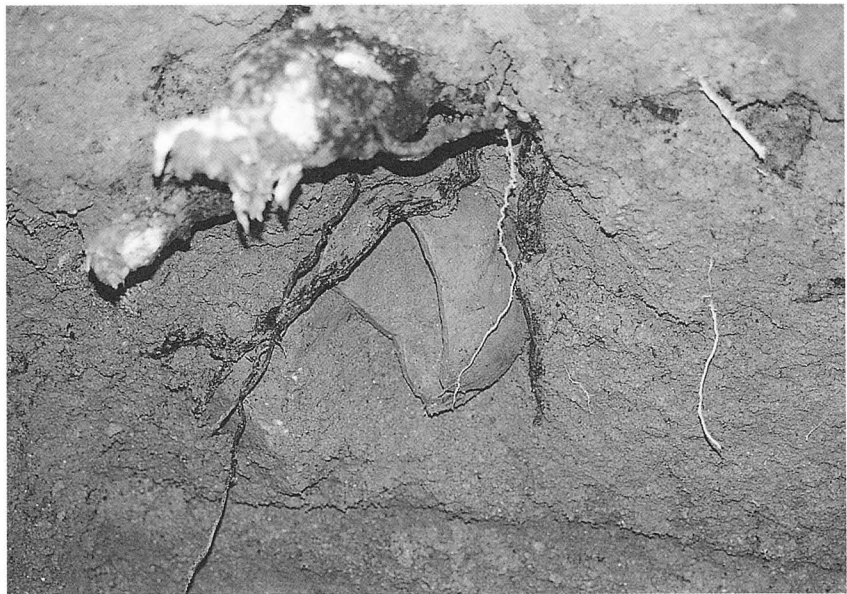
B-15地区埴輪出土状況



B-29地区土层断面



B-41地区土層断面



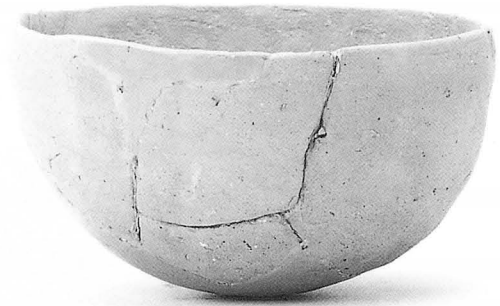
B-41地区杯・蓋杯出土状況



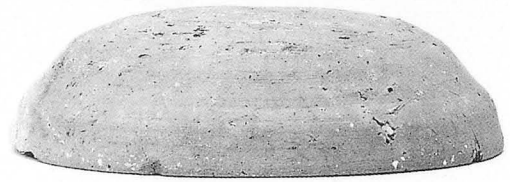
C-6地区土層断面



64



74



77



64'



78



77' · 78'

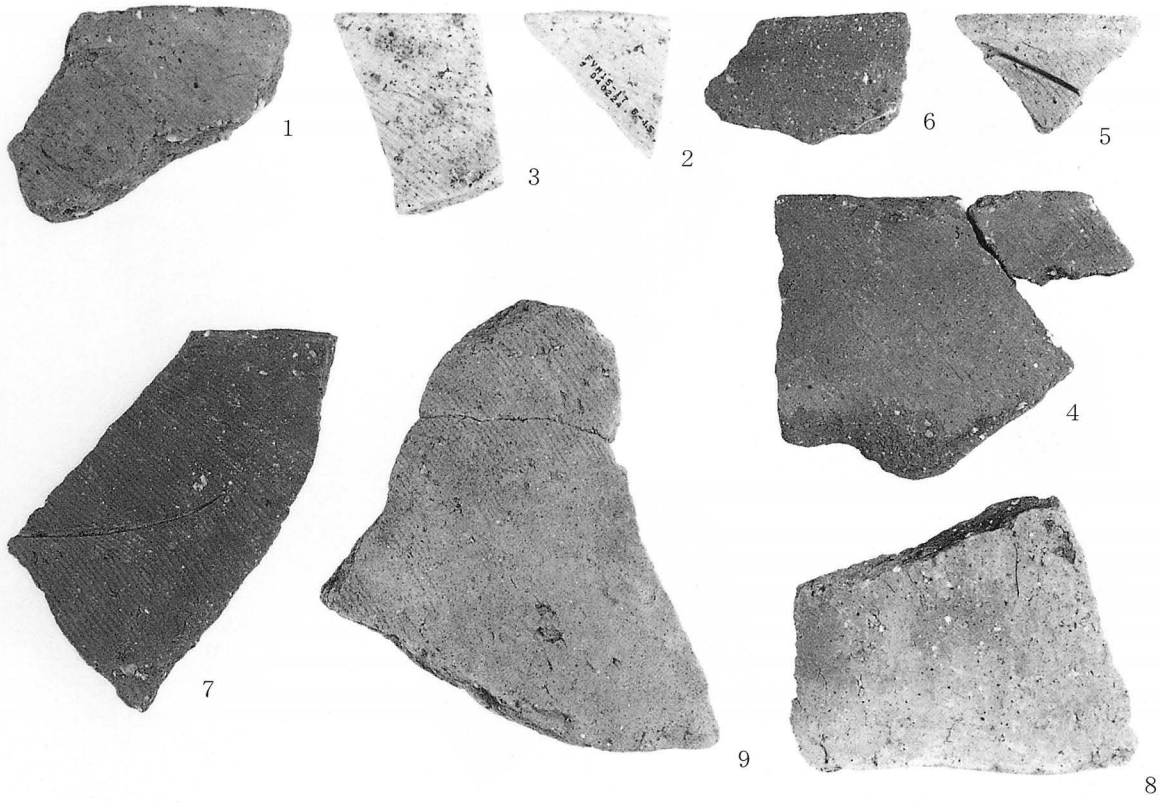


65

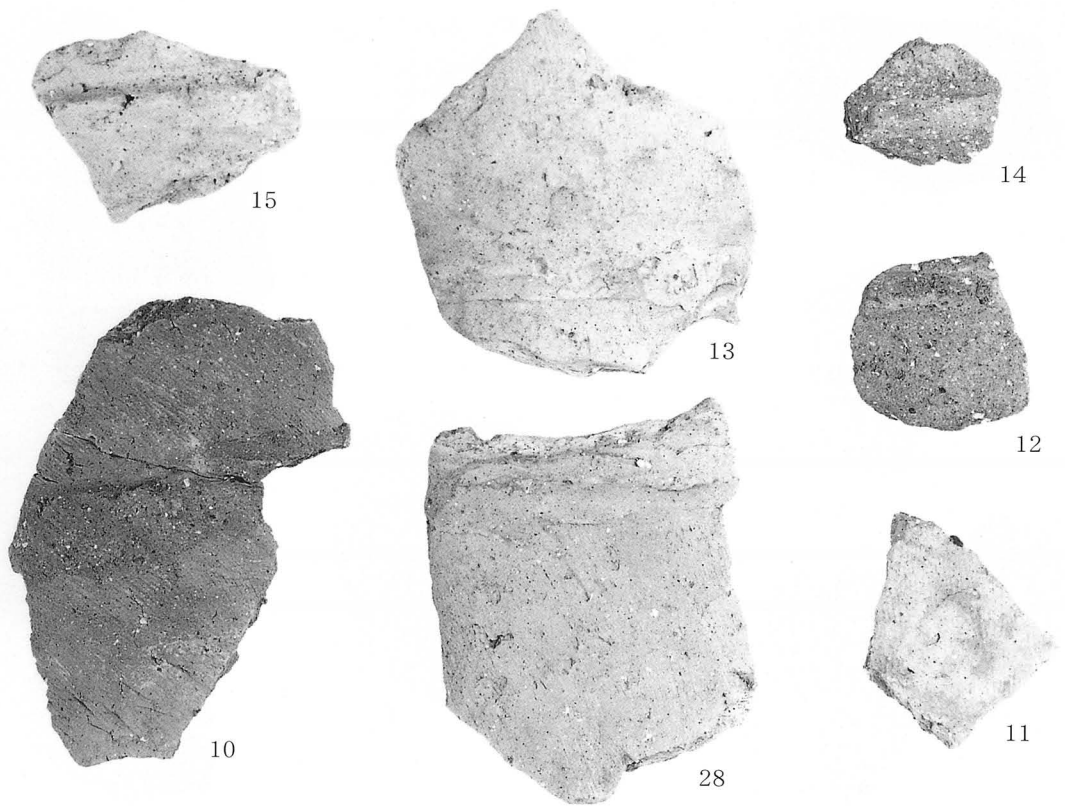


73

出土遺物（須恵器・土師器・形象埴輪）



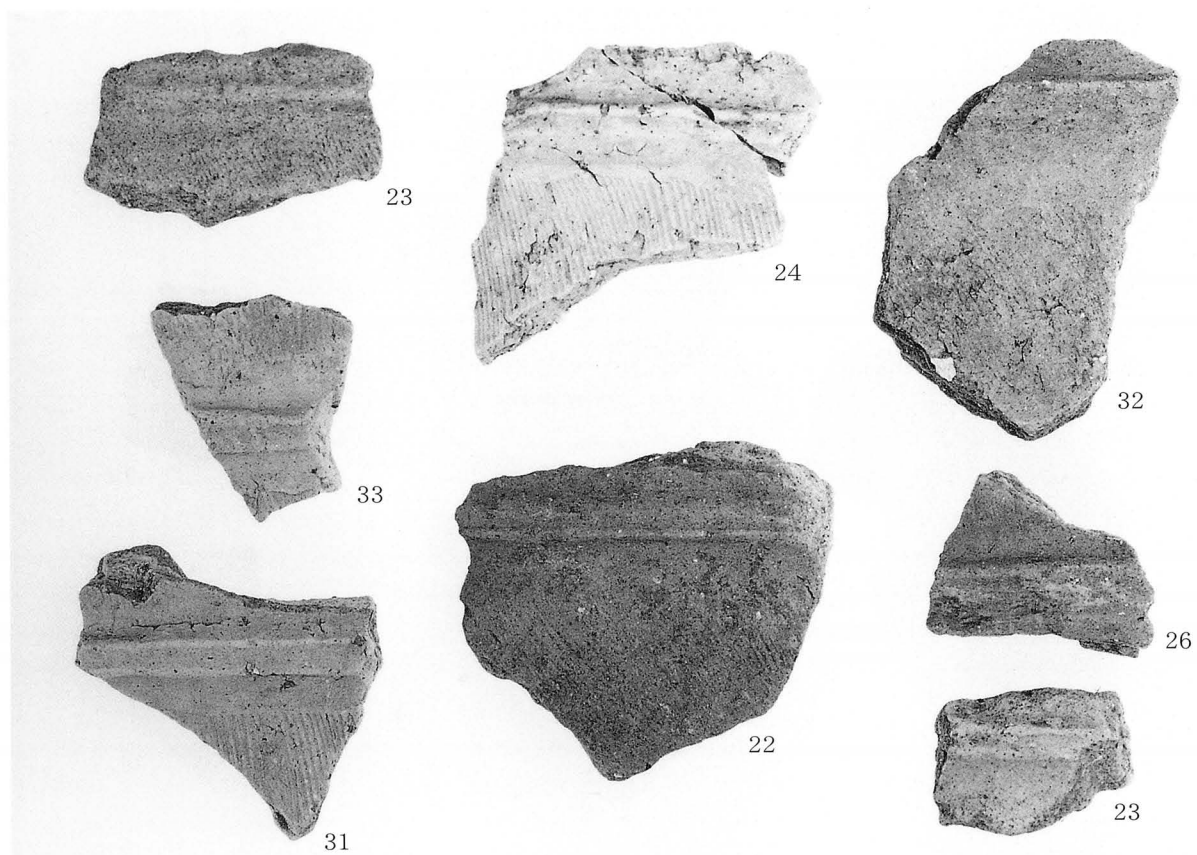
出土遺物 (円筒埴輪)



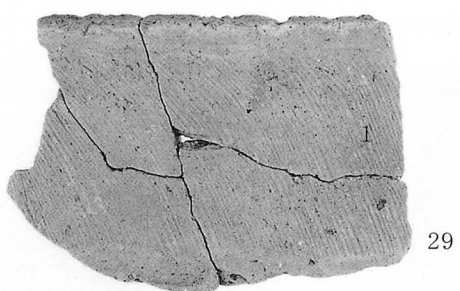
出土遺物 (円筒埴輪)



出土遺物（円筒埴輪）



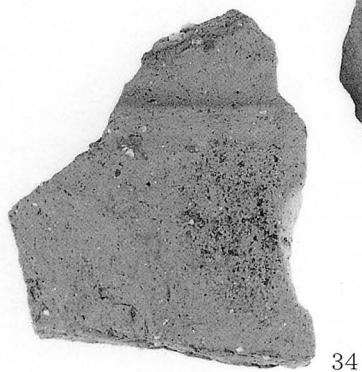
出土遺物（円筒埴輪）



29



30



34



37



27

出土遺物（円筒埴輪）



39

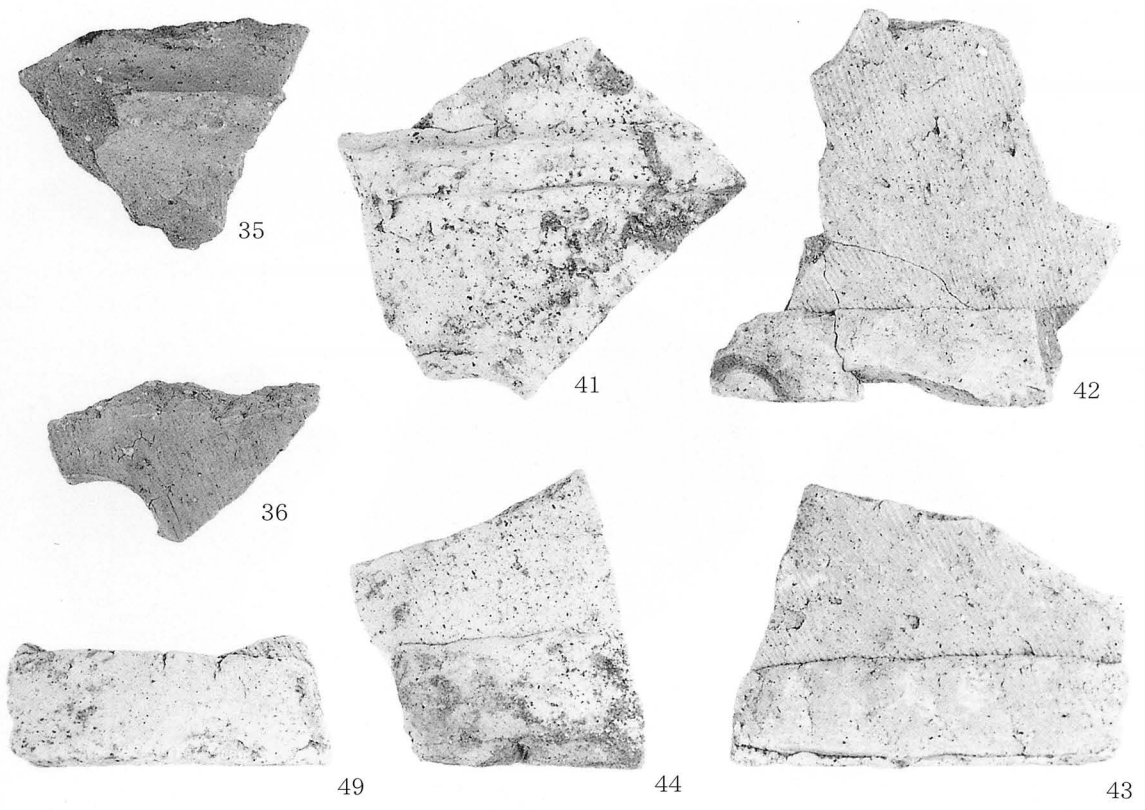


40

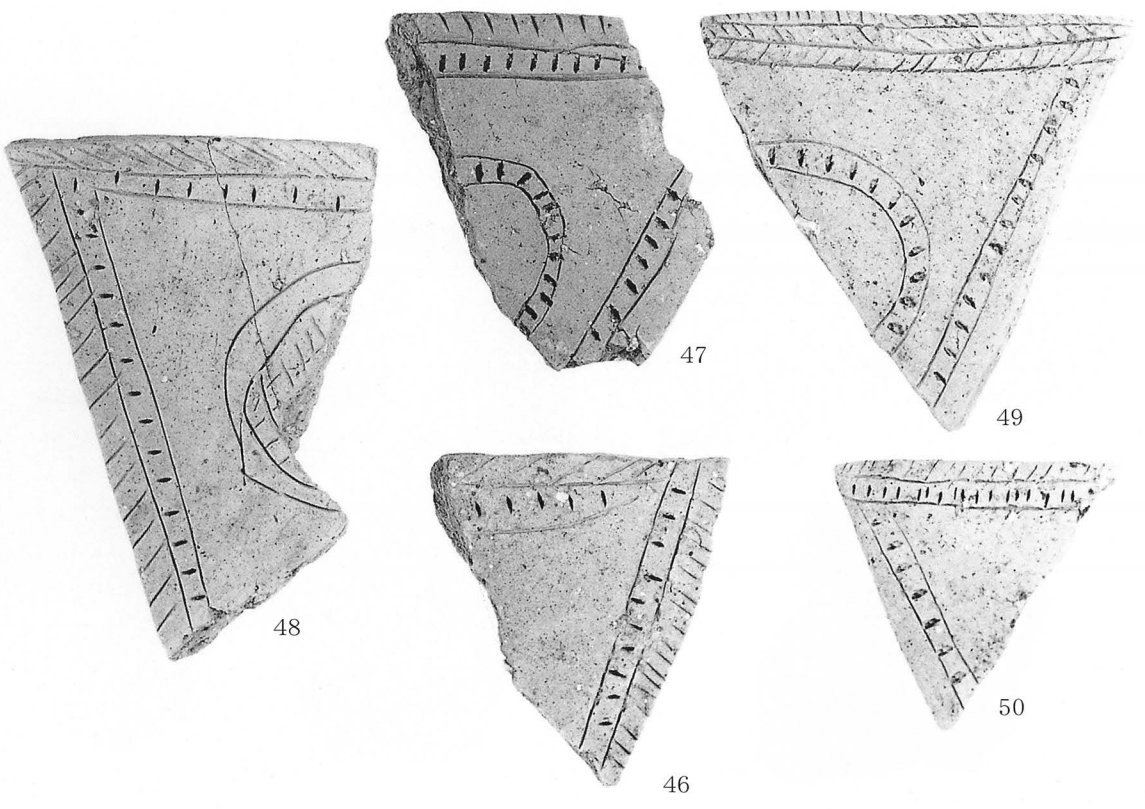


38

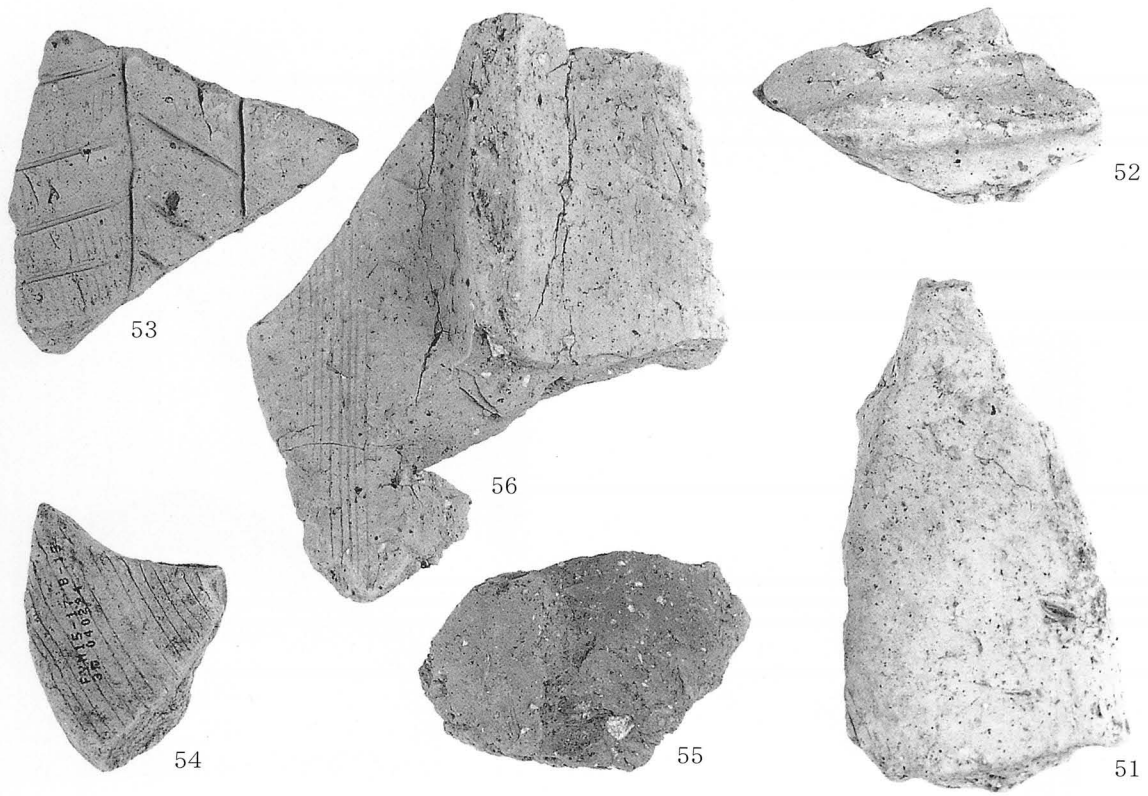
出土遺物（円筒埴輪）



出土遺物（円筒埴輪）



出土遺物（形象埴輪）



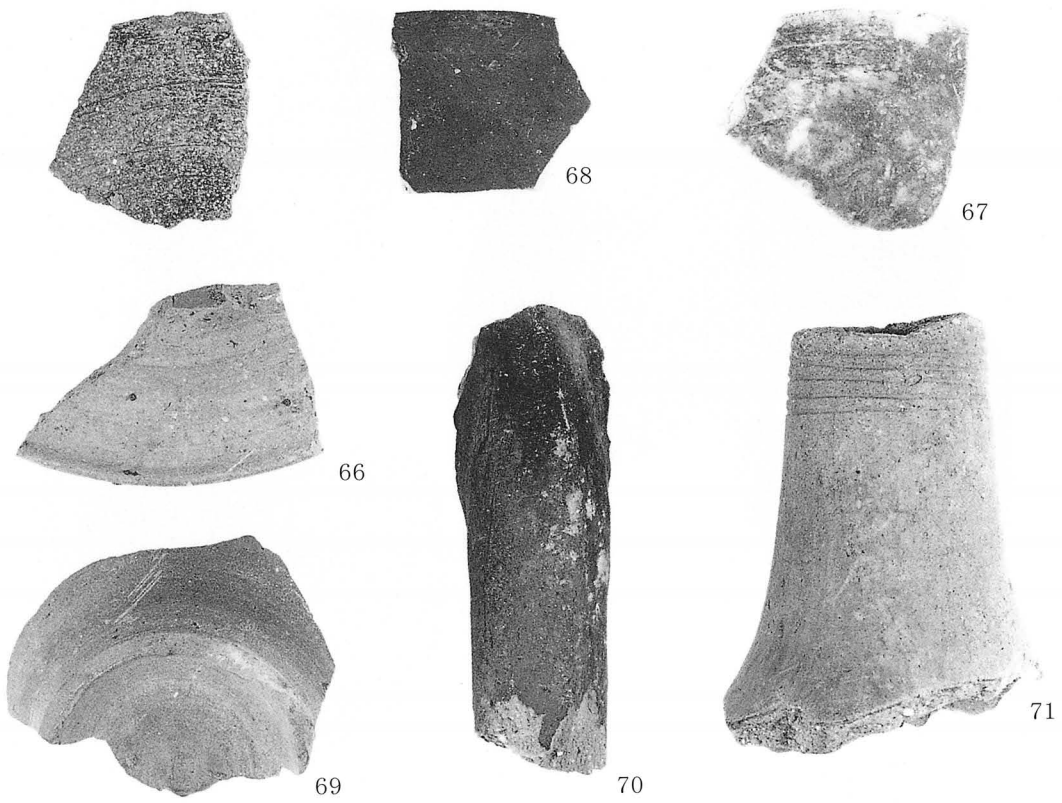
出土遺物（形象埴輪）



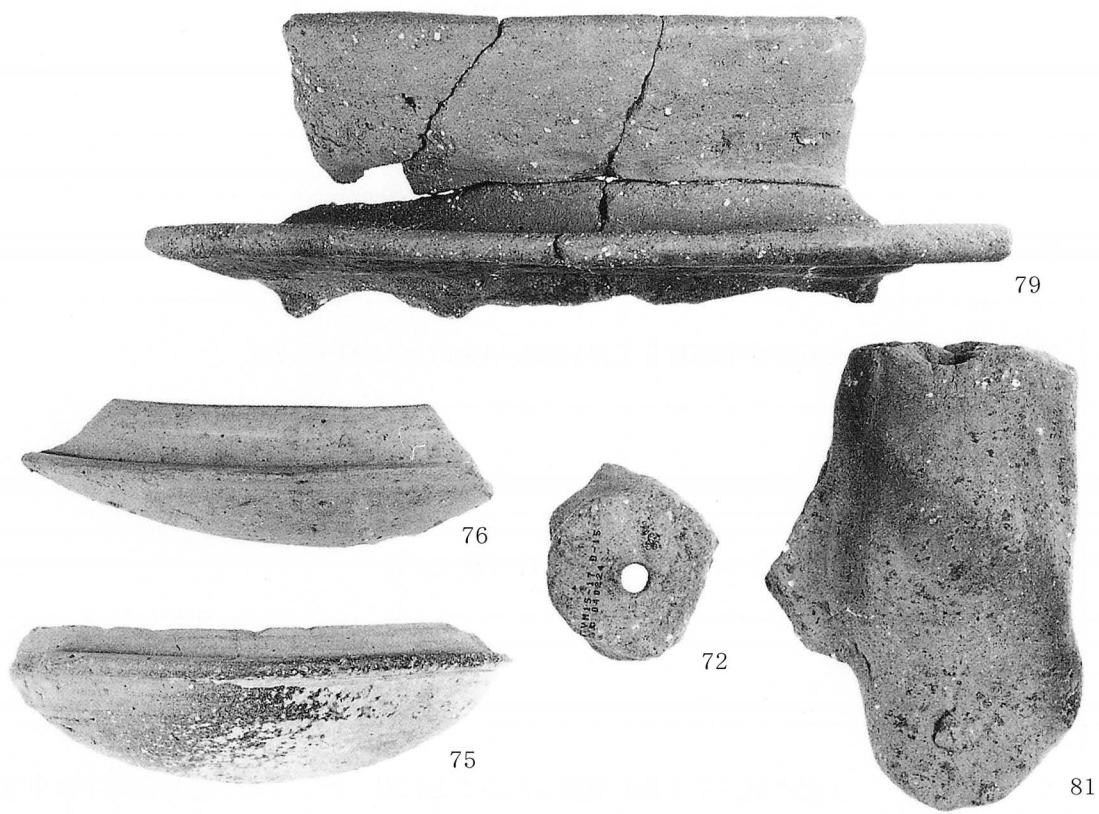
出土遺物（形象埴輪）



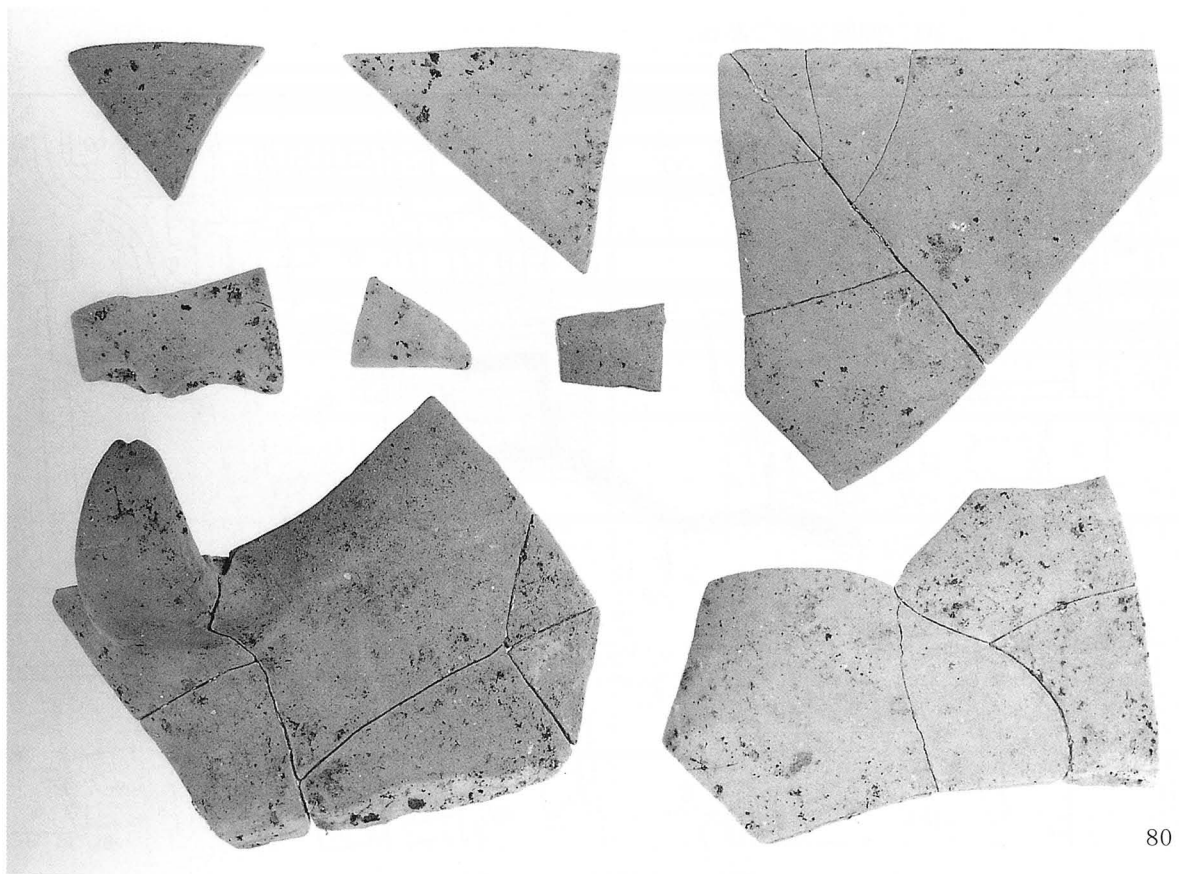
出土遺物（形象埴輪）



出土遺物（弥生土器・土師器・須恵器・瓦器）



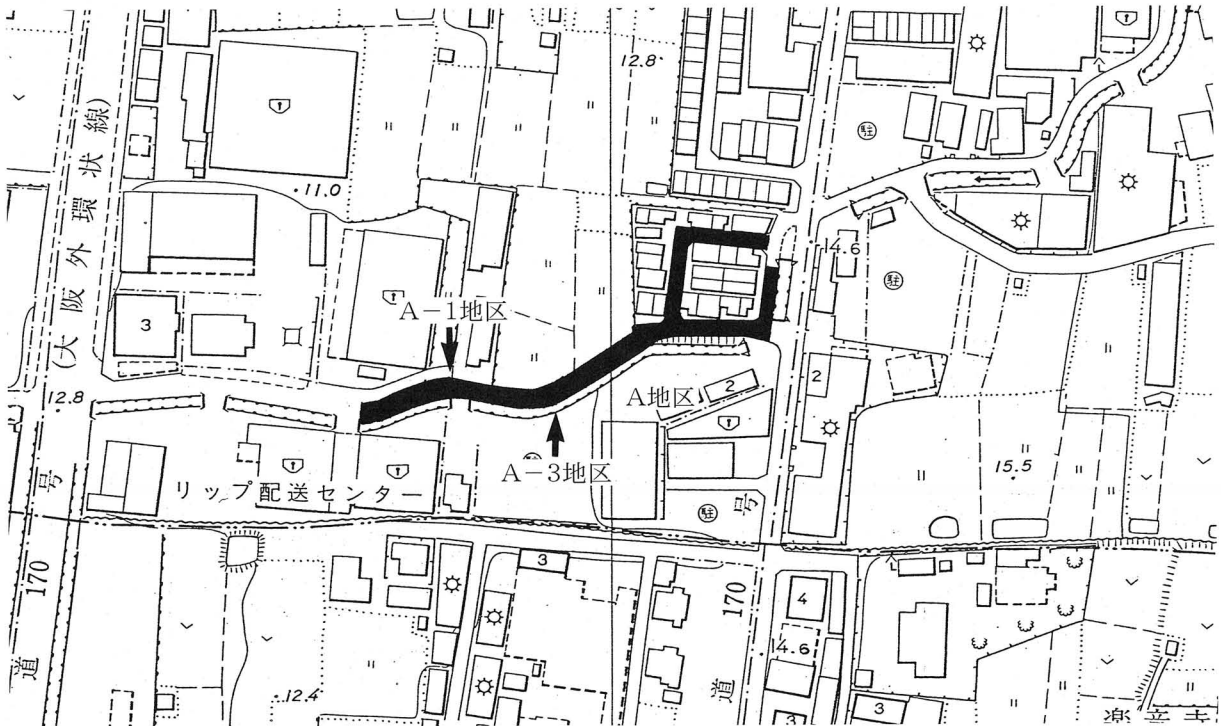
出土遺物（弥生土器・土師器・須恵器）



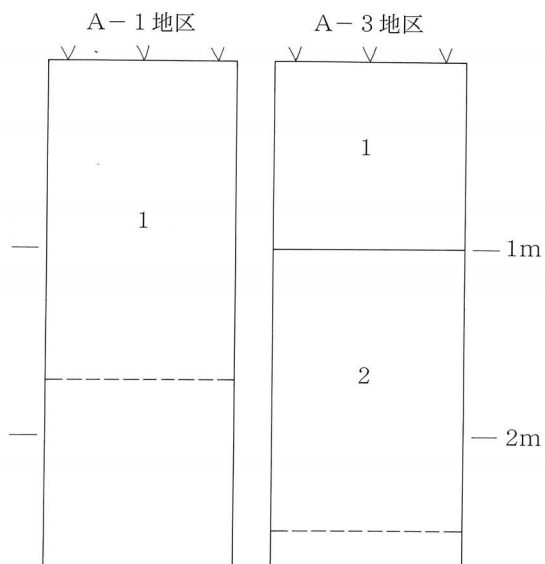
出土遺物（土師器）

第18章 がくおんじ 楽音寺遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第207工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市横小路町 5 丁目1432～1433、1434～1437
3	調 査 面 積	83㎡
4	調 査 期 間	平成16年 2 月26日～ 3 月11日 (延べ 6 日)
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手南中学校の西である。当地点は楽音寺遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ98mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



土層断面柱状図



A地区調査地遠景

1. 調査の概要

A-1地区の層序

第1層 盛土。

A-2地区の層序

第1層 盛土。

第2層 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂混じりシルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



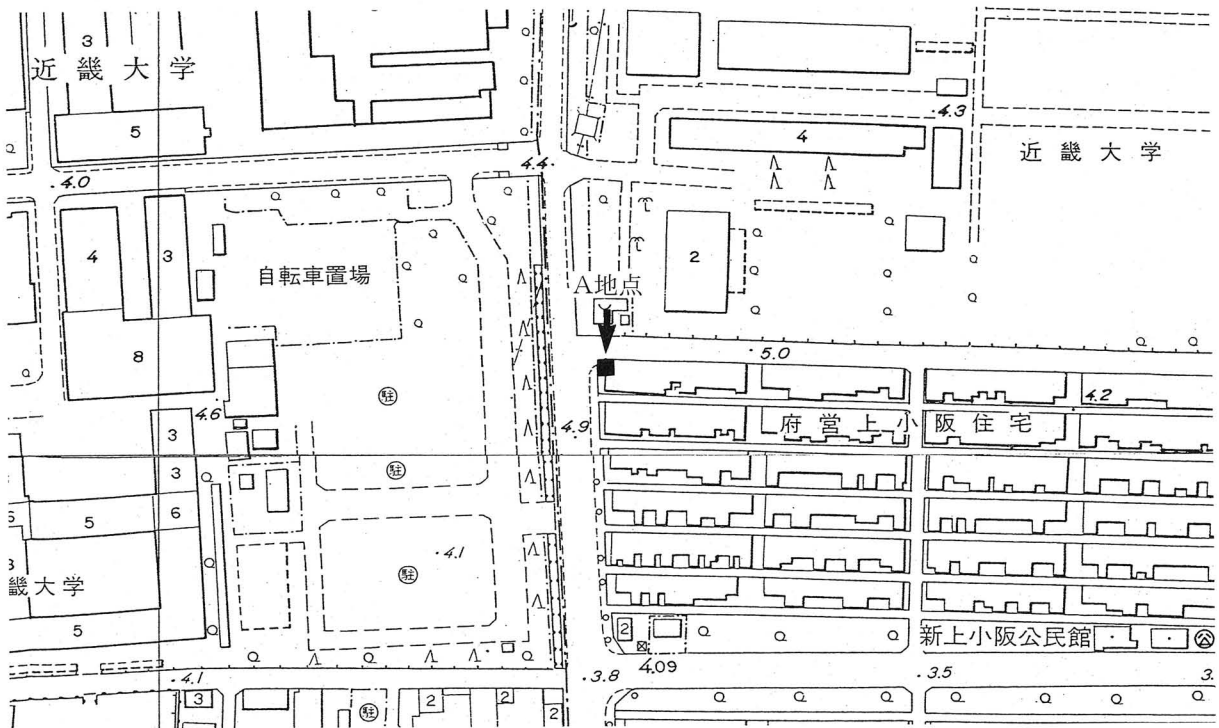
A-1地区土層断面



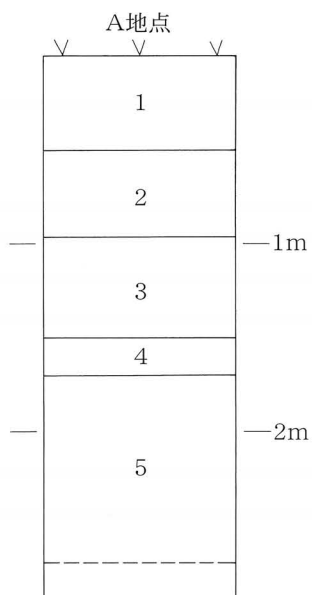
A-3地区土層断面

しんかみ ことさか
第19章 新上小阪遺跡の調査

No.	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度新小阪幹線管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市新上小阪228
3	調 査 面 積	3 m ²
4	調 査 期 間	平成16年3月16日 (延べ1日)
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は上小阪住宅内である。当地点は新上小阪遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約2×1.5mの立坑1ヶ所であり、推進工法である。



調査地点位置図 (1/2500)



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A地点の層序

第1層 盛土。

第2層 灰色(5Y5/1)細粒砂～小礫混じりシルト。

第3層 暗灰黄色(2.5Y5/2)粘質土。

第4層 緑灰色(10GY5/1)中粒砂。

第5層 暗オリーブ灰色(5GY4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



A地点調査地遠景



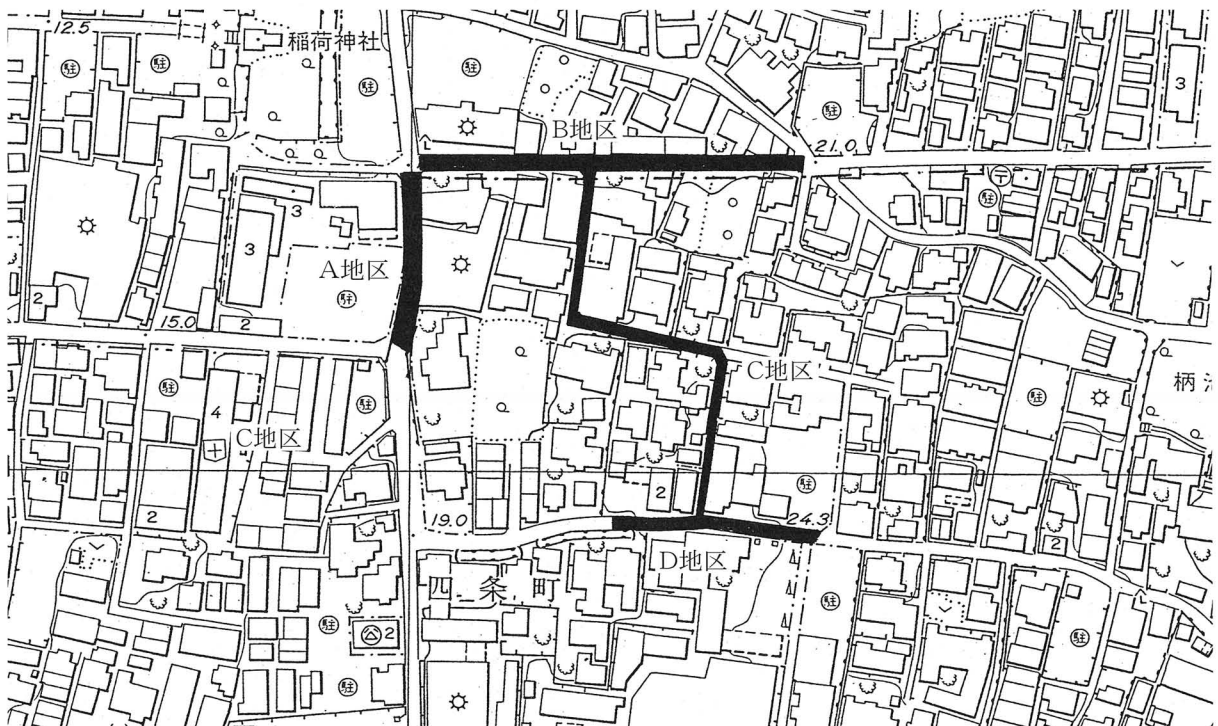
A地点調査状況



A地点土層断面

第20章 やまはた 山畑古墳群の第27次調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第34工区管さよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市四条町305～306、312～481
3	調 査 面 積	347㎡
4	調 査 期 間	平成16年2月13日～5月14日（延べ28日）
5	報 告 担 当	川本
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は瓢箪山稲荷神社の南東である。当地点は山畑古墳群内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ395mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

調査地区は便宜上A～D地区に分ける。C・D・B地区と順次調査を行った。

A地区は夜間工事のため、立会調査することができなかった。調査区の南側に位置するC、D地区からは主に埴輪が出土した。D地区からは弥生土器、埴輪、須恵器、土師器、瓦器等が出土した。また、D-2地区は中世期の遺物包含層、D-4地区で古墳時代～中世期の遺物包含層を確認することができた。

2. 層序

B-2地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒色(2.5Y2/1)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 オリーブ黒色(5Y2/2)細粒砂混じりシルト～粘質シルト。
- 第4層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂混じり粘質シルト。
- 第5層 黒色(10YR2/1)粘土。小礫を含む。
- 第6層 黒色(5Y2/1)細粒砂混じり粘土。小礫を含む。

B-5地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ黒色(5Y3/2)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土。
- 第4層 黒色(2.5Y2/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第5層 オリーブ黒色(7.5Y2/2)粘土。小礫を含む。

C-2地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒色(7.5Y2/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。
- 第3層 黒色(5Y2/1)細粒砂混じり粘質シルト～粘土。
- 第4層 黒色(10YR2/1)粘質シルト。
- 第5層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂混じりシルト～粘質シルト。小礫を多く含む。

C-6地区の層序

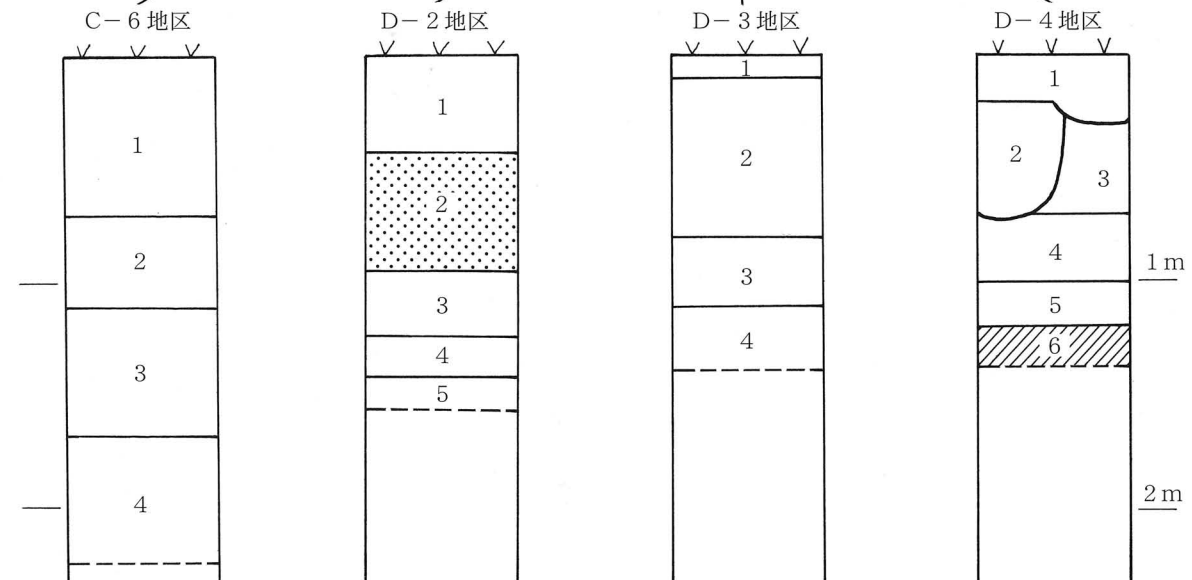
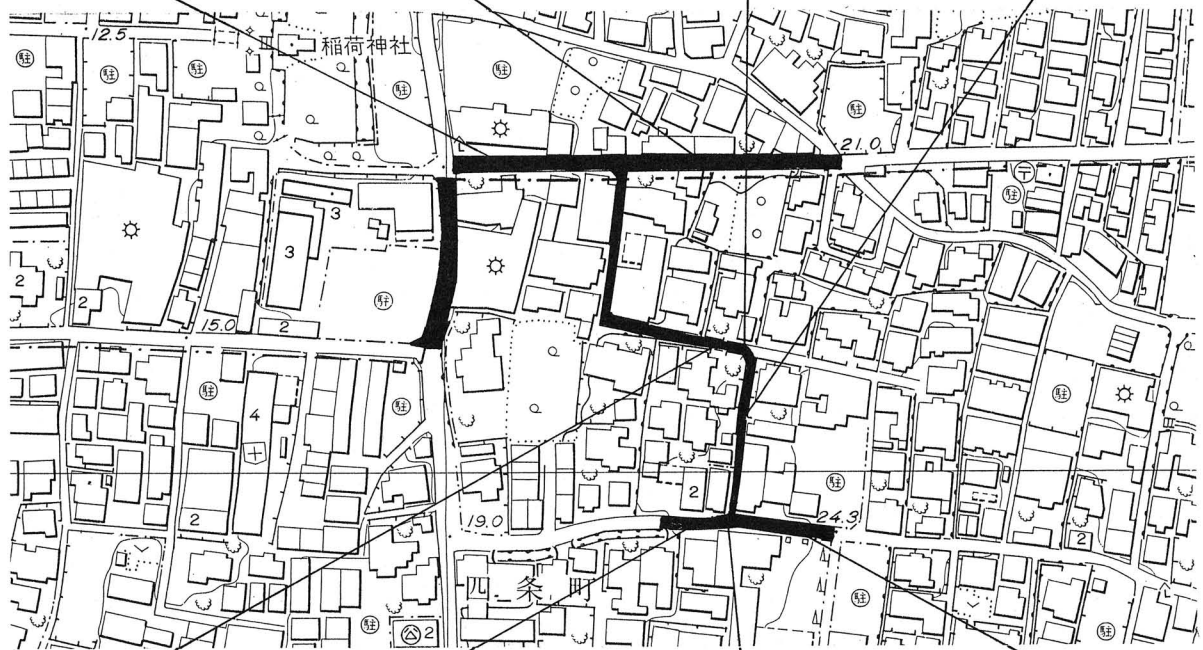
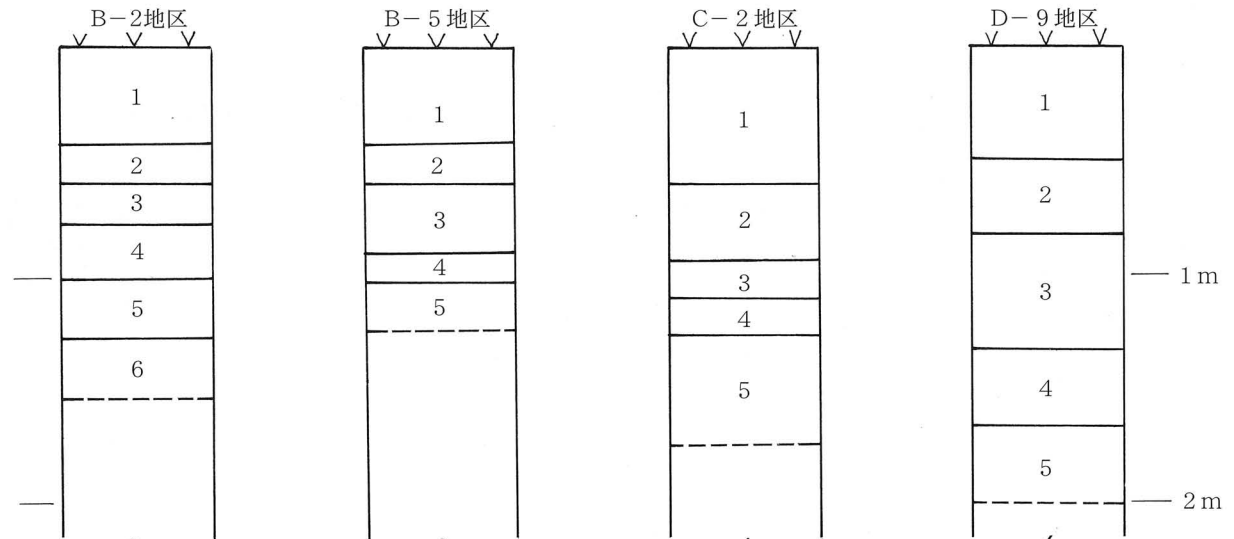
- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(2.5Y3/1)中粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 オリーブ黒色(7.5Y3/1)細粒砂混じり粘土。
- 第4層 黒色(7.5Y2/1)粘土。

C-9地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒色(10YR2/1)細粒砂混じりシルト～粘質シルト。小礫を含む。
- 第3層 黒褐色(2.5Y3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 黒色(2.5Y2/1)粘土。
- 第5層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂混じり粘質シルト～粘土。
- 第6層 黒色(10YR2/1)粘土。

D-2地区の層序

- 第1層 盛土。



土層断面柱状図

第2層 黒色(7.5Y2/1)中粒砂混じり粘土。中世期の遺物包含層である。

第3層 黒色(7.5Y2/1)粗粒砂混じりシルト～粘質シルト。

第4層 緑黒色(5G2/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第5層 黒色(2.5GY2/1)粗粒砂混じりシルト。

D-3 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第3層 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂混じりシルト。

第4層 黒色(10YR1.7/1)粘質シルト。小礫を含む。

D-4 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂混じり粘質シルト。中礫を含む。

第4層 黒褐色(2.5Y3/1)粘質シルト～粘土。中礫を含む。

第5層 黒色(2.5Y2/1)粘土。古墳時代～中世期の遺物包含層である。

3. 出土遺物

今回の調査では、C、D地区から弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、埴輪等が出土した。

瓦器碗は大和型を川越俊一氏編年・和泉型を尾上実氏編年『概説 中世の土器・陶磁器』1995年、円筒埴輪は川西宏幸氏「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号1978年を参考にする。

以下省略する。

弥生土器(図1)

1は壺である。口頸部は外反し、口縁端部を下方へやや拡張する。頸部外面は縦方向のハケメ調整する。内面はナデ調整する。口縁端部に2条の擬凹線を施す。口径15.6cm、残存高6.8cmである。胎土中に角閃石を含む。生駒西麓産である。D-7地区より出土した。後期のものである。

須恵器(図2～5・28～30)

須恵器には杯、高杯、壺、捏鉢の器種がある。

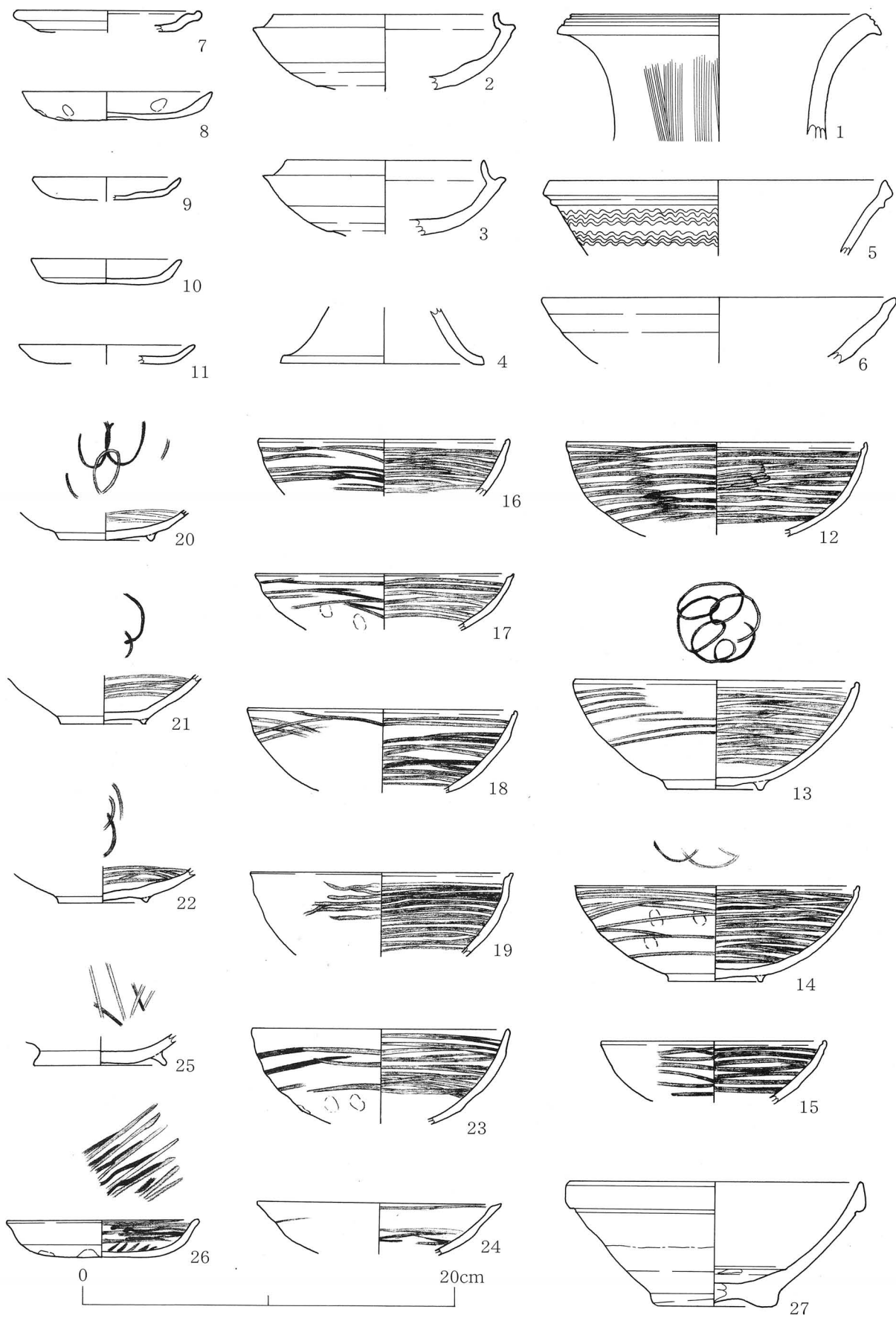
2・3は杯である。体部は丸みをもつ。受け部は水平に伸びる。立ち上がり部が短く外反する。2は口縁端部がやや鋭い。3は丸く終わる。外面の体部上半は回転ナデ調整、下半は回転ヘラケズリ調整する。2は口径12.0cm、残存高4.0cmである。3は口径10.6cm、残存高4.1cmである。D-4地区より出土した。6世紀末のものである。

4は高杯の脚部である。裾部はハの字状に広がり、裾端部は面をもつ。内外面は回転ナデ調整する。6世紀末のものである。D-7地区より出土した。

5は壺の口頸部である。口縁部が大きく外反する。口縁端部は下方へ拡張する。口縁部に2帯の櫛描波状文を施す。原体数9～10本である。内外面は回転ナデ調整する。口径18.2cm、残存高4.0cmである。D-4地区より出土した。6世紀末のものである。

28～30は東播系の須恵器である。28・29は捏鉢である。28・29は体部が外上方へ立ち上がり、口縁部に至る。28は口縁端部に面を持つ。29は外側へやや拡張する。内外面は回転ナデ調整する。28は口径26.0cm、残存高6.0cmである。29は口径26.0cm、残存高3.0cmである。D-1地区より出土した。28は11世紀後半、29は12世紀末のものである。

30は甕の口頸部である。頸部は外上方に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は外側へ拡張し、面



出土遺物実測図

を持つ。内外面はナデ調整する。口径38.0cm、残存高4.0cmである。D-7地区より出土した。12世紀のものである。

土師器(図6～11・31・32)

土師器には皿、羽釜の器種がある。

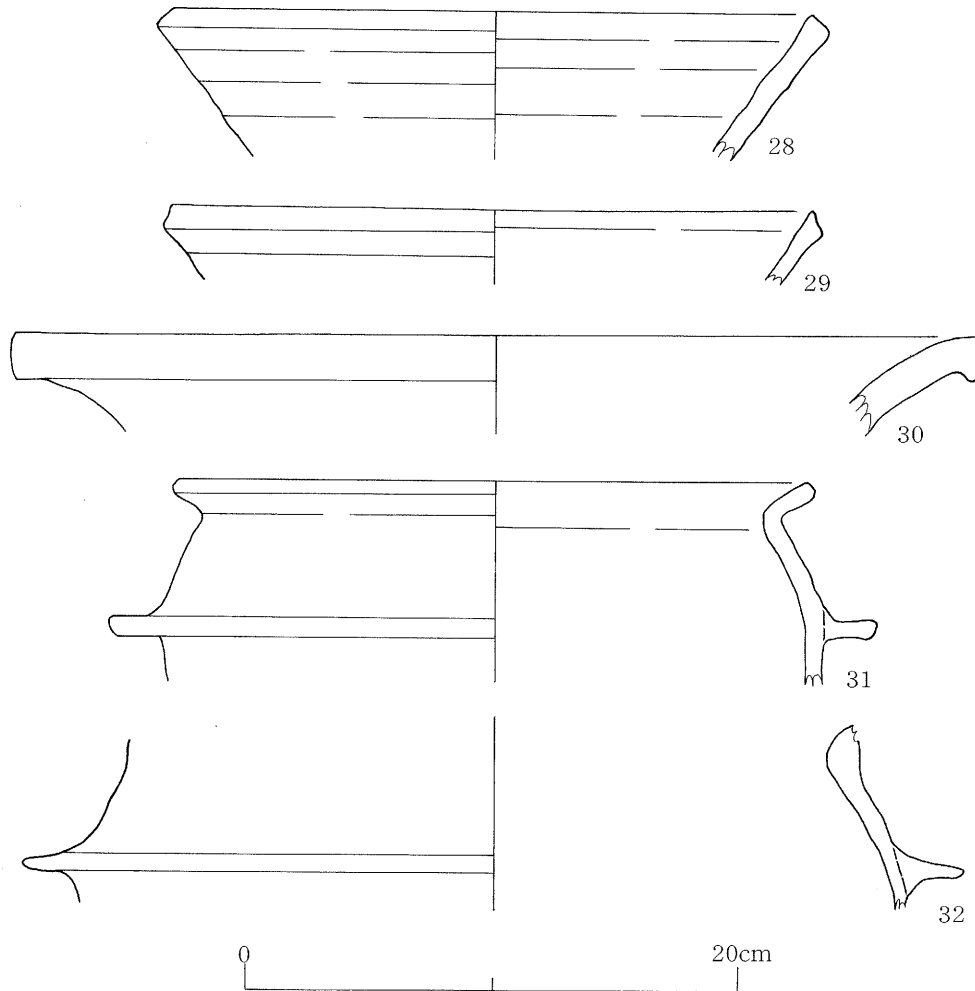
6～11は皿である。6は体部が外上方に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸くおわる。体部に稜を持つ。口径19.0cm、残存高3.5cmである。内外面はナデ調整する。7は体部が外へ開き、口縁部は外反する。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はナデ調整する。口縁部内外面は横ナデ調整する。口径10.2cm、残存高3.2cmである。8・10は体部が外上方へ立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。内外面をナデ調整する。8は体部内外面に指頭圧痕が残る。内外面をナデ調整する。口径9.2cm、器高1.5cmである。完形である。10は口径6.0cm、残存高1.2cmである。9は体部がやや内弯し、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。内外面をナデ調整する。口径8.0cm、残存高1.3cmである。11は体部が外側へ開き、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径9.4cm、残存高1.0cmである。6・7はD-2地区より出土した。11世紀末～12世紀初めのものである。8はC-12地区、9・10はD-1地区、11はD-7地区より出土した。8～11は12世紀後半～13世紀前半のものである。

31・32は羽釜である。31は鏝部が水平に伸びる。体部は丸みを持つ。口縁部は大きく外反し、口縁端部は丸く終わる。外面は摩滅のため調整法は不明である。内面をナデ調整する。口径25.6cm、残存高6.0cmである。32は鏝部がやや下方に伸びる。体部はやや内傾して立ち上がる。内外面はナデ調整する。残存高7.5cmである。31はC-12地区、32はD-1地区より出土した。31・32は12～13世紀頃のものである。

瓦器(図12～26)

瓦器には椀、皿の器種がある。

12～25は椀である。12～22は大和型である。12～19は口縁部がわずかに外反し、口縁端部内面に1条の沈線を廻らす。12は体部下半から上半にかけて外上方へ伸び、上半から口縁部はやや直線的に立ちあがる。内外面は密なヘラミガキ調整する。口径16.0cm、残存高5.0cmである。13～16は体部が内弯し、口縁部に至る。外面は粗いヘラミガキ調整する。内面は密なヘラミガキ調整する。14は体部外面に指頭圧痕が残る。13は断面形が台形の貼り付け高台を持つ。14は断面形が三角形の貼り付け高台を持つ。13・14は見込み部に連結輪状の暗文を施す。13は口径15.2cm、器高5.8cmである。14は口径15.2cm、器高5.1cmである。15は口径12.0cm、残存高3.3cmである。16は口径13.4cm、残存高3.0cmである。12・15・16はD-2地区、13・14はC-12地区より出土した。12～16はⅢ-A(古)期に相当する。12世紀後葉である。17～19は体部から口縁部にかけてやや外反する。17は体部外面に指頭圧痕が残る。外面に数条のヘラミガキ調整する。内面は粗いヘラミガキ調整する。17は口径13.8cm、残存高3.0cmである。18は口径14.4cm、残存高4.4cmである。19は口径12.0cm、残存高4.4cmである。17はD-7地区、18・19はD-1地区より出土した。17～19はⅢ-A(新)期に相当する。12世紀後葉である。20～22は高台と体部の一部が残存する。断面形が三角形の貼り付け高台を持つ。外面はナデ調整する。内面はヘラミガキ調整する。見込み部には連結輪状の暗文を施す。20はD-7地区、21・22はD-1地区より出土した。20はⅡ-B期に相当する。12世紀中葉である。21・22はⅢ-A(古)期に相当する。12世紀中葉である。23～25は和泉型である。23は体部が内弯し、口縁部は外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面に指頭圧痕が残る。外面は分割した粗いヘラミガキ調整する。内面は粗いヘラミガキ調整する。口径14.0cm、残存高5.0cmである。24は体部が外上方



出土遺物実測図

へ立ち上がり、口縁部は外反する。口縁端部は丸く終わる。外面は摩滅しているため調整法は不明である。内面は数条のヘラミガキ調整する。口径13.0cm、残存高2.8cmである。25は高台と体部の一部が残存する。高台部はハの字状に広がり、断面形が三角形を呈する。見込み部に斜格子状の暗文を施す。残存高2.6cmである。23・24はD-4地区、25はD-1地区より出土した。23・25はII-1期に相当する。12世紀前葉である。24はIV-2期に相当する。13世紀中葉である。

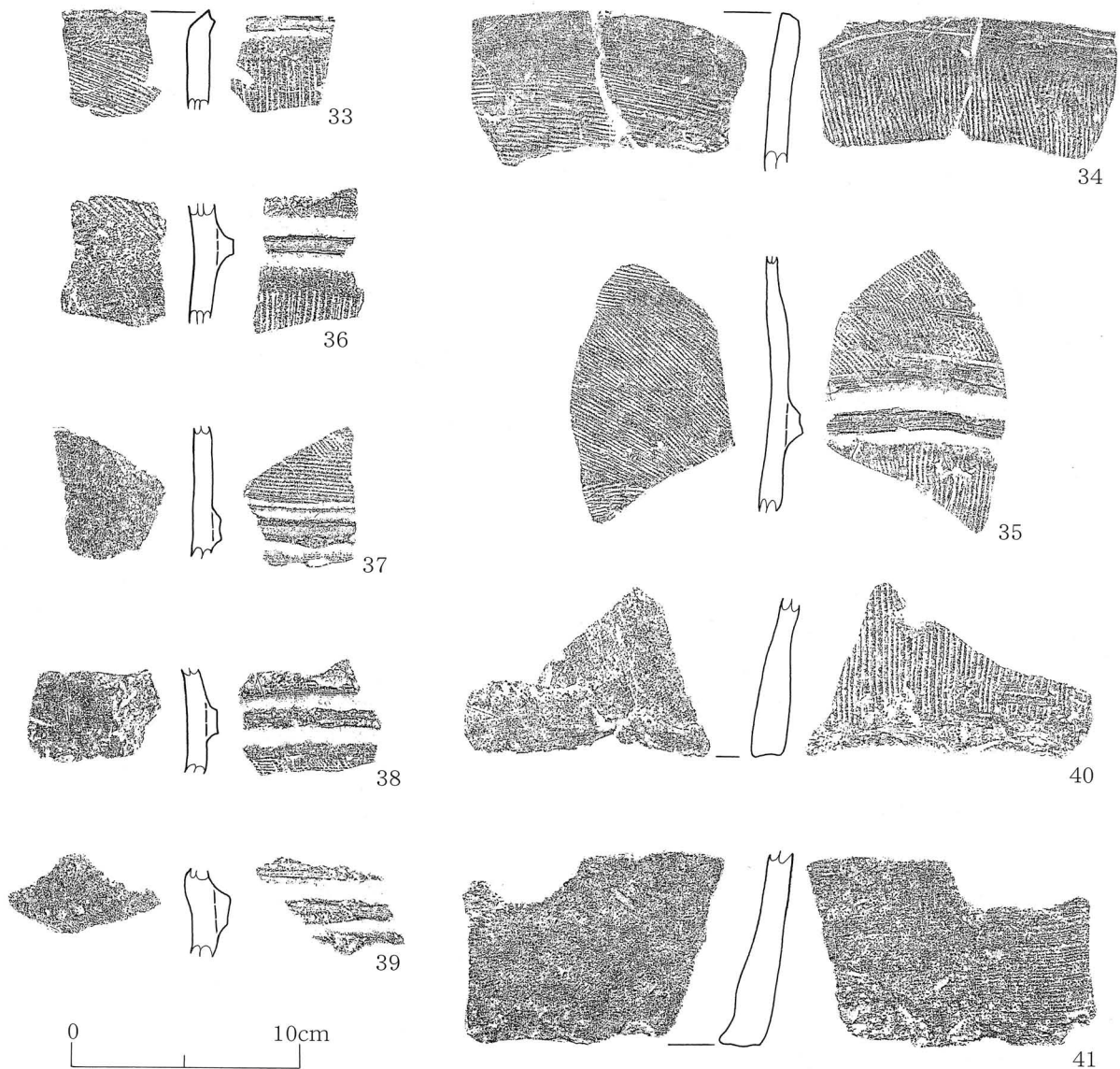
26は皿である。体部は内弯する。口縁部は外反し、口縁端部は丸く終わる。底部外面に指頭圧痕が残る。見込み部にジグザグ状の暗文を施す。口径10.2cm、器高2.5cmである。D-1地区より出土した。12世紀中頃のものである。

白磁(図27)

27は椀である。体部は外上方へ立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は外側に大きく肥厚する。いわゆる玉縁状の口縁である。体部外面の上半、内面の全面を施釉する。色調は灰白色である。高台は断面形が台形を呈する。体部上半はロクロナデ調整し、下半はナデ調整する。口径15.5cm、残存高6.8cmである。C-12地区より出土した。12世紀中頃のものである。

埴輪(図33~41)

33・34は口縁部である。33は、口縁部が短く外反する。外面は縦方向にハケメ調整し、内面は斜め方向にハケメ調整する。34は口縁部が直立する。外面は縦の方向にハケメ調整し、内面は横方向にハケメ調整する。35~39は体部であり、タガ部が残る。タガ部の形状は、35・37・39は高さが低く、



出土遺物実測図

断面形が台形を呈し、やや窪みを持つ。M字形を呈する。退化したものである。36・38は高さが低く、断面形が台形を呈する。タガ部は横ナデ調整する。35は外面のタガ部を挟んで下は縦方向、上は斜め方向にハケメ調整する。内面は斜め方向にハケメ調整する。36は外面を縦方向にハケメ調整する。内面は斜め方向にハケメ調整が一部残る。37は外面を斜め方向後、横方向にハケメ調整する。内面はナデ調整する。外面には赤色顔料が付着する。38は外面に工具を止めながら横方向にハケメ調整、内面はナデ調整する。39は内外面が摩滅しているため調整法が不明である。40・41は基部から底部である。やや外へ開く。40は外面を縦方向のハケメ調整し、内面はナデ調整する。41は外面を横方向のハケメ調整する。胎土中に、長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。色調は橙色である。33・34・36・40・41はC-9地区、35はC-12地区、37・39はD-1地区、38はD-7地区より出土した。第IV~V期のものである。5世紀中頃~6世紀初め頃である。

4. まとめ

今回はC、D地区から弥生時代~中世期の遺物が出土した。調査地は稲荷山古墳の南東にあたる。山畑古墳群は稲荷山古墳から東側にかけてつくられた古墳群である。出土した古墳時代の土器や埴輪

は後期のもので山畑古墳群に関係するものと思われる。

また、白磁、瓦器等を含む中世期の遺物包含層もD-2・3・4地区で確認することができた。特に瓦器碗が多く出土し、その中でも大和型の瓦器碗が目立つ。生駒西麓部の集落では平野部に比して、高い比率で大和型の瓦器が出土することが従前より知られている。今回も概調査の成果を追認することができた。中世期の土器は他にも須恵器の捏鉢や土師器の羽釜が出土している。これらの遺物は多少の時期差はあるがほとんどが12世紀代のものである。今回の調査区より北東に位置する、第18次調査では中世期の集落跡が一部確認されている。今回の中世期の遺物は第18次調査のものよりは古く、継続して、集落が営まれていた可能性が考えられる。



B-2 地区調査状況



B-2 地区土層断面



C 地区調査地遠景



C-2 地区土層断面



C-5 地区土層断面



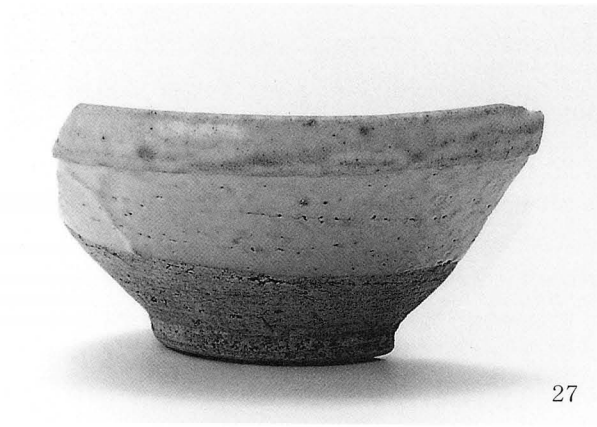
C-6 地区土層断面



D 地区調査地遠景



D-3 地区土層断面



27



8

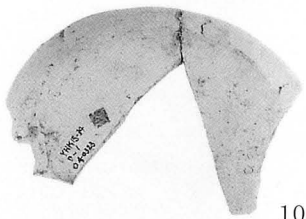


27'



8'

出土遺物（白磁・土師器）



10



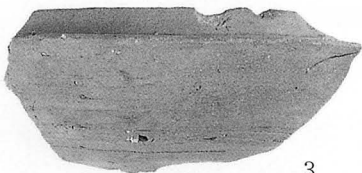
11



7



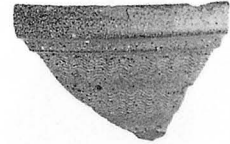
9



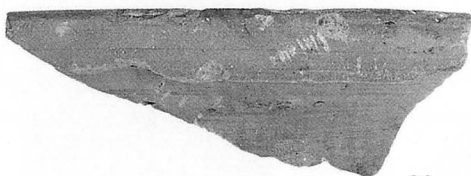
3



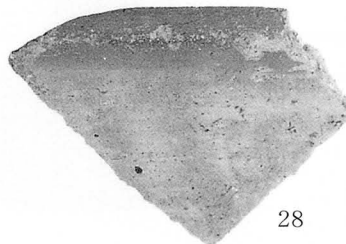
2



5



30

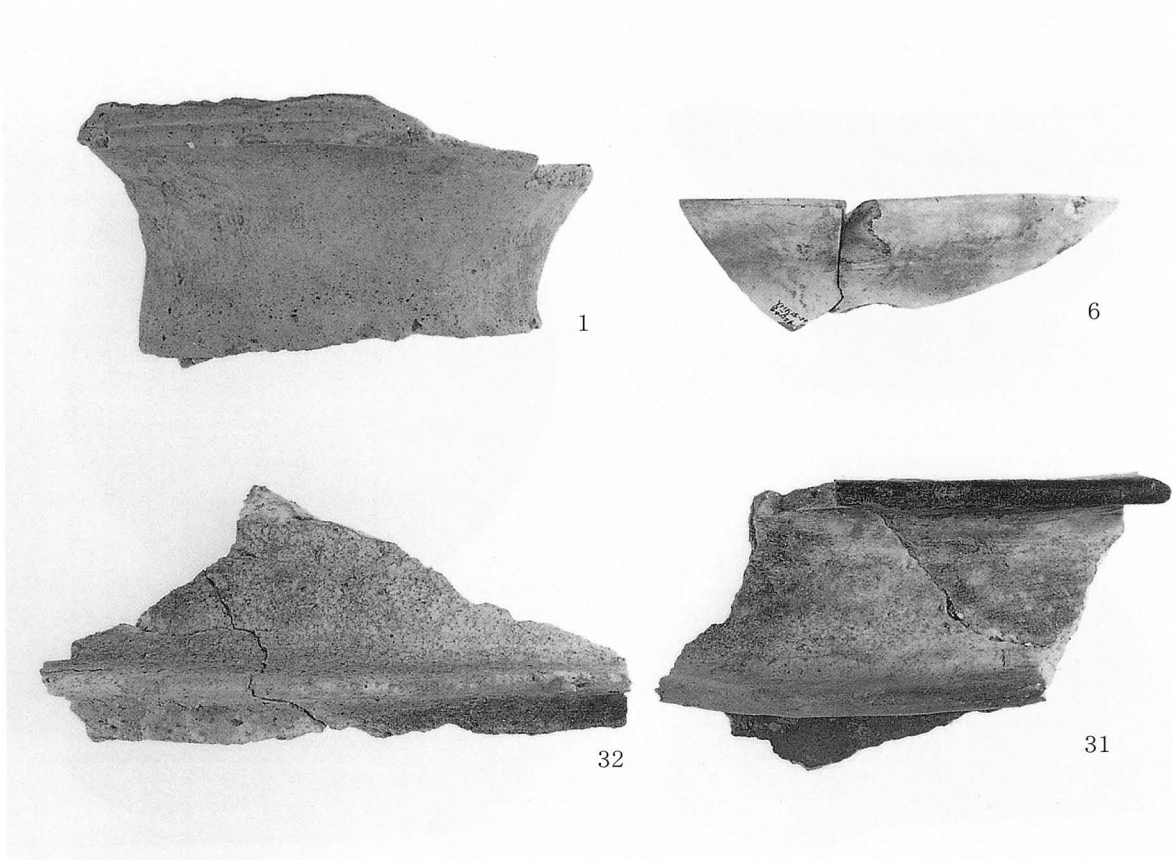


28

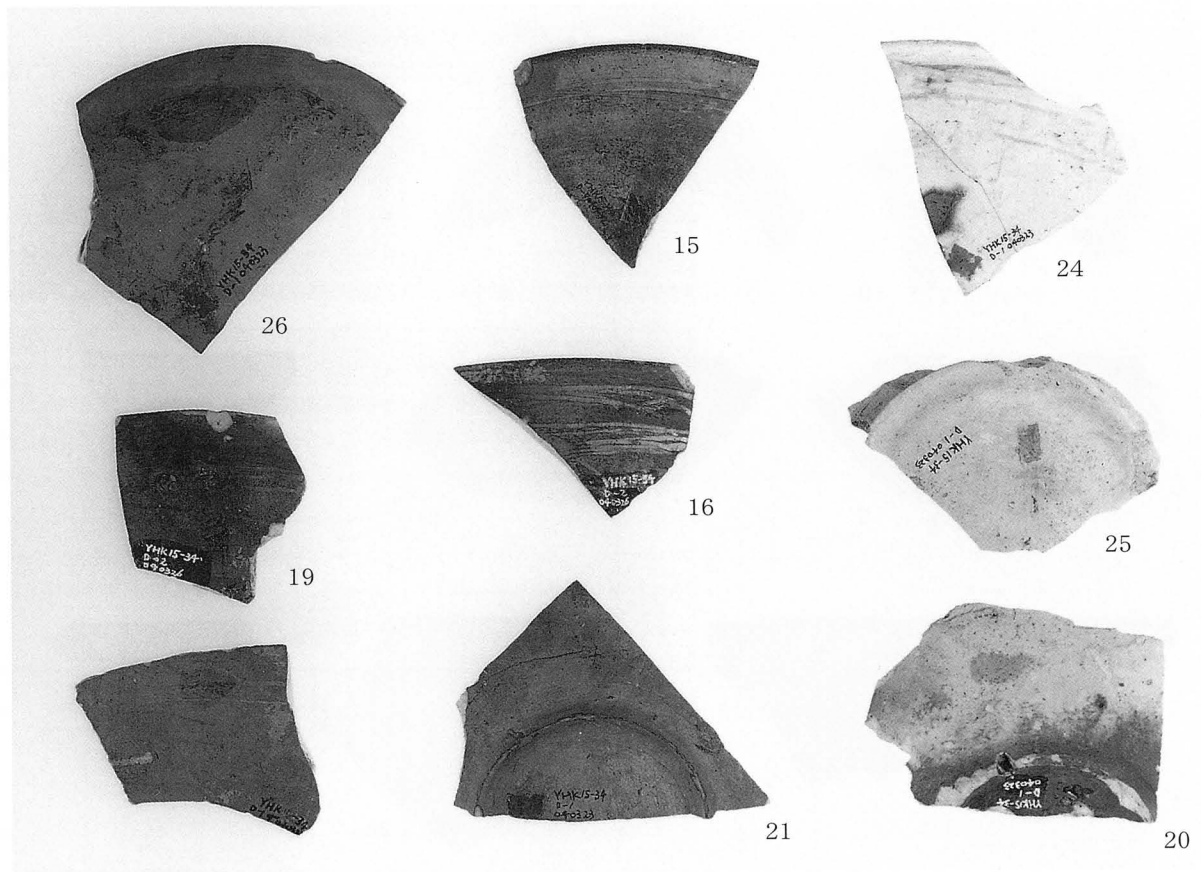


29

出土遺物（土師器・須恵器）



出土遺物 (弥生土器・土師器)



出土遺物 (瓦器)



23



17



18



12



14

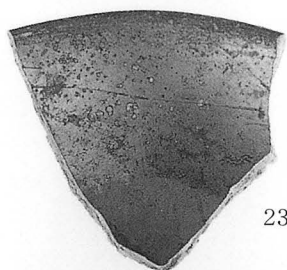


13



20

出土遺物（瓦器）表



23'



17'



18'



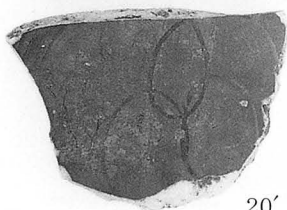
12'



14'

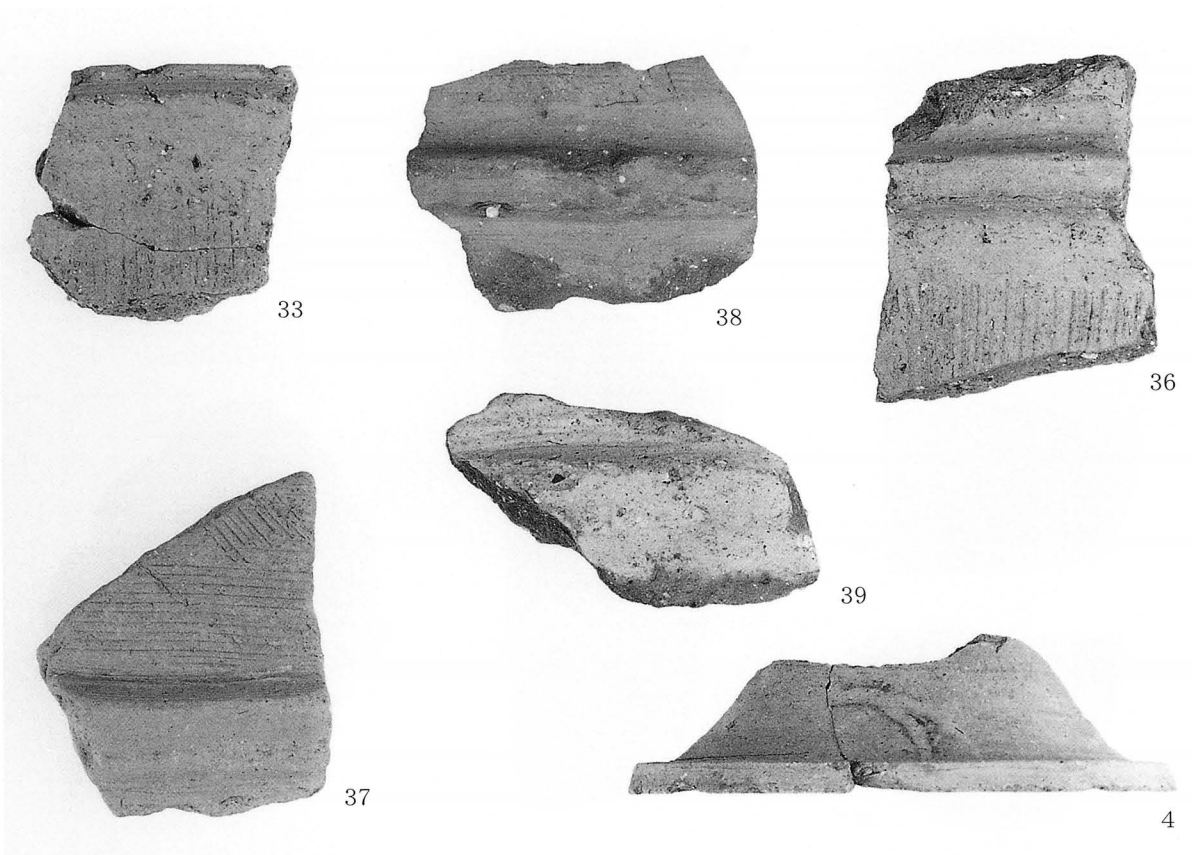


13'



20'

出土遺物（同上）裏



出土遺物（円筒埴輪・須恵器）



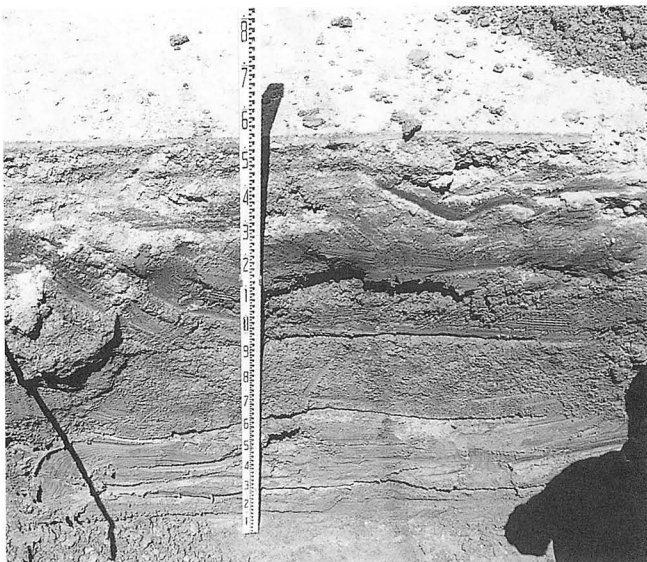
出土遺物（円筒埴輪）



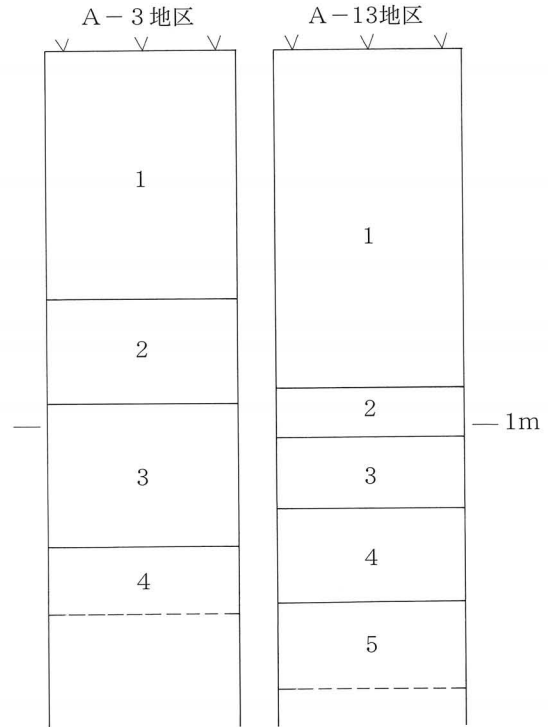
A地区調査地遠景



A-8地区調査状況



A-3地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-3地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 オリーブ黒色(5Y2/2)中粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂混じり粘土。
- 第4層 黒褐色(2.5Y3/2)シルト。

A-13地区の層序

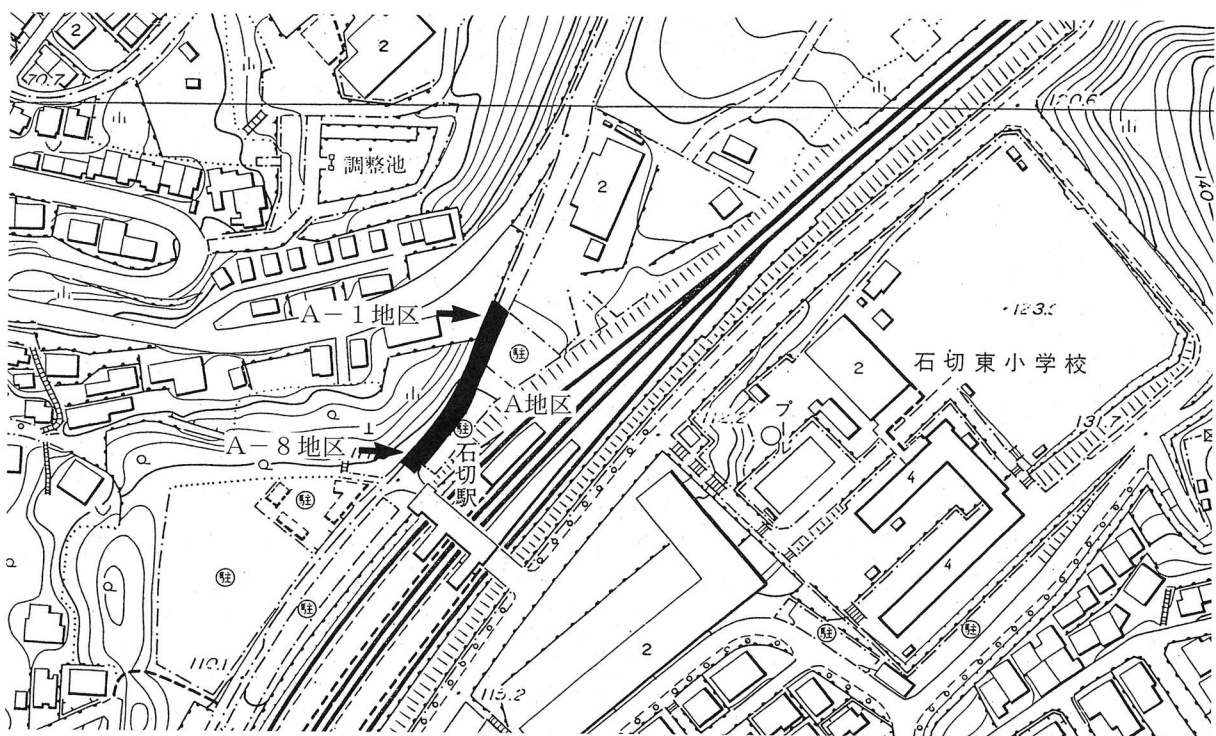
- 第1層 盛土。
- 第2層 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 黒褐色(10YR2/3)粗粒砂～小礫混じりシルト。
- 第4層 にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第5層 灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂～小礫混じりシルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

第22章 せんじゅじやま 千手寺山遺跡の調査

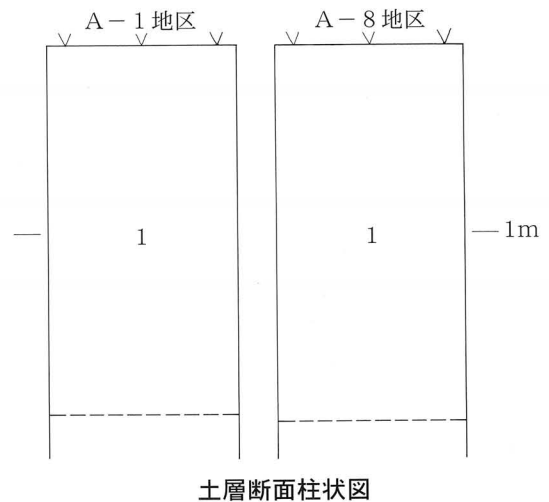
No.	名称	内容
1	事業名	平成15年度公共下水道第33工区管きょ築造工事
2	調査地点	東大阪市上石切町2丁目2972-13
3	調査面積	80㎡
4	調査期間	平成16年6月3日～6月18日（延べ7日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄奈良線石切駅の西である。当地点は千手寺山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ94mの間であり、開削工法である。</p>



調査地点位置図（1/2500）



A地区調査地遠景



土層断面柱状図



A-1地区土層断面



A-8地区土層断面

1. 調査の概要

A-1地区の層序

第1層 盛土。

A-8地区の層序

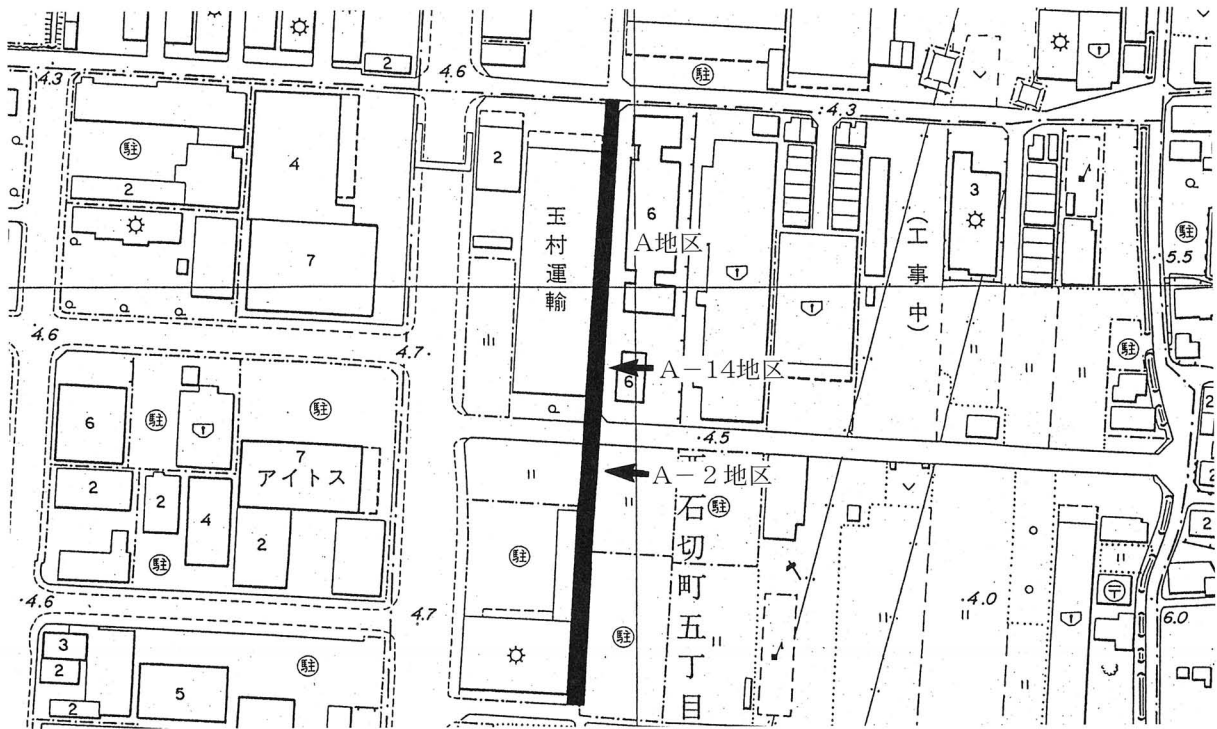
第1層 盛土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

きとらがわ
第23章 鬼虎川遺跡の調査

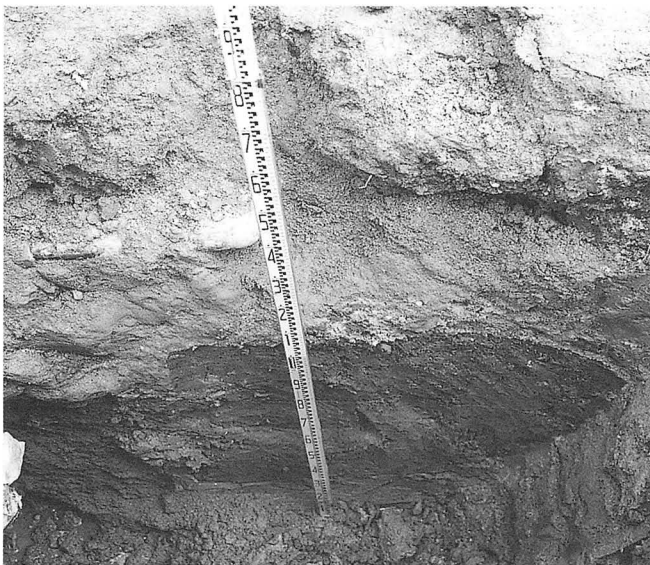
	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第209工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市西石切町 5 丁目290、522
3	調 査 面 積	166㎡
4	調 査 期 間	平成16年 3 月19日～ 5 月18日 (延べ15日)
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は弥生学校給食センターの北である。当地点は鬼虎川遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ197mの間であり、開削工法である。</p>



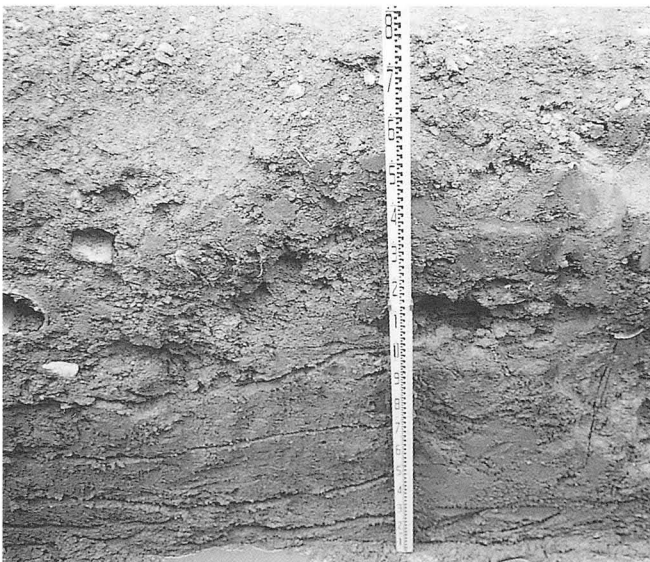
調査地点位置図 (1/2500)



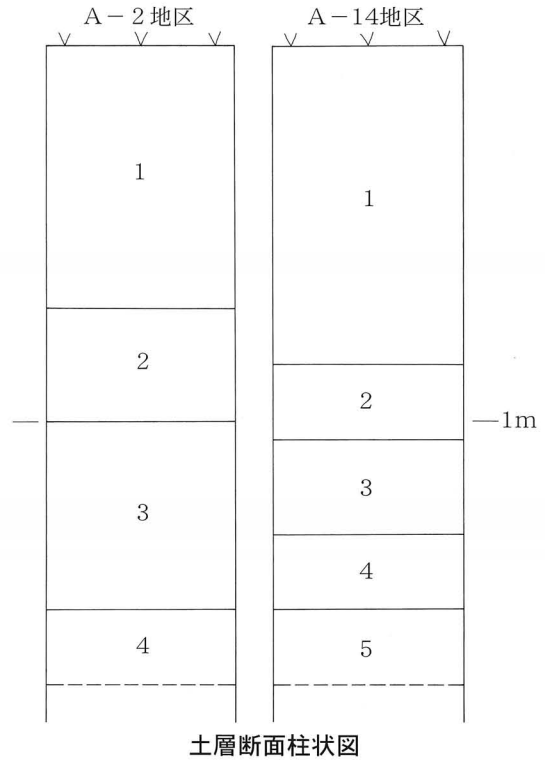
A 地区調査地遠景



A-2 地区土層断面



A-14 地区土層断面



土層断面柱状図

1. 調査の概要

A-2 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗緑灰色(7.5GY4/1)細粒砂混じり粘質シルト。

第3層 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)中粒砂混じり粘質シルト。

第4層 暗緑灰色(10GY4/1)粘質土。

A-14 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘質シルト。

第3層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粗粒砂混じり粘質シルト。

第4層 黒褐色(2.53/2)シルト。

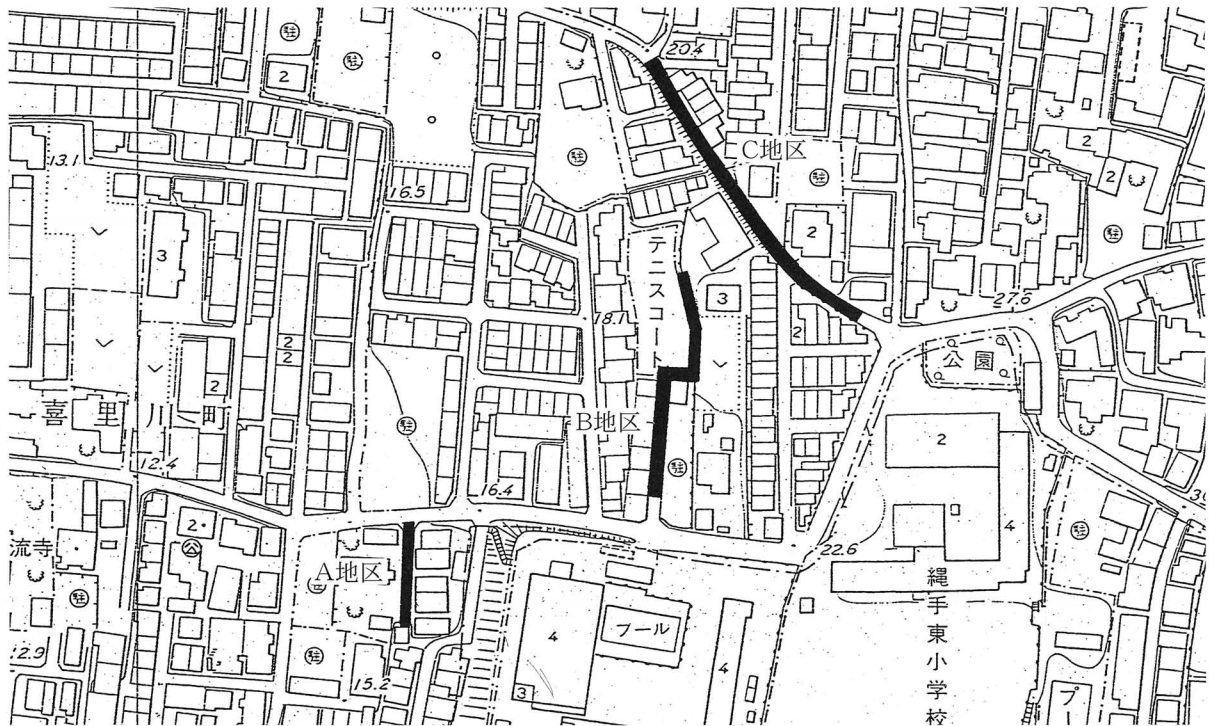
第5層 暗緑灰色(5G3/1)細粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

さらいけ
第24章 皿池遺跡の第6次調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第50工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市喜里川町327、86～120他
3	調 査 面 積	169㎡
4	調 査 期 間	平成16年2月19日～3月29日（延べ7日）
5	報 告 担 当	福瀬
6	調 査 の 経 過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手北中学校の北と西である。当地点は皿池遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.7～0.9mで長さ217mの間であり、開削工法である。</p>



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

調査地区は便宜上A・B・Cの3地区に分けた。A地区が中学校の西側、B・C地区が北側である。A地区より調査を開始した。A・B地区で古墳時代～中世期の遺物が出土した。

2. 層序

A-1地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒色(7.5Y2/1)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 暗青灰色(5BG3/1)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。古墳時代～中世期の遺物が出土。
- 第4層 暗緑灰色(5G3/1)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第5層 黒色(7.5Y2/0)細粒砂混じり粘質土。
- 第6層 黒色(N2/0)粘質土。

A-3地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 緑黒色(5G3/1)細粒砂混じり粘質シルト。古墳時代～中世期の遺物が出土。
- 第3層 暗緑灰色(5G3/1)粘質シルト。
- 第4層 黄褐色(2.5Y5/4)粘質土。砂をブロック状に含む。
- 第5層 黒色(2.5Y2/1)粘質土。

B-1地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 灰色(10Y4/1)細粒砂混じりシルト。中世期の遺物が出土。
- 第3層 黒褐色(10YR3/1)細粒砂混じり粘質シルト。古墳～奈良時代の遺物が出土。

B-4地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。中世期の遺物が出土。
- 第3層 黒褐色(10YR3/1)細粒砂混じり粘質シルト。古墳～奈良時代の遺物が出土。

C-2地区の層序

- 第1層 盛土。

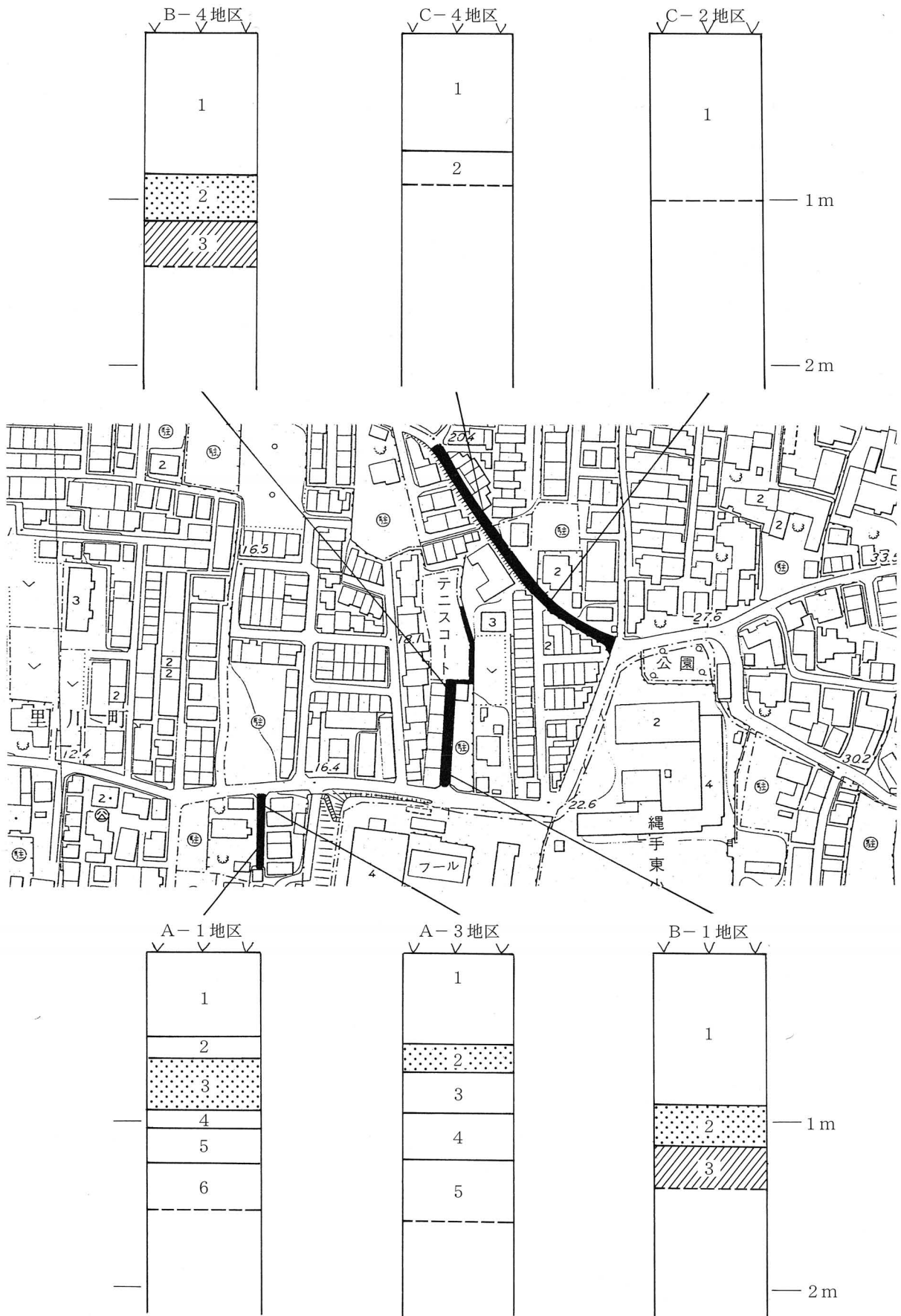
C-4地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(10YR3/1)中粒砂混じり粘質シルト。

3. 出土遺物

今回の調査では土師器、須恵器、瓦器などが出土した。細片が多く図化できたものは7点である。瓦器は図化できるものがなかった。

1～6は土師器である。1・6は杯である。1は体部が内弯気味に立ち上がる。口縁部がわずかに外反し、口縁端部が尖り気味に終わる。内外面はナデ調整する。口径は15.0cm、残存高は2.0cmである。平安時代のものである。6は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は内側へ丸く肥厚して終わる。体部内面は縦方向のヘラミガキ調整する。口縁部内面に放射状の暗文を施す。外面は密なヘラミガキ調整する。口径は17.0cm、残存高は3.5cmである。飛鳥～奈良時代のものである。2は鉢である。体部が内弯気味に立ち上がる。口縁部はわずかに内傾する。口縁端部は丸く終わる。器壁は厚い。内外面はナデ調整する。口径は18.0cm、残存高は4.2cmである。奈良時



土層断面柱状図



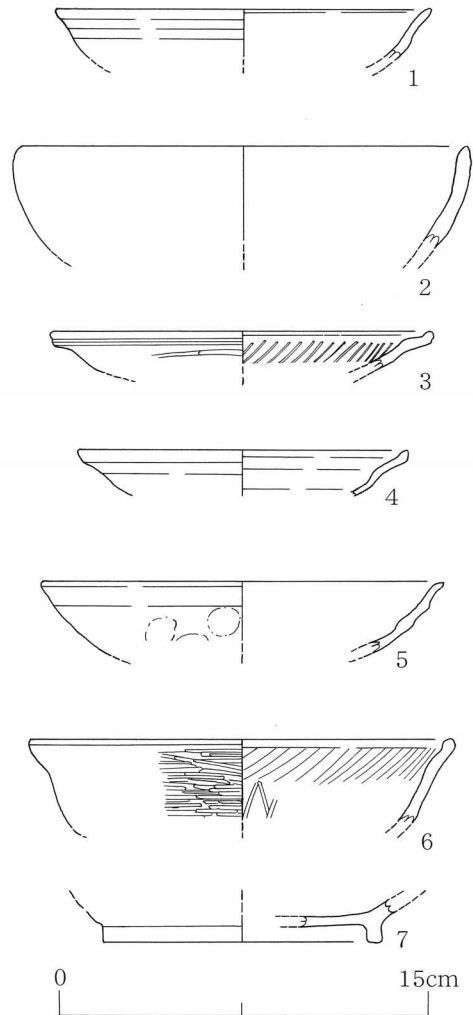
A地区調査地遠景

代のものである。3・4は皿である。3は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部が大きく外反する。口縁端部は内側に丸く肥厚する。口縁端部内面に一条の沈線を廻らす。体部に放射状の暗文を施す。外面は体部の一部をヘラミガキ調整する。口径は15.5cm、残存高は1.7cmである。奈良時代のものである。4は体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部が大きく外反する。口縁部に向けて器壁が厚くなる。口縁端部は面を持ち、摘み上げ気味に終わる。内外面はナデ調整する。口径は13.2cm、残存高は1.9cmである。13世紀のものである。5は椀である。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。体部外面に指頭圧痕を残す。口径は16.3cm、残存高は3.5cmである。平安時代のものである。1～3はB-2地区、4はB-3地区、5～6はB-4地区より出土した。

7は須恵器の杯である。底部であり、断面形が台形の高台が付く。底径は11.3cm、残存高は1.8cmである。奈良時代のものである。B-4地区より出土した。

4. まとめ

今回の調査ではA・B地区で古墳時代～中世期の遺物が出土した。特にB地区より多く出土した。C地区は全体的に既設管があり、攪乱を受けていた。そのため遺構、遺物は確認することができなかった。また、A・B地区においても遺構は確認することができなかった。今回の調査は平成14年度公共下水道第21工区の工事に伴う調査地に接した場所である。遺物は前回よりかなり少ないが古墳時代と中世期の明確な遺物包含層を確認することができた。周辺に当時期の集落が広がっている可能性が高い。

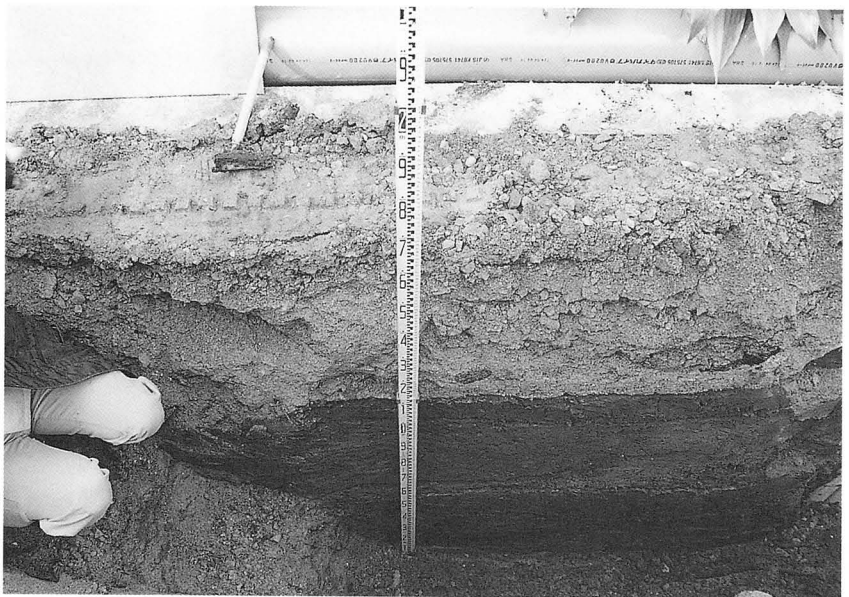


出土遺物実測図

A-1 地区調査状況



A-1 地区土層断面



A-3 地区土層断面





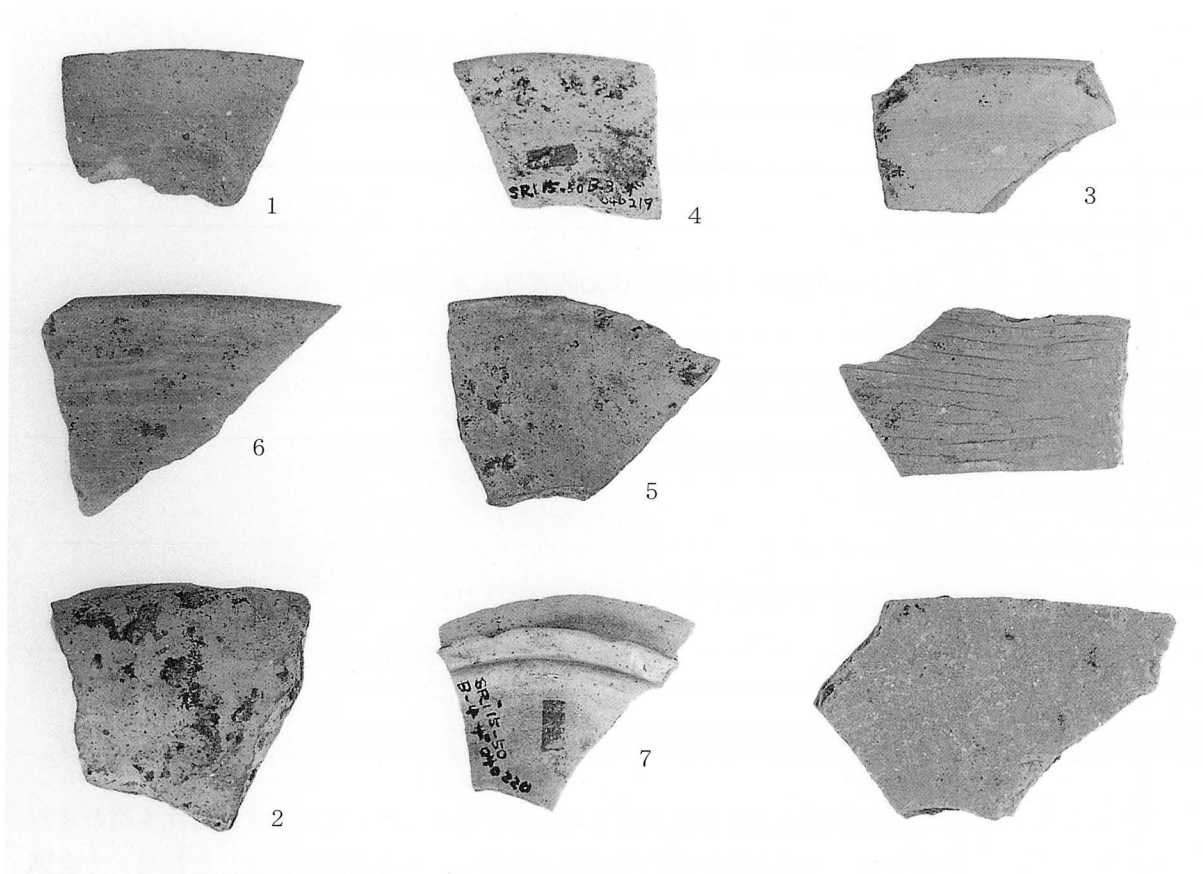
B - 1 地区土層断面



C - 2 地区土層断面



C - 4 地区土層断面



出土遺物（土師器・須恵器）



出土遺物（土師器・須恵器）

いわたきやま
第25章 岩滝山遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第47工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市六万寺町1丁目841～854他
3	調 査 面 積	442m ²
4	調 査 期 間	平成16年3月19日～8月3日（延べ52日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は往生院の北西である。当地点は岩滝山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ520mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

A-3地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黄褐色(10YR5/6)細粒砂～小礫混じりシルト。
- 第3層 明黄褐色(10YR6/6)中粒砂混じり粘質シルト。

B-4地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 にぶい黄褐色(10YR5/4)中粒砂～小礫混じりシルト。
- 第3層 明褐色(7.5YR5/6)中～巨礫混じり粗粒砂

C-16地区の層序

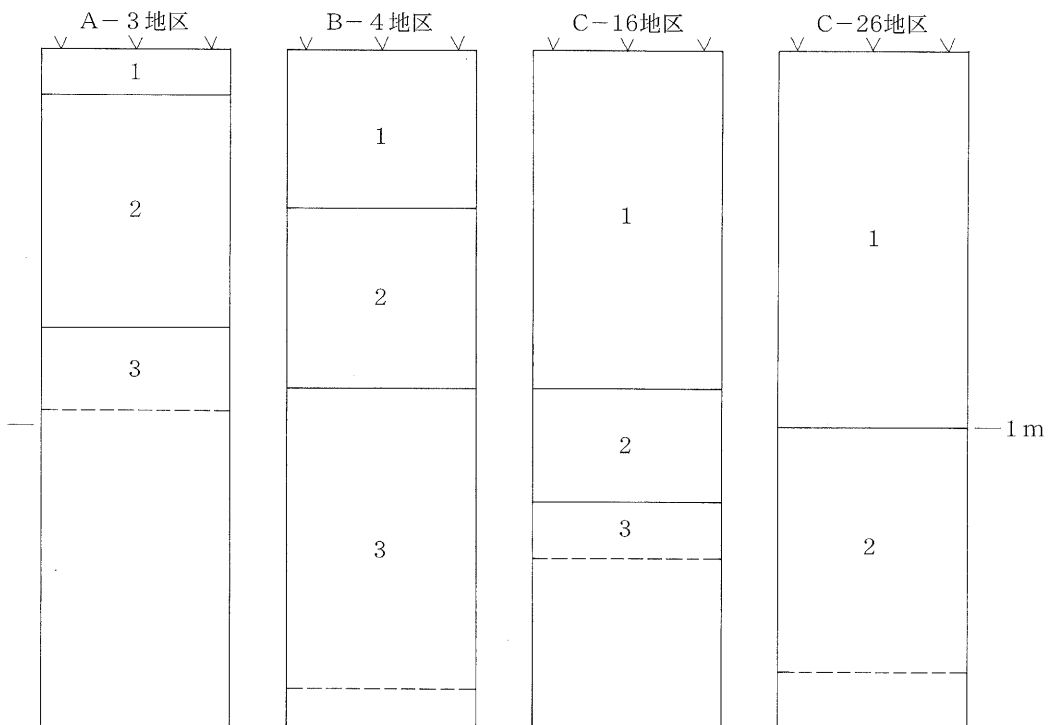
- 第1層 盛土。
- 第2層 灰黄褐色(2.5Y4/2)中粒砂混じりシルト。
- 第3層 黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂混じり粘質シルト。

C-26地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黄褐色(2.5Y5/4)粗粒砂混じり粘質土。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



土層断面柱状図



A 地区調査地遠景



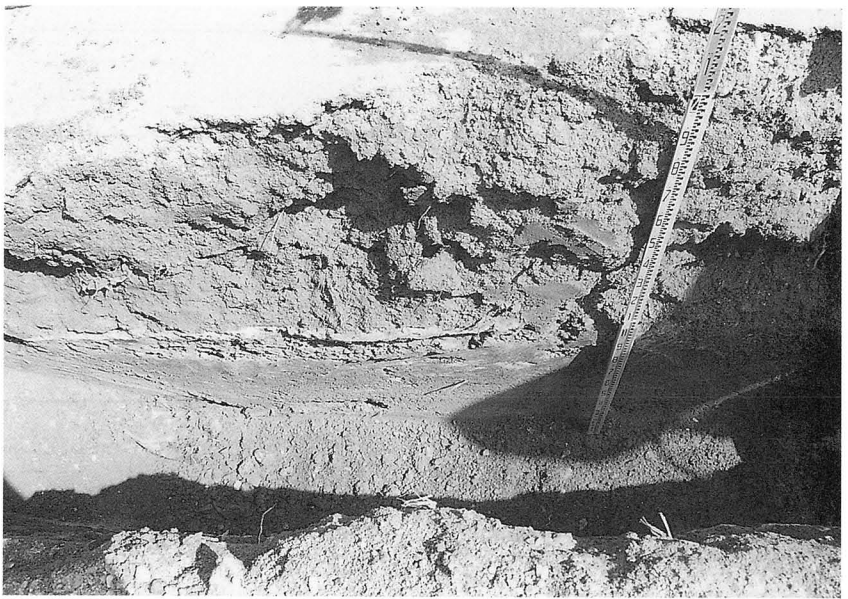
A - 3 地区土層断面



B - 4 地区土層断面



C地区調査地遠景



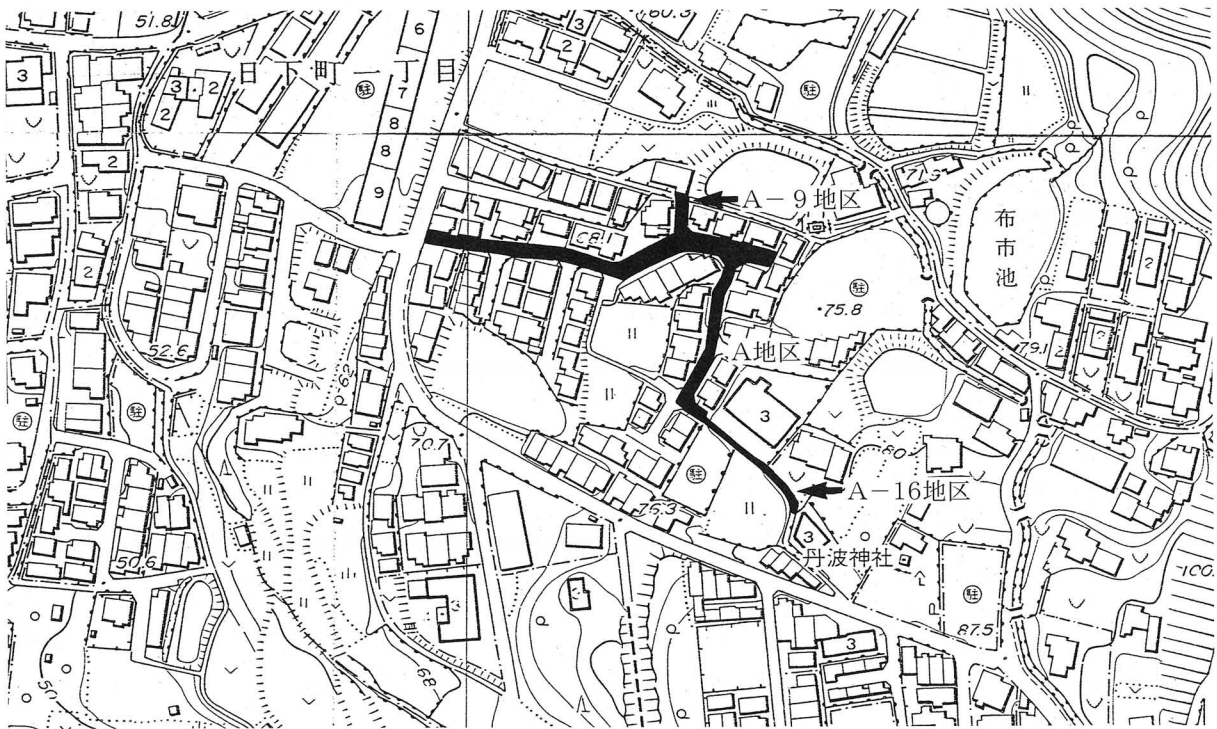
C-16地区土層断面



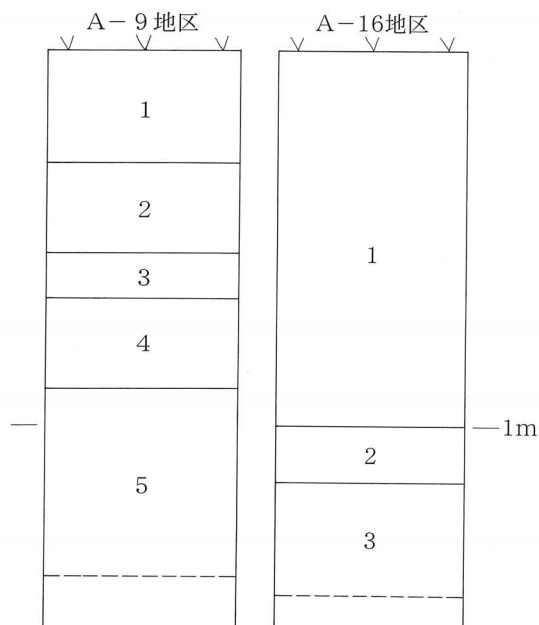
C-26地区土層断面

しょうほう じやま
第26章 正法寺山遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事業名	平成15年度公共下水道第32工区管きよ築造工事
2	調査地点	東大阪市日下町1丁目1581～1590他
3	調査面積	202㎡
4	調査期間	平成16年6月23日～8月27日（延べ16日）
5	報告担当	才原
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は丹波神社の北西である。当地点は正法寺山遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ238mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図



A地区調査地遠景

1. 調査の概要

A-9地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗緑灰色(10G3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 暗緑灰色(5G3/1)中粒砂混じりシルト。
- 第4層 暗緑灰色(5G4/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第5層 暗緑灰色(10G3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

A-16地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黄褐色(2.5Y5/4)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 黄褐色(2.5Y5/3)細粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



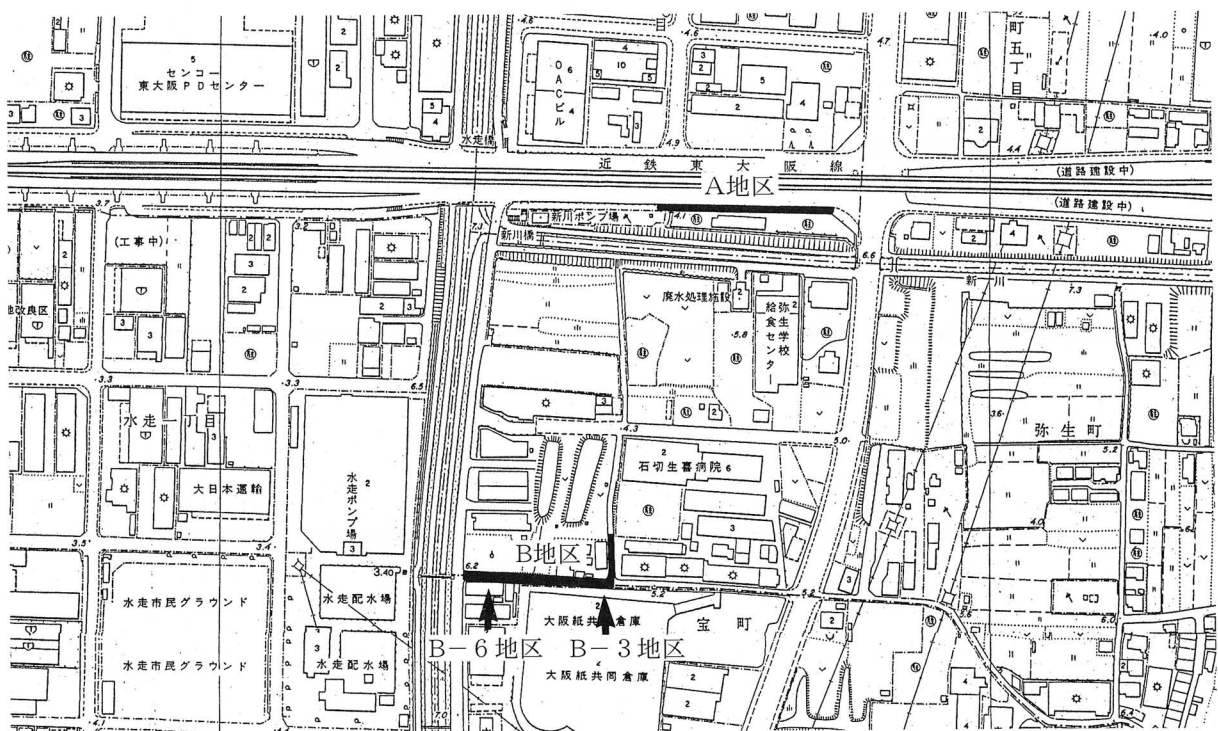
A-9地区土層断面



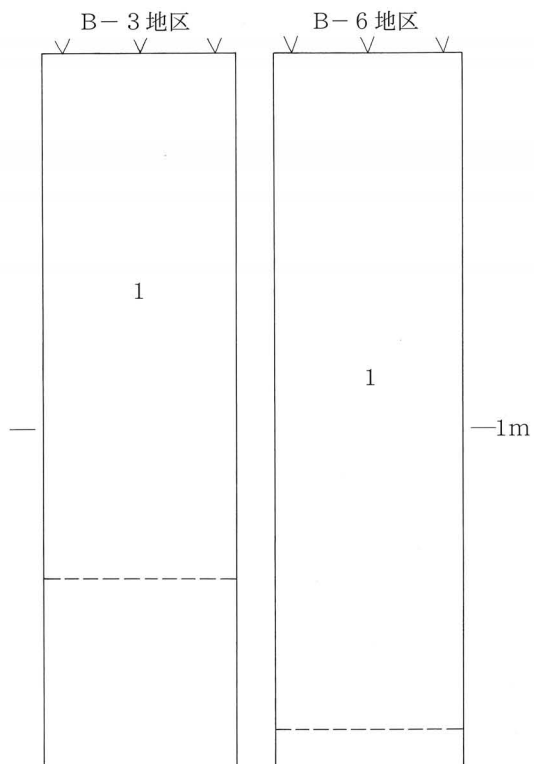
A-16地区土層断面

きとらがわ
第27章 鬼虎川遺跡の調査

1	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第69工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市弥生町1361～1362他
3	調 査 面 積	206m ²
4	調 査 期 間	平成16年6月16日～7月2日（延べ7日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は弥生学校給食センターの北と南西である。当地点は鬼虎川遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9～1.0mで長さ225mの間であり、開削工法である。</p>



調査地点位置図（1/5000）



土層断面柱状図

1. 調査の概要

B-3地区の層序

第1層 盛土。

B-6地区の層序

第1層 盛土。

2. まとめ

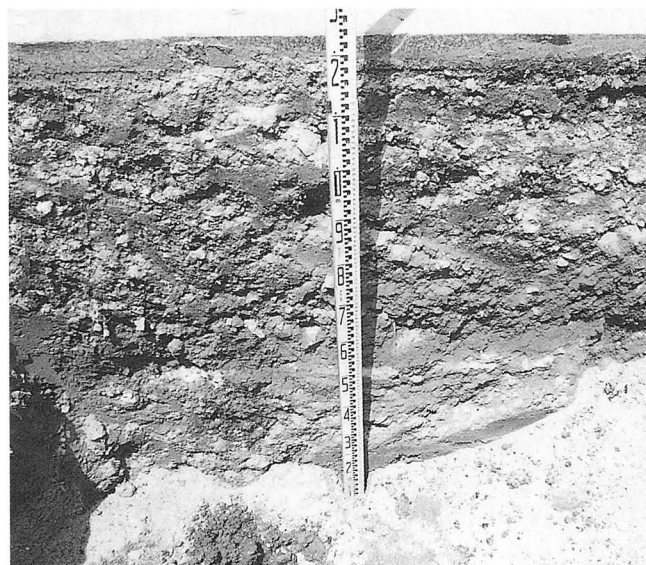
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。A地区は夜間工事のため立会調査をすることができなかった。



B地区調査地遠景



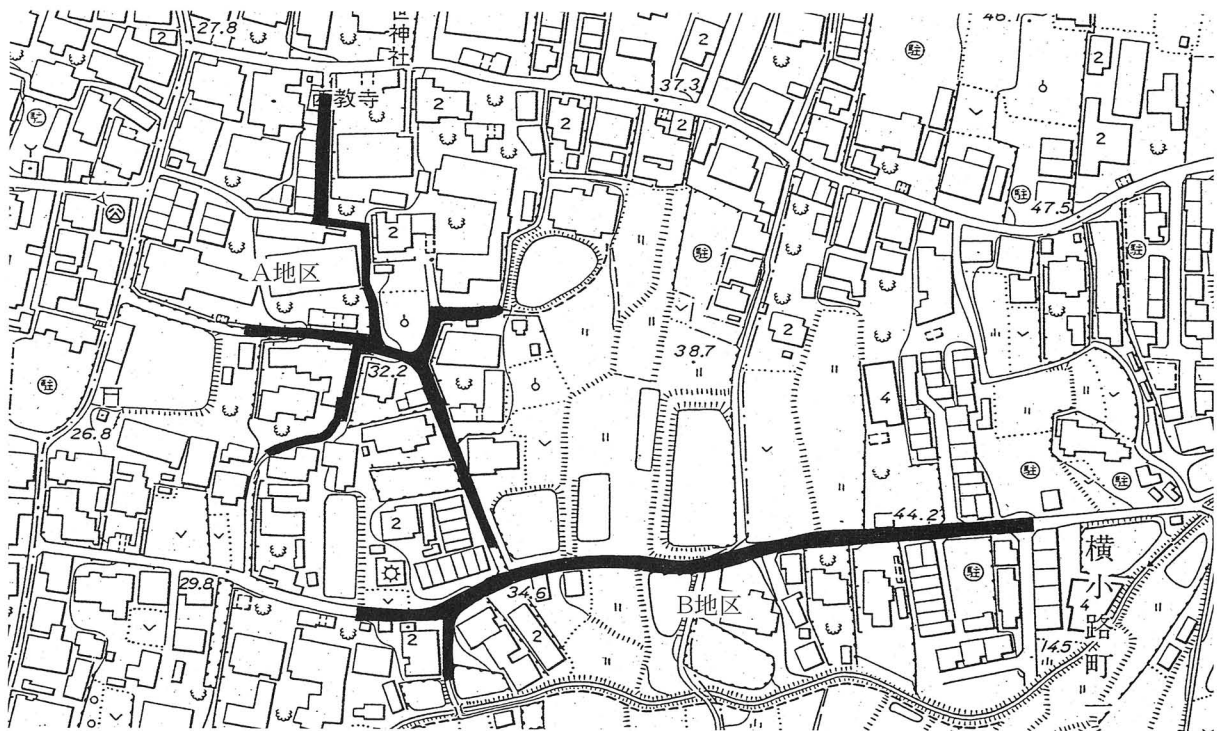
B-3地区土層断面



B-6地区土層断面

かいばな 第28章 貝花遺跡の第5次調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第25工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市横小路町2丁目514～520、507～565他
3	調 査 面 積	500㎡
4	調 査 期 間	平成16年4月8日～8月2日（延べ39日）
5	報 告 担 当	川本
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手南小学校の南東である。当地点は貝花遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ588mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

調査地区は便宜上A・B地区に分ける。A地区から順次調査を行った。

A地区の南西に位置するA-20地区からは弥生時代～近世期の遺物包含層を確認した。

2. 層序

A-7地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂混じりシルト。小～中礫を含む。

A-14地区の層序

第1層 盛土。

第2層 褐色(10YR4/4)細粒砂混じりシルト。

第3層 にぶい黄褐色(10YR4/3)中粒砂。小礫を含む。

第4層 黒褐色(10YR3/2)細粒砂混じり粘質シルト。

第5層 黄褐色(2.5Y5/3)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。

A-20地区の層序

第1層 盛土。

第2層 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂混じりシルト。

第3層 灰黄褐色(10YR5/2)中粒砂混じり粘質シルト。弥生時代～近世期の遺物包含層である。

A-22地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗灰黄色(2.5Y4/2)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第3層 黄褐色(10YR4/3)粗粒砂。小～中礫を含む。

第4層 灰黄褐色(10YR4/2)中粒砂。小礫を含む。

B-2地区の層序

第1層 盛土。

第2層 にぶい黄褐色(10YR4/3)粗粒砂混じり粘質シルト。小～中礫を含む。

B-5地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黄灰色(2.5Y5/1)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第3層 褐灰色(10YR4/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第4層 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)粗粒砂。小～中礫を含む。

B-8地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗緑灰色(5G3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。粘土がブロック状に一部混じる。

第3層 黒褐色(2.5Y3/2)シルト。

B-10地区の層序

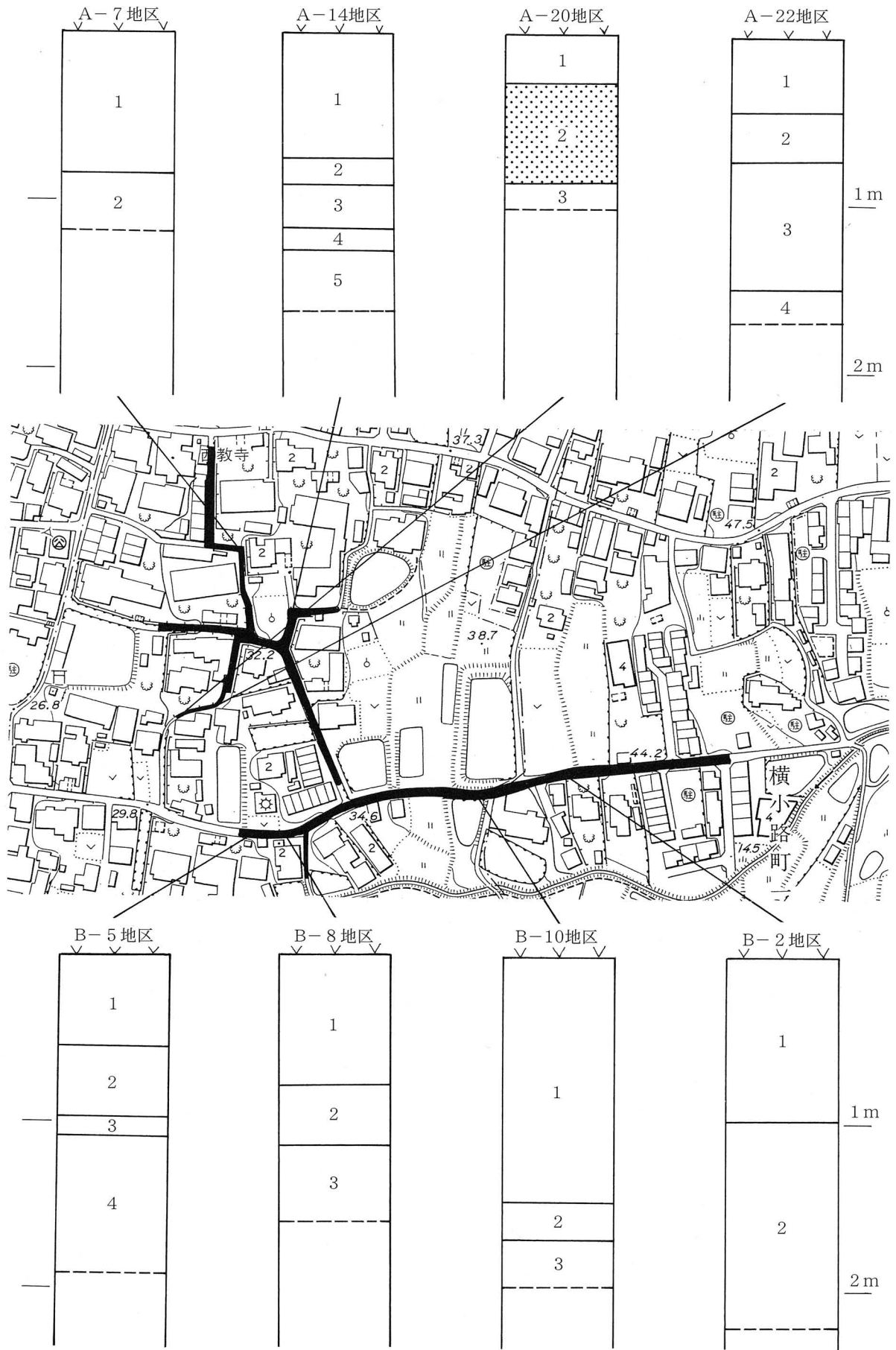
第1層 盛土。

第2層 オリーブ灰色(2.5Y5/1)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

第3層 暗オリーブ灰色(5GY4/1)粗粒砂混じりシルト。小礫を含む。

3. 出土遺物

今回の調査ではA-20地区から弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等が出土した。図化ができたも



土層断面柱状図

のは8点ある。B-5地区からも土師器が出土したが、細片のため図化ができなかった。

1は弥生土器の高杯脚部である。裾部を欠損する。柱状部はややハの字状に広がる。中空である。外面は縦方向のヘラミガキ調整する。内面はナデ調整する。後期のものである。

2・3は須恵器である。2は杯である。底部は平らな面を持ち、体部は外上方へ立ち上がる。受け部は外上方へ伸びる。立ち上がり部は短く、内傾する。体部内外面は回転ナデ調整する。底部外面はナデ調整する。口径12.0cm、残存高2.8cmである。6世紀後半のものである。3は杯の底部である。体部は外上方へ立ち上がる。高台の低く、やや内湾する。内外面は回転ナデ調整する。高台部は横ナデ調整する。残存高は2.4cmである。8世紀のものである。

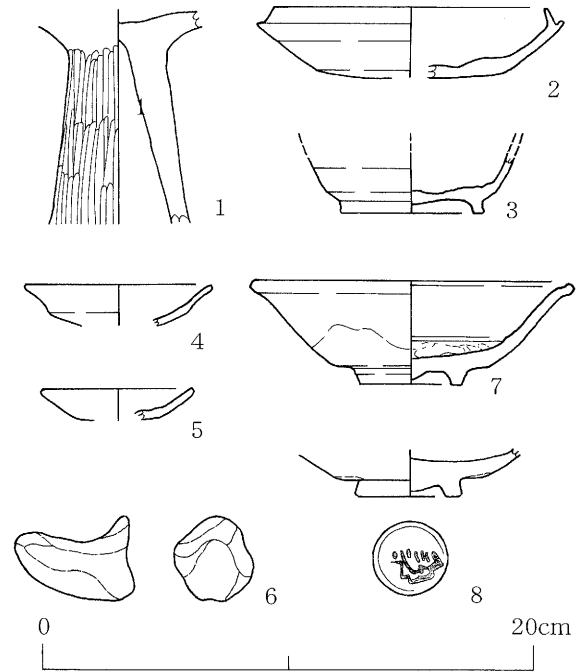
4は瓦器の皿である。体部は大きく外上方へ立ち上がる。口縁部は外反し、口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径7.6cm、残存高1.7cmである。13世紀のものである。

5・6は土師器である。5は皿である。体部は外上方に立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。口径6.2cm、残存高1.7cmである。13世紀のものである。6は把手である。牛の角状を呈する。外面はナデ調整である。時期は不明である。

7・8は陶磁器である。7は唐津焼の皿である。体部は外上方へ立ち上がる。口縁部は外反し、口縁端部は丸く終わる。口縁端部内面に稜を持つ。底部内面には砂目が残る。高台は高く、断面形が台形を呈する。体部外面の上半と内面全体を施釉する。体部外面の上半に釉が垂れる。色調は灰黄褐色である。体部内外面は回転ナデ調整する。口縁部内外面は横ナデ調整する。高台部は横ナデ調整する。口径13.0cm。器高4.2cmである。17世紀初め～中頃のものである。8は椀の底部である。高台部は断面形が台形を呈する。体部外面の底部までと内面を施釉する。色調は灰白色である。外面に墨書による文字が残る。残存高1.9cmである。近世期のものである。

4. まとめ

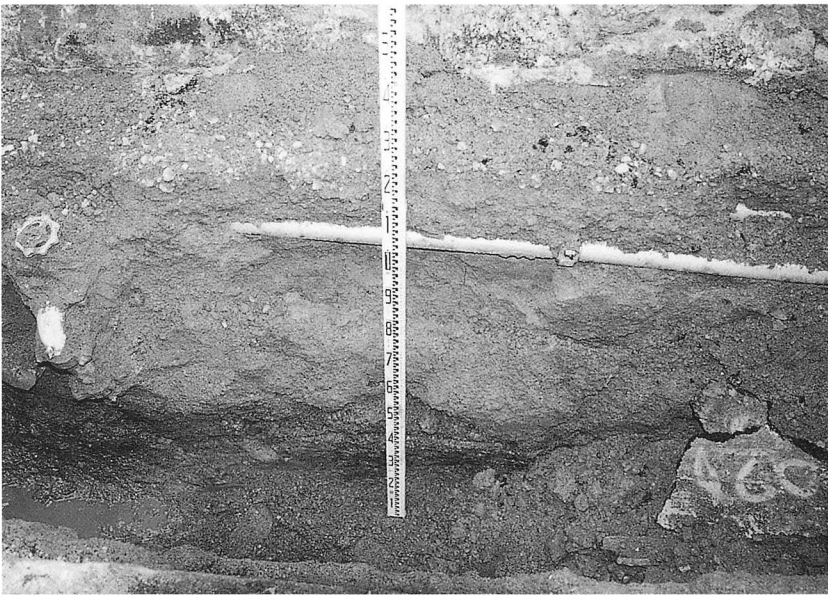
今回の調査では、A-20地区から弥生時代～近世期の遺物が出土した。当地区は第3次調査地の南西方向に位置する。第3次調査はA地区とB地区に調査区がわかれており、A地区の上層では室町時代と古墳時代後期の遺物が出土している。下層では弥生時代後期末～古墳時代前期の溝が検出されている。また、庄内式～布留式の土器が特に多く出土している。B地区では遺構は確認されていないが、奈良～平安時代の土器等が出土している。今回の調査で出土した土器も同時期のものを含む。遺構は確認していないが周辺に生活域が広がっていると考えられる。



出土遺物実測図



A地区調査地遠景



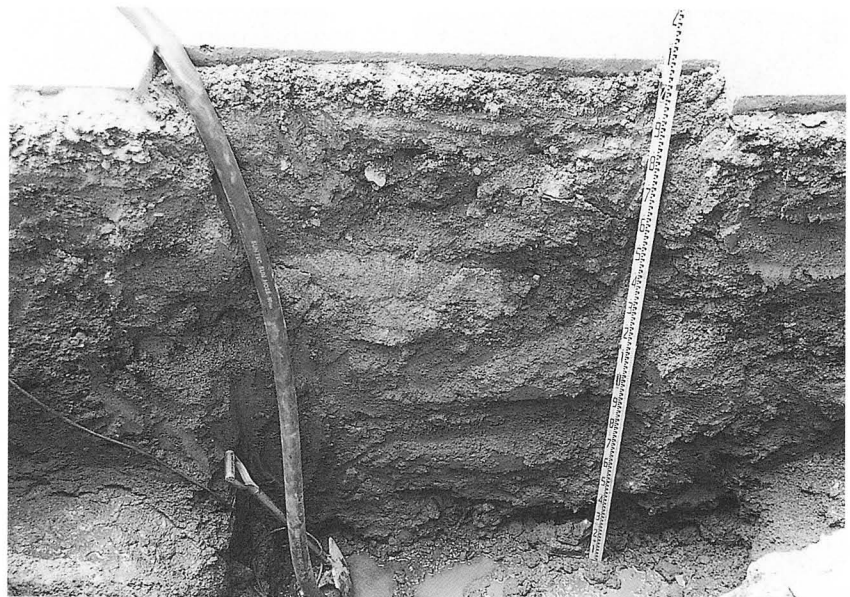
A-7地区土層断面



A-20地区土層断面



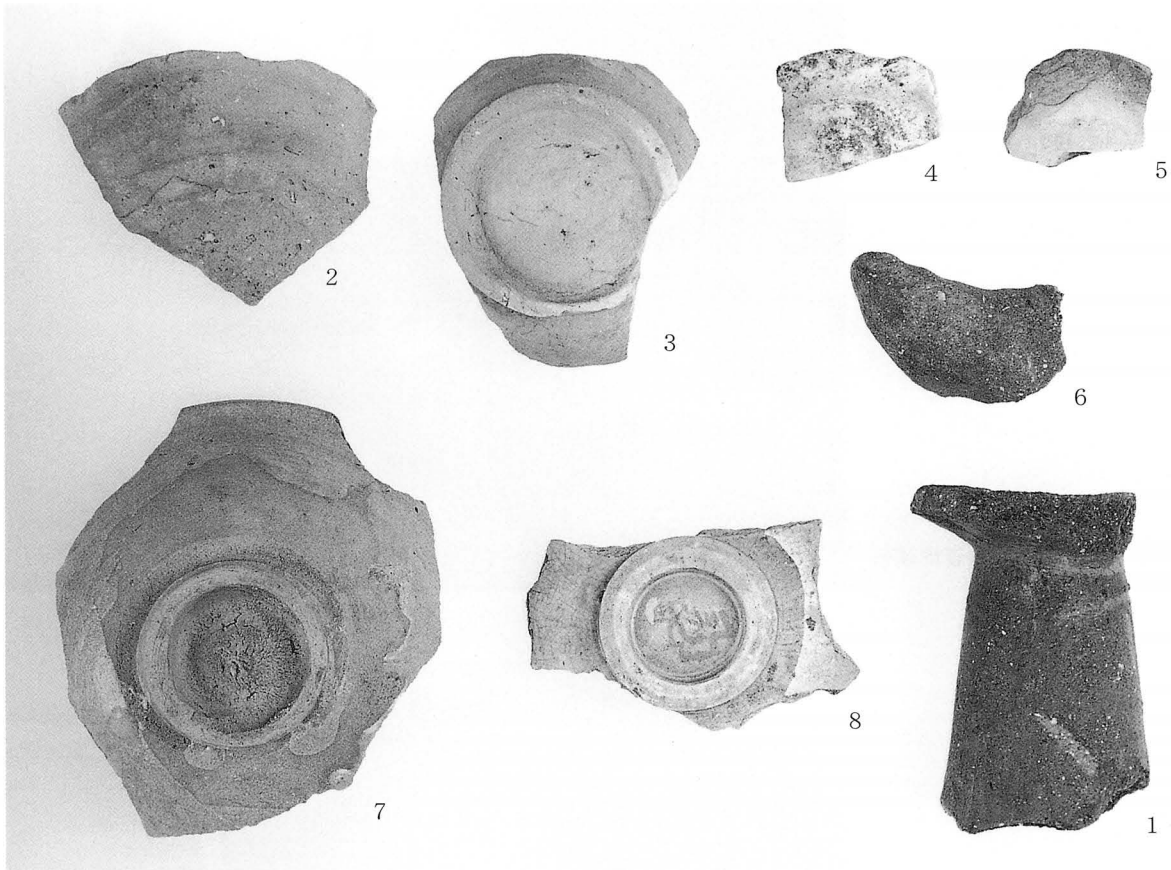
B 地区調査地遠景



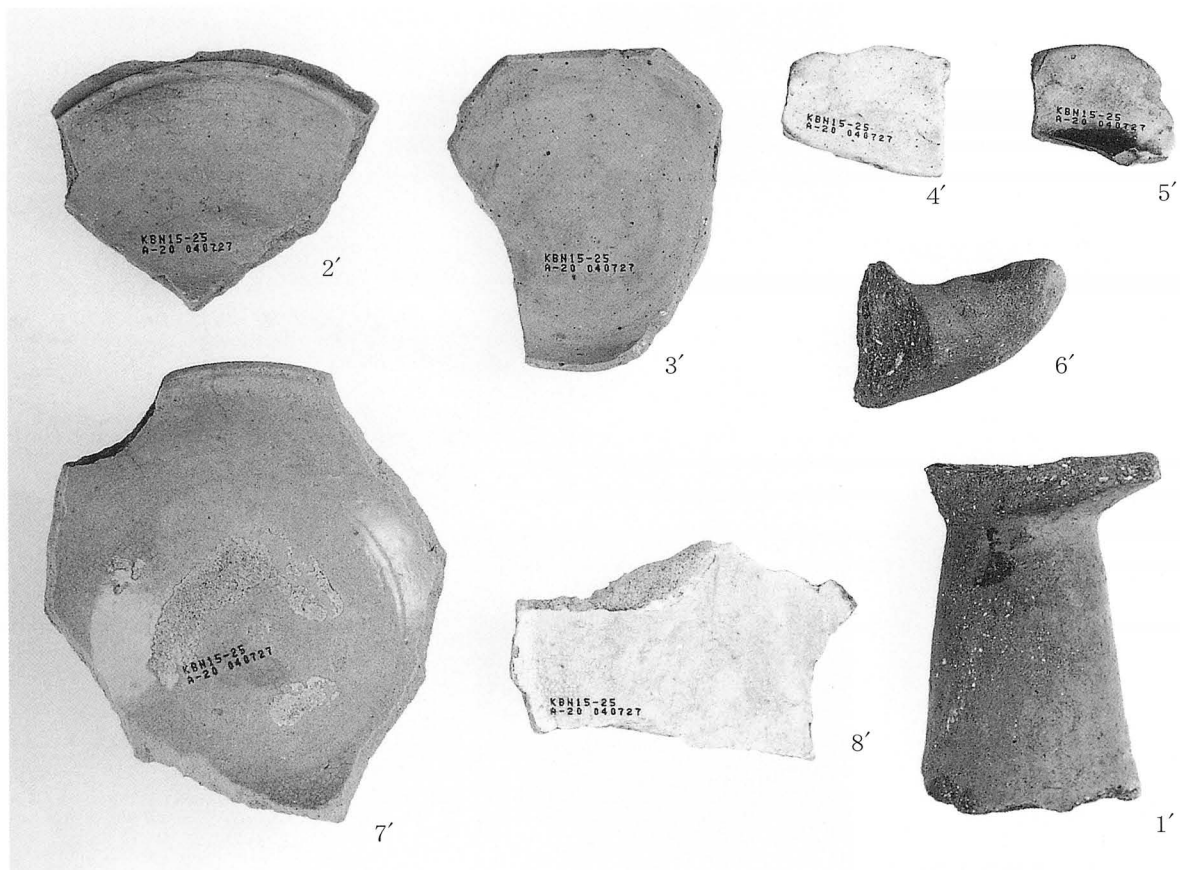
B - 2 地区土層断面



B - 8 地区土層断面



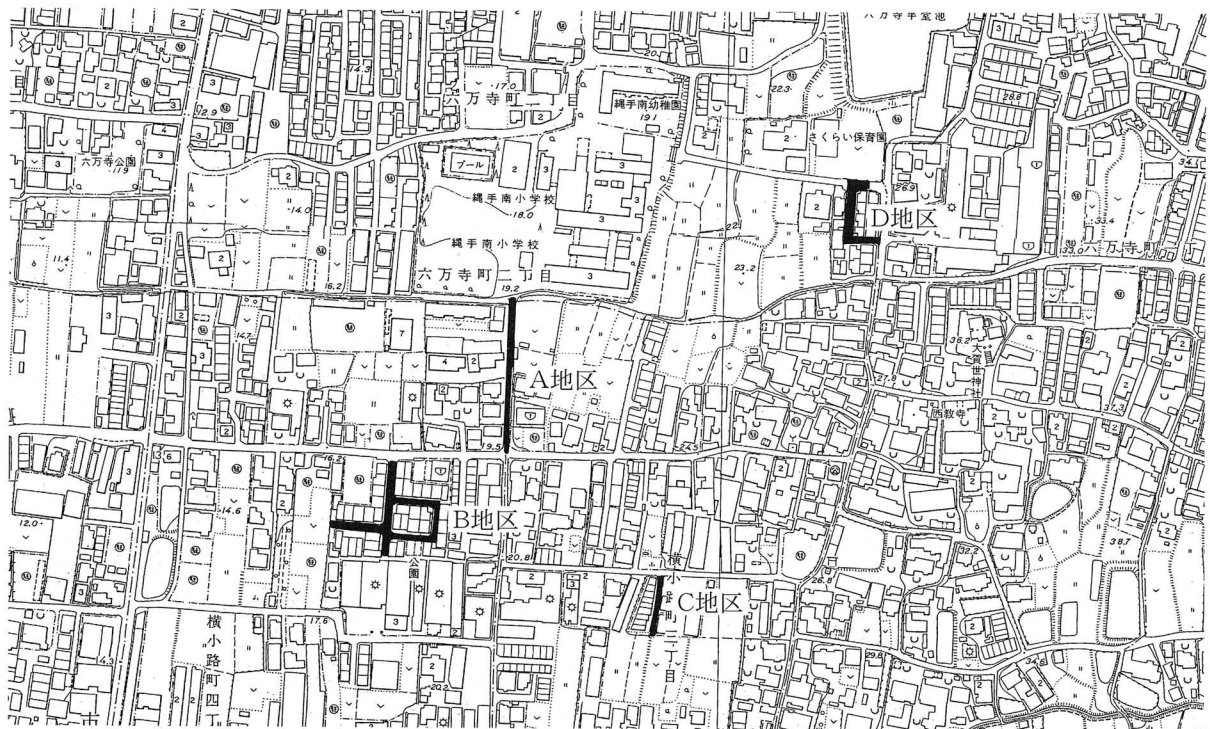
出土遺物（弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器）表



出土遺物（同上）裏

第29章 ^{きたやしき}北屋敷(第1次)・^{ばがわ}馬場川(第16次)・^{はんどう}半堂遺跡の調査

	名称	内容
1	事業名	平成15年度公共下水道第304工区管きよ築造工事
2	調査地点	東大阪市横小路町4丁目417～427
3	調査面積	298m ²
4	調査期間	平成16年5月6日～7月26日(延べ24日)
5	報告担当	福瀬
6	調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は縄手南小学校の南と東である。当地点は北屋敷・馬場川・半堂遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ351mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図(1/5000)

1. 調査の概要

調査地区はA・B・C・Dの4地区に分けた。A地区は北屋敷遺跡、B・C地区は馬場川遺跡、D地区は半堂遺跡にあたる。調査はA地区の北側より開始した。A・B・D地区で遺物が出土した。特にA・B地区は量が多い。

2. 層序

A-2地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗褐色(10YR3/3)粗粒砂混じりシルト。中世期の遺物が出土。
- 第3層 黒褐色(2.5Y3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 オリーブ褐色(2.5Y3/3)中粒砂。
- 第5層 黒褐色(2.5Y3/2)粗粒砂。中～大礫を含む。

A-7地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。中世期の遺物が出土。
- 第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。
- 第4層 灰黄褐色(10YR4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。小礫を多く含む。

B-1地区の層序

- 第1層 盛土。

B-3地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 灰色(5Y4/1)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 灰色(7.5Y4/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。縄文時代の遺物が出土。

B-4地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じりシルト。古墳時代の遺物が出土。
- 第3層 黄灰色(2.5Y4/1)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

B-9地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗緑灰色(5G3/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 緑黒色(5G2/1)粘質土。小礫を含む。

C-1地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 緑黒色(5G2/1)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第3層 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)粗粒砂混じりシルト。小礫を含む。

D-1地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗緑灰色(5G3/1)シルト。
- 第3層 暗緑灰色(5G3/1)中粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 黒褐色(10YR3/2)粗粒砂混じりシルト。
- 第5層 黒色(2.5GY2/1)細粒砂混じり粘質シルト。



土層断面柱状図

3. 出土遺物

今回の調査では縄文土器、黒色土器、須恵器、土師器などを出土した。細片が多く図化できるものは6点である。須恵器、土師器は図化できるものはなかった。

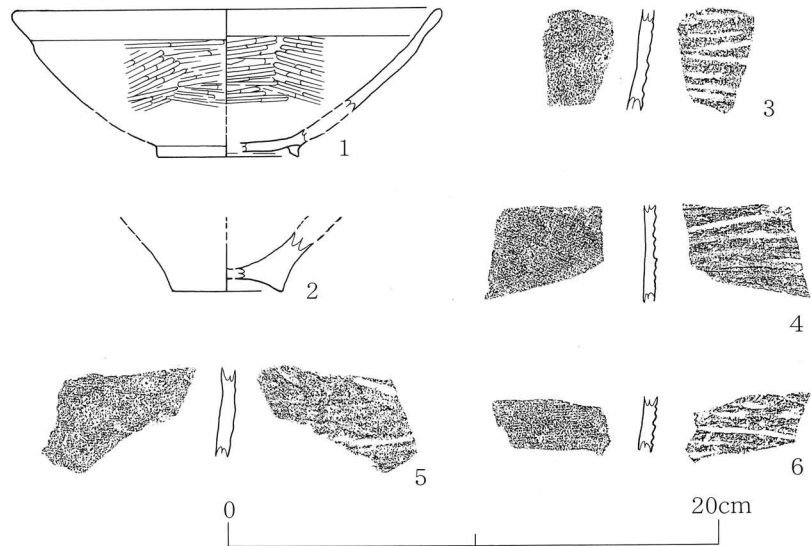
2～6は縄文土器である。2は凹底の底部である。内外面はナデ調整する。底径は4.5cm、残存高は4.0cmである。3～6は体部である。小片のため器種は不明である。内面はナデ調整する。外面は二枚貝条痕を施す。3は残存幅が2.5cm、残存高が4.5cm、6は残存幅が4.5cm、残存高が2.0cm、4は残存幅が4.5cm、残存高が2.3cm、5は残存幅が5.5cm、残存高が3.6cmである。胎土中に角閃石を含むことから生駒西麓産である。晩期のものである。2～4・6はB-3地区、5はB-5地区より出土した。

1は黒色土器の椀である。底部と体部に分かれるが同一個体と考えられる。断面形が台形の高台が付く。底部が内弯気味に立ち上がり口縁部がわずかに外反する。口縁

端部は丸く終わる。内外面は密なヘラミガキ調整する。体部は口径が17.0cm、残存高が4.0cmである。底部は底径が5.5cm、残存高が1.0cmである。内外面が黒色を呈する。いわゆる黒色土器B類に分類される。森編年の畿内系V-VIII期に相当する。11世紀前半のものである。A-2地区より出土した。

4. まとめ

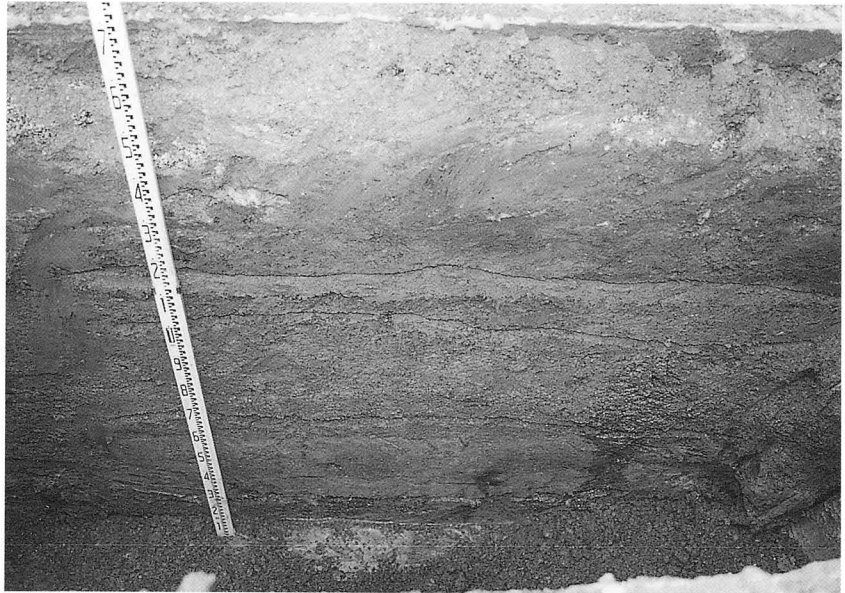
今回の調査ではA地区においては中世期の遺物、B地区においては縄文～古墳時代の遺物が多く出土した。特にB-3～5地区は出土量が多い。C地区では遺物は出土しなかった。D地区は古墳時代～中世期の遺物を出土しているがA・B地区に比較して量は少ない。また、遺構は確認することはできなかった。A地区の周辺には平安時代の集落が存在する可能性が考えられる。B地区は馬場川遺跡内である。当遺跡は縄文時代中期～晩期の集落遺跡として著名である。B地区の東に位置する第7、8次調査では縄文時代晩期の遺構、遺物が多く確認されている。今回もB-3・6地区において縄文時代晩期の土器が多く出土した。これにより第7、8次調査の成果を追認することができた。



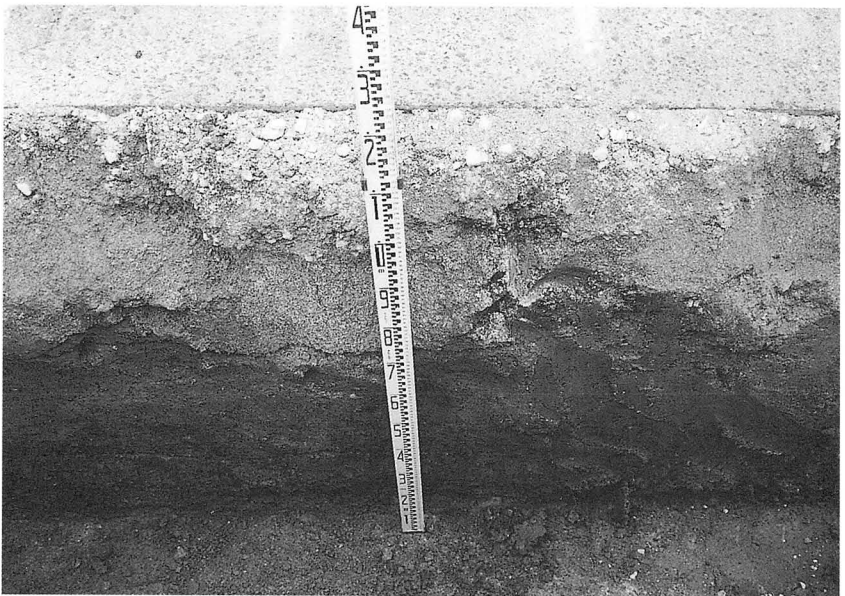
出土遺物実測図



A地区調査地遠景



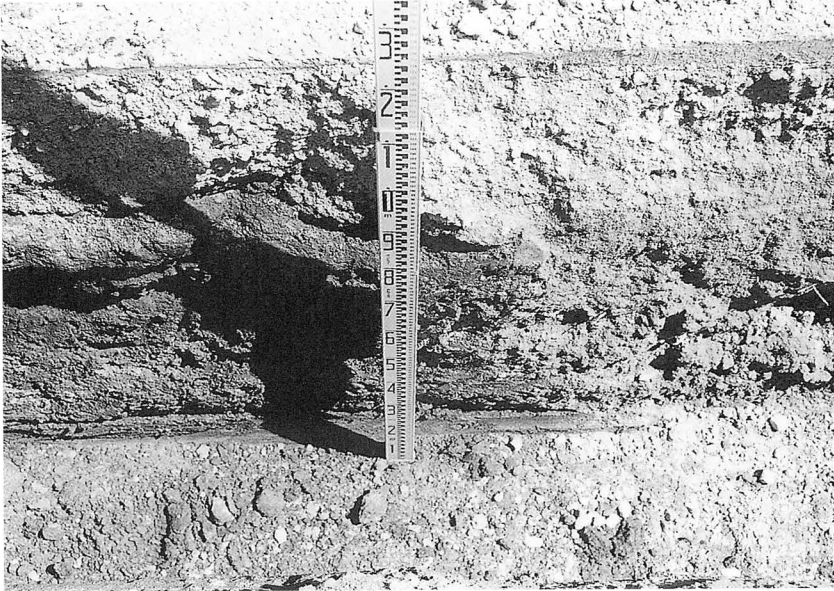
A - 2 地区土层断面



A - 7 地区土层断面



B - 3 地区土层断面



B-9 地区土层断面



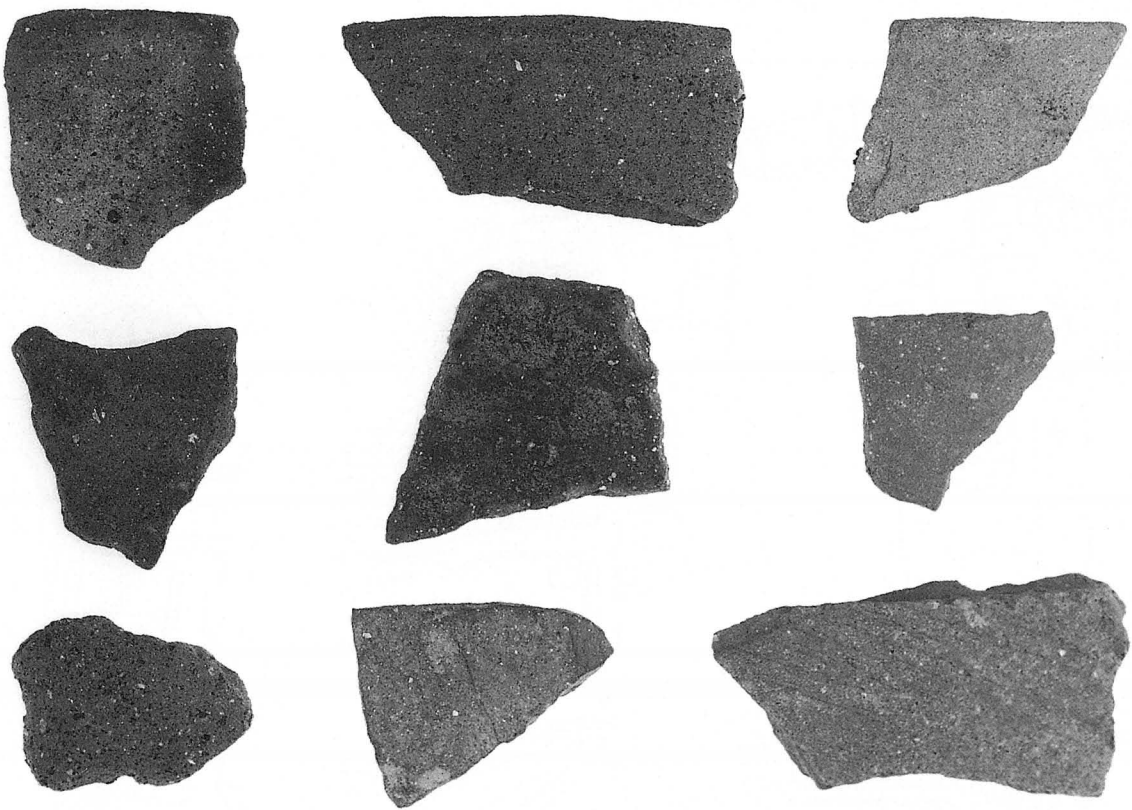
C-1 地区土层断面



D-1 地区土层断面



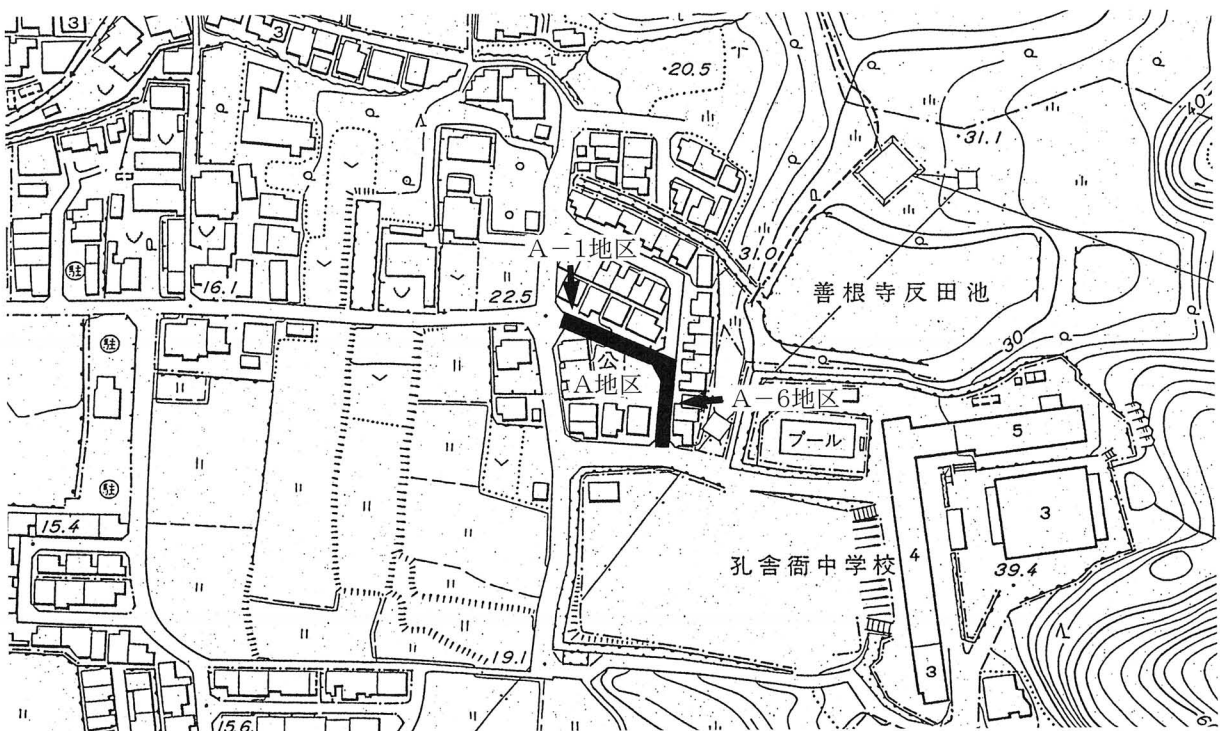
出土遺物（縄文土器・弥生土器・黒色土器）



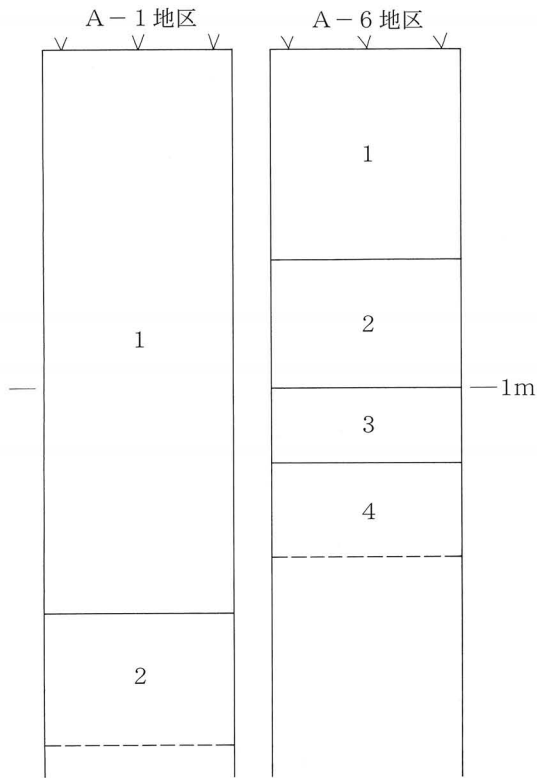
出土遺物（縄文土器・土師器・須恵器）

第30章 ぜんこんじ 善根寺遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第307工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市善根寺町1丁目667～674
3	調 査 面 積	57㎡
4	調 査 期 間	平成16年7月16日～7月22日（延べ4日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は孔舎衙中学校の西である。当地点は善根寺遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ67mの間であり、開削工法である。</p>



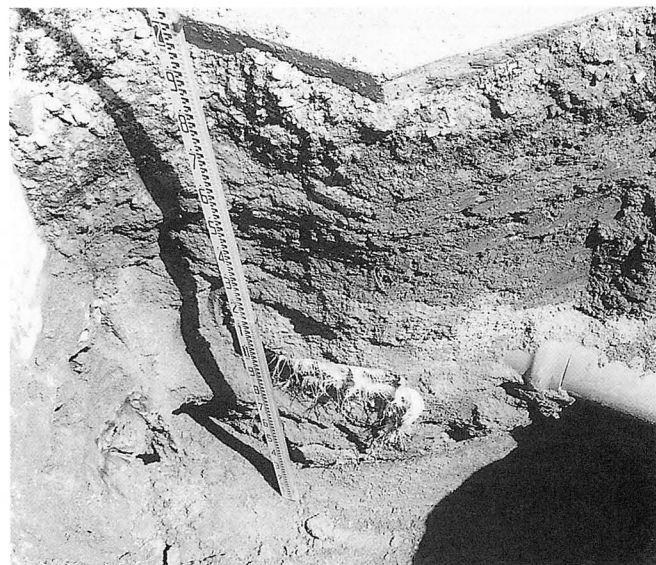
調査地点位置図（1/2500）



土層断面柱状図



A 地区調査地遠景



A-1 地区土層断面



A-6 地区土層断面

1. 調査の概要

A-1 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂混じりシルト。

A-6 地区の層序

第1層 盛土。

第2層 灰オリーブ色(5Y4/2)粗粒砂～小礫混じりシルト。

第3層 黄褐色(2.5Y5/3)粘質土。

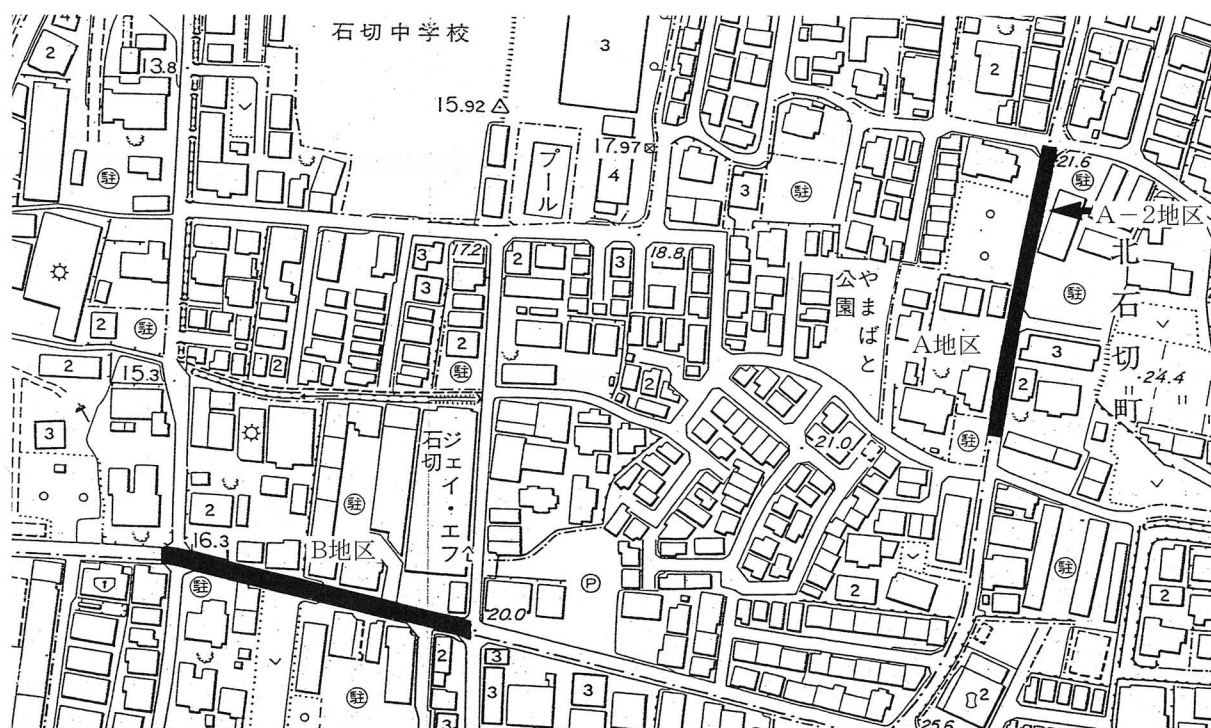
第4層 暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)中粒砂。

2. まとめ

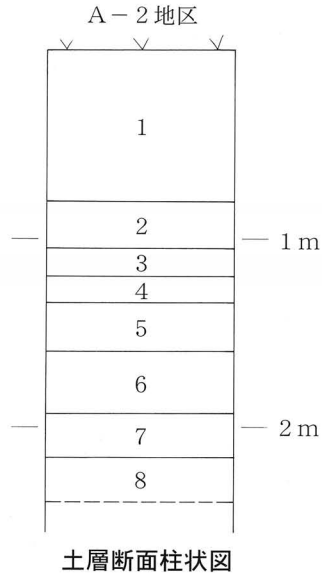
立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。

しばがおか ひがしこうや
第31章 芝ヶ丘遺跡・東高野街道の調査

名 称	内 容
1 事業名	平成15年度公共下水道第52工区管きょ築造工事
2 調査地点	東大阪市中石切町4丁目2088～2092、2175～2178
3 調査面積	81㎡
4 調査期間	平成16年6月23日～10月1日（延べ21日）
5 報告担当	才原
6 調査の経過	<p>上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切中学校の南と北である。当地点は芝ヶ丘遺跡・東高野街道内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ88mの間であり、開削+推進工法である。</p>



調査地点位置図（1/2500）



A地区調査地遠景

1. 調査の概要

A-2地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 灰黄色(10YR4/2)細粒砂～小礫混じり粘質シルト。
- 第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂～小礫混じりシルト。
- 第4層 灰オリーブ色(5Y5/2)中粒砂。
- 第5層 暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。
- 第6層 オリーブ灰色(2.5GY5/1)細粒砂混じりシルト。
- 第7層 オリーブ灰色(5GY5/1)細粒砂。
- 第8層 褐灰色(10YR4/1)細粒砂混じり粘質シルト。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった。



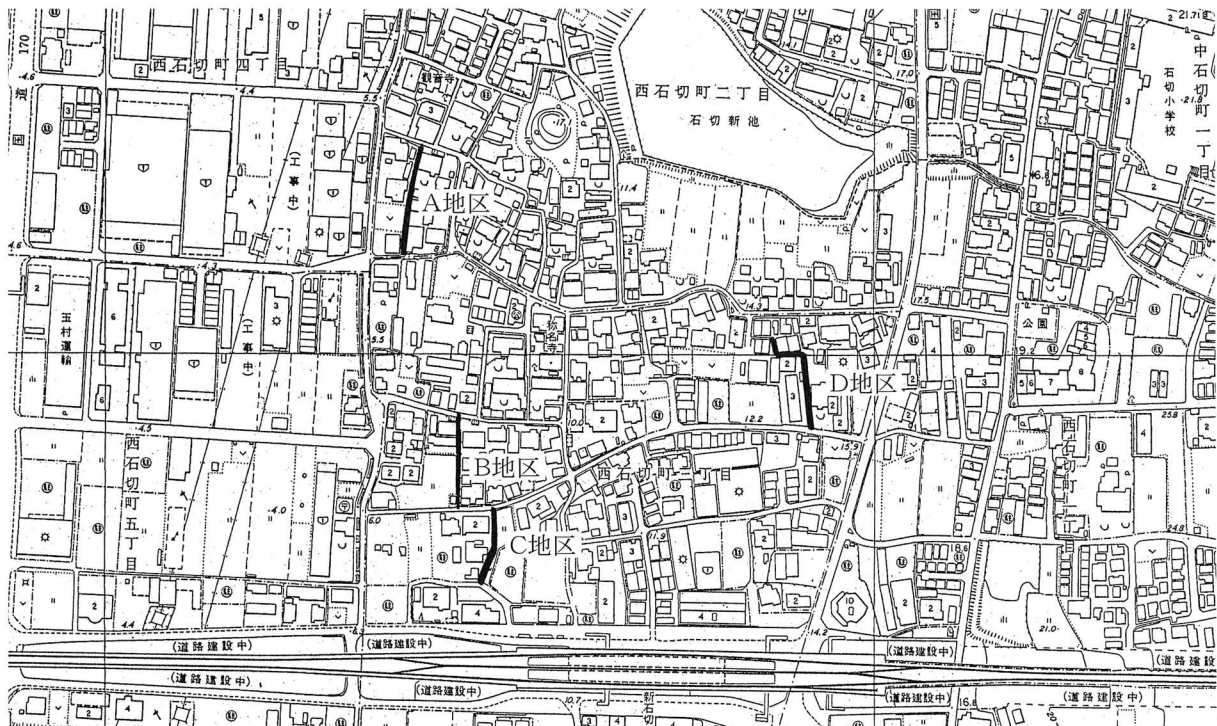
A-2地区調査状況



A-2地区土層断面

第32章 うえつけ 植附遺跡の第16次調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第305工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市西石切町 3丁目164～166、208、209他
3	調 査 面 積	199㎡
4	調 査 期 間	平成16年 8月3日～10月18日 (延べ31日)
5	報 告 担 当	川本
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は近鉄東大阪線新石切駅の北である。当地点は植附遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ234mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1 / 5000)

1. 調査の概要

調査地区は便宜上A～D地区に分ける。A・C・D・B地区と順次調査を行った。

D地区の中程に位置するD-3地区とB地区の北側に位置するB-13地区で中世期の遺物包含層を確認した。D-3地区では中世期の土坑も検出した。また、B-12・13地区で古墳時代の遺物包含層を確認することができた。円筒埴輪、形象埴輪を含む埴輪が多く出土した。

2. 層序

A-2地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂混じりシルト～粘質シルト。
- 第3層 緑黒色(5G2/1)粗粒砂混じり粘質シルト。

B-6地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(10YR3/2)細粒砂混じりシルト。古墳時代の遺物包含層である。
- 第3層 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂混じり粘質シルト。

B-12地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂混じりシルト。古墳時代の遺物包含層である。
- 第3層 黒色(10YR2/1)細粒砂混じり粘質シルト。
- 第4層 黒褐色(10YR3/2)粘質土。

B-13地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。中世期の遺物包含層である。
- 第3層 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂混じりシルト。古墳時代の遺物包含層である。
- 第4層 にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。
- 第5層 灰黄褐色(10YR4/2)粗粒砂混じり粘質シルト。小～中礫を含む。

C-2地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 暗緑灰色(7.5GY4/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。
- 第3層 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。

C-5地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 褐灰色(10YR4/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。
- 第3層 黄橙色(10YR6/3)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。

D-3地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黒褐色(10YR3/2)細粒砂混じりシルト。
- 第3層 黒褐色(2.5Y3/2)中粒砂混じりシルト。小礫を含む。中世期の遺物包含層である。
- 第4層 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。中世期の土坑である。
- 第5層 黄褐色(2.5Y5/3)細粒砂。

D-8地区の層序



土層断面柱状図

第1層 盛土。

第2層 暗灰黄色(2.5Y5/2)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

3. 出土遺物

今回の調査ではB-12・13地区で円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪、B-5・6地区で須恵器等が出土した。埴輪は出土状況からみて一括性の高い資料と考えられる。また、中世の遺物は細片が多く図化できるものはなかった。

円筒埴輪の記載にあたっては川西宏幸氏の「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号 1978年を参考にする。

埴輪(図1～54)

1～34は円筒埴輪である。タガ部は低い。断面形が台形を呈し、やや窪みを持つ。M字形を呈する。退化したものである。タガ部は横ナデ調整する。V期のものである。

1～9は須恵質である。

1・4・5は口縁部から一段目のタガ部までが残る。体部はやや外傾する。口縁部内外面は横ナデ調整、体部外面は斜め方向のハケメ調整する。1は口縁部がやや外反して、口縁端部が窪みを持つ。

1段目と2段目のタガ部の間に円形の透かし孔を持つ。口縁部内面は指ナデ調整する。内面には接合痕が残る。口径20.2cm、残存高14.8cmを測る。4は口縁部が外反して、口縁端部が面を持つ。内面はナデ調整する。口径20.0cm、残存高8.5cmを測る。5は口縁部が強く外反し、口縁端部が面を持つ。内面は下部を指ナデ、上部を板ナデ調整する。口径17.0cm、残存高8.0cmを測る。色調は橙色である。胎土中には長石、クサリ礫、雲母を含む。

2・3は口縁部である。2は口縁部が外傾して、口縁端部は面を持つ。外面は斜め方向のハケメ調整する。内面は剥離しているため調整法が不明である。口径22.0cm、残存高3.5cmを測る。3は体部がやや外傾する。口縁部はやや外反し、口縁端部が窪みを持つ。外面は斜め方向のハケメ調整、内面は指ナデ調整する。口縁端部は内外面を横ナデ調整する。色調は外面が灰褐色、内面が橙色である。胎土中には長石、クサリ礫、雲母を含む。

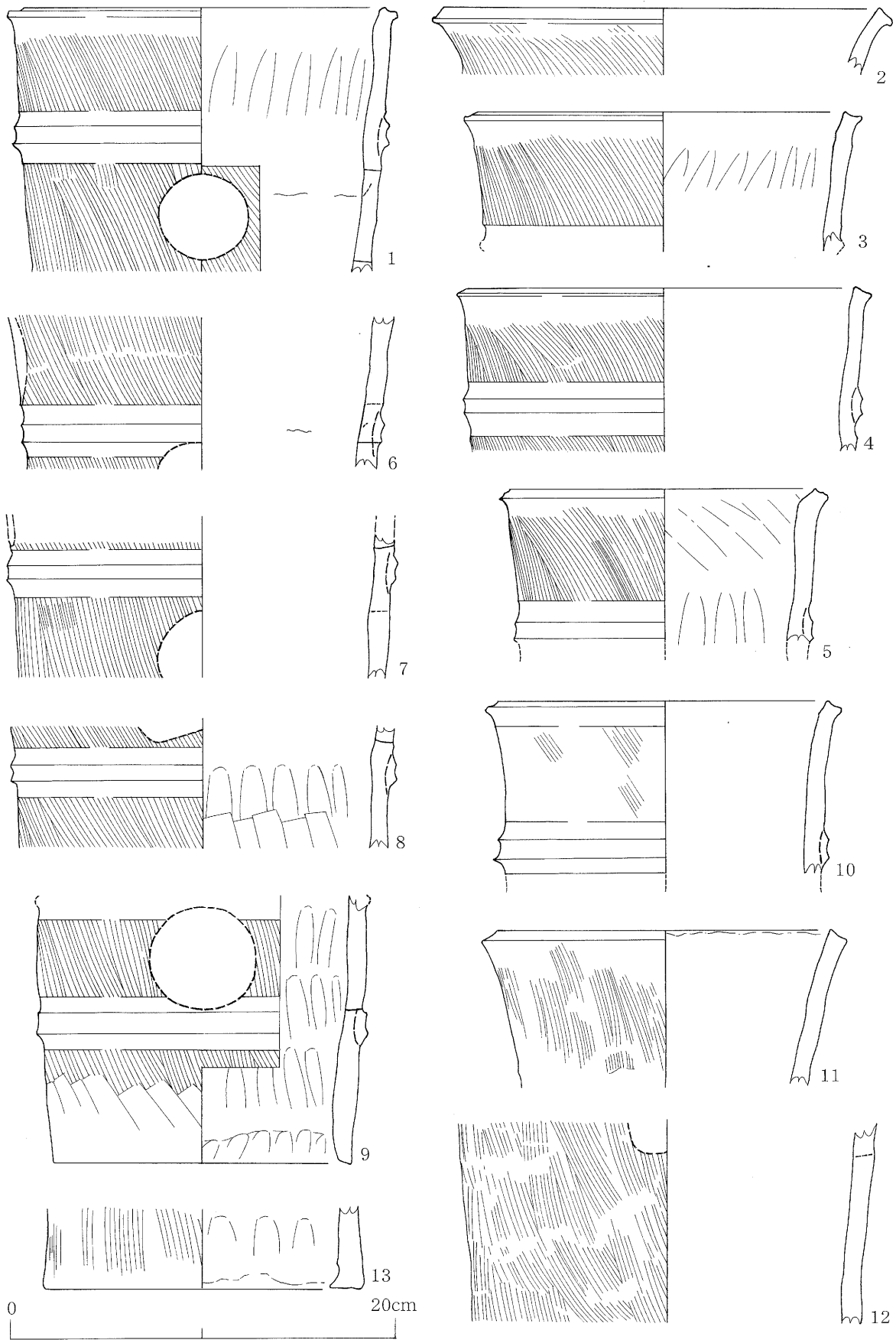
6～8は体部であり、タガ部が残る。外面は斜め方向のハケメ調整する。6はやや外傾する。タガ部を挟んで上下に円形の透かし孔を持つ。内面はナデ調整する。7・8はほぼ直立する。7は円形の透かし孔を持つ。内面は板ナデ調整する。8は透かし孔を持つ。内面は指ナデ調整と板ナデ調整する。色調は外面が灰褐色、内面が橙色である。胎土中には長石、クサリ礫、雲母を含む。

9は基部から一段目のタガ部までが残る。基部より体部までほぼ直立する。タガ部の2段目に円形の透かし孔を持つ。外面は底部付近をナデと板ナデ調整、体部は斜め方向のハケメ調整する。内面は指ナデ調整する。基部と底部の接合部に指頭圧痕が残る。色調は橙色である。胎土中には長石、クサリ礫、雲母を含む。底径15.4cm、残存高14.0cmを測る。2と6～8及び、4と9は色調、胎土などから同一個体と思われる。

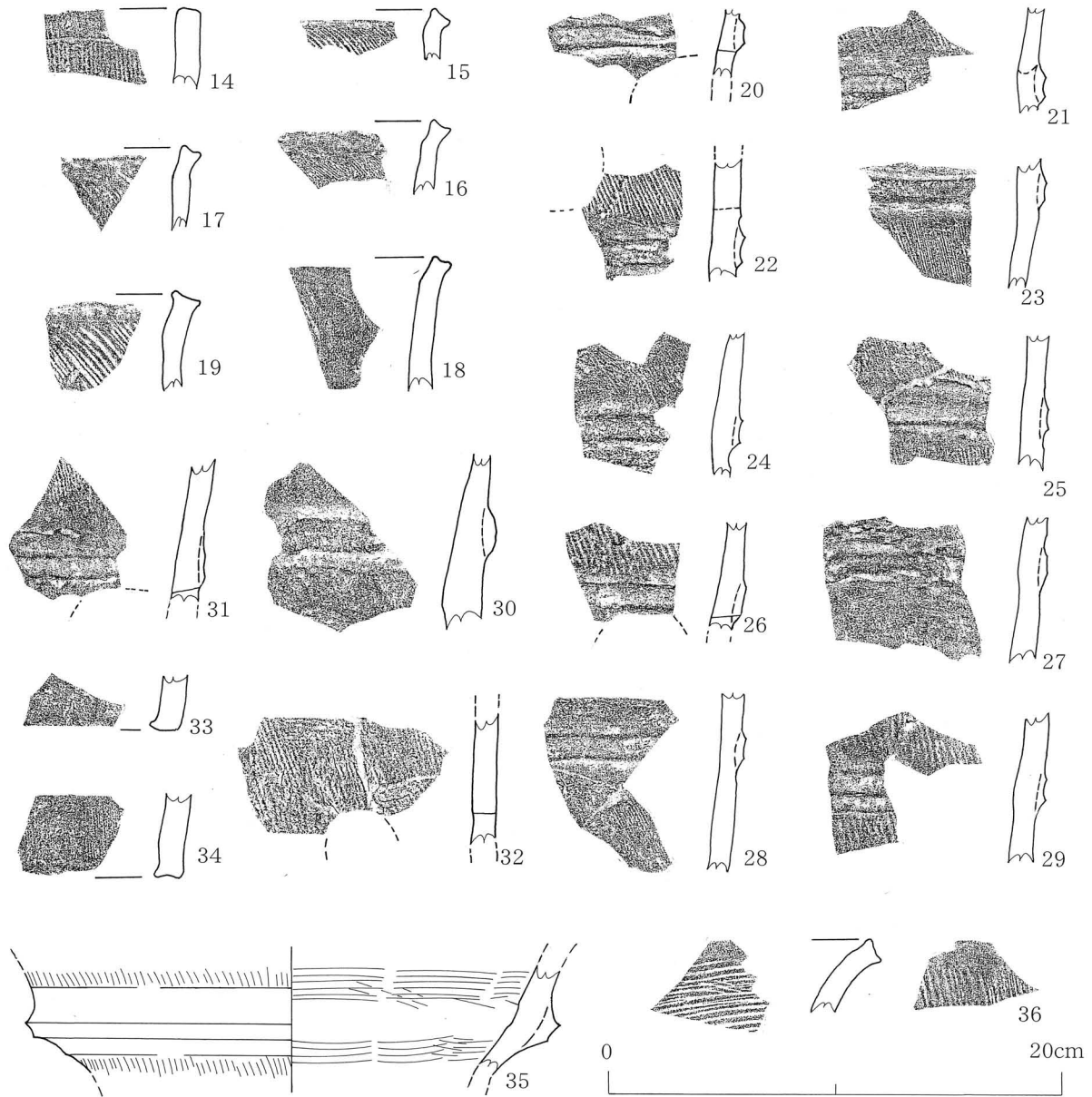
10～34は土師質である。

10は口縁部から一段目のタガ部までが残る。体部からやや外傾して口縁部に至る。口縁部はやや外反して、口縁端部は窪みを持つ。風化しているため調整法は不明であるが、外面の一部に斜め方向のハケメ調整が残る。口径18.6cm、残存高9.0cmを測る。色調は橙色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。

11は口縁部である。体部は外傾する。口縁部はやや外反して、口縁端部が面を持つ。外面は斜め方向のハケメ調整、内面は指ナデ調整する。口径17.5cm、残存高8.1cmを測る。色調は橙色である。胎



出土遺物実測図



出土遺物実測図

土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。

12は体部である。体部は直立する。透かし孔を持つ。外面は斜め方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。色調は橙色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。

13は基部から底部が残る。基部底面は平らな面を持つ。底部はほぼ直立する。底部外面は縦方向のハケメ調整、基部は横ナデ調整する。体部内面は指ナデ調整する。基部と底部の接合部に指頭圧痕が残る。底径16.0cm、残存高4.2cmを測る。

14～34は破片であり、復元実測ができなかったものである。

14～19は口縁部である。14は口縁端部が面を持つ。口縁部に横方向の線刻を1条施す。15～19は口縁部がやや外反する。口縁端部が窪みを持つ。外面は口縁端部を横ナデ調整する。口縁部は14が縦方向のハケメ調整、15～19は斜め方向のハケメ調整する。内面はナデ調整する。色調は橙色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。

16～32は体部である。16～31はタガ部が残る。27・30はタガ部を指で押し当てて成形する。22・

26・32は円形の透かし孔を持つ。タガ部を横ナデ調整する。外面は斜め方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。色調は橙色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。

33・34は基部から底部が残る。底部はやや外傾する。基部の底面は33が平らな面を持ち、34は窪みを持つ。34は外面をハケメ調整する。33は風化しているため外面の調整法は不明である。内面はナデ調整する。基部と底部の接合部に指頭圧痕が残る。色調は橙色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。

35・36は朝顔形埴輪である。

35は頸部とタガ部の一段目が残る。口縁部は欠損する。頸部は大きく外傾する。外面はタガ部が横ナデ調整する。外面は横方向の粗いハケメ調整する。内面は横方向の粗いハケメ調整するが、中位はその後、横ナデ調整する。36は口縁部の破片である。頸部は大きく外傾する。口縁部は外反し、口縁端部がやや窪みを持つ。外面は縦方向、内面は横方向の粗いハケメ調整する。色調は灰白色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。35と36は調整、胎土、色調から同一個体と思われる。

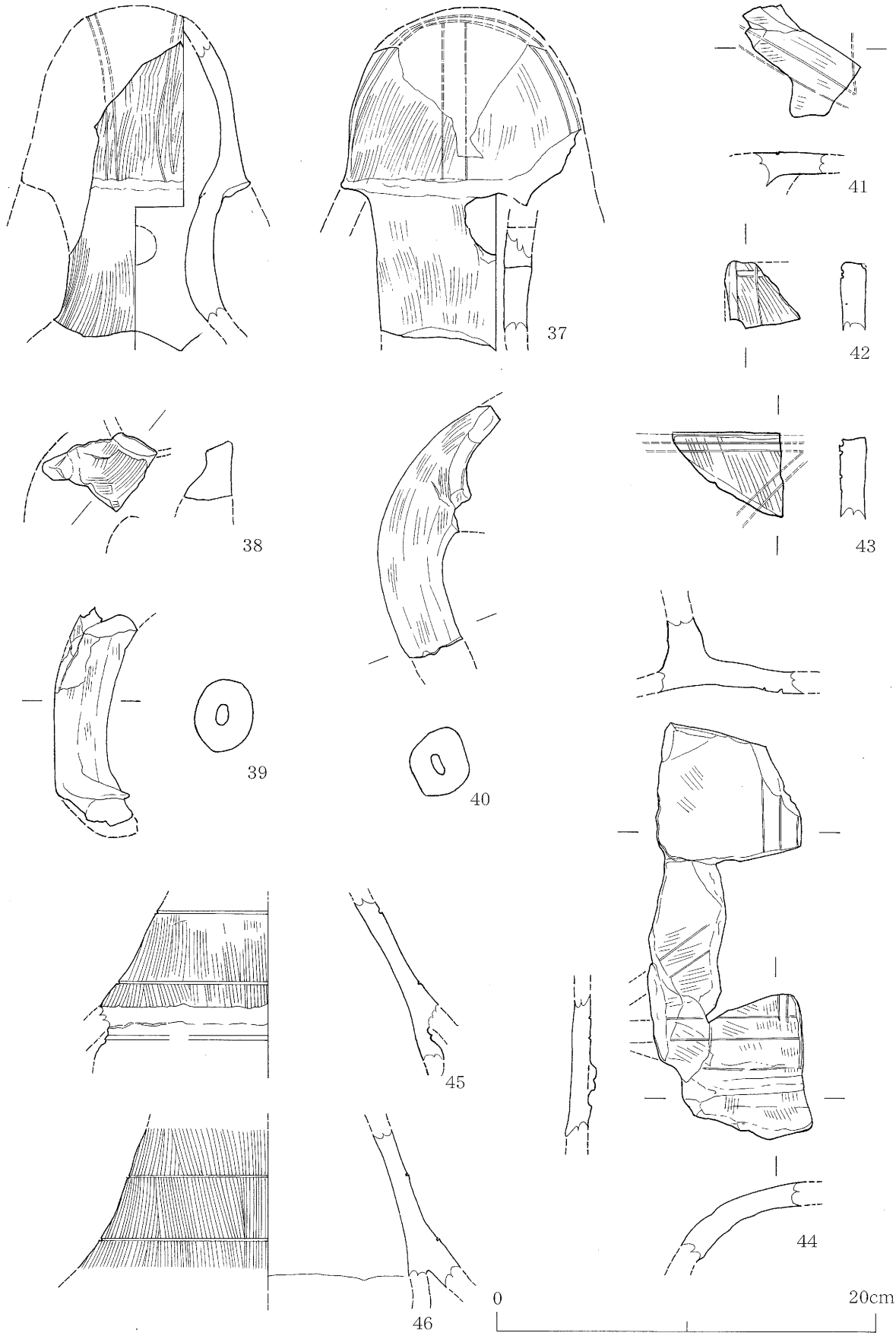
37～54は形象埴輪である。

37は甲冑形埴輪である。時期は異なるが、大阪府蕃上山古墳出土の甲冑形埴輪に似ており、本資料は簡略化したものと考えられる。人物に甲冑をつけた埴輪であるが、本資料は肩部より下は欠損する。また、頭部の前面部も一部しか残っていない。頸部は筒状を呈し、下半でやや広がる。横断面が楕円形を呈することから幅広の面が前面と後面になる。幅狭の面が側面となり、肩部へ続く。頸部上半はほぼ直立して頭部と一体となる。頸部上半に円形の透かし孔を穿ち、顔面とする。頭部は冑を装着した状態を表現する。冑は復元すると、前面から後面に続く2条1単位の線刻を2帯施す。側面にもそれに直交する2条1単位の線刻を施す。冑の下部には剥離痕が認められ、これより下にスカート状に広がる冑の下部が表現されていたと考えられる。外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。内面には指頭圧痕が残る。色調は橙色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。

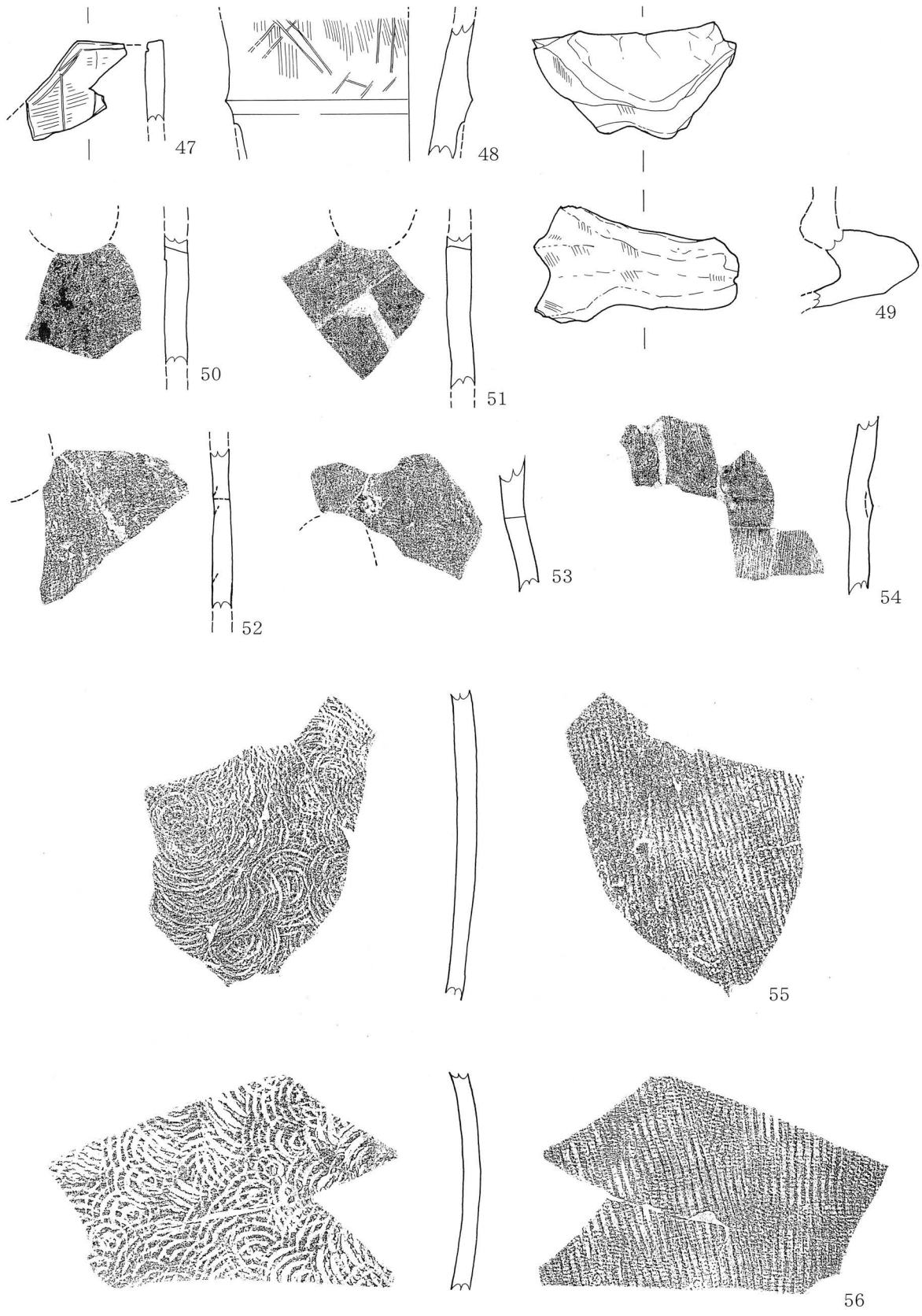
38～40は人物埴輪である。38は肩部である。体部と腕部に接続する部分である。外側に弯曲する。上部に円形と思われる透かし孔の一部が残る。器壁は上部が薄く、下部が厚い。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。内面には接合痕が残る。39・40は腕部である。中空であるが、穴の径は小さい。39は肘部下付近から手部が残る。肘部下付近からやや内弯し、手部が内側に屈曲する。屈曲部分から粘土を接合し、指を表現する。指は一部しか残っていない。外面はナデ調整するが、一部にハケメ調整が残る。内面はナデ調整する。40は肩部から上腕が残る。肩部から包み込むように内弯する。肩部に円形を呈するの透かし孔の一部が残る。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。色調は橙色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。

41～44は盾形埴輪である。41～43は細片である。片面に線刻を施す。41は縦方向に1条と斜め方向に2条の線刻が残る。内面はナデ調整する。42は上縁部と側縁部が残存する。上縁部と側縁部に2条の線刻を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。43は上縁部が残存する。上縁部に平行する2条の線刻と斜め方向に2条の線刻を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。44は盾部の下部と円筒部が残存する。盾部の下部には横方向に2条の線刻を施し、その後、直交する縦方向の2条の線刻を施す。区画内には斜め方向に2条の線刻を施す。円筒部にタガ部が残る。タガ部は低い。断面形が台形に呈し、M字形の窪みを持つ。退化したものである。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。色調は橙色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。

45・46は衣蓋形埴輪である。裾部と円筒部の接合部付近と考えられる。裾端部は欠損する。裾部は



出土遺物実測図



0 20cm

出土遺物実測図

緩やかに外へ広がる。内面に剥離痕が残っており下部へ円筒部が続くと思われる。外面は縦方向のハケメ調整後、横方向に2条の線刻を施す。内面はナデ調整する。色調は橙色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。45と46は文様、調整などから同一個体と思われる。草摺りの可能性も考えられる。

47～54は不明品である。47はくの字状に屈曲する破片である。片面に線刻を施す。縁にそう1条の線刻と縦方向に2条の線刻を施す。器壁は薄い。外面はハケメ調整する。飾り部の一部の可能性も考えられる。48は円筒状のものである。凸帯状のものが付く。外面は縦方向と斜め方向の線刻を施す。外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。49は形が不明である。外面はナデ調整するが、一部にハケメ調整が残る。内面はナデ調整する。内外面には接合痕が残る。色調は橙色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。50～53は内外面をナデ調整する。円形の透かし孔を持つ。色調は橙色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。色調、胎土などから同一個体と思われる。54は体部の一部に凸帯があり、その下に1条の線刻が廻る。外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整する。色調は橙色である。胎土中には長石、石英、クサリ礫、雲母を含む。

須恵器(図55・56)

甕の体部である。外面を叩き調整する。内面は青海波文の当て具痕が残る。色調は灰色である。56は体部外面に自然釉がかかる。胎土中には長石、クサリ礫、雲母を含む。55はB-6地区、56はB-5地区より出土した。

4. まとめ

今回の調査成果は、多量の埴輪が出土したことがあげられる。埴輪はB-12・13地区より出土した。当地区は幅約0.9m、長さ4.0mの狭い範囲である。埴輪は地表下約0.6mより出土している。B-12地区の第2層、B-13地区の第3層であり、厚さ30cmを測る。遺物包含層内での埴輪の密度は濃い原位置を保ってはいないと考えられる。そのため破片が多い。土器などの他の遺物は出土していない。また、調査範囲が狭いので周濠や墳丘などの遺構を確認することはできなかった。埴輪の出土状況から見て遺物包含層は削平された古墳の土と考えられる。

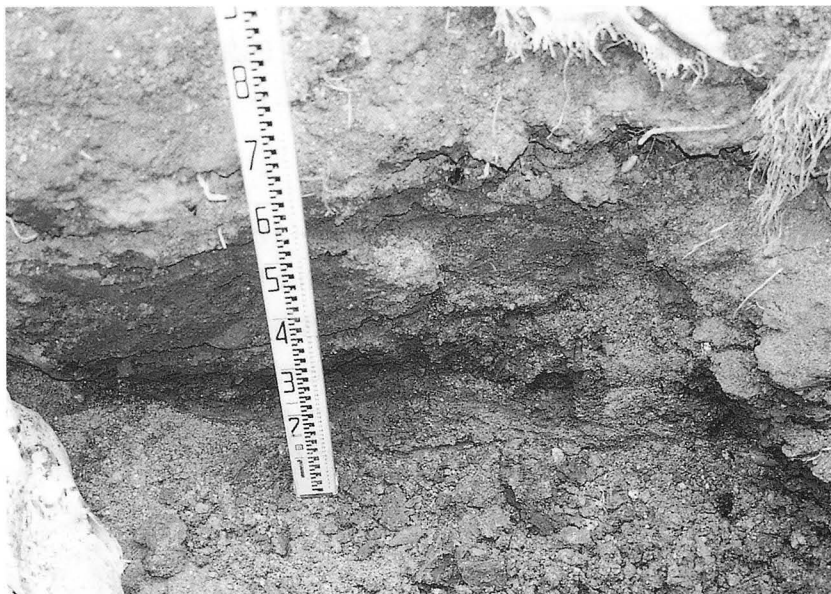
埴輪は円筒埴輪・朝顔形埴輪・形象埴輪がある。形象埴輪は、甲冑形埴輪・人物埴輪・盾形埴輪・衣蓋形埴輪等があり、種類に豊でいる。円筒埴輪の時期は川西氏の編年によるとV期であり、6世紀初頭頃のものである。形象埴輪も同時期と考えられる。

生駒西麓には現在でも数多くの古墳が残っているが、削平された古墳も古くより知られている。大賀世古墳やえのき塚古墳などがあげられる。また、発掘調査が進み、近年では舳古墳や皿池古墳などでも削平された古墳が確認されている。周濠や墳丘は確認されていないが、埴輪が多く出土する遺跡もある。平成15年度に実施した下水道事業関連の岩滝山遺跡などがあげられる。近年まで知られていなかった小型低方墳と呼ばれる墳丘の低い古墳も発見されており、今回の調査地の北西に位置する第5次調査地や段上遺跡などがある。段上遺跡からは完形の朝顔形埴輪や円筒埴輪なども見つかっている。平野部でも同様の古墳や埴輪が発見されており、小若江遺跡や瓜生堂遺跡などがある。

近年の調査成果からみると生駒西麓の扇状地には、5～6世紀の削平された古墳が数多く眠っているとされる。今回の資料は埴輪研究の参考になるものと考えられる。



A-2 地区調査状況



A-2 地区土層断面



B-6 地区土層断面



B - 12地区土層断面



B - 12地区埴輪出土状況



B - 13地区土層断面



C地区調査地遠景



C-2地区土層断面



D-3地区土層断面

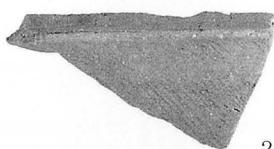


37



37'

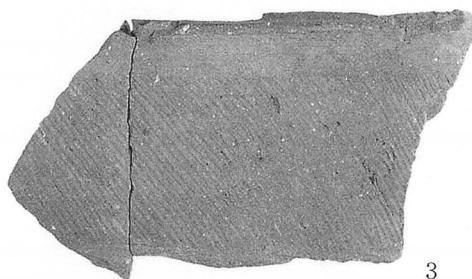
出土遺物（形象埴輪）



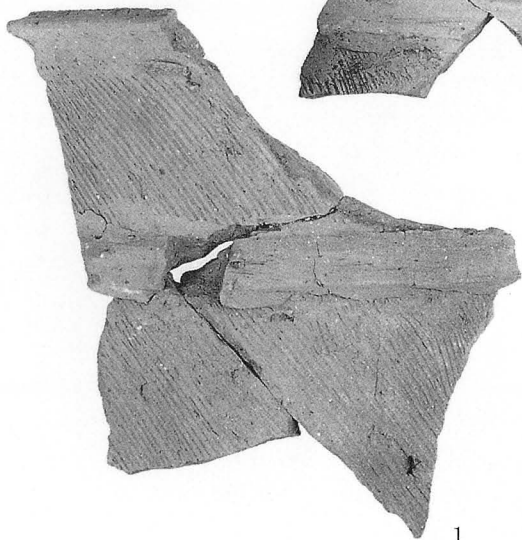
2



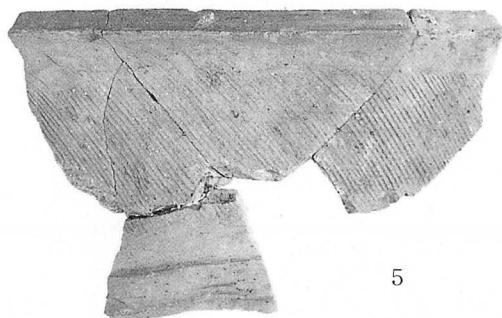
4



3

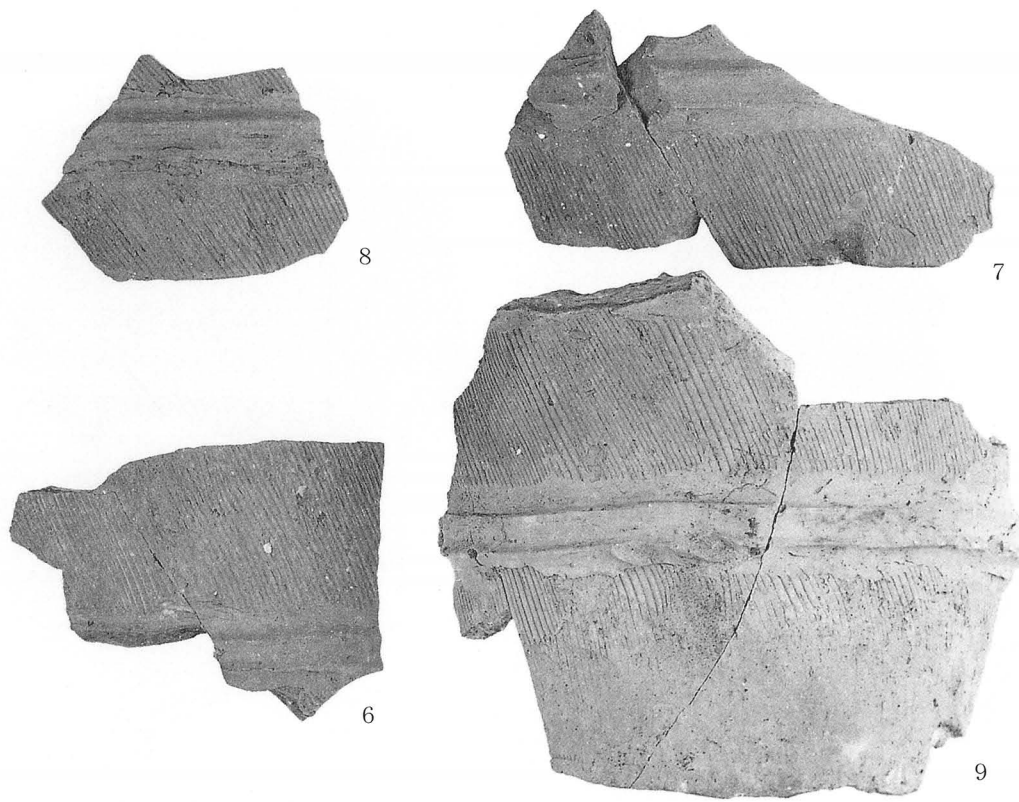


1

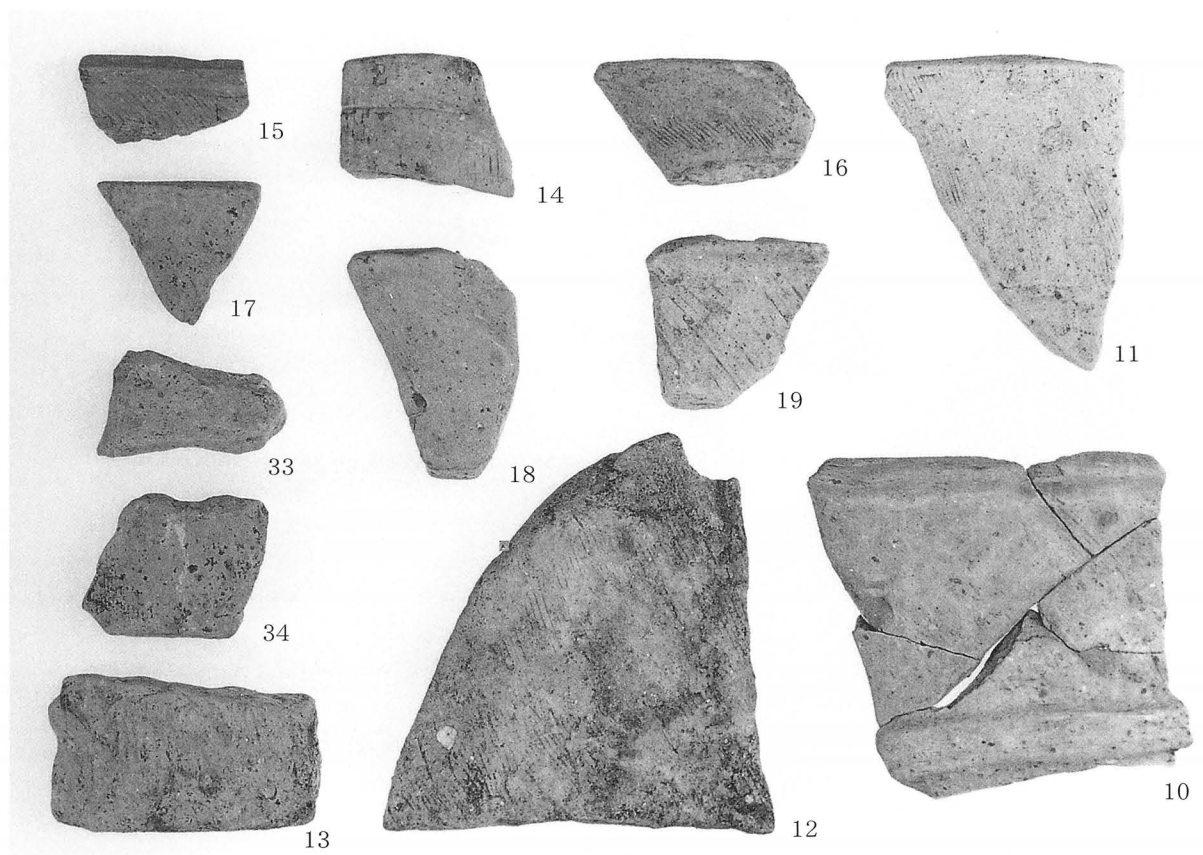


5

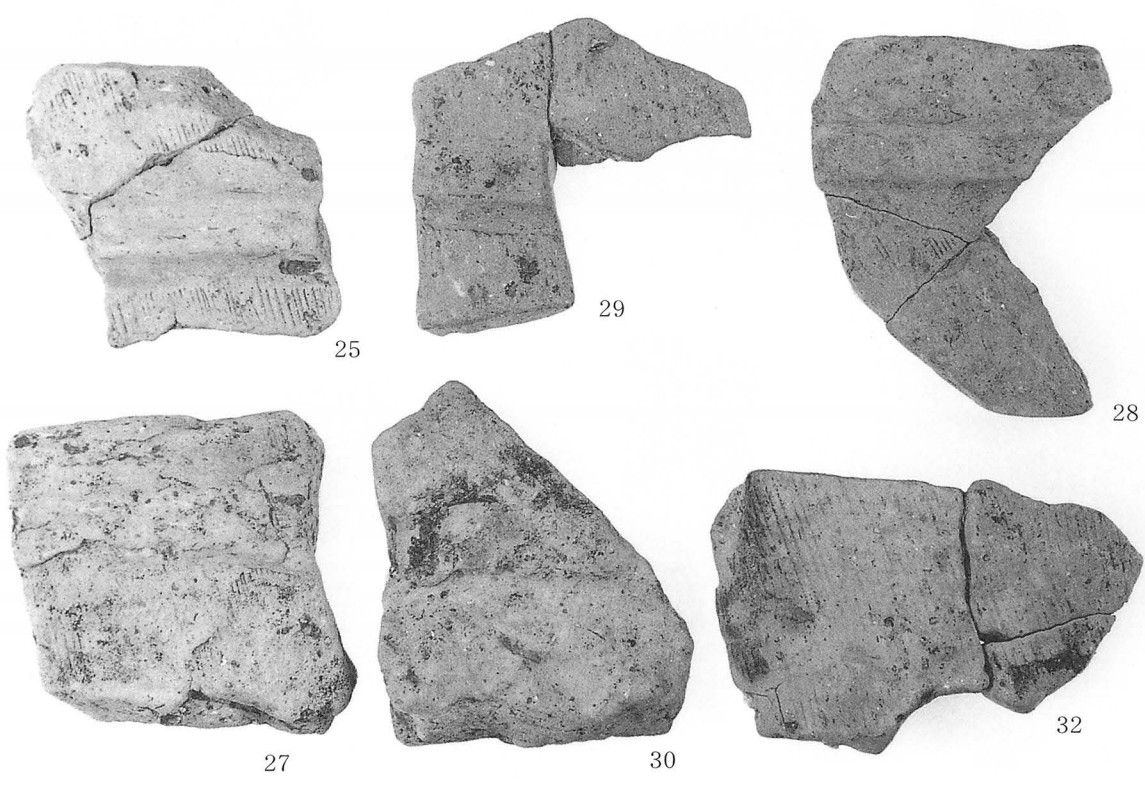
出土遺物（円筒埴輪）



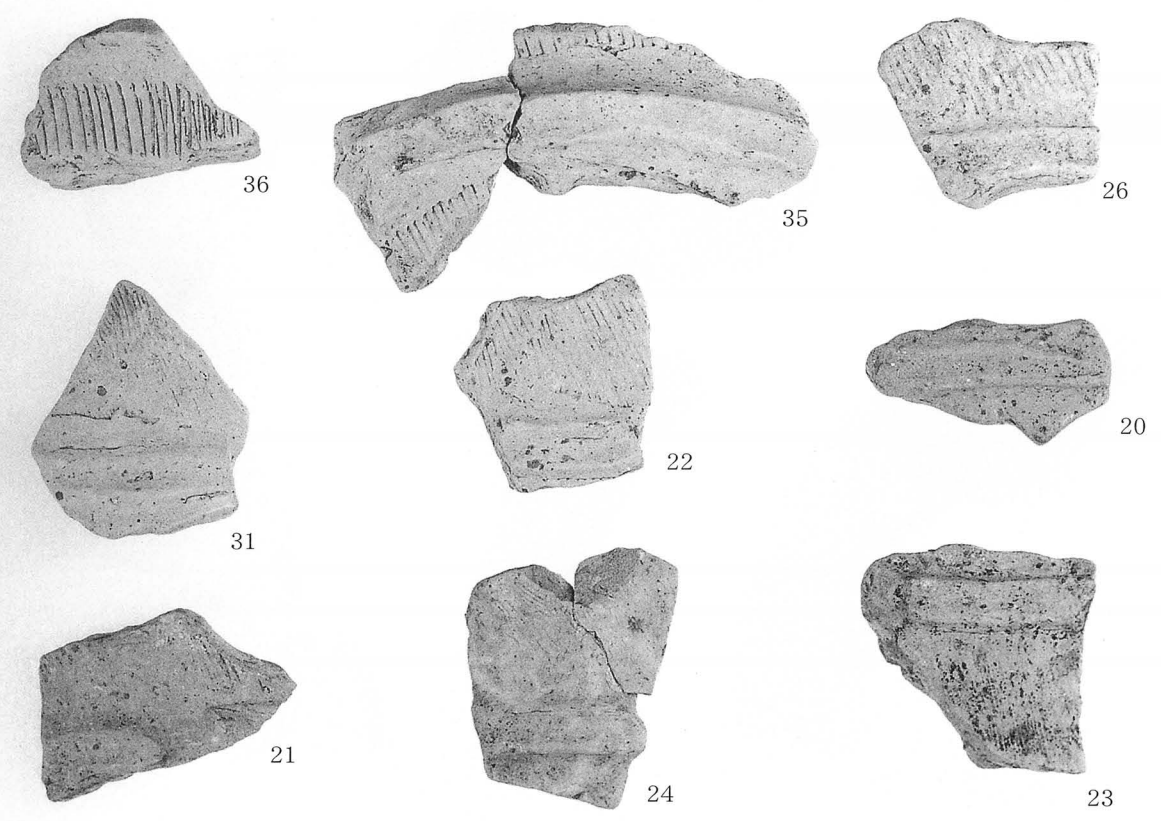
出土遺物（円筒埴輪）



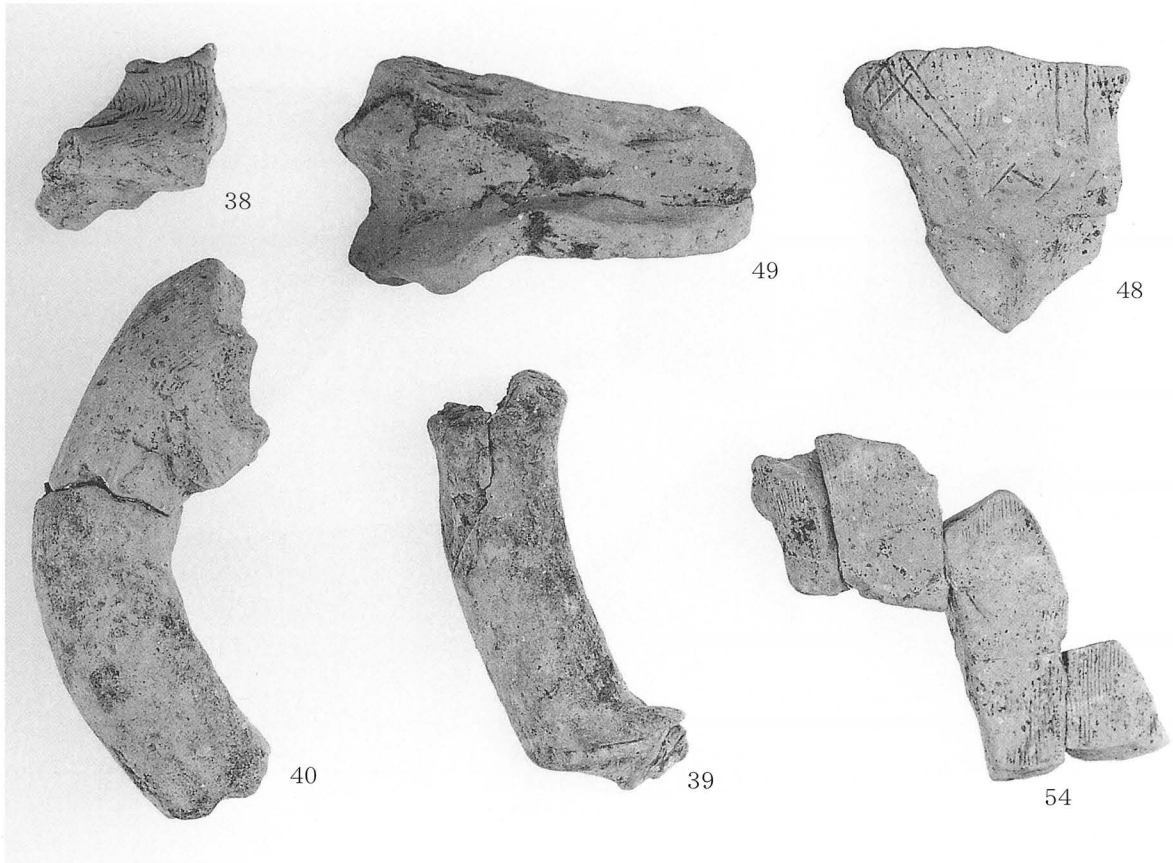
出土遺物（円筒埴輪）



出土遺物（円筒埴輪）



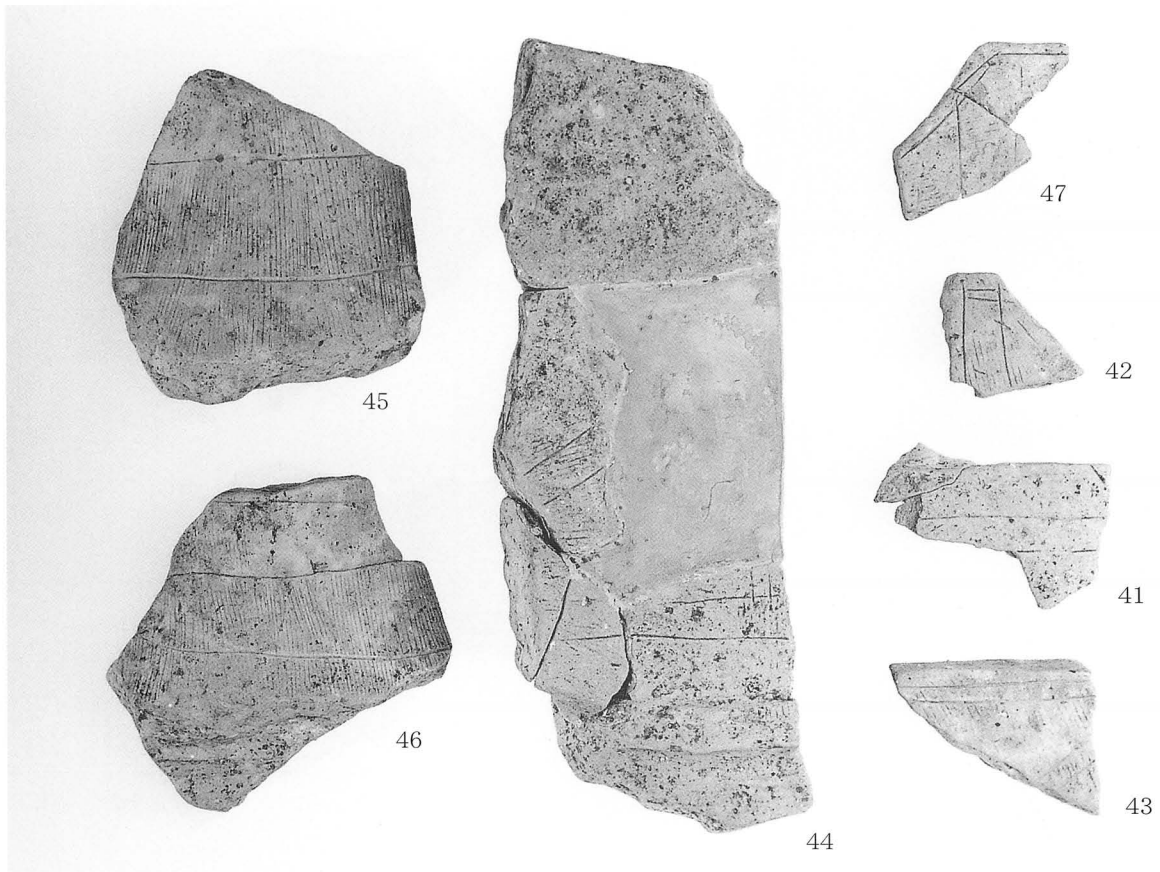
出土遺物（朝顔型埴輪・円筒埴輪）



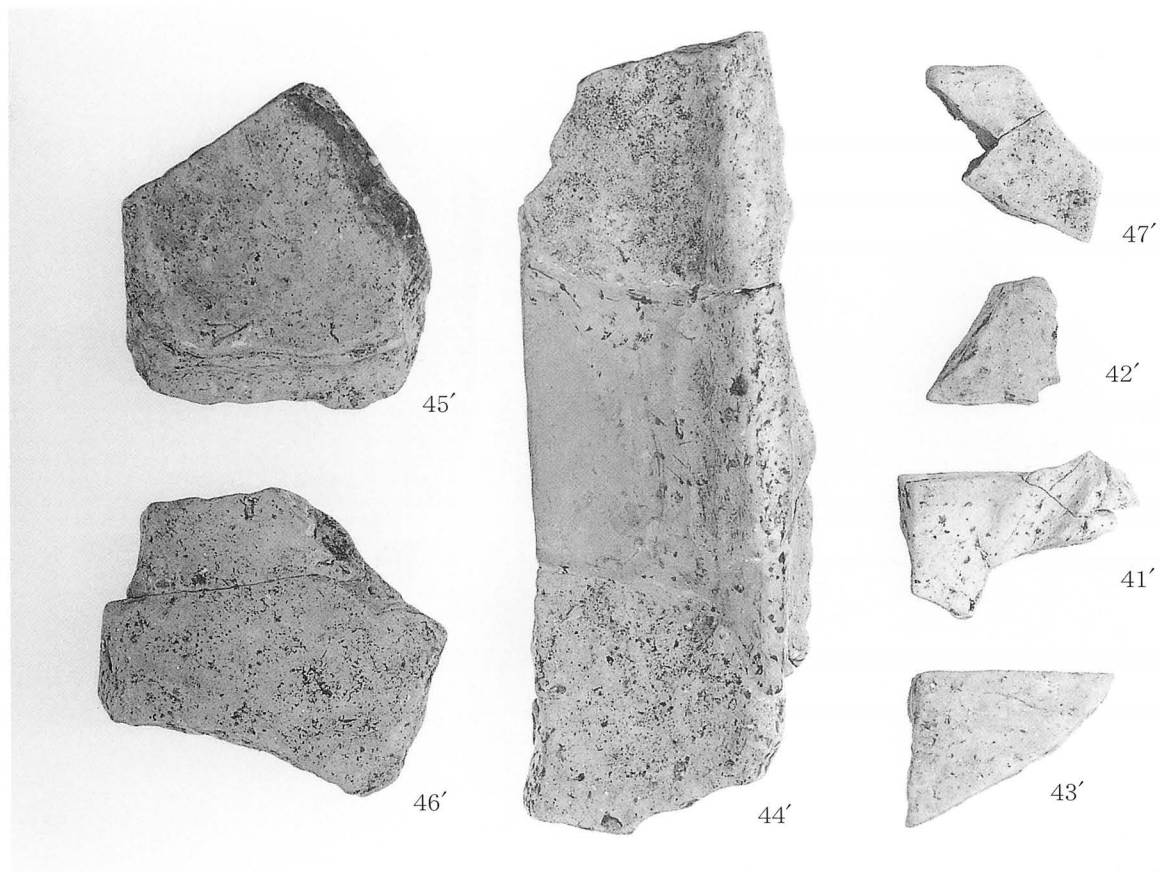
出土遺物（形象埴輪）表



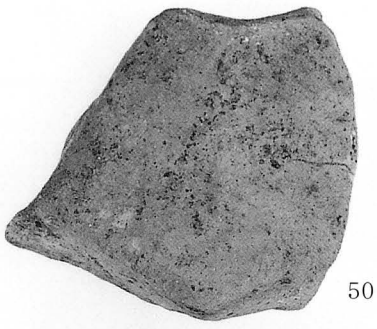
出土遺物（同上）裏



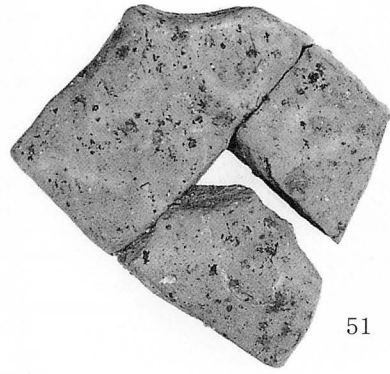
出土遺物（形象埴輪）表



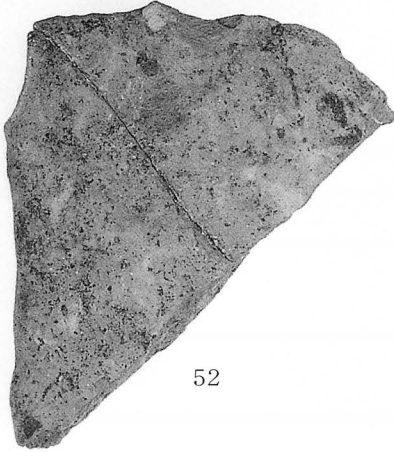
出土遺物（同上）裏



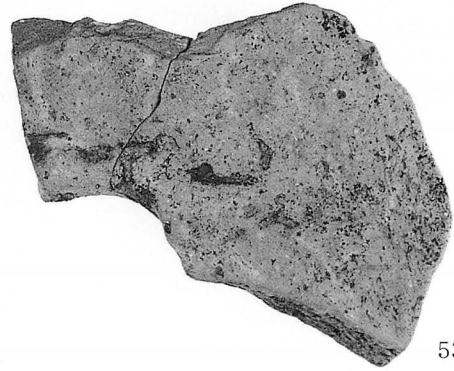
50



51

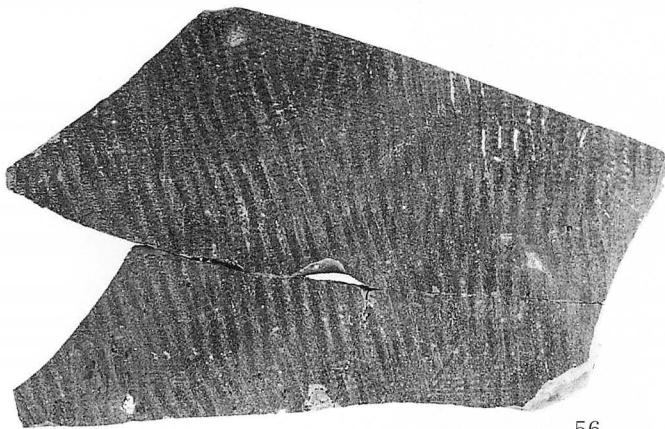


52

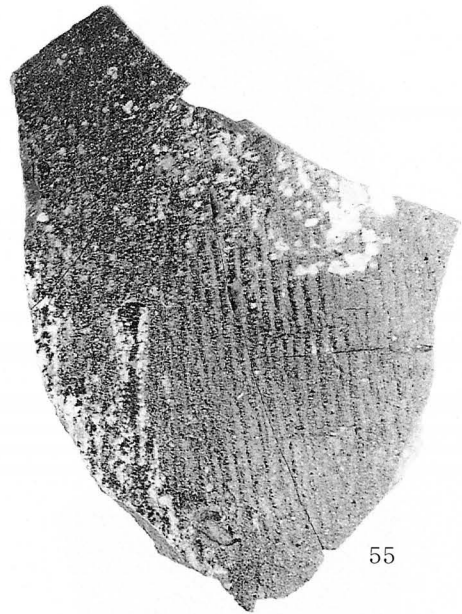


53

出土遺物（埴輪）



56

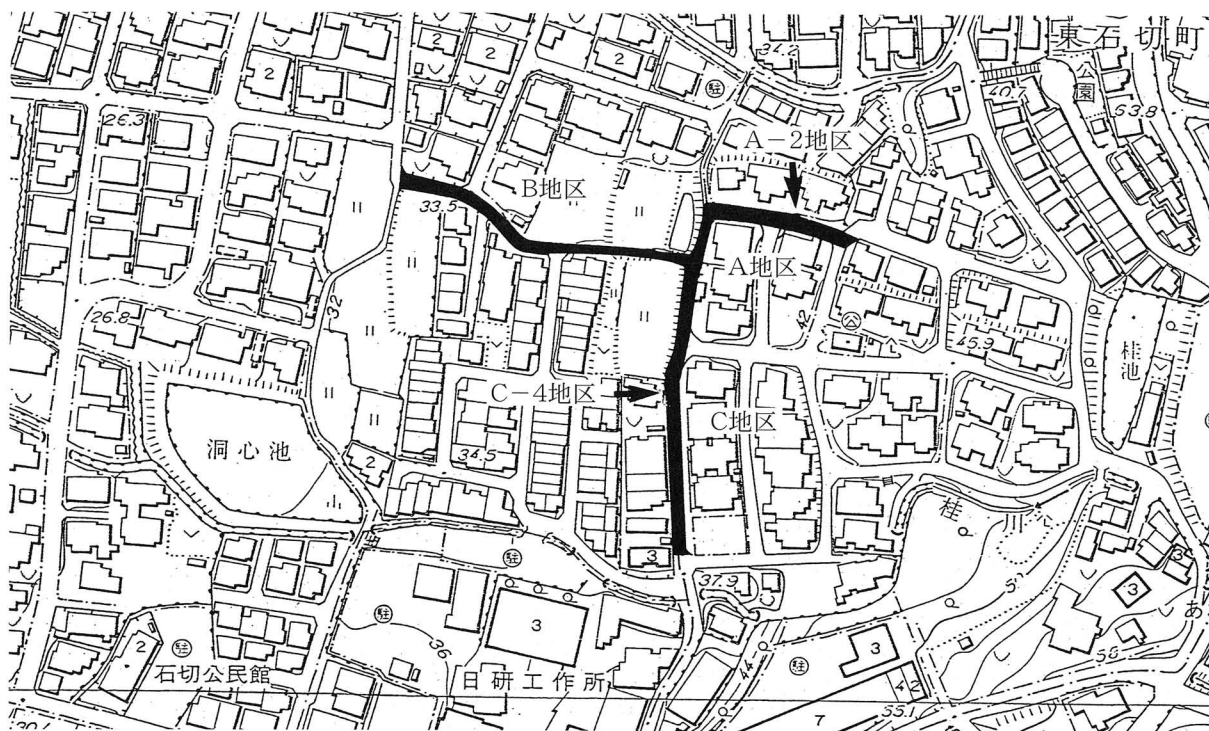


55

出土遺物（須恵器）

しばがおか
第33章 芝ヶ丘遺跡の調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第56工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市東石切町6丁目1748～1789他
3	調 査 面 積	226㎡
4	調 査 期 間	平成16年6月4日～10月1日（延べ23日）
5	報 告 担 当	才原
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切中学校の東である。当地点は芝ヶ丘遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ246mの間であり、開削+推進工法である。



調査地点位置図（1/2500）



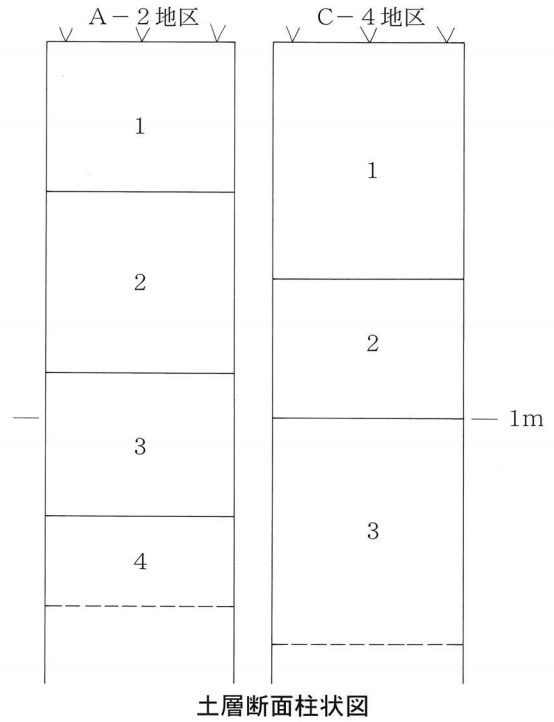
A 地区調査地遠景



A - 2 地区土層断面



C - 4 地区土層断面



1. 調査の概要

A - 2 地区の層序

- 第1層 盛土。
- 第2層 黄褐色(2.5Y5/3)シルト。
- 第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト。
- 第4層 黒色(10YR2/1)細粒砂混じり粘質シルト。

C - 4 地区の層序

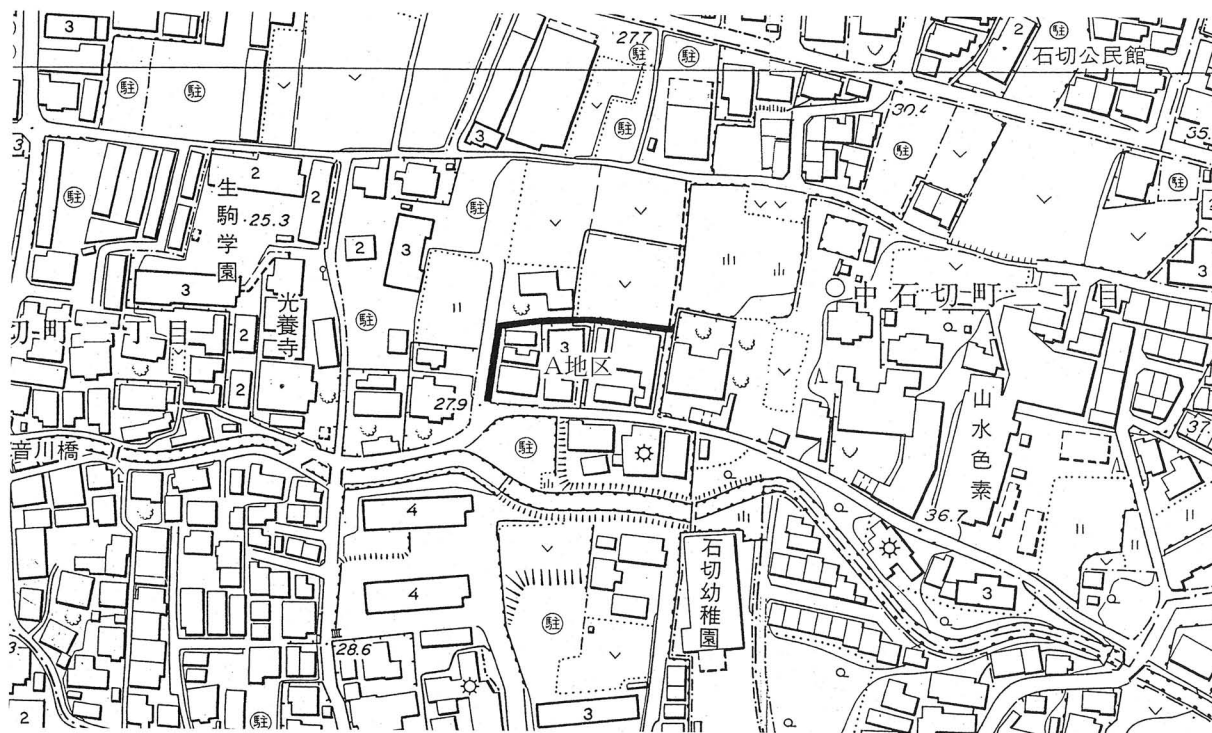
- 第1層 盛土。
- 第2層 黄褐色(2.5Y5/3)細粒砂～小礫混じり粘質シルト。
- 第3層 にぶい黄褐色(10YR5/3)小礫混じり粗粒砂。

2. まとめ

立会調査を実施したが遺構・遺物は検出できなかった

第34章 ぶしだに 辻子谷遺跡の第2次調査

	名 称	内 容
1	事 業 名	平成15年度公共下水道第302工区管きよ築造工事
2	調 査 地 点	東大阪市中石切町 2丁目243～245
3	調 査 面 積	68㎡
4	調 査 期 間	平成16年 8月30日～10月1日 (延べ14日)
5	報 告 担 当	福瀬
6	調 査 の 経 過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切幼稚園の北西である。当地点は辻子谷遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ80mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図 (1/2500)

1. 調査の概要

調査地区は南北と東西の地区があり、南北地区の南より調査を開始した。東西地区で古墳時代～中世期の遺物が出土した。

2. 層序

A-1地区の層序

第1層 盛土。

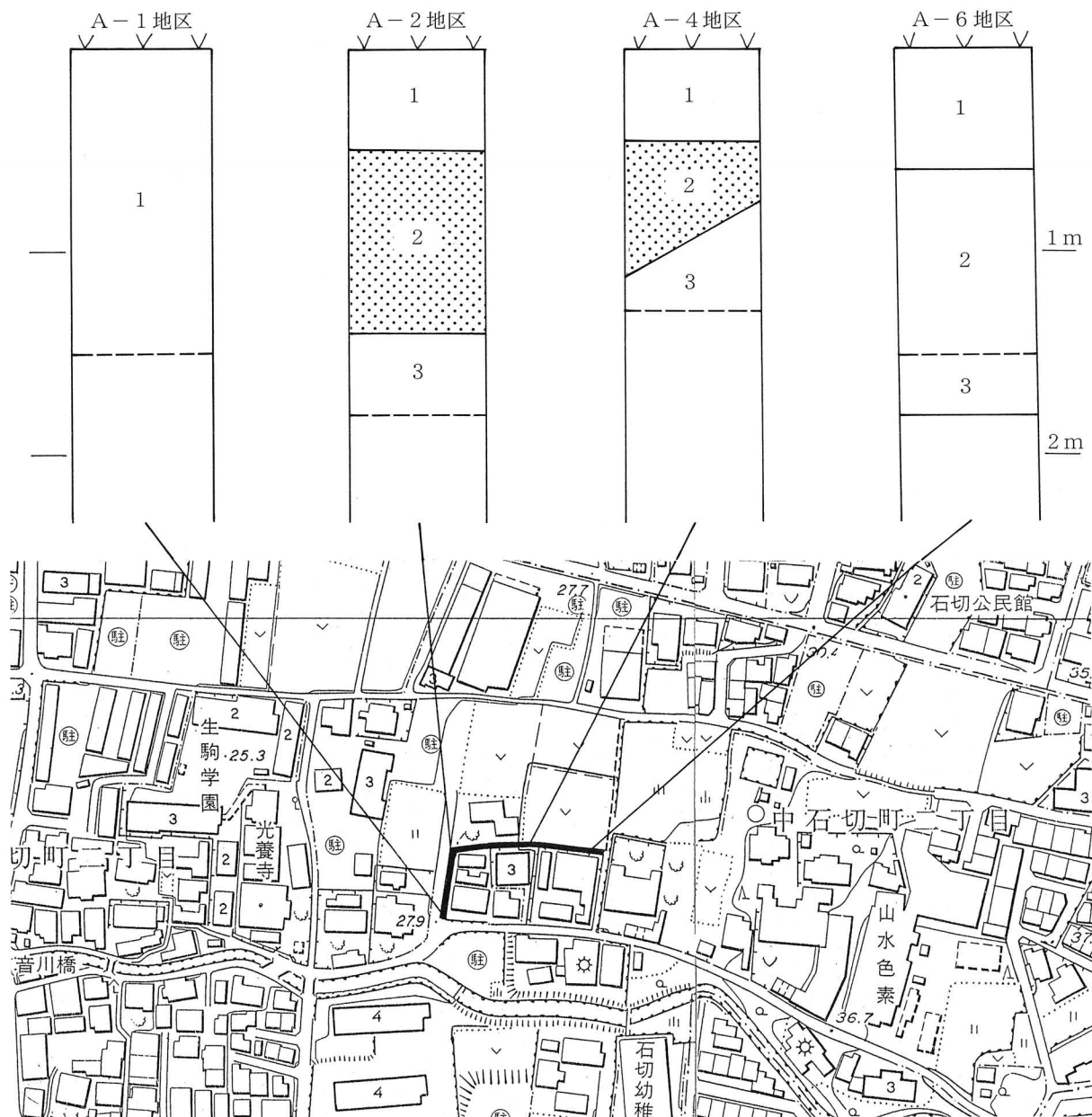
A-2地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黄褐色(2.5Y5/3)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。古墳時代～中世期の遺物が出土。

第3層 暗灰黄色(2.5Y4/2)粗粒砂混じりシルト。小礫を含む。

A-4地区の層序



土層断面柱状図

第1層 盛土。

第2層 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。古墳時代～中世期の遺物が出土。

第3層 灰オリーブ色(5Y5/2)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

A-6地区の層序

第1層 盛土。

第2層 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂混じりシルト。小礫を含む。

第3層 灰オリーブ色(5Y5/2)細粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

3. 出土遺物

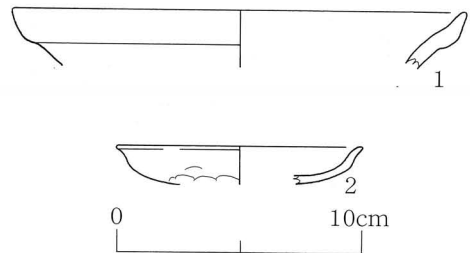
今回の調査では須恵器、土師器、瓦器を出土した。細片が多く、図化できたものは2点である。土師器は図化できるものはなかった。

1は須恵器である。甕の口縁部と思われる。口縁部は外反した後、外上方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。内外面は回転ナデ調整する。口径は18.2cm、残存高は2.3cmである。時期は不明である。A-4地区より出土した。

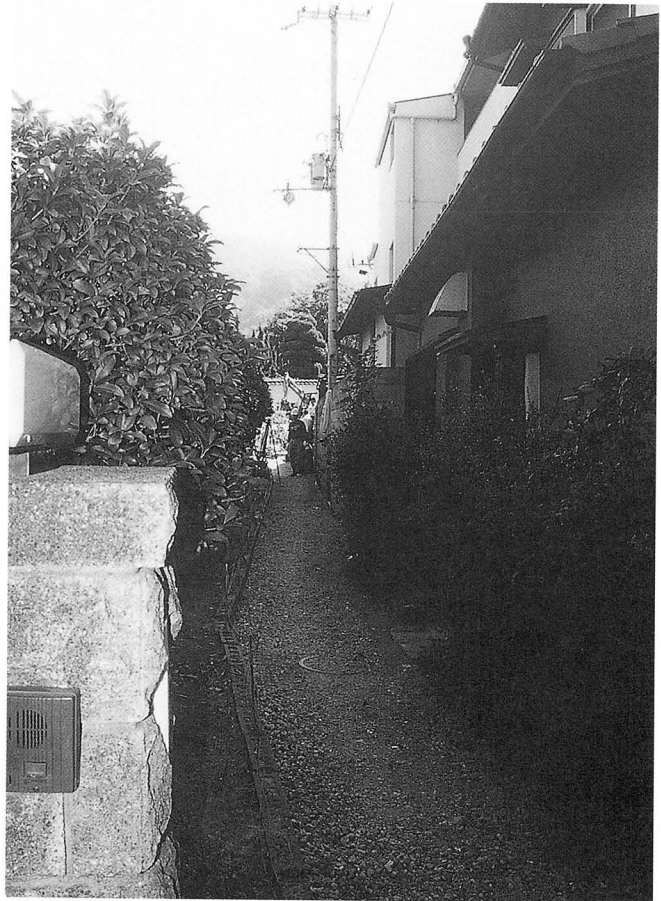
2は瓦器の皿である。体部が内弯気味に立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。口縁端部は丸く終わる。内面は風化のため調整法が不明である。外面はナデ調整し、底部に指頭圧痕を残す。口径は10.0cm、残存高は1.5cmである。13世紀前半のものである。A-4地区より出土した。

4. まとめ

辻子谷遺跡は縄文～江戸時代にわたる複合遺跡である。調査地周辺では以前の調査で古墳時代の遺構、遺物が確認されている。今回の調査では古墳時代～中世期の遺物が出土した。特にA-4～6地区にかけて多い。遺構は確認することが出来なかったが、この周辺にも古墳時代～中世期の遺構が広がる可能性が考えられ、今後の調査に期待したい。



出土遺物実測図



A地区調査地遠景



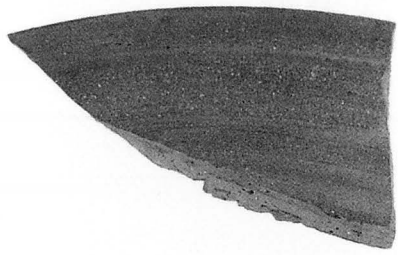
A - 2 地区土層断面



A - 4 地区土層断面



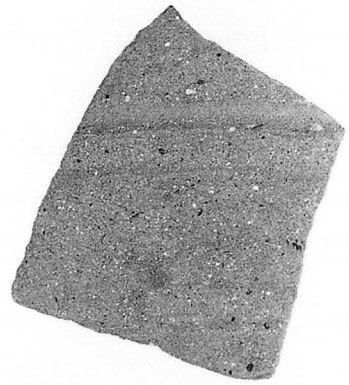
A - 6 地区土層断面



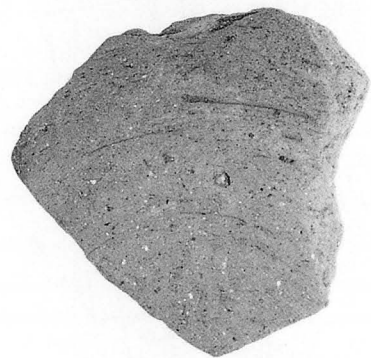
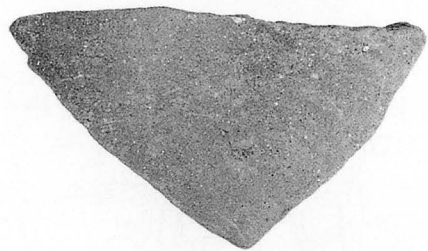
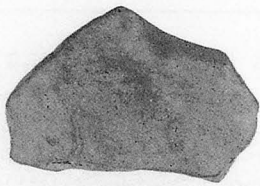
1



2



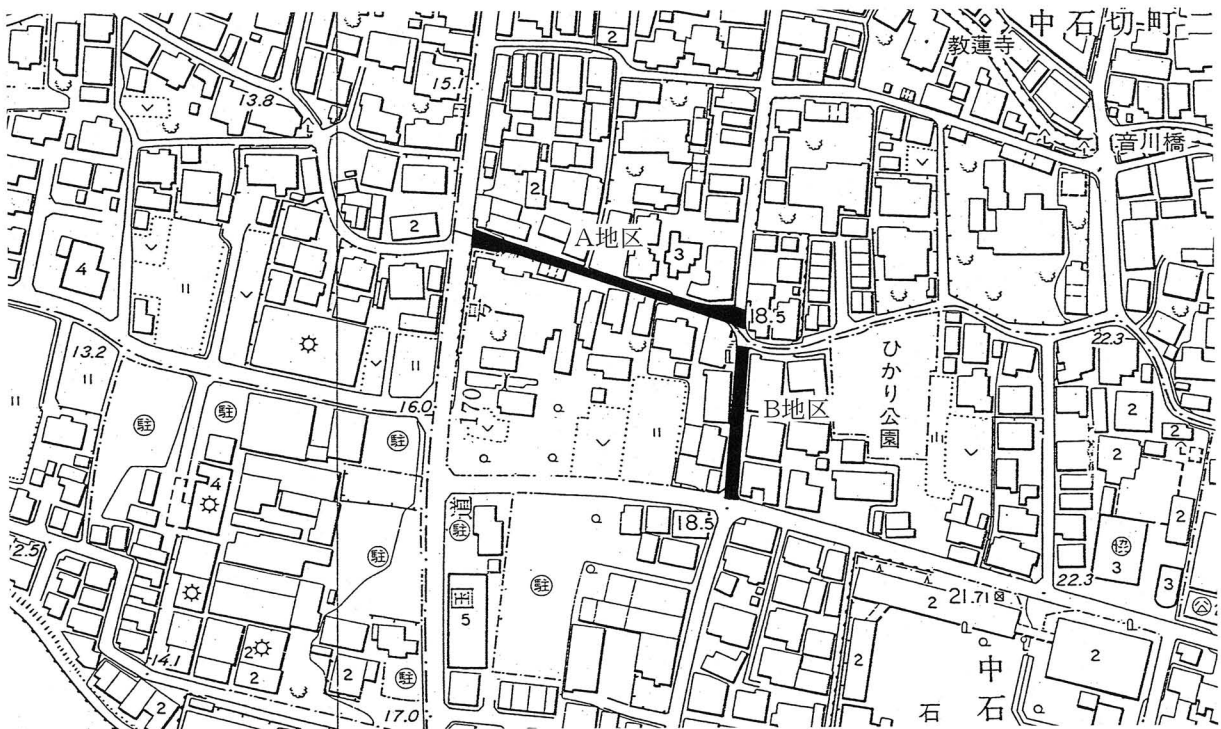
出土遺物（須恵器）



出土遺物（須恵器・土師器）

うえつけ
第35章 植附遺跡の第17次調査

名 称	内 容
1 事業名	平成15年度公共下水道第28工区管きよ築造工事
2 調査地点	東大阪市中石切町1丁目1～3、4～10
3 調査面積	113m ²
4 調査期間	平成16年7月12日～10月1日（延べ12日）
5 報告担当	川本
6 調査の経過	上記の地点で工事が実施されることになった。工事予定地は石切小学校の北西である。当地点は植附遺跡内に位置し、下水道部と協議した結果、立会調査をおこなうことになった。工事範囲は幅約0.9mで長さ133mの間であり、開削工法である。



調査地点位置図（1/2500）

1. 調査の概要

調査地区は便宜上A・B地区に分ける。A地区から順次調査を行った。

2. 層序

A-2地区の層序

第1層 盛土。

第2層 黄灰色(2.5Y4/1)中粒砂混じり粘質シルト。小礫を含む。

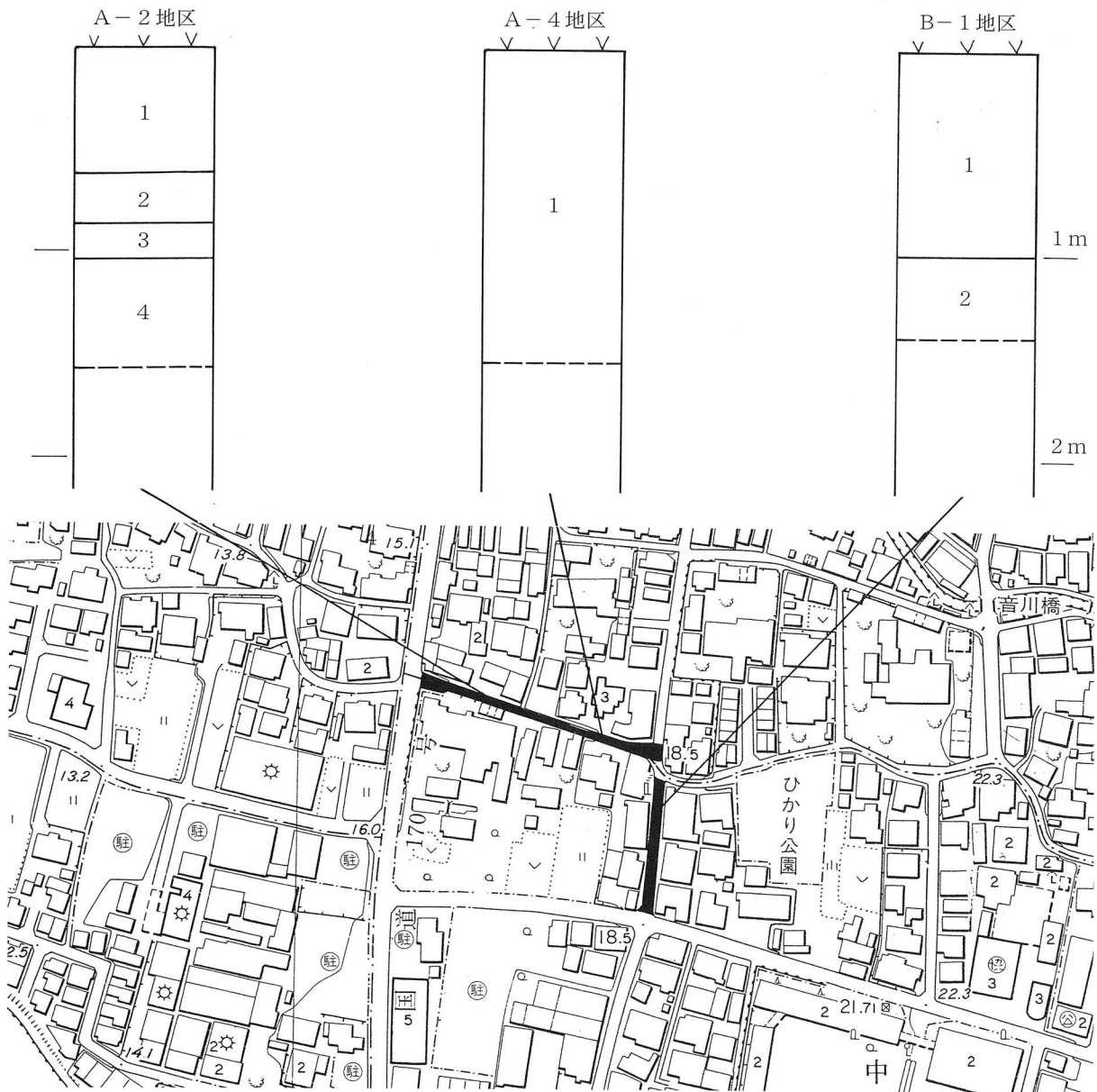
第3層 灰オリーブ色(5Y4/2)細粒砂混じり粘質シルト。

第4層 暗緑灰色(5G4/1)シルト。中礫を含む。

A-4地区の層序

第1層 盛土。

B-1地区の層序



土層断面柱状図

第1層 盛土。

第2層 暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂混じりシルト。

3. 出土遺物

A-4地区周辺の残土より緑釉陶器、須恵器、黒色土器、土師器等を採集した。A-4地区の土層を観察したが盛土であり、遺物包含層は確認できなかった。採集遺物は、盛土内か土層観察地点外より出土した可能性が考えられる。いずれにしても詳細な出土地点は不明である。

1は緑釉陶器である。椀である。体部は外上方へ立ち上がる。口縁部はわずかに外反し、口縁端部は丸く終わる。内外面はロクロナデ調整する。内外面の全体を施釉する。色調は深い緑色である。須恵質である。口径17.6cm、残存高4.6cmである。9世紀後半のものである。

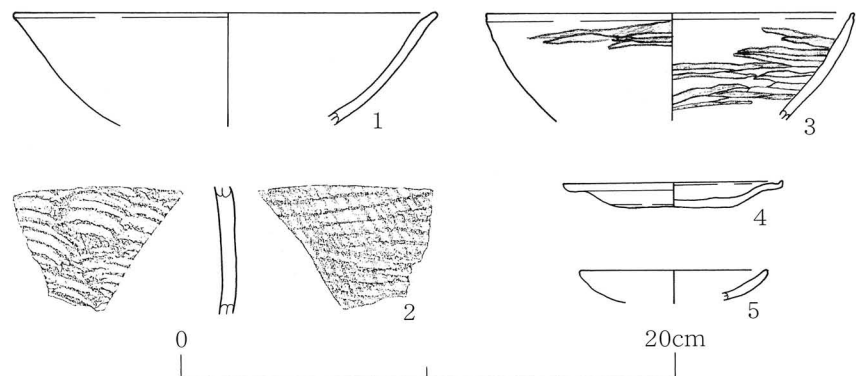
2は須恵器である。甕の体部である。外面はタタキ調整する。内面は青海波文の当て具痕を残す。古墳時代のものである。

3は黒色土器である。椀である。体部はやや丸みを持って立ち上がる。口縁部は内弯し、口縁端部は丸く終わる。口縁端部内面には一条の沈線が廻る。口縁部外面は数条のヘラミガキ調整する。内面は分割したヘラミガキ調整する。色調は外面が褐色、内面は黒色である。胎土中には長石、雲母、クサリ礫、角閃石を含む。生駒西麓産である。口径14.8cm、残存高4.3cmである。9世紀後半のものである。

4・5は土師器である。皿である。4は体部が外へ開く。口縁部は外反して立ち上がり、口縁端部は内側へやや肥厚する。口径8.8cm、器高1.0cmである。11世紀前半のものである。5は体部が内弯し、口縁部に至る。口縁端部は丸く終わる。体部内外面はナデ調整する。口縁部内外面は横ナデ調整する。口径7.6cm、残存高1.2cmである。13世紀中～後半のものである。

3. まとめ

今回の調査ではA-4地区周辺から遺物を採集した。緑釉陶器、須恵器、黒色土器、土師器などがある。A-4地区で断面観察をおこなったが、出土地区や層位を明確にすることはできなかった。詳細は不明であるが、いずれにしても近辺に古墳時代～中世期の遺物包含層が存在する可能性があると思われる。今後の調査に期待したい。



出土遺物実測図



A 地区調査地遠景



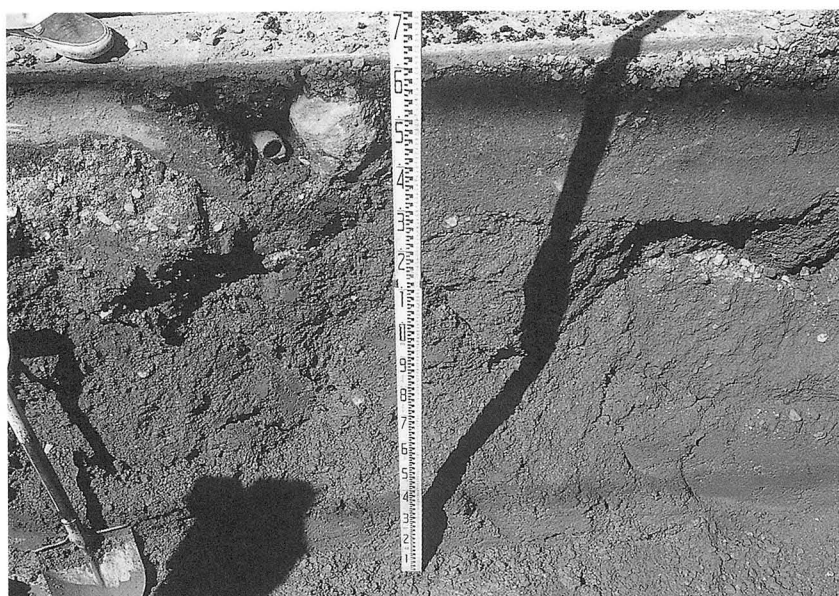
A - 2 地区調査状況



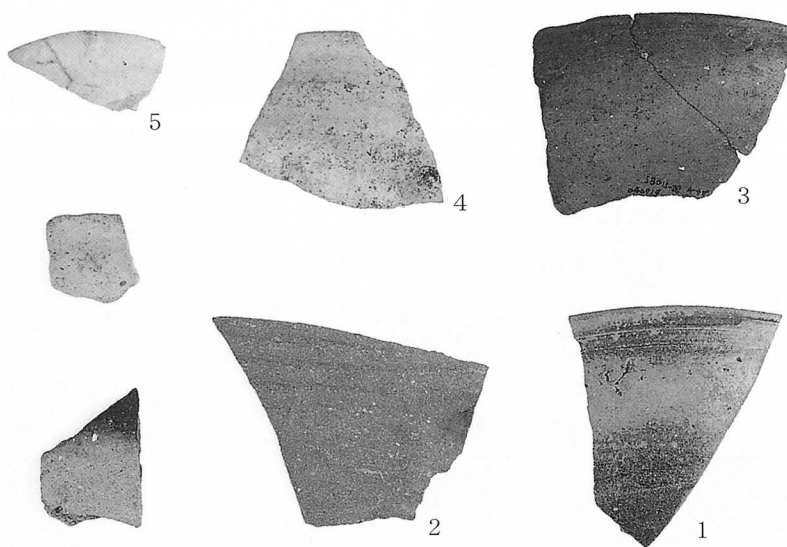
A - 2 地区土層断面



A-4 地区土層断面



B-2 地区土層断面



出土遺物（須恵器・土師器・
黒色土器・緑釉陶器）

東大阪市下水道事業関係
発掘調査概要報告

－平成16年度－

平成17年3月31日

発行所 東大阪市教育委員会

印刷所 グランド印刷株式会社

